

# シラバス

(年間授業計画)

応用化学科

平成 29 年度

神戸市立工業高等専門学校

## 目 次

I	本校の目的	1
	1. 本校の使命	1
	2. 本校の教育方針	1
	3. 養成すべき人材像	1
	4. 卒業時に身につけるべき学力や資質・能力（学習・教育目標）	1
II	本校の教育組織	3
III	授業科目の履修について	5
IV	試験についての注意事項	7
	1. 受験上の注意事項（定期試験・中間試験・追試験）	7
	2. 試験における不正行為	7
	3. 追試験	8
	4. 再評価	8
	5. 防災警報および交通機関スト時の定期試験の取り扱い	9
V	感染症による学生の出席停止期間	10
VI	諸手続一覧	11
VII	行事予定表	12
VIII	概要・系統図	13
IX	授業科目一覧表	15
	1. 一般科目	15
	2. 専門科目	16
X	シラバス	18
	1. 一般科目	18
	2. 専門科目	20

# I 本校の目的

## 1. 本校の使命

本校は、学校教育法の定める高等専門学校として、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること、並びにその教育、研究機能を活用して国際港都神戸の産業及び文化の発展向上に寄与することを使命とする。

## 2. 本校の教育方針

### ■ 人間性豊かな教育

心身の調和のとれた、たくましい感性豊かな人間形成をめざして、教養教育の充実をはかるとともに、スポーツ・文化クラブ等の課外活動を振興する。

### ■ 基礎学力の充実と深い専門性を培う教育

工学に関する基礎知識と専門知識を身につけ、日進月歩する科学技術に対応し、社会に貢献できる実践的かつ創造的人材を育成する。

### ■ 国際性を育てる教育

国際・情報都市神戸にふさわしい高専として、世界的視野を持った、国際社会で活躍できる人材を育成する。

## 3. 養成すべき人材像

健康な心身と豊かな教養のもと、工学に関する基礎的な知識を身につけると同時に、創造性も合わせ持つ国際性、問題解決能力を有する実践的技術者を養成する。

## 4. 卒業時に身につけるべき学力や資質・能力（学習・教育目標）

### (A) 工学に関する基礎知識を身につける。

- (A1) 数 学 工学的諸問題に対処する際に必要な数学の基礎知識を身につけ、問題を解くことができる。
- (A2) 自 然 科 学 工学的諸問題に対処する際に必要な自然科学に関する基礎知識を身につけ、問題を解くことができる。
- (A3) 情 報 技 術 工学的諸問題に対処する際に必要な情報に関する基礎知識を身につけ、活用することができる。
- (A4) 専 門 分 野 各学科の専門分野における工学の基礎知識・基礎技術を身につけ、活用することができる。 ※各科の詳細は、Ⅷ概要・系統図に記載

### (B) コミュニケーションの基礎的能力を身につける。

- (B1) 論理的説明 自分の意図する内容を文章及び口頭で相手に適切に伝えることができる。
- (B2) 質疑応答 自分自身の発表に対する質疑に適切に応答することができる。
- (B3) 日常英語 日常的な話題に関する平易な英語の文章を読み、聞いて、その内容を理解することができる。
- (B4) 技術英語 英語で書かれた平易な技術的文章の内容を理解し、日本語で説明することができる。

(C) 複合的な視点で問題を解決する基礎的能力や実践力を身につける。

- (C1) 応用・解析 工学的基礎知識を工学的諸問題に応用して，得られた結果を的確に解析することができる。
- (C2) 複合・解決 与えられた課題に対して，工学的基礎知識を応用し，かつ情報を収集して戦略を立て，解決できる。
- (C3) 体力・教養 技術者として活動するために必要な体力や一般教養の基礎を身につける。
- (C4) 協調・報告 与えられた実験テーマに対してグループで協調して挑み，期日内に解決して報告書を書くことができる。

(D) 地球的視点と技術者倫理を身につける。

- (D1) 技術者倫理 工学技術が社会や自然に与える影響および技術者が負う倫理的責任を理解することができる。
- (D2) 異文化理解 異文化を理解し，多面的に物事を考えることができる。

## II 本校の教育組織

校長	山崎 聡一
----	-------

### 一般科目

国語	教授	土居 文人	国語	機械工学科1年B組担任
	准教授	石原 のり子	国語	電子工学科2年担任
	准教授	林田 定男	国語	教務副主事
社会	教授	高橋 秀実	政治経済・経済学	
	教授	手代木 陽	倫理	学生相談室長
	教授	町田 吉隆	歴史・世界史	一般科長
	教授	八百 俊介	地理・社会科学特講	機械工学科2年A組担任 / 2学年主任
	准教授	深見 貴成	歴史・日本史	学生副主事
	教授	八木 善彦	数学Ⅰ・数学Ⅱ	
数学	教授	児玉 宏児	数学Ⅰ・数学Ⅱ・応用数学Ⅰ・応用数学Ⅱ	総合情報センター長 / 図書館長
	教授	横山 卓司	数学Ⅱ・確率統計	
	教授	菅野 聡子	数学Ⅰ・確率統計	教務副主事
	准教授	吉村 弥子	数学Ⅰ・確率統計	電気工学科1年担任
	准教授	北村 知徳	数学Ⅰ・数学Ⅱ	応用化学科2年担任
	講師	谷口 公仁彦	数学Ⅰ・数学Ⅱ	機械工学科2年B組担任
	講師	山路 哲史	数学Ⅰ・数学Ⅱ	電子工学科1年担任
	教授	大多喜 重明	物理・応用物理	
理科	准教授	谷口 博	物理・応用物理	総合情報センター副センター長
	准教授	佐藤 洋俊	化学	総合情報センター副センター長
	講師	大塩 愛子	化学	
	講師	高見 健太郎	物理・応用物理	都市工学科2年担任
英語	教授	今村 一博	英語・英語演習	研究渉外副主事
	教授	今里 典子	英語・人文科学特講	
	教授	上垣 宗明	英語・英語演習	
	特任教授	前田 誠一郎	英語	学生相談員
	特任教授	柳生 成世	英語・英語演習	電気工学科3年担任
	准教授	Pileggi, Mark A.	英語演習・人文科学特講	国際協働研究センター副センター長
	講師	平野 洋平	英語・英語演習	
保健 体育	教授	寺田 雅裕	保健・体育	学生主事
	教授	小森田 敏	保健・体育	応用化学科1年担任 / 1学年主任
	特任教授	中川 一穂	保健・体育	
	准教授	春名 桂	保健・体育	学生副主事

### 専門科目

機械 工学科	教授	小林 滋	応用数学ⅠA・応用数学ⅠB・機械工学概論・機械工学実験	
	教授	赤対 秀明	流体工学・工業英語・機械工学実験・機械工学概論・設計製図	国際協働研究センター長
	教授	斎藤 茂	精密加工学・機械実習・機械工学実験・創造設計製作・加工学・機械工作法	機械工学科長
	教授	小林 洋二	線形システム理論・情報処理・情報基礎・設計製図・機械工学実験	国際協働研究センター副センター長
	教授	長 保浩	自動制御・応用数学Ⅱ・工業英語・機械工学実験	
	教授	西田 真之	材料力学・材料工学・機械工学実験	機械システム工学専攻主任
	教授	宮本 猛	設計製図・加工工学・機械工学実験・機械実習	地域協働研究センター長
	教授	福井 智史	応用機械設計・機械設計・機械工学実験・設計製図・機械実習	機械工学科3年C組担任
	教授	石崎 繁利	電子工学概論・電気・電子回路・機械実習・機械工学実験	機械工学科1年A組担任
	教授	尾崎 純一	機械力学Ⅰ・設計製図・機械実習・創造設計製作・工業力学	
	教授	和田 明浩	機械工学演習・材料力学・機械工学実験・機械実習	研究渉外副主事
	准教授	田口 秀文	電気工学・自動制御・制御機器・機械工学実験	
	准教授	三宅 修吾	工業熱力学・機械工学概論・機械工学実験・設計製図・情報基礎	機械工学科4年D組担任
	准教授	朝倉 義裕	情報処理・情報工学・機械力学Ⅱ・情報基礎・数値計算法・機械工学実験	機械工学科4年C組担任
	准教授	東 義隆	生産工学・生産システム・機械実習・機械工学実験・創造設計製作・設計製図	機械工学科5年D組担任
	准教授	早稲田 一嘉	情報基礎・材料力学特論・機械工学実験・材料工学・機械実習	地域協働研究副センター長
	准教授	熊野 智之	応用物理・設計製図・機械工学実験	
	准教授	橋本 英樹	工業熱力学・機械工学実験・エネルギー変換工学・機械実習・設計製図	機械工学科3年D組担任
	准教授	黒住 亮太	機械設計・機構学・設計製図・創造設計製作	
	准教授	鈴木 隆起	流体工学・工業力学・情報処理・機械工学実験	学生副主事
	准教授	清水 俊彦	計測工学・応用計測・ロボット工学・応用ロボット工学・機械工学実験・機械実習	機械工学科5年C組担任
	技術職員	寺崎 正夫		
	技術職員	山口 正博		
	技術職員	竹谷 吉旦		
	技術職員	水田 敦史		

電気 工学科	教授	森田 二郎	電気磁気学Ⅱ・Ⅲ・電気法規及び電気施設管理・電気製図Ⅰ・Ⅱ・電気数学Ⅱ 電気工学実験実習	電気工学科2年担任
	教授	津吉 彰	電気回路Ⅲ・電力工学Ⅰ・Ⅱ・電気数学Ⅰ・電気工学実験実習	
	教授	佐藤 徹哉	電子回路Ⅰ・Ⅱ・ディジタル電子回路・工業英語Ⅰ・電気工学実験実習	電気工学科長
	教授	道平 雅一	基礎電気工学・制御工学・電気工学実験実習	教務主事(研究担当) / 専攻科長
	教授	茂木 進一	電気回路Ⅱ・パワーエレクトロニクス・電気工学実験実習	
	准教授	赤松 浩	情報処理Ⅰ・Ⅱ・電気磁気学Ⅰ・放電現象・電気工学実験実習	電気工学科4年担任
	准教授	加藤 真嗣	電気機器Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・電気回路Ⅰ・電気工学実験実習	電気電子工学専攻主任
	准教授	中村 佳敏	情報基礎・応用数学Ⅱ・通信工学Ⅰ・Ⅱ・電気工学実験実習	学生副主事
	准教授	南 政孝	電気計測・応用数学Ⅰ・電気工学実験実習	電気工学科5年担任
	技術職員	丁 翠芳		
技術職員	下代 雅啓			

電子 工学科	教授	若林 茂	プログラミングⅠ・ソフトウェア工学・電子工学実験実習	教務主事(教育担当)
	教授	笠井 正三郎	制御工学Ⅱ・応用数学・電子工学実験実習	電子工学科長
	教授	荻原 昭文	電気回路Ⅰ・電気回路Ⅲ・光エレクトロニクス・電子工学実験実習	地域協働研究センター副センター長
	教授	橋本 好幸	電気磁気学Ⅰ・電気磁気学Ⅱ・電気回路Ⅰ・電子工学実験実習	電子工学科4年担任 / 4学年主任
	教授	戸崎 哲也	プログラミングⅡ・論理回路・電子工学実験実習	電子工学科5年担任 / 5学年主任
	教授	西 敏生	電子デバイス・半導体工学・電子工学実験実習	広報室長
	准教授	小矢 美晴	電子回路Ⅱ・通信方式・電子工学実験実習	
	准教授	藤本 健司	情報基礎・情報通信ネットワーク・電子工学実験実習	教務副主事
	准教授	長谷 芳樹	電子工学序論・電子回路Ⅰ・電子応用・電子工学実験実習	電子工学科3年担任
	准教授	尾山 匡浩	電気回路Ⅱ・画像処理・電子工学実験実習	総合情報センター副センター長
技術職員	藤原 真由美			
技術職員	曾我 亮介			

応用 化学科	教授	根津 豊彦	分析化学Ⅱ・環境化学・応用無機化学Ⅱ・基礎化学実験・応用化学実験Ⅰ	
	教授	大淵 真一	有機化学Ⅰ・有機合成化学・エネルギー工学・応用化学実験Ⅱ・Ⅲ	応用化学科長
	教授	九鬼 壽隆	情報基礎・応用物理Ⅰ・Ⅱ・物理化学Ⅱ・応用化学実験Ⅱ・Ⅲ	
	教授	渡辺 昭敏	情報基礎・応用物理Ⅰ・物理化学Ⅰ・Ⅱ・応用化学実験Ⅱ	応用化学科3年担任 / 3学年主任
	教授	宮下 芳太郎	無機化学Ⅰ・Ⅱ・応用無機化学Ⅰ・安全管理学・基礎化学実験・応用化学実験Ⅰ	教務副主事
	准教授	久貝 潤一郎	化学工学Ⅰ・Ⅱ・情報基礎・化学工学量論・応用化学実験Ⅲ	応用化学科4年担任
	准教授	根本 忠将	高分子化学・化学英語・材料化学・応用化学実験Ⅱ・工学基礎演習	研究渉外副主事
	准教授	小泉 拓也	有機化学Ⅱ・有機合成化学・応用有機化学Ⅰ・Ⅱ・応用化学実験Ⅱ	応用化学専攻主任
	准教授	下村 憲司朗	生物化学Ⅰ・Ⅱ・生物工学・基礎化学実験・応用化学実験Ⅲ	
	准教授	安田 佳祐	分析化学Ⅰ・無機化学Ⅱ・材料化学・電気工学概論・応用化学実験Ⅰ・Ⅲ	学生副主事
講師	増田 典司	化学工学Ⅰ・Ⅱ・情報基礎・情報処理Ⅰ・Ⅱ・応用化学実験Ⅲ	応用化学科5年担任	
技術職員	谷口 綱子			
技術職員	藤本 紗智子			

都市 工学科	教授	水越 睦視	都市工学概論・測量学・材料学・コンクリート工学・都市工学実験実習・卒業研究	都市工学科1年担任
	教授	鳥居 宣之	都市工学概論・土質力学Ⅰ・土質力学Ⅱ・土質力学Ⅲ・防災工学・都市工学実験実習 卒業研究	教務副主事
	教授	柿木 哲哉	都市工学概論・環境水工学Ⅱ・都市環境工学Ⅰ・都市環境工学Ⅱ・都市工学実験実習 卒業研究	都市工学科長
	教授	上中 宏二郎	都市工学概論・構造力学Ⅱ・構造力学Ⅳ・情報数値解析・都市工学実験実習・卒業研究	都市工学専攻主任
	特任教授	酒造 敏廣	都市工学概論・構造力学Ⅰ・構造力学Ⅲ・橋梁工学・都市工学実験実習・卒業研究	
	准教授	高科 豊	都市工学概論・コンクリート工学・材料学・都市工学実験実習・卒業研究	
	准教授	野並 賢	都市工学概論・土質力学Ⅰ・応用数学Ⅱ・都市工学実験実習・卒業研究	都市工学科4年担任
	准教授	宇野 宏司	都市工学概論・水理学・環境水工学Ⅰ・環境生態・防災工学・都市工学実験実習 卒業研究	都市工学科3年担任
	准教授	小塚 みすず	都市工学概論・土木・建築設計製図Ⅰ・土木・建築設計製図Ⅱ・土木計画Ⅰ 都市交通計画学・都市工学実験実習・卒業研究	都市工学科5年担任
	准教授	高田 知紀	都市工学概論・情報基礎・測量学・都市情報工学・景観工学・都市工学実験実習 卒業研究	
講師	田島 喜美恵	都市工学概論・CAD基礎・応用CAD・土木・建築設計製図Ⅳ・建築計画・景観工学 都市工学実験実習・卒業研究		
技術職員	石田 靖			
技術職員	日下部 信宏			

### Ⅲ 授業科目の履修について

下記に「学生便覧」の「学業成績評価及び進級並びに卒業認定に関する規程」について抜粋した条文を掲載する。それ以外の条文についても学生諸君にとって修学上関係の深い諸規則なので、別途配布されている「学生便覧」を必読すること。

#### 第1章 総則

**第1条** この規程は、神戸市立工業高等専門学校における試験・学業成績の評価・進級及び卒業の認定について定める。

#### 第2章 単位数

**第2条** 単位数は、次のとおりとする。

- (1) 学修単位Ⅰ 1単位は30単位時間の授業を行う。
- (2) 学修単位Ⅱ 1単位を45時間の学修を必要とする内容とし、15単位時間の授業を行う。
- (3) 学修単位Ⅲ 1単位を45時間の学修を必要とする内容とし、30単位時間の授業を行う。

なお、50分の授業は1単位時間、90分の授業は2単位時間として扱う。

1～3学年の授業科目の単位数は学修単位Ⅰを適用。4～5学年の授業科目の単位数は学修単位Ⅰ、学修単位Ⅱ及び学修単位Ⅲで構成する。

#### 第3章 試験

**第3条** 試験は、定期試験、中間試験及び必要に応じて随時、臨時試験を行うものとする。

2 定期試験及び中間試験は、期日を定めて実施するものとし、試験の開始10日前までに、試験科目及び時間表を学生に発表する。

**第4条** 定期試験及び中間試験を病気・忌引などその他やむを得ない理由で受験できなかった学生に対しては追試験を行うことができる。

2 追試験の成績は、その試験成績の原則80%で評価する。

3 感染症による出席停止の場合は、100%で評価する。

**第5条** 故意に試験を忌避したと認められた者は、当該試験の成績を0点とする。

2 試験中、不正行為を行った者は、当該試験期間中の全科目の試験成績を0点とする。

#### 第4章 学業成績の評価

**第6条** 年間欠課時数が年間授業総時間の1/3を超えない科目を「履修科目」とし、「評価」を行う。

1/3を超える科目は「不履修科目」とし、評価は行わない。

**第7条** 学業成績の評価は、各授業科目ごとに、試験成績及び平素の成績をシラバスに記載され

た評価基準に基づき、総合して行う。

- 2 試験成績は、定期試験、中間試験、臨時試験により評価するものとする。
- 3 平素の成績は、学習態度が良好なことを前提としてレポート及び演習等を総合して評価するものとする。
- 4 学年成績の評価は、各学期末の学業成績を総合して行う。ただし、前期のみ又は後期のみで修了する科目については、学期末の学業成績を学年成績とする。

**第8条** 科目担当教員は、必要に応じてレポート及び演習等の成績を試験成績に代えることができる。

**第9条** 科目担当教員が2人以上のときの学業成績は、当該担当教員が協議してその評価を行う。

**第10条** 学業成績は100点法により評価し、60点以上の科目は単位の「修得」を認定する。評価が60点未満は「未修得」となる。

- 2 卒業研究の評価は、優、良、可及び不可の区別で行う。
- 3 学外実習を修得した場合の評価は、認定となる。
- 4 学業成績の優、良、可及び不可の評語の区分は次のとおりとする。

学業成績	評語
80点～100点	優
70点～79点	良
60点～69点	可
0点～59点	不可

## IV 試験についての注意事項

### 1. 受験上の注意事項（定期試験・中間試験・追試験）

- ① 中間試験は授業時間、定期試験は学校行事として扱うものとする。
- ② 試験教室では、監督者に指示された座席で受験すること。  
机は原則として6列で（専門科棟の場合、ロッカーを移動するなどの措置を行っている場合7列も可）等間隔に真直ぐに並べ、特に指示のない場合は窓側の前から出席番号順に着席すること。
- ③ 試験開始後、30分以上遅刻してきた者は受験できない。また、試験開始後30分以内は退室できない。尚、延着証明は遅刻を免除するためのものであり、試験に関して特別に扱うことはない。ただし、両主事判断により特別措置を講じることもある。
- ④ 教室での受験が物理的に不可能な場合、両主事の判断による別室受験を認めることもある。
- ⑤ 鉛筆（シャープペンシル）・消しゴムのほか、許可されたもの以外の使用は認めない。また、電卓など持ち込みを許可された物の貸し借りはしないこと。
- ⑥ 机の中には何も入れないこと。持ち物は、教室の前後に置くか、または机のフックに掛けておくこと。また下敷などを使用する場合には、あらかじめ監督者の許可を得ておくこと。
- ⑦ 試験中、いったん退室した者の再入室は認めない。試験が終了しても答案用紙の回収が済むまで教室への再入室はできない。
- ⑧ 廊下での試験の待機は他の受験者への迷惑となるので、他所（食堂・図書館等）を利用すること。
- ⑨ 授業中と同様、携帯電話等の電源はOFFにして、カバンに入れ、身に着けないこと。
- ⑩ 試験監督からの終了合図にしたがい、速やかに筆記用具を置くこと。
- ⑪ 答案用紙の回収は、最後尾の学生のみが行い、その他の学生は試験監督の指示があるまで絶対に席を立たず、静かに待機すること。

### 2. 試験における不正行為

[I] 以下の行為は不正行為（カンニング）とみなす。

- ① 予め机などに書き込んだり、またはカンニングペーパーなどを用意すること。また、それらを参照すること。
- ② 使用を許可されていないノート、テキスト、参考書、辞書などを参照すること。
- ③ 許可された場合を除き、電卓に式、数値などをあらかじめ記憶させておき、参照すること。
- ④ 答案を互いに交換すること。
- ⑤ 他人の答案を写し取ったり、写させたりすること。
- ⑥ 試験中に私語をすること。
- ⑦ 他人に受験を依頼すること。
- ⑧ 試験中不審な行為をし、監督の先生の指示にしたがわないこと。
- ⑨ 試験に関する資料などを記録した携帯電話などの電子媒体を身に着けること。また、それらを参照すること。

⑩ 以上に類する行為をすること。

[II] 不正行為をした場合には、以後の受験は認めない。

当該学生は監督者の指示を受けること。なお、当該試験期間の全試験科目は0点となる。更に、1週間の家庭謹慎（初回）となる。

### 3. 追試験

- ① 中間・定期試験を病気・忌引など、やむを得ない理由で欠席した試験科目の追試験を希望する学生は、追試験受験願書（所定の用紙）にその欠席理由を証明する書類等を添え、事務室学生係に提出すること。教務主事が可否を決定する。
- ② 追試験が認められる理由は以下のような場合である。
  - (イ) 病気・負傷（医師の診断書、薬袋等が必要）
  - (ロ) 忌引（三親等以内）
  - (ハ) 天災・交通機関等の障害（証明書を必要とする場合がある）
  - (ニ) 就職・編入学受験（証明する書類等が必要）
  - (ホ) 以上に相当する理由のある場合
- ③ 追試験許可者には、教科担当教官宛の「追試験実施依頼書」を発行する。追試験の実施日・時間等については、教科担当教官から直接指示を受けること。ただし、非常勤講師の担当科目の場合はクラス担任から指示を受けること。
- ④ 追試験の成績は、その試験成績の原則80%で評価する。ただし、以下の場合については追試験の成績は100%で評価する。
  - ア インフルエンザなど学校保健安全法施行規則第18条にかかげる第1種・第2種・第3種感染症による出席停止に伴う追試験（学生便覧 P.76「5. 感染症による学生の出席停止期間」参照）
  - イ 忌引（二親等以内）に伴う追試験
  - ウ 気象警報により、登校を自粛し、公欠を認められた学生を対象とした追試験
  - エ その他教務主事が妥当と認めた学生を対象とした追試験

### 4. 再評価

- ① 進級認定会議の結果、不合格となった科目の再評価を許可された学生は、不合格科目の再評価を受けることができる。なお選択科目については再試験の科目を指定することができる。
- ② 再評価で許可された学生が再評価を受けるためには、各自所定の申請を行う必要がある。前期修了科目の内、必修科目は後期に再評価を受けることができる。加えて、30点未満の科目は、後期に59点上限とする「特別再評価」を受けることができる場合がある。
- ③ 学年末には、5年生は再評価許可となった学生氏名、科目名をクラス担任が該当学生に連絡するので各自確認すること。試験実施期日・時間、場所等についても各自確認すること。  
再評価合格による成績の評価は、60点となる。

## 5. 防災警報および交通機関スト時の試験の取り扱い

『試験の場合の取り扱いは、通常の授業の場合と異なるので、注意すること。』

(1) 兵庫県の阪神または播磨南東部に暴風警報が発令されたとき

(2) 神戸市に大雨警報または洪水警報が発令されたとき

または JR 西日本（大阪－姫路間）、神戸市営地下鉄の「スト」の場合の処置は以下のとおりとする。

- ① 午前 7 時までに(1), (2)両方の警報が解除された場合、またはストが解決した場合は、平常どおり午前 9 時から試験を実施する。
- ② 午前 10 時までに(1), (2)両方の警報が解除された場合、またはストが解決した場合は、その日の試験を午後に移動して、午後 1 時より実施する。当日、午後に予定されている試験については、後日、連絡する。
- ③ 午前 10 時までに(1), (2)どちらかの警報が解除されない場合、またはストが解決しない場合は自宅学習日とする。また、その日の試験は試験最終日の次の日に（試験最終日が金曜日の場合は翌週の月曜日）移動して、試験期間を 1 日延長し、実施する。
- ④ 山陽電鉄、神戸電鉄、阪急電鉄、阪神電鉄のいずれかがストのときには、開始時間を午前 10 時からに移動して、実施する。（3 限目以降の試験は午後 1 時より行う。）
- ⑤ その他の交通機関がストの場合は、平常どおり午前 9 時から試験を実施する。
- ⑥ 試験中に警報が発令された場合には、教務主事の判断によって措置する。

なお、阪神または播磨南東部以外の暴風警報が発令された地域、あるいは神戸市以外の大雨警報または洪水警報が発令された市町に在住の学生は、登校を自粛すること。登校自粛した学生は公欠扱いとするので、後日担任を通じて「公用欠席届」および「追試験実施依頼書」を合わせて提出すること。

## V 感染症による学生の出席停止期間

出席停止の期間の基準を以下の表に定めるが、学生が下記病気のため欠席したときは、出席停止届に医師の登校証明書を添付のうえ届け出るものとする。

病名		期間の基準
第1種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る）及び鳥インフルエンザ（病原体がインフルエンザウイルスA属インフルエンザ A ウイルスであってその血清亜型が H5N1 であるものに限る）以後「鳥インフルエンザ（H5N1）」という。	治癒するまで
第2種	インフルエンザ（鳥インフルエンザ（H5N1）及び新型インフルエンザ等感染症を除く）	下記欄外 ※ 参照
	百日咳	特有の咳が消失するまで又は 5 日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹	解熱した後 3 日を経過するまで
	流行性耳下腺炎	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後 5 日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風しん	発しんが消失するまで
	水痘	すべての発しんが痂皮化するまで
	咽頭結膜熱	主要症状が消退した後 2 日を経過するまで
	結核 髄膜炎菌性髄膜炎	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで
第3種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎その他の感染症（感染性胃腸炎など）	
その他の感染症	感染性胃腸炎（ノロ・ロタ・カンピロバクター・サルモネラなど）、溶連菌感染症、マイコプラズマ感染症、手足口病、伝染性紅斑、ヘルパンギーナ、デング熱	

※発症した後 5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日を経過するまで

（発症、解熱を 0 日とし、翌日から 1 日と数える）（発症日は、初診日とは限らない）

ただし、病状により学校医その他の医師において感染の恐れが無いと認められた場合は、その限りではない。（「登校証明書」に記載の登校許可日から登校可）「登校証明書」は、「病名」「発症日」「登校可能日」を医師が証明していれば、様式は問わない。

## VI 諸手続一覧

種類	用紙の交付	提出先	時期
追試験受験願	学生係	担任印受領後、学生係へ提出	病気・忌引等により中間・定期試験を受験できなかった場合
未修得科目再評価申請書	学生係	担任印受領後、担任へ提出	所定の期間
再履修免除申請書	学生係	担任及び科目担当教員印受領後、学生係へ提出	所定の期間(4,5年生のみ)
選択科目履修申請書	教務主事室	担任へ提出	所定の期間(4,5年生のみ)
選択科目追加履修申請書	学生係	担任及び科目担当教員印受領後、学生係へ提出	所定の期間
公用欠席届	学生係	担任印受領後、学生係へ提出	その都度
公用欠席届 (課外活動関係)	学生係	担任印受領後、学生主事室へ提出	その都度
出席停止届	学生係	担任へ提出	その都度
遅刻取消届	学生係	学生係へ提出	当日の昼休みから 17:00 まで

## Ⅶ 行事予定表

前期	行 事	後期	行 事
4月	入学式 始業式 身体計測 オリエンテーション(1年) 春の学年学科行事 野外活動(1年)	10月	全校集会 秋の学年学科行事 高専祭
5月	授業公開	11月	研修旅行(4年) 産金学官技術フォーラム
6月	創立記念日(6月3日) 前期中間試験 専攻科入試	12月	後期中間試験 学生総会 冬季休業日(冬休み)
7月	保護者会 編入試 近畿地区高専体育大会 前期定期試験	1月	本科入試(推薦)
8月	前期定期試験 夏季休業日(夏休み) 全国高専体育大会 オープンキャンパス	2月	本科入試(学力) 後期定期試験 学力補充日
9月	再評価および学力強化期間 スポーツ大会	3月	学力補充日 終業式 卒業式・修了式 学年末休業日(春休み) 再評価および学力強化期間

## VIII 概要・系統図

### 応用化学科(Department of Applied Chemistry)

#### 1. 養成すべき人材像

数学、自然科学、情報処理技術に加え、物質の基本を理解し、新しい物質作りに応用できる基礎学力を習得し、豊かな一般教養のもと、創造性も合わせ持ち柔軟な思考ができる実践的技術者を養成する。

#### 2. 教育の特徴

化学工業は物質の基本的仕組みや性質を理解し、その知識に基づいて物質を造ったり利用したりする素材産業です。近年、エレクトロニクス、バイオテクノロジー、エネルギー関連の先端技術分野では、新しい機能を有する素材の開発という面からその必要性が強く求められている。この要請に応えるため、応用化学科では学習教育目標に掲げている5つの分野（有機化学、無機化学・分析化学、物理化学、化学工学、生物工学）をコアとし、それら分野の有機的なつながりに配慮したカリキュラムを編成している。またこれら5つの分野を学ぶにあたり必要不可欠な基礎としての情報技術や先端分野として着目されているエネルギー、新素材関連、環境問題なども取り入れている。また上記各分野の実験を1年次から数多く開講しており、座学で学んだ内容について実際に実験を通して確かめ体験することにより理解を深め、社会で活躍できる実践的な技術者の養成を目指している。

#### 3. 学習・教育目標

- ①有機化学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。
  - ・代表的な有機化合物の構造・性質・反応性について説明できる。
  - ・各種スペクトルの原理を理解し、解析に利用できる。
  - ・有機化学反応を電子論や分子構造に基づいて反応機構を解説できる。
- ②無機化学・分析化学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。
  - ・主な無機化合物の製法や性質を説明できる。
  - ・容量分析や代表的な分析機器の使用法を習得し、その解析ができる。
- ③物理化学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。
  - ・化学熱力学の基礎概念を理解し、それらの応用としての相平衡関係について説明できる。
  - ・反応速度式や量子理論の基礎を理解し、それらを用いて各種現象の説明ができる。
- ④化学工学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。
  - ・拡散単位操作の物理化学的基礎を理解し、各種装置の基本的な設計ができる。
  - ・移動現象の基礎理論を理解し、装置設計に活用できる。
  - ・反応工学の基礎理論を理解し、反応モデルや反応器の種類に応じた反応器の基本設計ができる。
- ⑤生物工学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。
  - ・生物を構成する生体分子の種類、構造について理解し、生合成過程を説明できる。
  - ・遺伝子組み換え技術の応用例を理解し、有用性と問題点について説明できる。

応用化学科の教育課程の体系性と科目系統図(H29年度入学生用)

卒業時に身に付けるべき学力や 資質・能力	授業科目名				
	本科1年	本科2年	本科3年	本科4年	本科5年
(A-1) 数学	数学I 数学II	数学I 数学II	数学I 数学II	応用数学I 確率統計	応用数学II 品質管理
(A-2) 自然科学	物理 安全管理学 生物	物理 安全管理学 生物	物理 安全管理学 生物	応用物理I 高分子化学 生物化学I	応用物理II七 高分子化学 材料化学 電気工学概論 機械工学概論 材料化学
(A-3) 情報技術		情報処理I	情報処理I	情報処理II	品質管理
(A-4-C1) 有機化学系	基礎化学実験	有機化学I 安全管理学	有機化学II 応用化学実験II	有機化学III 応用化学実験III	有機化学IV 応用有機化学七
(A-4-C2) 無機・分析化学系	基礎化学実験	無機化学I 分析化学I 応用化学実験I 安全管理学	無機化学II 分析化学II	無機化学III 応用化学実験III	環境化学七 応用無機化学七
(A-4-C3) 物理化学系		安全管理学	物理化学I 応用化学実験II	物理化学II	物理化学III
(A-4-C4) 化学工学系		安全管理学	化学工学I	化学工学II 応用化学実験III	化学工学II プロセス設計 化学工学量論 プロセス設計 エネルギー工学七
(A-4-C5) 生物工学系				生物工学 応用化学実験III	生物化学II七
(B-1) 論理的説明	国語 基礎化学実験	国語 応用化学実験I	国語 応用化学実験II	国語 応用化学実験III	卒業研究
(B-2) 質疑	基礎化学実験	応用化学実験I	応用化学実験II	応用化学実験III	卒業研究
(B-3) 日常英語	英語	英語	英語 英語演習	英語演習	英語演習
(B-4) 技術英語			化学英語I		英語演習
(C-1) 応用・解析			応用化学実験III	応用化学実験III	品質管理
(C-2) 複合・解決			学外実習七		卒業研究
(C-3) 体力・教養	保健・体育 地理 歴史	保健・体育 倫理 歴史	保健・体育	保健・体育	保健・体育 社会科学特講☆ 哲学☆ 日本史☆ 世界史☆ 人文科学特講☆ 経済学☆
(C-4) 協調・報告書	基礎化学実験	応用化学実験I	政治・経済 応用化学実験II	応用化学実験III	経済学☆
(D-1) 倫理	基礎化学実験	倫理 安全管理学	倫理 応用化学実験II	学外実習七 応用化学実験III	環境化学七
(D-2) 異文化	英語	英語 英語演習	英語 英語演習 (国際コミュニケーション) ドイツ語★ 中国語★ 韓国語★	ドイツ語★ 中国語★ 韓国語★	社会科学特講☆ 哲学☆ 日本史☆ 世界史☆ 人文科学特講☆ 経済学☆

備考 セは選択科目 ★☆は並行開講科目で選択必修(各1科目)科目

## IX 授業科目一覧

### 1. 一般科目 各学科共通

	授業科目	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	国語	9	3	3	2	1		
	倫理	2		2				
	政治・経済	2			2			
	歴史	4	2	2				
	地理	2	2					
	数学Ⅰ	14	6	4	4			
	数学Ⅱ	4	2	2				
	確率統計	1				1		
	物理	6	2	2	2			
	化学	5(4)	3(4)	2(0)				
	生物	1(2)		1(2)				
	保健・体育	9	2	2	2	2	1	
	芸術	1	1					
	英語	12	4	4	4			
	英語演習	5			1	2	2	
修得単位計	77	27(28)	24(23)	17	6	3		
選択科目	国際コミュニケーション	2				2		複数言語から一言語を選択
	哲学	2						いずれか一科目を選択
	日本史	2						
	世界史	2					2	
	社会科学特講	2						
	人文科学特講	2						
	経済学	2						
	開設単位計	14				2	12	
修得単位計	4				2	2		
一般科目開設単位計	91	27(28)	24(23)	17	8	15		
一般科目修得単位計	81	27(28)	24(23)	17	8	5		

(注) ()内は、応用化学科の実施単位数である。

## 2. 専門科目

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
応用数学Ⅰ	2				2		
応用数学Ⅱ	2				2		
応用物理Ⅰ	2				2		
情報基礎	2	2					
情報処理Ⅰ	1			1			
情報処理Ⅱ	1				1		
無機化学Ⅰ	2		2				
無機化学Ⅱ	2			2			
無機化学Ⅲ	2				2		
有機化学Ⅰ	2		2				
有機化学Ⅱ	2			2			
有機化学Ⅲ	2				2		
有機化学Ⅳ	2					2	
高分子化学	2				2		
材料化学	2					2	
物理化学Ⅰ	2			2			
物理化学Ⅱ	2				2		
物理化学Ⅲ	2					2	
分析化学Ⅰ	2		2				
分析化学Ⅱ	2			2			
化学工学Ⅰ	2			2			
化学工学Ⅱ	2				2		
化学工学量論	2					2	
生物工学	1				1		
生物化学Ⅰ	2				2		
品質管理	1					1	
プロセス設計	2					2	
化学英語Ⅰ	1			1			
機械工学概論	1					1	
電気工学概論	1					1	
安全管理学	1		1				
基礎化学実験	4	4					

必修科目

	応用化学実験Ⅰ	4		4			分析化学 無機化学
	応用化学実験Ⅱ	4			4		有機化学 物理化学
	応用化学実験Ⅲ	4				4	化学工学 生物化学 分析化学
	卒業研究	10					10
	修得単位計	80	6	11	16	24	23
選択科目	学外実習	1				1	
	応用物理Ⅱ	1				1	
	化学英語Ⅱ	1				1	
	応用有機化学	2					2
	応用無機化学	2					2
	エネルギー工学	2					2
	環境化学	2					2
	生物化学Ⅱ	2					2
	開設単位計	13				3	10
	修得単位計	6				4・5年で6以上	
	専門科目開設単位合計	93	6	11	16	27	33
	専門科目修得単位合計	86以上	6	11	16	24以上 4・5年で53以上	
	一般科目修得単位合計	81	28	23	17	8	5
	一般科目との合計修得単位	167以上	34	34	33	32以上 4・5年で66以上	

## X. シラバス

### 1. 一般科目一覧

#### ■国語

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	国語	林田 定男 准教授	3	通年	C-1
2年	必修	国語	石原 のり子 准教授	3	通年	C-3
3年	必修	国語	林田 定男 准教授	2	通年	C-5
4年	必修	国語	鎌田 智恵 非常勤講師	1	後期	C-7

#### ■人文社会

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	歴史	町田 吉隆 教授	2	通年	C-9
1年	必修	地理	八百 俊介 教授	2	通年	C-11
2年	必修	倫理	手代木 陽 教授	2	通年	C-13
2年	必修	歴史	深見 貴成 准教授	2	通年	C-15
3年	必修	政治・経済	高橋 秀実 教授	2	通年	C-17

#### ■数学

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	数学I	山路 哲史 講師	6	通年	C-19
1年	必修	数学II	横山 卓司 教授	2	通年	C-21
2年	必修	数学I	北村 知徳 准教授	4	通年	C-23
2年	必修	数学II	谷口 公仁彦 講師	2	通年	C-25
3年	必修	数学I	菅野 聡子 教授	4	通年	C-27
4年	必修	確率統計	横山 卓司 教授	1	前期	C-29

#### ■理科

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	物理	谷口 博 准教授	2	通年	C-31
1年	必修	化学	大塩 愛子 講師	4	通年	C-33
2年	必修	物理	高見 健太郎 講師	2	通年	C-35
2年	必修	生物	森 寿代 非常勤講師	2	通年	C-37
3年	必修	物理	大多喜 重明 教授	2	通年	C-39

#### ■英語

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	英語	今里 典子 教授	4	通年	C-41
2年	必修	英語	平野 洋平 講師	4	通年	C-43
3年	必修	英語	上垣 宗明 教授	4	通年	C-45
3年	必修	英語演習	Pileggi, Mark Andrew 准教授	1	後期	C-47
4年	必修	英語演習	(前期)Pileggi Mark Andrew 准教授 (後期)John Miller 非常勤講師, 平野 洋平 講師	2	通年	C-49
5年	必修	英語演習	(前期)上垣 宗明 教授, Miller 非常勤講師 (後期)今村 一博 教授	2	通年	C-51

## ■国際コミュニケーション

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
4年	選択	国際コミュニケーション(ドイツ語)	本田 敏雄 非常勤講師	2	通年	C-53
4年	選択	国際コミュニケーション(中国語)	田島 大輔 非常勤講師	2	通年	C-55
4年	選択	国際コミュニケーション(韓国語)	高 秀美 非常勤講師	2	通年	C-57

## ■保健・体育

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	保健・体育	中川一穂 特任教授, 小森田 敏教授, 寺田雅裕 教授	2	通年	C-59
2年	必修	保健・体育	春名桂 准教授, 寺田雅裕 教授	2	通年	C-61
3年	必修	保健・体育	中川 一穂 特任教授, 寺田 雅裕教授, 小森田 敏 教授, 春名 桂准教授	2	通年	C-63
4年	必修	保健・体育	春名 桂 准教授, 中川 一穂 特任教授, 寺田 雅裕 教授, 小森田 敏 教授	2	通年	C-65
5年	必修	保健・体育	寺田 雅裕 教授, 中川 一穂 特任教授, 小森田 敏 教授, 春名 桂准教授, 宮本 知弥 非常勤講師	1	前期	C-67

## ■芸術

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	芸術	大倉 恭子 非常勤講師	1	後期	C-69

## ■5年選択科目

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
5年	選択	哲学	稲岡 大志 非常勤講師	2	通年	C-71
5年	選択	日本史	深見 貴成 准教授	2	通年	C-73
5年	選択	世界史	町田 吉隆 教授	2	通年	C-75
5年	選択	社会科学特講	八百 俊介 教授	2	通年	C-77
5年	選択	人文科学特講(英会話)	ピレッジ 准教授	2	通年	C-79
5年	選択	人文科学特講(手話言語学)	今里 典子 教授	2	通年	C-81
5年	選択	経済学	高橋 秀実 教授	2	通年	C-83

## 2. 専門科目一覧

### ■1年

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	情報基礎	渡辺 昭敬 教授, 増田 興司 講師, 久貝 潤一郎 准教授, 九鬼 導隆 教授	2	通年	C-85
1年	必修	基礎化学実験	下村 憲司朗 准教授, 根津 豊彦 教授, 宮下 芳太郎 教授	4	通年	C-87

### ■2年

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
2年	必修	無機化学I	宮下 芳太郎 教授	2	通年	C-89
2年	必修	有機化学I	大淵 真一 教授	2	通年	C-91
2年	必修	分析化学I	安田 佳祐 准教授	2	通年	C-93
2年	必修	安全管理学	宮下 芳太郎 教授	1	後期	C-95
2年	必修	応用化学実験I	根津 豊彦 教授, 宮下 芳太郎 教 授, 安田 佳祐 准教授	4	通年	C-97

### ■3年

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
3年	必修	応用物理I	(前期)渡辺 昭敬 教授, (後期)九鬼 導隆 教授	2	通年	C-99
3年	必修	情報処理I	増田 興司 講師	1	後期	C-101
3年	必修	無機化学II	(前期)安田 佳祐 准教授, (後期)宮 下 芳太郎 教授	2	通年	C-103
3年	必修	有機化学II	小泉 拓也 准教授	2	通年	C-105
3年	必修	分析化学II	根津 豊彦 教授	2	通年	C-107
3年	必修	化学工学I	(前期)増田 興司 講師, (後期)久貝 潤一郎 准教授	2	通年	C-109
3年	必修	図学・製図	尾崎 純一 教授	1	前期	C-111
3年	必修	応用化学実験II	渡辺 昭敬 教授, 大淵 真一 教授, 九鬼 導隆 教授, 小泉 拓也 准教 授, 根本 忠将 准教授	4	通年	C-113

### ■4年

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
4年	必修	応用数学I	児玉 宏児 教授	2	前期	C-115
4年	必修	応用数学II	児玉 宏児 教授	2	後期	C-117
4年	必修	応用物理II	九鬼 導隆 教授	2	通年	C-119
4年	必修	情報処理II	増田 興司 講師	1	前期	C-121
4年	必修	有機合成化学	(前期)大淵 真一 教授, (後期)小泉 拓也 准教授	2	通年	C-123
4年	必修	高分子化学	根本 忠将 准教授	2	通年	C-125
4年	必修	物理化学I	渡辺 昭敬 教授	2	通年	C-127
4年	必修	化学工学II	(前期)久貝 潤一郎 准教授, (後期) 増田 興司 講師	2	通年	C-129
4年	必修	生物工学	下村 憲司朗 准教授	1	後期	C-131
4年	必修	生物化学I	下村 憲司朗 准教授	2	前期	C-133

4年	必修	化学英語	根本 忠将 准教授	1	前期	C-135
4年	必修	応用化学実験III	増田 興司 講師, 大淵 真一 教授, 九鬼 導隆 教授, 久貝 潤一郎 准 教授, 下村 憲司朗 准教授, 安田 佳祐 准教授	4	通年	C-137
4年	選択	学外実習	久貝 潤一郎 准教授	1	通年	C-139

#### ■5年

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
5年	必修	応用無機化学I	宮下 芳太郎 教授	2	前期	C-141
5年	必修	応用有機化学I	小泉 拓也 准教授	2	前期	C-143
5年	必修	材料化学	(前期)根本 忠将 准教授, (後期)安 田 佳祐 准教授	2	通年	C-145
5年	必修	物理化学II	(前期)九鬼 導隆 教授, (後期)渡辺 昭敬 教授	2	通年	C-147
5年	必修	化学工学量論	久貝 潤一郎 准教授	2	後期	C-149
5年	必修	品質管理	松本 隆 非常勤講師	1	前期	C-151
5年	必修	プロセス設計	齋藤 俊 非常勤講師	2	通年	C-153
5年	必修	機械工学概論	赤対 秀明 教授	1	前期	C-155
5年	必修	電気工学概論	安田 佳祐 准教授	1	前期	C-157
5年	必修	卒業研究	講義科目担当教員	10	通年	C-159
5年	選択	応用有機化学II	小泉 拓也 准教授	2	後期	C-161
5年	選択	応用無機化学II	根津 豊彦 教授	2	後期	C-163
5年	選択	エネルギー工学	大淵 真一 教授	2	後期	C-165
5年	選択	環境化学	根津 豊彦 教授	2	前期	C-167
5年	選択	生物化学II	下村 憲司朗 准教授	2	前期	C-169

科目	国語 (Japanese Language and Literature)		
担当教員	林田 定男 准教授		
対象学年等	応用化学科・1年・通年・必修・3単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B1(100%)		
授業の概要と方針	一般教養としての国語の基礎的学習を行う。現代文は、エッセイ、小説、詩の読解法と鑑賞法を学習する。また漢字の学習、グループワークによる文書の作成を通じて、日本語表現のトレーニングを行う。古文は、日本古典文学・古代日本語に関する基礎知識の学習および古典文学作品の現代語訳を通じて、日本語と日本文化についての理解を深める。また、『孟子』『論語』の読解を通じて、古代中国の思想を学習する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【B1】エッセイ、小説、詩の基本的読解方法、鑑賞方法を習得し、その方法によってエッセイ、小説、詩を読解・鑑賞できる。		エッセイ、小説、詩を的確に読解・鑑賞できているか、中間・定期試験で評価する。
2	【B1】文意の明快な文章を書くための知識と方法を習得する。		明快な文章を書くための知識と方法が身についているか、レポートおよび中間・定期試験で評価する。
3	【B1】日本古代語に関する知識を習得し、日本古典文学作品を正確に現代語訳できるようになる。		古代日本語に関する知識が身についているか、日本古典文学作品を正確に現代日本語訳できるか、レポートおよび中間・定期試験で評価する。
4	【B1】古代日本の文化、古代中国の思想に関する知識を習得し、それを説明できる。		古代日本の文化、古代中国の思想について理解できているか、レポートおよび中間・定期試験で評価する。
5	【B1】実用的な漢字表現を使いこなせるようになる。		実用的な漢字表現の知識について、レポートおよび中間・定期試験で評価する。
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は、試験90% レポート10% として評価する。到達目標1～5についての試験90%(中間試験、定期試験の平均)、到達目標2～5に関するレポート10%として評価、100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	第2,3学年「国語」。		
履修上の注意事項	なし。		

授業計画(国語)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	エッセイ(随想・評論)とは何か／古文入門	(現代文)エッセイを読むことの意義を考える。(古文)古文入門,古文を学ぶ意義を考える。
2	エッセイ(随想)の読解／古代日本語概説	(現代文)教科書所収の随想を読解する。なお,本授業ではエッセイの読解に際して,個人あるいはグループによる要約作業等を適宜行う。(古文)「あめつちの歌」「いろは歌」などにより,古代日本語の特徴を学ぶ。
3	エッセイ(随想)の読解／古代日本語概説	(現代文)教科書所収の随想を読解する。(古文)古代日本語の特徴を概説する。
4	小説入門／和歌史概説	(現代文)小説を読むことの意義を考える,教科書所収の小説を通読する。(古文)上代・中古の和歌の特徴について概説する。
5	小説の読解／古代の和歌を読む	(現代文)教科書所収の小説を読解する。(古文)『万葉集』を読む。
6	小説の読解／古代の和歌を読む	(現代文)教科書所収の小説を読解する。(古文)『万葉集』を読む。
7	小説の読解／古代の和歌を読む。	(現代文)教科書所収の小説を読解する。(古文)『万葉集』を読む。
8	中間試験	前期中間試験を実施する。
9	中間試験の解答,エッセイ(評論)の読解／古代日本語の助動詞の解説	(現代文)中間試験問題についての解説後,教科書所収の評論を通読する。(古文)古代日本語の助動詞について学ぶ。
10	エッセイ(評論)の読解／古代の物語を読む	(現代文)教科書所収の評論を通読する。(古文)現存する日本最古の物語である『宇治拾遺物語』を読む。
11	エッセイ(評論)の読解／古代の物語を読む	(現代文)教科書所収の評論を読解する。(古文)『宇治拾遺物語』を読む。
12	エッセイ(評論)の読解／古代の物語を読む	(現代文)教科書所収の評論を読解する。(古文)『宇治拾遺物語』を読む。
13	エッセイ(評論)の読解／古代の物語を読む	(現代文)教科書所収の評論を読解する。(古文)『宇治拾遺物語』を読む。
14	エッセイ(評論)の読解／古代の物語を読む	(現代文)教科書所収の評論を読解する。(古文)『宇治拾遺物語』を読む。
15	エッセイ(評論)の読解／古代の物語を読む	(現代文)教科書所収の評論を読解する。(古文)『宇治拾遺物語』を読む。
16	定期試験の解答,詩の解釈と鑑賞／日記文学概説	(現代文)定期試験問題についての解説後,詩の作成法・解釈法についての導入をおこなう。(古文)古典における日記文学について概説する。
17	詩の解釈と鑑賞／古代の日記を読む	(現代文)教科書・プリントの詩を解釈・鑑賞する。(古文)『土佐日記』を読む。
18	詩の解釈と鑑賞／古代の日記を読む	(現代文)教科書・プリントの詩を解釈・鑑賞する。(古文)『土佐日記』を読む。
19	詩の解釈と鑑賞／古代の日記を読む	(現代文)教科書・プリントの詩を解釈・鑑賞する。(古文)『土佐日記』を読む。
20	詩の解釈と鑑賞／古代の和歌を読む	(現代文)教科書・プリントの詩を解釈・鑑賞する。(古文)『古今和歌集』を読む。
21	詩の解釈と鑑賞／古代の和歌を読む	(現代文)教科書・プリントの詩を解釈・鑑賞する。(古文)『古今和歌集』『新古今和歌集』を読む。
22	詩の解釈と鑑賞／古代の和歌を読む	(現代文)教科書・プリントの詩を解釈・鑑賞する。(古文)『新古今和歌集』を読む。
23	中間試験	後期中間試験を実施する。
24	中間試験の解答,俳句の解釈と鑑賞／漢文入門	(現代文)中間試験問題についての解説後,俳句の特徴を学ぶ。(古文)漢文入門,漢文を学ぶ意義について考える。
25	俳句の解釈と鑑賞／『孟子』を読む	(現代文)教科書所収の俳句を解釈・鑑賞する。(古文)『孟子』を読み,古代中国の思想に触れる。
26	俳句の解釈と鑑賞／『孟子』を読む	(現代文)教科書所収の俳句を解釈・鑑賞する。(古文)『孟子』を読む。
27	俳句の解釈と鑑賞／『論語』を読む	(現代文)教科書所収の俳句を解釈・鑑賞する。(古文)『論語』を読み,古代中国の思想に触れる。
28	俳句の解釈と鑑賞／『論語』を読む	(現代文)教科書所収の俳句を解釈・鑑賞する。(古文)『論語』を読む。
29	俳句の解釈と鑑賞／『論語』を読む	(現代文)教科書所収の俳句を解釈・鑑賞する。(古文)『論語』を読む。
30	俳句の解釈と鑑賞／『論語』を読む	(現代文)教科書所収の俳句を解釈・鑑賞する。(古文)『論語』を読む。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	国語 (Japanese Language and Literature)		
担当教員	石原 のり子 准教授		
対象学年等	応用化学科・2年・通年・必修・3単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B1(100%)		
授業の概要と方針	1年に続き、一般教養としての国語の基礎的学習を行う。現代文は、エッセイ、小説、俳句、短歌の読解法と鑑賞法を学習する。また漢字の学習、グループワークによる文書の作成を通じて、日本語表現のトレーニングを行う。古文は、日本古典文学・古代日本語に関する基礎知識の学習および古典文学作品の現代語訳を通じて、日本語と日本文化についての理解を深める。また、漢詩の鑑賞、『十八史略』の読解を通じて、古代中国の文化・思想を学習する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【B1】エッセイ、小説、短歌の基本的読解方法、鑑賞方法を習得し、その方法によってエッセイ、小説、短歌を読解・鑑賞できる。		エッセイ、小説、短歌を的確に読解・鑑賞できているか、中間・定期試験で評価する。
2	【B1】文意の明快な文章を書くための知識と方法を習得し、文意の明快な文章を書ける。		明快な文章を書くための知識と方法が身についているか、中間・定期試験およびレポートで評価する。
3	【B1】日本古代語に関する知識を習得し、日本古典文学作品を正確に現代語訳できるようになる。		古代日本語に関する知識が身についているか、日本古典文学作品を正確に現代日本語訳できるか、中間・定期試験およびレポートで評価する。
4	【B1】古代日本の文化、古代中国の文化・思想に関する知識を習得し、それを説明できる。		古代日本の文化、古代中国の文化・思想について理解できているか、中間・定期試験およびレポートで評価する。
5	【B1】実用的な漢字表現を使いこなせるようになる。		実用的な漢字表現の知識について、中間・定期試験およびレポートで評価する。
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は、試験90% レポート10% として評価する。到達目標1～5についての試験90%(中間、定期試験の平均)、到達目標2～5に関するレポート10%として評価し、100点満点で、60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	1年,3年「国語」.		
履修上の注意事項			

授業計画(国語)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	詩の鑑賞／中世の随筆の読解	(現代文)教科書収載の詩を鑑賞する。(古典)『徒然草』(教科書収載部分)を読む。
2	評論の読解／中世の随筆の読解	(現代文)評論を読解する。(古典)『徒然草』を読む。
3	評論の読解／中世の随筆の読解	(現代文)評論を読解する。(古典)『徒然草』を読む。
4	評論の読解／中世の随筆の読解	(現代文)評論を読解する。(古典)『徒然草』を読む。
5	評論の読解／中世の随筆の読解	(現代文)評論を読解する。(古典)『徒然草』を読む。
6	評論の読解／中世の随筆の読解	(現代文)評論を読解する。(古典)『徒然草』を読む。
7	評論の読解／中世の随筆の読解	(現代文)評論を読解する。(古典)『徒然草』を読む。
8	中間試験	前期中間試験を実施する。
9	中間試験の解説.小説の読解／漢詩の鑑賞	(現代文)中間試験の解説を行う.教科書収載の小説を通読する。(古典)漢詩の歴史や形式等について解説する
10	小説の読解／漢詩の鑑賞	(現代文)近代の小説を読解する。(古典)教科書収載の漢詩を鑑賞する
11	小説の読解／漢詩の鑑賞	(現代文)近代の小説を読解する。(古典)教科書収載の漢詩を鑑賞する
12	小説の読解／近世の紀行文を読む	(現代文)近代の小説を読解する。(古典)近世の代表的紀行文である『奥の細道』について解説する。
13	小説の読解／近世の紀行文を読む	(現代文)近代の小説を読解する。(古典)『奥の細道』を読む。
14	小説の読解／近世の紀行文を読む	(現代文)近代の小説を読解する。(古典)『奥の細道』を読む。
15	小説の読解／近世の紀行文を読む	(現代文)近代小説を読解する。(古典)『奥の細道』を読む。
16	短歌・俳句の鑑賞／中世の物語を読む	(現代文)短歌と俳句との関係や歴史について確認する。(古典)中世の物語『平家物語』について解説する
17	短歌・俳句の鑑賞／中世の物語を読む	(現代文)主に教科書所載の短歌・俳句を鑑賞する。(古典)『平家物語』を読む。
18	短歌・俳句の鑑賞／中世の物語を読む	(現代文)短歌・俳句を鑑賞する。(古典)『平家物語』を読む。
19	評論の読解／中世の物語を読む	(現代文)教科書所載の評論を通読する。(古典)『平家物語』を読む。
20	評論の読解／中世の物語を読む	(現代文)評論を読解する。(古典)『平家物語』を読む。
21	評論の読解／中世の物語を読む	(現代文)評論を読解する。(古典)『平家物語』を読む。
22	評論の読解／中世の物語を読む	(現代文)評論を読解する。(古典)『平家物語』を読む。
23	中間試験	後期中間試験を実施する。
24	中間試験の解答.小説の読解／古代の和歌を鑑賞する(プリント教材)	(現代文)中間試験の解答.教科書収載の現代の小説を通読する。(古典)『古今和歌集』について解説する。
25	小説の読解／古代の和歌を鑑賞する	(現代文)現代の小説を読解する。(古典)古代の和歌を鑑賞する
26	小説の読解／古代の和歌を鑑賞する	(現代文)現代の小説を読解する。(古典)『古今和歌集』を読む。
27	小説の読解／古代中国の思想に触れる	(現代文)現代の小説を読解する。(古典)『十八史略』を読む。
28	評論の読解／古代中国の思想に触れる	(現代文)評論を読解する。(古典)『十八史略』を読む。
29	評論の読解／古代中国の思想に触れる	(現代文)評論を読解する。(古典)『十八史略』を読む。
30	評論の読解／古代中国の思想に触れる	(現代文)評論を読解する。(古典)『十八史略』を読む。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	国語 (Japanese Language and Literature)		
担当教員	林田 定男 准教授		
対象学年等	応用化学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B1(100%)		
授業の概要と方針	文学・国語学・言語学の知識をもとに,実践的な文章能力を養成する.文章の構成を把握して精確に読解する能力を培い,かつ,自分の見解を明確に文章化する能力を習得することを目的とする.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【B1】文章の内容を精確に把握する実践的能力を修得する.		提示された文章の内容を精確に把握できるか,定期試験で評価する.
2	【B1】自分の意見を明記したわかりやすい論説文を書くための基礎的能力を修得する.		提示されたテーマに対して,論理的で明快な文章を書くことができるか,レポートおよび定期試験で評価する.
3	【B1】実用的な漢字能力(2級~準2級程度)および語彙力を身につける.		実用的な漢字能力,語彙力が身につけているか,レポートおよび定期試験で評価する.
4	【B1】日本語および文学に対する関心を持ち,その特性を理解して説明することができる国際的教養を身につける.		日本語学および文学に対する理解度をレポートおよび定期試験で評価する.
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は,試験50% レポート50% として評価する.到達目標1~4についての試験50%(定期試験2回の平均),到達目標2~4に関するレポート50%として評価.100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト			
参考書			
関連科目	第1,2,4学年「国語」		
履修上の注意事項	レポートの評価点には,その完成に至るまでの活動の評価点を含む.		

授業計画(国語)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
2	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
3	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
4	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
5	評論の読解	教科書所収の随想を精読する。
6	小説の読解	教科書所収の小説を精読する。
7	小説の読解	教科書所収の小説を精読する。
8	小説の読解	教科書所収の小説を精読する。
9	小説の読解	教科書所収の小説を精読する。
10	小説の読解	教科書所収の小説を精読する。
11	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
12	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
13	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
14	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
15	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
16	詩の解釈と鑑賞	教科書所収の詩を解釈・鑑賞する。
17	詩の解釈と鑑賞	教科書所収の詩を解釈・鑑賞する。
18	詩の解釈と鑑賞	教科書所収の詩を解釈・鑑賞する。
19	詩の解釈と鑑賞	教科書所収の詩を解釈・鑑賞する。
20	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
21	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
22	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
23	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
24	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
25	小説の読解	教科書所収の小説を精読する。
26	小説の読解	教科書所収の小説を精読する。
27	小説の読解	教科書所収の小説を精読する。
28	小説の読解	教科書所収の小説を精読する。
29	小説の読解	教科書所収の小説を精読する。
30	小説の読解	教科書所収の小説を精読する。
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する。	

科目	国語 (Japanese Language and Literature)		
担当教員	鎌田 智恵 非常勤講師		
対象学年等	応用化学科・4年・後期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B1(100%)		
授業の概要と方針	本授業では、日本語によるコミュニケーション能力の向上を目的とする。とくに、学校生活におけるレポート、卒業研究等と、就職活動時や社会に出てからのビジネス文書等の作成に必要な、論理的文章を書く技術を身につけることに重きをおく。そのうえで、口頭発表における資料作成と実際の発表、その聞き取り等、理系に不可欠なコミュニケーション能力の伸長を目指す。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[B1]文章表現の基礎を習得する。		話しことばと書きことばの違い、原稿用紙の使い方、文章表現・構成の注意点が身につけているか、定期試験、中間試験およびレポート、提出物により評価する。
2	[B1]論理的文章の基礎を習得する。		文体が統一された論理的な文章が書けるか、定期試験、中間試験およびレポート、提出物により評価する。
3	[B1]論説文の書き方を習得する。		資料・文献等の根拠に基づき、自己の意見を筋道を立てて述べることができるか、中間試験、定期試験、レポートにより評価する。
4	[B1]就職活動やビジネスの場で求められる文書の書き方を習得する。		日常生活やビジネスの場に適したことば遣いが理解できているか、定期試験と中間試験により評価する。
5	[B1]日常生活やビジネスの場における正しいことば遣いを習得する。		適切なことばを用いた口頭での自己表現ができるか、演習発表により評価する。
6	[B1]口頭発表資料の作成方法を習得する。		わかりやすく、興味を持てる口頭発表資料が作成できるか、提出された演習発表資料と定期試験により評価する。
7	[B1]口頭発表における自己表現の方法を習得する。		わかりやすく、興味を持てる口頭発表のための知識・技術が習得できたか、授業中の演習発表、提出された演習発表資料および定期試験により評価する。
8	[ ]		
9	[ ]		
10	[ ]		
総合評価	成績は、試験85% レポート7% 提出物(説明文)3% 演習発表(口頭発表)5% として評価する。到達目標1～4に関する中間試験、到達目標1～4,6,7に関する定期試験の平均値を85%、到達目標1,2に関する提出物3%、到達目標1～3に関するレポート7%、到達目標5～7に関する演習発表5%として評価。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	三年「国語」		
履修上の注意事項	※教科書は、必ず購入すること。初回の授業で確認する		

授業計画(国語)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	導入	授業の目的・成績評価の方法・授業計画についてガイダンスを行う(注意:初回から教科書を用いるので必ず持参すること)。また、原稿用紙の使い方などについて学ぶ。
2	説明文と論説文の違いの説明,文章表現の基礎(1)	事実の記述と意見の記述の違い,説明文と論説文の違いについて学ぶ。また、文章表現の注意点について確認し,問題を解く。
3	文章表現の基礎(2),説明文の説明	文章表現の注意点について確認し,問題を解く。また,説明文を書く際の注意点について学ぶ。
4	説明文を書く	説明文を書き,提出する。
5	説明文の返却・講評,論説文の基礎(1)	第4回に提出された説明文について,返却・講評する。そののち,論説文を書く際の注意点について学ぶ。
6	論説文の基礎(2),材料の集め方,引用の方法	論説文を書く際の注意点について学ぶ。また,資料・文献の集め方と,引用・出典表記の方法について学ぶ。
7	論説文を書く	論説文の書き出し・文末表現等について学ぶ。そののち,レポートテーマを提示し,実際に書き始める。
8	中間試験	話しことばと書きことばの違い,原稿用紙の使い方,文章表現・構成の注意点,文体が統一された論理的な文章,日常生活やビジネスの場に適したことば遣いについて理解でき,身に付いているか,確認する。
9	要約する	要約の作成について学び,実践する。
10	エントリーシート・大学編入志望動機書を書く,レポートの提出	エントリーシート・大学編入志望動機書の実例に触れ,一部を書いてみる。そののち,第7回に課したレポート(論説文)を提出する。
11	口頭発表資料の作成,口頭発表の方法	わかりやすく,興味を持てる口頭発表資料の作り方と,口頭発表時の注意点について学ぶ。
12	口頭発表資料の実例と模範発表,発表資料の作成	口頭発表資料の実例に触れ,講師による模範発表を行う。そののち,第13回の演習発表に向けて発表テーマを提示し,実際に資料を作成し始める。
13	演習発表	グループワークで口頭発表をし,相互評価する。なお,時間内に相互評価表と各自発表資料の提出を求める。
14	ビジネス文書	手紙文・ビジネスメール・ビジネス文書の書き方を学ぶ。
15	レポートの返却・講評	第10週に提出されたレポートの返却・講評する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	前期中間試験および前期定期試験を実施する。	

科目	歴史 (History)		
担当教員	町田 吉隆 教授		
対象学年等	応用化学科・1年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	日本の歴史を時代と地域の視点から学ぶ。そこから各時代の社会の特色を探ることを目標とする。古代, 中世, 近世, 近代という時代区分の意味をその社会の特性から捉える作業が必要になる。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】古代, 中世, 近世, 近代の各時代を, 地域と社会の変容に関連させながら理解することができる。		日本の各時代について地域と社会の変容に関する理解を中間試験および定期試験で評価する。
2	【C3】具体的な史料や歴史叙述に基づいて, 歴史的イベントや事象の内容と因果関係を説明することができる。		授業で扱った歴史的イベントや事象の内容と因果関係についての理解を, 中間試験および定期試験で評価する。
3	【C3】歴史的イベントや事象の内容と因果関係を, 正確かつ丁寧に解説, 表現することができる。		授業で扱った歴史的イベントや事象の内容と因果関係についての理解を, 歴史プリントおよびノート検査で評価する。
4	【C3】史跡や文化財および近代化遺産について, 実地に調査して, その作成過程を説明することができる。		各自が興味を持つテーマにしたがって, 史跡や文化財および近代化遺産について, 実地に調査して, 作成するレポートの内容で評価する。
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は, 試験70% レポート14% 歴史プリント, ノート16% として評価する。到達目標1, 2, 3については中間および定期試験4回の平均点で評価する。また到達目標3については歴史プリント作成およびノート検査で評価する。到達目標4についてはレポートで評価する。これらを総合して100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	歴史(2年)・日本史(5年)・世界史(5年)		
履修上の注意事項	中学校までで学んだ知識に基づく内容だが, 教科書を授業前に読んでおくことを期待する。授業に参加する姿勢の乏しい者については個別に注意する。		

授業計画(歴史)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	導入-日本の歴史を学ぶ意味とは何か	日本列島の自然環境と地域の特徴がその歴史に関連していることを事例に基づいて確認する。
2	日本の歴史における東と西	日本列島における地域的な相違を歴史的に考える。
3	日本の古代(1)	現在の中部地方,関東地方,東北地方に相当する「東国」の自然環境と歴史について,既習事項を確認する。
4	日本の古代(2)	日本列島の東西における縄文文化の相違点から,文化の多様性を理解する。
5	日本の古代(3)	関東地方への稲作文化の伝播の様相から,ヒトの移動と文化の変容について理解する。
6	日本の古代(4)	ヤマト政権の支配のしくみを,地方の有力豪族と東アジア世界との関連から理解する。
7	日本の古代(5)	律令国家における地方行政のしくみと在地有力者としての「武士」の出現に関連させて理解する。
8	中間試験	第1週から第7週までの内容について試験を行う。
9	中間試験の解答とまとめ	中間試験の内容について解説する。約1万年前から12世紀までの日本社会の動きを,「東国」という地域を通して理解する。
10	日本の中世(1)	現在の瀬戸内地方,中国地方,九州地方の自然環境と歴史について,既習事項を確認する。
11	日本の中世(2)	瀬戸内地方に現れた「海の武士団」を鎌倉幕府の支配のしくみと関連させて理解する。
12	日本の中世(3)	元寇襲来前夜の社会の変容を理解する。
13	日本の中世(4)	元寇襲来後の西日本の地域社会の動揺を東アジアの動きと関連させて理解する。
14	日本の中世(5)	15世紀の東アジアの動きと関連させて室町時代の政治と社会を理解する。
15	日本の中世(6)	15世紀後半の「応仁の乱」以降の社会を九州地方,中国地方の戦国大名を例として理解する。
16	時間と暦(1)	日本を含む世界の人々が「時間」をどのようにとらえ,生活の中でいかしてきたかを理解する。
17	時間と暦(2)	前近代社会の「季節」のとらえ方を人々の生活と関連させて理解する。
18	日本の近世(1)	現在の近畿地方の自然環境と歴史について,既習事項を確認する。
19	日本の近世(2)	織豊政権が近畿地方に統治の中心を置いた理由を経済的側面から理解する。
20	日本の近世(3)	江戸時代前半の近畿地方の経済的隆盛と文化の発達の特徴を,幕藩体制下の地域社会のしくみと関連させて理解する。
21	日本の近世(4)	18世紀の上方文化と町人社会の様相を,歴史上の人物の例から理解する。
22	日本の近世(5)	日本の地域社会が江戸時代の後半に大きく動揺した理由を,経済的,社会的な要因と関連させて理解する。
23	中間試験	第16週から第22週までの内容について試験を行う。
24	中間試験の解答とまとめ	中間試験の内容について解説する。13世紀から19世紀前半までの日本社会の動きを,地域社会の視点から理解する。
25	日本の近代(1)	19世紀後半から20世紀前半までの日本の歴史について,既習事項を確認し,概略とその特質を理解する。
26	日本の近代(2)	14世紀から19世紀半ばまでの琉球の歴史を,日本列島の他地域の事象と関連させて理解する。
27	日本の近代(3)	14世紀から19世紀半ばまでの蝦夷地の歴史を,日本列島の他地域の事象と関連させて理解する。
28	日本の近代(4)	北海道の開発が日本の「近代化」のモデルケースであったことを,政策と人口の移動の面から理解する。
29	日本の近代(5)	沖縄文化を日本列島の明治,大正の知識人はどのように理解したかを,沖縄の人々の視点と関連させて理解する。
30	日本の近代(6)	第二次世界大戦における「沖縄戦」の実相と戦後の沖縄の歴史から,日本の「近代化」の性格を考える。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	地理 (Geography)		
担当教員	八百 俊介 教授		
対象学年等	応用化学科・1年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	はじめに,地形図から地形・地域の歴史等の情報を読み取る手法を学習する.次に気候の形成要因を学んだ上で,植生・土壌・農業等と気候との連関を学習する.さらに,人口構成の変化・地域的差異の要因,工業の立地要因を学習し,都市の内部構造,形成要因と諸問題を交通との関係を含めて学習する.基本的な地理的情報を各種資料から検索する.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】気候の形成要因を理解し,植生・土壌・農業等との連関を捉えることができる.気候・植生・土壌・農業等の分布等を判別することができる		気候の形成要因を理解し,植生・土壌・農業等との連関を捉えることができるか,気候・植生・土壌・農業等の分布等を判別することができるか定期試験で評価する
2	【C3】工業の立地条件が理解できる		工業の立地条件が理解できるかを中間試験で評価する
3	【C3】人口変化・人口構成の形成要因が理解でき,地域特性が推察できる		人口変化・人口構成の形成要因が理解できているか,データから地域特性が推察できるか中間試験で評価する
4	【C3】都市の内部構造とその形成要因,都市問題と交通の関係が理解できる		都市の内部構造とその形成要因が理解できているか,データから地区・都市特性が判別できるか,交通と地域の関係が理解できるか定期試験で評価する
5	【C3】地形図など資料から地誌情報を検索・判読することができる		地形図など資料から地誌情報を検索・判読することができるか中間試験およびレポートで評価する
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は,試験85% レポート15% として評価する.100点を満点とし,60点以上を合格とする.試験成績は中間試験,定期試験の平均点とする.		
テキスト			
参考書			
関連科目	なし		
履修上の注意事項			

授業計画(地理)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	地形図の判読1	地形図から地形を判読する
2	地形図の判読2	第1週目に同じ
3	地形図の判読3	第1週目に同じ
4	地形図の利用1	地形図から村落など歴史を読み取る方法を学習する
5	地形図の利用2	第4週目に同じ
6	地形図の利用3	第4週目に同じ
7	地形図の読図4	第4週目に同じ
8	中間試験	第1週目から第7週目の範囲で試験を行なう
9	気候要素と特性1	気候の形成要因を学習し,データから気候特性を読み取り,地点を特定する手法を学習する
10	気候要素と特性2	第9週目に同じ
11	気候と土壌・植生1	気候ごとの土壌・植生の特徴と形成要因を学習する
12	気候と土壌・植生2	第11週目に同じ
13	自然と農業1	自然条件を背景とした農業の分布・成立を学習する
14	自然と農業2	第13週目に同じ
15	自然と農業3	第13週目に同じ
16	人口の変化と要因1	人口変化の社会的・経済的要因を学習する
17	人口の変化と要因2	第16週目に同じ
18	人口構成と地域1	人口構成と地域特性の関係を学習する
19	人口構成と地域2	第18週目に同じ
20	工業立地1	工業立地の類型を学習する
21	工業立地2	第20週目に同じ
22	工業立地3	第20週目に同じ
23	中間試験	第16週目から第22週目の範囲で試験を行なう
24	都市の内部構造1	都市の内部構造とその形成要因を学習する
25	都市の内部構造2	第24週目に同じ
26	都市の内部構造3	第24週目に同じ
27	都市の変化と都市問題1	都市の成長と都市問題について学習する
28	都市の変化と都市問題2	第27週目に同じ
29	都市と交通1	交通と都市の関係について学習する
30	都市と交通2	第29週目に同じ
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	倫理 (Ethics)		
担当教員	手代木 陽 教授		
対象学年等	応用化学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(20%), D1(80%)		
授業の概要と方針	現代社会において私たちはいかに生きるべきであろうか、人間として「よく生きる」ことを先人たちの思想や現代社会の問題を通して学び、自らの生き方を考える姿勢を身につける。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】青年期の特徴を理解し、自らの問題として考えることができる。		青年期の特徴についての理解度を前期中間試験で評価し、自らの問題として考えることができるかをレポート課題で評価する。
2	【C3】「思想の源流」と言われる先人の倫理思想を正しく理解できる。		ギリシャの思想の理解度を前期中間試験で、キリスト教、イスラーム、仏教の理解度を前期定期試験で評価する。
3	【C3】現代社会の前提となった近代の倫理思想を正しく理解できる。		近代における人間の尊厳、科学革命と自然観、民主社会の思想の理解度を後期中間試験で評価する。
4	【C3】現代社会における倫理的問題を正しく理解できる。		高齢社会、グローバル化、情報社会、生命倫理、環境倫理の問題についての理解度を後期定期試験で評価する。
5	【D1】現代社会における倫理的問題について自分の意見を矛盾なく展開できる。		高齢社会、グローバル化、情報社会、生命倫理、環境倫理の問題について自分の意見を矛盾なく展開できるかを後期定期試験の作文問題とレポート課題で評価する。
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は、試験80% レポート20% として評価する。レポート評価には授業の課題、自主課題のレポート評価とノートの評価が含まれる。なお、試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	哲学		
履修上の注意事項	なし		

授業計画(倫理)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	「倫理」とは	「倫理」という言葉の意味を漢字の成り立ちから考える。1年間の授業の概要、評価方法について説明し、最近のニュースの中から倫理的問題を取り上げる。
2	青年期の課題と自己形成(1)	青年期の特徴、青年期の発達課題としてのアイデンティティの確立、パーソナリティと性格、欲求と適応などの問題を解説する。
3	青年期の課題と自己形成(2)	青年期に特有の恋愛や性の問題について考える。セクシュアル・ハラスメントなどの社会問題も取り上げる。
4	人間としての自覚	人間の歴史の最初期において人間の生き方を導いた「思想の源流」について解説する。
5	ギリシャの思想(1)	初期自然哲学の形成、ソフィスト、ソクラテスの思想について解説する。
6	ギリシャの思想(2)	ソクラテスの死の意義について考える。国法を尊重するとはどういうことか、憲法9条の問題を通して現代のわれわれの問題として考える。
7	ギリシャの思想(3)	プラトン、アリストテレスの思想について解説する。
8	前期中間試験	青年期の課題と自己形成、ギリシャの思想の範囲で試験を実施する。
9	キリスト教(1)	新約聖書から「放蕩息子の物語」を取り上げ、信仰するとはどういうことか考える。
10	キリスト教(2)	旧約聖書とユダヤ教の思想について解説する。
11	キリスト教(3)	新約聖書とイエスの思想について解説する。
12	イスラーム(1)	イスラームの成立史と信仰の特徴について解説する。
13	イスラーム(2)	国際社会におけるイスラームの位置づけについて解説する。
14	仏教(1)	仏教の成立史とゴータマ=シツダッタの思想について解説する。
15	仏教(2)	日本仏教の展開について解説する。
16	現代の特質と倫理的課題	科学技術の進歩によって生じた現代の諸問題は技術的解決のみならず、社会的合意が必要な倫理的問題でもあることを解説する。
17	人間の尊厳(1)	「人間の尊厳」とは何かを、その思想的源泉であるルネサンスまで遡って考える。
18	人間の尊厳(2)	人間の尊厳を「人格」に見出したカントの思想を解説し、自由とは何かを考える。
19	人間の尊厳(3)	再生医療と人間の尊厳の問題について考える。
20	近代の科学革命と自然観	近代科学の自然観と合理論、経験論の思想について解説する。
21	自由で平等な社会の実現(1)	すべての人間の平等を目指す民主社会の思想的源泉を17-18世紀の社会契約説に遡って解説する。
22	自由で平等な社会の実現(2)	ヘーゲルの人倫と18-19世紀の功利主義の展開について解説する。
23	後期中間試験	人間の尊厳、近代の科学革命と自然観、自由で平等な社会の実現の範囲で試験を実施する。
24	現代の諸課題と倫理(1)	高齢社会の問題を現代の家族の変容との関係において解説する。
25	現代の諸課題と倫理(2)	グローバル化が進む世界の現状を解説し、国際支援や異文化理解について考える。
26	現代の諸課題と倫理(3)	ネットワーク社会と情報モラルの問題を解説する。
27	現代の諸課題と倫理(4)	生命倫理について概説し、生殖補助医療技術の倫理的問題について考える。
28	現代の諸課題と倫理(5)	臓器移植、終末期医療の倫理的問題について考える。
29	現代の諸課題と倫理(6)	環境倫理について概説し、市場社会システムで地球温暖化問題を解決できるか考える。
30	現代の諸課題と倫理(7)	原発の廃炉の問題を通して未来世代に対する現代世代の責任について考える。
備考	前期、後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	歴史 (History)		
担当教員	深見 貴成 准教授		
対象学年等	応用化学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	現代の日本社会に生きる人間にとって、他の社会とのコミュニケーションは必要不可欠であり、その基礎となるのが基本的な歴史知識である。本授業では、近代社会の成立から現代に至るまでの世界の歴史を「市民革命」「帝国主義」「戦争」を中心として学んでいく。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】18世紀から現在までの世界の歴史の流れを理解できる。		中間試験および定期試験で評価する。
2	【C3】基本的な世界の歴史的事項を理解する。		中間試験および定期試験とレポート・提出物で評価する。
3	【C3】18世紀から現代までの世界の社会問題や文化に関して理解できる。		中間試験および定期試験で評価する。
4	【C3】現代の社会における事柄を世界の歴史に関連させて思考できる。		レポート・提出物で評価する。
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は、試験70% レポート・提出物30% として評価する。到達目標1・2・3については、中間および定期試験4回の平均点で評価する。また到達目標2については、レポート・提出物でも評価する。到達目標4については、レポート・提出物で評価する。これらを総合して、100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	歴史(1年),日本史(5年),世界史(5年)		
履修上の注意事項	教科書をよく読み、内容を理解できるようにすること。		

授業計画(歴史)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	導入—近代社会とは	古代から市民革命が起こるまでの世界の歴史を概観し,世界地理の基本を学ぶ。
2	産業革命とアメリカ独立革命(1)	イギリスで起こった産業革命の影響と,アメリカ独立革命の意義について理解する。
3	産業革命とアメリカ独立革命(2)	第2週に同じ。
4	フランス革命とナポレオン(1)	アンジャン＝レージュムとは何かを理解し,フランス革命の意義について理解する。
5	フランス革命とナポレオン(2)	フランス革命の経緯とナポレオンの動向について理解する。
6	ウィーン体制とその崩壊	二月革命と七月革命の意義について知る。また,イタリアとドイツの統一の経緯を理解し,近代国家とは何かを考える。
7	アメリカ合衆国の発展	アメリカの領土拡大の意義と南北戦争の経緯について理解し,現代のアメリカとの関係を考える。
8	中間試験	第1週から第7週までの内容について試験を行う。
9	中間試験の解答とまとめ	中間試験の内容について解説し,近代国家(国民国家)の成立の意義について学ぶ。
10	オスマン帝国とムガル帝国	オスマン帝国とヨーロッパ諸国の関係について理解する。またイギリスのインドの植民地化の経緯を知り,植民地とは何かを理解する。
11	清朝の動揺	アヘン戦争以降の清朝のヨーロッパとの関係および国内の改革について理解する。
12	帝国主義の展開と植民地(1)	ヨーロッパ諸国の動向と植民地化の拡大について理解する。特にアジアとアフリカの植民地化について考える。
13	帝国主義の展開と植民地(2)	第12週に同じ。
14	アジア諸国の改革(1)	清朝の滅亡と辛亥革命の経緯について理解する。また,アジア各地での民族運動について考える。
15	アジア諸国の改革(2)	第14週に同じ。
16	第一次世界大戦(1)	なぜ第一次世界大戦が起こったのか,その経緯を理解する。また,ロシア革命の経緯と意義について考える。
17	第一次世界大戦(2)	第16週に同じ。
18	ヴェルサイユ体制とワシントン体制(1)	国際協調の時代としての1920年代をヨーロッパ・アジアを中心にして学ぶ。また,各地域の民族運動について理解する。
19	ヴェルサイユ体制とワシントン体制(2)	第18週に同じ。
20	世界恐慌とファシズム(1)	世界恐慌が世界に与えた影響について考える。また,ファシズム諸国の動向が意味するものを理解する。
21	世界恐慌とファシズム(2)	第20週に同じ。
22	第二次世界大戦	第二次世界大戦の世界史的意義について考え,現代社会とのつながり <sup>2)</sup> を考える。
23	中間試験	第16週から第22週までの内容について試験を行う。
24	冷戦の構造(1)	アメリカとソ連だけではなく,世界史上における冷戦の意味とその構造について理解する。またアジア諸国の戦後の動向について知る。
25	冷戦の構造(2)	第24週に同じ。
26	第三世界の自立	冷戦構造と第三世界との関係について理解する。また各地の戦争・紛争の経緯とその意味を考える。
27	ベトナム戦争	ベトナム戦争が起こる経緯と世界に与えた意味について考える。特に日本社会に与えた影響についても考える。
28	冷戦の解消(1)	ソ連の消滅の意義について理解する。また,1990年代以降の世界の動き,特にアメリカの動向について考える。
29	冷戦の解消(2)	第28週に同じ。
30	まとめ—歴史を学ぶこととは何か	これまで学んできた世界の歴史と現代社会とのつながりについて理解し,今後の世界について考える。また,歴史を学ぶことかどのような意味を持つのかを考える。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	政治・経済 (Political Science and Economics)		
担当教員	高橋 秀実 教授		
対象学年等	応用化学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	歴史的転換期としての現代世界及び日本の政治・経済を理解するため、政治・経済・国際関係の諸事象を多角的な視点から分析し、その構造や潮流を把握して、広い視野から判断しうる見識と考察力を養成する。前期は国際政治を中心に政治分野を、後期は経済分野を扱う。国際政治や経済の時事問題を随時導入する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[C3]第二次世界大戦・冷戦・核問題などを通じて戦争と平和の問題を理解する。南北問題・人口問題・民族問題など現代世界の諸課題を理解する。国際連合の組織・機能、国際機関や国際条約を理解する。		国際政治の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
2	[C3]リベラルデモクラシーの原理、日本国憲法の成立過程、日本国憲法の3原則(国民主権・基本的人権・平和主義)、政治制度を理解する。		リベラルデモクラシー・日本国憲法の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
3	[C3]資本主義経済の特徴、市場メカニズム、金融・財政、労働問題など現代経済のしくみを理解する。		現代経済のしくみの理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
4	[C3]資本主義成立期から敗戦・戦後復興・高度経済成長・石油危機・貿易不均衡・バブル経済・バブル崩壊を経て現在に至るまでの、日本経済の歩みを理解する。		日本経済の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
5	[C3]グローバリゼーションと地域経済統合が進展する世界経済を理解する。		世界経済の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は、試験75% レポート・提出物25% で総合評価する。試験成績は前後期の平均点とする。100点満点の60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	経済学(5年選択)		
履修上の注意事項	なし		

授業計画(政治・経済)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	政治序論:現代世界の課題	20世紀,戦後の時代を多面的に検証し,転換期としての冷戦後,21世紀の世界の諸課題を考察するという前期政治編の方針を概観する。
2	国際社会と主権国家	近代国家のあり方・要素を分析し,国際社会を動かす政治・経済的利害関係,民族・宗教など文化的要因などを考察する。
3	20世紀の政治潮流	第二次世界大戦と東西冷戦を,ファシズム・ Kommunismus・リベラルデモクラシーなど政治思想・国家体制の側面から分析し考察する。
4	戦後の東西冷戦	戦後の東西冷戦の政治過程を概観する。
5	冷戦終結と冷戦後の国際社会	冷戦終結の政治過程とその歴史的意義を分析し考察する。
6	国際連合の組織と機能	国際連合の成立過程,総会・安全保障理事会を中心とした国連の組織,PKOなど平和維持機能を理解する。
7	リベラルデモクラシーの原理と制度	市民革命・人権宣言により確立したリベラルデモクラシーの原理と制度を理解する,国民主権と議院内閣制・選挙など諸制度を理解する。
8	日本国憲法の成立過程	敗戦後の日本国憲法成立に至る政治過程を分析し,日本国憲法を大日本帝国憲法と比較し考察する。
9	日本国憲法と基本的人権	基本的人権を自由権と社会権という視点から考察する。
10	日本国憲法前文・第9条の平和主義	日本国憲法前文・第9条の条文を通じて日本の平和主義を考察する。
11	日本国憲法の平和主義と戦後日本の歩み	憲法の理想と現実の戦後日本の歩みとの相克を考察する。
12	世界平和と核問題	広島・長崎原爆,戦後米ソ核対立,核抑止の国際条約締結の歩み,大量破壊兵器の危機的現実を考察する。
13	南北問題	先進工業国と発展途上国の経済格差の現状や原因,国際社会の対応,近年の変化を分析する。
14	人口問題	世界人口の推移と現状,問題点を,南北問題と関連させて考察する..
15	総括:21世紀の国際社会と日本	政治編の総括として,21世紀の国際社会の潮流と諸課題,及び日本のあり方を考察し総括する。
16	経済序論:商品経済・貨幣経済・生産と消費	商品としての財・サービスの生産,企業と消費者・労働者,貨幣の機能など,資本主義経済の特徴を基礎から分析し考察する。
17	市場メカニズム	自由競争市場で商品の需給関係が価格変動で自動調整されるという,産業革命期のアダムスミスが解明した市場メカニズムの原理を考察する。
18	自由競争から独占資本主義へ	産業革命期の自由競争期から独占資本主義への転換,独占(寡占)の形態を分析する。
19	世界恐慌とケインズ・修正資本主義	1930年代の世界恐慌・デフレスパイラル,欧州先進国のブロック経済化,米国のニューディール政策とその基盤たるケインズ理論,修正資本主義を理解する。
20	形成期の日本資本主義	富国強兵・殖産興業の下に国家主導で形成された成り立ちの日本資本主義の特徴を,後進的農村,劣悪な労働条件,植民地進出,など多面的に分析し考察する。
21	戦後の経済復興と高度経済成長	敗戦後の経済民主化改革と経済復興,1950・60年代の著しい工業発展・高度経済成長を可能にした諸要因を多面的に分析し考察する。
22	オイルショックと貿易不均衡	1970年代オイルショックによる高度成長の終結,日本企業の技術革新,輸出拡大,80年代日米貿易不均衡・貿易摩擦を分析する。
23	バブル経済とバブル崩壊デフレ	1985年プラザ合意以降の株価・地価高騰,バブル経済,90年代株価・地価暴落によるバブル崩壊と金融システム不安を伴う平成不況へと至った過程及び原因を考察する。
24	技術革新と産業構造	日本経済の歩みを通じて産業構造の変化を分析し,技術革新と産業構造の連関を考察する。
25	国際経済と貿易	IMF・GATT体制の中で加工貿易によって発展を遂げた日本経済を理解する,生産拠点の海外移転,世界市場の一体化(グローバルイゼーション)の潮流を考察する。
26	労働・雇用問題	憲法と労働基準法に規定された労働の権利を理解する,日本の雇用制度の特徴,1990年代以降の変化の潮流を考察する。
27	財政の機能としくみ・財政政策	財政の機能とそのしくみ,予算(歳入・歳出)の現状,国債累積で財政破綻に瀕している現状を考察する,財政政策を考察する。
28	税制	直接税と間接税という租税の種類を,所得税と消費税を中心として税制と機能を考察する。
29	金融の機能としくみ・金融政策	金融の機能とシステム,日本銀行による金融政策を理解する,バブル崩壊後の金融の潮流を考察する。
30	総括:世界経済・日本経済の現状と課題	世界経済の現状と課題及び日本経済の現状と課題を考察し,全授業の総括とする。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する,前後期にレポート課題を課す,政治経済時事テーマを随時導入する関係上,予定テーマの内容と順序は随時変更可能性あり。	

科目	数学I (Mathematics I)		
担当教員	山路 哲史 講師		
対象学年等	応用化学科・1年・通年・必修・6単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A1(100%)		
授業の概要と方針	高等専門学校における数学の基礎となる事柄を丁寧に講義する。さらに、演習を行うことにより、内容の定着と応用力の養成をはかる。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A1】実数,複素数,整式や分数式の計算ができる。		中間試験・定期試験,レポートで評価する。
2	【A1】方程式・不等式を解いたり,利用したりできる。		中間試験・定期試験,レポートで評価する。
3	【A1】簡単な等式・不等式の証明ができる。		中間試験・定期試験,レポートで評価する。
4	【A1】2次関数や分数関数などのグラフを理解し応用できる。		中間試験・定期試験,レポートで評価する。
5	【A1】指数法則,指数関数を理解し,計算および応用ができる。		中間試験・定期試験,レポートで評価する。
6	【A1】対数の定義,対数関数を理解し,計算および応用ができる。		中間試験・定期試験,レポートで評価する。
7	【A1】三角比・三角関数に関する定理,公式を理解し活用できる。		中間試験・定期試験,レポートで評価する。
8	【A1】数列とその和に関する事項および数学的帰納法の考え方を理解できる。		中間試験・定期試験,レポートで評価する。
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は,試験85% レポート15% として評価する。試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。演習・レポートは授業中や夏休み前など,適宜課す。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	1年の数学II,2年の数学I・数学II		
履修上の注意事項	・時間に余裕がある場合には,発展的な話題を扱うこともある。・参考書に挙げた書籍は全部揃える必要はない。・数列についてはプリント配布またはチャートを利用する。・レポートは,夏期休業前,冬季休業前などに適宜課す。・4月のオリエンテーションの中で,入学前に課した課題についての実力テストを実施する。このテストの結果は1年数学Iの成績とは関係ない。		

授業計画(数学I)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	等式, 不等式, 実数とその性質	等式, 不等式の性質や実数とその性質, 絶対値について解説し, 演習を行う。
2	平方根, 複素数	平方根の定義と性質を解説し, 演習を行う。また, 分母の有理化とその方法, 複素数の定義および計算方法について解説し, 演習を行う。
3	整式の計算	整式の加法・減法・方法と展開公式について解説し, 文字式の計算に関する演習を行う。また, 因数分解について解説し, 演習を行う。
4	整式の除法	整式の除法, 剰余の定理と因数定理について解説し, 演習を行う。
5	分数式, 2次方程式の解法	分数式の性質・計算について解説し, 演習を行う。また, 因数分解や解の公式など2次方程式の様々な解法や判別式について解説し, 演習を行う。
6	2次方程式の解と2次式の因数分解, いろいろな方程式	2次方程式の解を使った2次式の因数分解や, 高次方程式・連立方程式他いろいろな方程式について解説し, 演習を行う。
7	演習	1~6週の総合演習を行う。
8	中間試験	1~7週の範囲で中間試験を行う。
9	恒等式と等式の証明	恒等式の性質や扱い方・等式の証明について解説し, 演習を行う。
10	不等式の証明, 2次関数とそのグラフ	不等式の証明について解説し, 演習を行う。また, 2次関数とそのグラフについて解説し, 演習を行う。
11	2次関数の最大値・最小値, 2次関数と2次方程式	2次関数の最大値・最小値について, また, 2次関数のグラフと2次方程式の解や判別式などの関係について解説し, 演習を行う。
12	いろいろな2次関数のグラフ, 2次関数と2次不等式	いろいろな2次関数のグラフや2次関数の決定について, また, 2次関数と2次不等式について解説し, 演習を行う。
13	関数とグラフ(1)	関数とグラフについて, また, グラフの移動について解説し, 演習を行う。さらに, べき関数・分数関数について解説し, 演習を行う。
14	関数とグラフ(2)	無理関数・合成関数と逆関数について解説し, 演習を行う。
15	演習	14週までの範囲の総合演習を行う。
16	累乗根, 指数の拡張, 指数関数	累乗根と指数の拡張から拡張された指数法則について解説し, それから指数関数を定義し, それらの解説と演習を行う。
17	指数方程式・不等式, 対数の定義	指数関数とグラフ, さらに指数方程式・指数不等式について解説し, 演習を行う。また, 対数を定義してその基本性質について解説し, 演習を行う。
18	対数の法則, 対数関数と対数方程式・不等式	対数の計算法則や底の返還公式について解説し, 演習を行う。また対数関数を定義し, そのグラフや対数方程式・対数不等式について解説し, 演習を行う。
19	三角関数(1)	一般角から正弦と余弦を定義して解説し, 演習を行う。そして弧度法を導入し, 正弦関数・余弦関数のグラフについて解説し, 演習を行う。
20	三角関数(2)	正接を定義して解説し, 演習を行う。また, 三角関数の基本公式について解説し, その応用を含めて演習を行う。
21	三角関数と方程式・不等式	三角関数を含む方程式や不等式について解説し, 演習を行う。
22	演習	21週までの範囲の総合演習を行う。
23	中間試験	16~22週の範囲で中間試験を行う。
24	三角関数の加法定理	三角関数の加法定理とそれから導かれる公式について解説し, 演習を行う。
25	三角関数の合成, 三角形と三角関数	三角関数の合成について解説し, 演習を行う。また, 三角形と三角関数の関係(三角比)について解説し, 演習を行う。
26	正弦定理と余弦定理	三角形における正弦定理と余弦定理について, また, 三角形の面積について解説し, 演習を行う。
27	数列, 等差数列とその和	数列とその一般項について解説し, それから最も基本的な数列のひとつである等差数列とその和について解説し, 演習を行う。
28	等比数列とその和, いろいろな数列の和	等比数列とその和について解説し, 演習を行う。また, 総和の記号を使い, いろいろな数列の和について解説し, 演習を行う。
29	数列の漸化式, 数学的帰納法	数列の漸化式・数学的帰納法について解説し, 演習を行う。
30	演習	29週までの範囲の総合演習を行う。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	数学II (Mathematics II)		
担当教員	横山 卓司 教授		
対象学年等	応用化学科・1年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A1(100%)		
授業の概要と方針	前期は,場合の数と確率の基本事項を学習し,後期は,命題および図形と方程式の基本事項を学習する.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A1】集合の概念を理解し応用できる.		中間試験・定期試験, レポートで評価する.
2	【A1】順列と組合せを使って場合の数の計算ができる.		中間試験・定期試験, レポートで評価する.
3	【A1】二項定理が使える.		中間試験・定期試験, レポートで評価する.
4	【A1】さまざまな確率の計算ができる.		中間試験・定期試験, レポートで評価する.
5	【A1】命題の考え方を理解し,証明ができる.		中間試験・定期試験, レポートで評価する.
6	【A1】座標平面上で,点と直線,2次曲線,領域などの扱い方を理解できる.		中間試験・定期試験, レポートで評価する.
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は,試験90% レポート10% として評価する.試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする.演習・レポートは授業中や夏休み前など,適宜課す.100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト			
参考書			
関連科目	1年の数学I,2年の数学I・数学II		
履修上の注意事項	・時間に余裕がある場合には,発展的な話題を扱うこともある.・参考書に挙げた書籍は全部揃える必要はない.		

授業計画(数学II)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	集合	集合の概念について学習する。
2	集合の要素の個数	集合の要素の個数とその計算について学習する。
3	場合の数	和の法則,積の法則について学習する。
4	順列(1)	順列の計算とその応用について学習する。
5	順列(2)	円順列や重複順列について学習する。
6	組合せ	組合せの計算とその応用について学習する。
7	演習	順列と組合せに関する総合的な演習を行う。
8	中間試験	1~7週の範囲で中間試験を行う。
9	二項定理	二項定理と二項展開について学習する。
10	事象と確率	事象と確率の概念について学習する。
11	確率の基本性質	和事象・積事象・余事象の概念と確率の関連について学習する。また,確率の計算について学習する。
12	独立な試行と確率	独立な試行の確率の計算とその応用について学習する。
13	反復試行の確率	反復試行の確率の計算とその応用について学習する。
14	期待値	期待値の計算とその応用について学習する。
15	演習	確率に関する総合的な演習を行う。
16	命題と条件	命題の考え方と必要条件・十分条件について学習する。
17	命題と証明	命題の逆・裏・対偶と証明方法について学習する。
18	演習	命題と証明に関する総合的な演習を行う。
19	2点間の距離と内分点	2点間の距離の公式,内分点,三角形の重心について学習する。
20	直線の方程式	座標平面上の直線の方程式,2直線の平行・垂直条件について学習する。
21	演習	座標平面上の点や直線に関する総合的な演習を行う。
22	円	座標平面上の円について学習する。
23	中間試験	16~22週の範囲で中間試験を行う。
24	楕円	座標平面上の楕円について学習する。
25	双曲線	座標平面上の双曲線について学習する。
26	放物線	座標平面上の放物線について学習する。
27	2次曲線と直線	座標平面上の2次曲線と直線の共有点について学習する。
28	演習	座標平面上の2次曲線に関する総合的な演習を行う。
29	不等式の表す領域	不等式の表す領域について学習する。
30	演習	不等式の表す領域に関する総合的な演習を行う。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	数学I (Mathematics I)		
担当教員	北村 知徳 准教授		
対象学年等	応用化学科・2年・通年・必修・4単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A1(100%)		
授業の概要と方針	理工学系の基礎となる微分・積分学を講義する。概念の理解に重点を置き、豊富な演習を通じて運用能力を高める。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A1】関数の極限・連続性などの概念を理解し、いろいろな関数の極限と導関数を計算できる。		中間試験・定期試験, 演習, レポートで評価する
2	【A1】様々な関数の微分係数・導関数・第2次導関数を計算でき, グラフの概形, 関数の極値・最大最小, 接線・法線, 速度・加速度などに応用できる。		中間試験・定期試験, 演習, レポートで評価する
3	【A1】不定積分・定積分の定義および性質を理解し, 様々な関数の不定積分・定積分を計算できる。		中間試験・定期試験, 演習, レポートで評価する
4	【A1】定積分を使って, 面積, 体積, 曲線の長さなどを計算できる。		中間試験・定期試験, 演習, レポートで評価する
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は, 試験70% 演習・レポート28% 実力試験2% として評価する。試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	1年の数学I・数学II		
履修上の注意事項	・時間に余裕がある場合には, 発展的な話題を扱うこともある。・レポートは夏季休業前・冬季休業前等, 適宜課す。・参考書に挙げた書籍は全部揃える必要はない。・4月の最初の授業時に, 1年時の数学の内容に関する実力試験を実施する。・前年度の学年末休業前に課された課題の成績をレポートの成績に加味する。		

授業計画(数学I)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	関数の極限	まず,これまでに扱った関数とその性質について復習する.関数の収束を理解し,極限値の計算練習を行う.無限大の概念を学ぶ.
2	微分係数,導関数	平均変化率,微分係数の定義を学ぶ.微分係数と曲線の接線の傾きの関係を理解する.関数の微分可能性を理解する.導関数の定義を学び,定義に従って関数を微分する.
3	導関数の性質	導関数のさまざまな性質と計算公式を学び,計算練習を行う.
4	三角関数の導関数	三角関数の導関数を定義より導き,公式化する.
5	指数関数の導関数	e(ネイピアの数)の定義を学び,指数関数の導関数を計算する.自然対数について学ぶ.
6	合成関数の導関数,対数関数の導関数	合成関数の微分公式を学び,計算練習を行う.対数関数の導関数を計算する.対数微分法について学ぶ.
7	逆三角関数とその導関数	逆三角関数を定義し,その導関数を計算する.
8	中間試験	中間試験を行う.
9	関数の連続,接線と法線	関数の連続性を理解する.連続関数についての中間値の定理を用いて,方程式の解の存在を証明する.接線・法線の方程式を求める.
10	平均値の定理,関数の増減と極値	平均値の定理を理解する.関数の導関数と増減の関連を理解する.増減表を利用して,関数の極値を求め,関数のグラフの概形をかく.
11	関数の最大・最小	関数の最大・最小を求め,応用問題を解く.不等式の証明を行う.
12	不定形の極限	ロピタルの定理を理解し,不定形の極限の極限値を計算する.漸近線を持つ関数のグラフをかく.
13	高次導関数,曲線の凹凸	第n次導関数の定義を学ぶ.第2次導関数の符号と曲線の凹凸の関係を理解し,グラフの概形に生かす.
14	媒介変数表示と微分法	曲線の媒介変数表示について学ぶ.媒介変数表示された関数の導関数を計算し,曲線の接線の方程式を求める.
15	速度と加速度	速度と加速度について理解し,計算練習を行う.
16	不定積分	不定積分の定義を学ぶ.不定積分の公式を作り,計算練習を行う.
17	定積分,定積分と不定積分の関係	定積分の定義を理解する.定義に従って関数を定積分する.定積分の性質を学ぶ.定積分と不定積分の関係を学び,微分積分法の基本定理を理解する.
18	定積分の計算	不定積分を利用した定積分の計算方法を学び,計算練習を行う.曲線で囲まれた図形の面積を定積分を利用して計算する.
19	いろいろな不定積分の公式	いろいろな不定積分の公式について学び,計算練習をする.
20	置換積分法・部分積分法	置換積分法および部分積分法について学ぶ.
21	置換積分法・部分積分法の応用	置換積分法および部分積分法を利用して,やや複雑な積分の計算を行う.
22	いろいろな関数の積分	分数関数・無理関数・三角関数の積分について計算練習と公式の整理を行う.
23	中間試験	中間試験を行う.
24	図形の面積,曲線の長さ	曲線で囲まれた図形の面積を定積分で計算する.曲線の長さを定積分で計算する.
25	立体の体積	立体の体積を定積分で計算する.
26	演習	図形の面積・曲線の長さ・立体の体積の計算練習をする.
27	媒介変数表示による図形	媒介変数表示による曲線で作られる図形の面積,曲線の長さ,回転体の体積を計算する.
28	極座標による図形	極座標について学ぶ.極座標による図形の方程式を学び,図形の面積や曲線の長さを計算する.
29	広義積分	広義積分を学び,計算練習を行う.
30	変化率と積分	速度・加速度および変化率と微分・積分の関係を理解し,具体的な問題に応用する.
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	数学II (Mathematics II)		
担当教員	谷口 公仁彦 講師		
対象学年等	応用化学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A1(100%)		
授業の概要と方針	工学,自然科学,社会学など幅広い分野で利用される線形代数学の基礎について講義し,演習を行う.発展的な事項も適宜補う予定である.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A1】ベクトルの意味およびその性質を理解し,基本的な計算ができる.		中間試験・定期試験,レポート等で評価する.
2	【A1】ベクトルの考え方を利用して,平面や空間の図形を扱える.		中間試験・定期試験,レポート等で評価する.
3	【A1】複素数と複素数平面について理解し,実際に計算ができる.		中間試験・定期試験,レポート等で評価する.
4	【A1】行列およびその演算方法を理解し,基本的な計算ができる.		中間試験・定期試験,レポート等で評価する.
5	【A1】線形変換を理解し,2次元における線形変換の基本的な計算ができる.		中間試験・定期試験,レポート等で評価する.
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は,試験85% レポート等15% として評価する.試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする.100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト			
参考書			
関連科目	1年の数学I,数学II		
履修上の注意事項	・参考書に挙げた書籍は全部買い揃える必要はない.・複素数と複素数平面についてはプリントを配布する.・行列と線形変換については軽めに扱う.		

授業計画(数学II)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	平面ベクトル	ベクトルの基本的な概念・用語などを導入する。ベクトルの和・差・スカラー倍とこれらの演算に関する基本的な性質を学ぶ。
2	平面ベクトルの成分	ベクトルの成分表示を学ぶ。
3	平面ベクトルの内積	ベクトルの内積について学ぶ。
4	ベクトルの平行と垂直	ベクトルの平行条件・垂直条件を学ぶ。
5	平面ベクトルの図形への応用(1)	ベクトルの観点から内分点,直線などの扱い方を学ぶ。
6	平面ベクトルの図形への応用(2)	法線ベクトル,円のベクトル方程式などの扱い方を学ぶ。
7	演習	平面ベクトルについての総合演習を行う。
8	中間試験	中間試験を行う。
9	空間座標	空間座標の基本的な扱い方と用語について学ぶ。
10	空間ベクトル	空間ベクトルとその成分について学ぶ。
11	空間ベクトルの内積	空間ベクトルの内積について学ぶ。
12	空間内の直線の方程式	空間内の直線とその方程式について学ぶ。
13	空間内の平面の方程式	空間内の平面とその方程式について学ぶ。
14	空間内の球面の方程式	空間内の球面とその方程式について学ぶ。
15	演習	空間ベクトルについての総合演習を行う。
16	複素数	複素数とその演算について学ぶ。
17	複素数平面	複素数平面と極形式について学ぶ。
18	ド・モアブルの定理とオイラーの公式	ド・モアブルの定理とオイラーの公式について学ぶ。
19	図形への応用	複素数の図形への応用について学ぶ。
20	演習	複素数についての総合演習を行う。
21	行列の定義	行列の概念と用語などが導入される。
22	行列の和・差,スカラー倍,行列の積	行列の基本的な演算について学ぶ。
23	中間試験	中間試験を行う。
24	転置行列	転置行列について学ぶ。
25	逆行列	逆行列について学ぶ。
26	線形変換の定義	線形変換の概念と点の変換について学ぶ。
27	線形変換の性質	線形変換による直線の像について学ぶ。
28	合成変換と逆変換	線形変換の合成と,逆変換について学ぶ。
29	回転を表す線形変換	回転を表す線形変換について学ぶ。
30	演習	行列と線形変換についての総合演習を行う。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	数学I (Mathematics I)		
担当教員	菅野 聡子 教授		
対象学年等	応用化学科・3年・通年・必修・4単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A1(100%)		
授業の概要と方針	理工学系の基礎となるテイラー展開, 偏微分, 重積分, 微分方程式について講義する. 概念の理解に重点をおき, 基本問題, 応用問題の演習で基礎を固め, さらに応用力をつけて運用能力を高める.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A1】ロピタルの定理, テイラーの定理などを使って, 関数の極限值, 近似値などの計算ができる.		中間試験・定期試験, レポートで行う.
2	【A1】分数関数, 三角関数などの様々な関数の不定積分を求めることができる.		中間試験・定期試験, レポートで行う.
3	【A1】定積分を使って, 面積, 体積, 曲線の長さが計算できる.		中間試験・定期試験, レポートで行う.
4	【A1】偏導関数の計算ができ, 偏導関数を応用し, 極値や条件付き極値を求めることができる.		中間試験・定期試験, レポートで行う.
5	【A1】重積分の計算ができる.		中間試験・定期試験, レポートで行う.
6	【A1】微分方程式とその解について理解し, 1階微分方程式, 2階微分方程式が解ける.		中間試験・定期試験, レポートで行う.
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は, 試験85% レポート10% 学習到達度試験3% 実力試験2% として評価する. 試験成績は中間試験と定期試験の平均とする. 100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト			
参考書			
関連科目	1, 2年の数学I, 数学II		
履修上の注意事項	・時間に余裕がある場合には, 発展的な話題を扱うこともある. ・レポートは夏季休業前・冬季休業前等, 適宜課す. ・参考書に挙げた書籍は全部揃える必要はない. ・4月の最初の授業時に2年時までの数学の内容に関する実力試験を実施し, 点数を成績に加味する. ・前年度の学年末休業前に課された課題の成績をレポートの成績に加味する.		

授業計画(数学I)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	曲線の媒介変数方程式, 極座標と曲線	媒介変数で表示された曲線の概形を調べる方法を学習する.
2	陰関数の微分法	陰関数の微分法について理解し, 計算をする.
3	不定形の極限值	ロピタルの定理を用いて不定形の極限を求める.
4	テイラーの定理	テイラー展開, マクローリン展開を使って関数の近似式を求める.
5	有理関数の不定積分	有理関数の不定積分を求める.
6	三角関数の有理式の不定積分	三角関数の有理式の不定積分を求める.
7	無理関数の不定積分	無理関数の不定積分を求める.
8	中間試験	中間試験を行う.
9	面積	定積分を使って図形の面積を計算する.
10	曲線の長さ	定積分を使って曲線の長さを計算する.
11	体積	定積分を使って立体の体積を計算する.
12	広義積分	広義積分について理解し, 広義積分を計算する.
13	2変数関数	2変数関数の概念を理解し, 極限值や連続性を調べる.
14	偏導関数, 合成関数の偏導関数	偏導関数について理解し, 様々な偏導関数の計算をする.
15	全微分と接平面	全微分と接平面について理解し, 接平面の方程式を求める.
16	2変数関数の極大・極小	偏導関数を使って極値の計算をする.
17	陰関数定理	陰関数定理について理解し, 極値や特異点を求める.
18	条件付き極大・極小	条件付きの関数の極値について理解し, 極値を求める.
19	2重積分	2重積分について理解し, 計算をする.
20	積分の順序変更	積分順序の変更を理解し, 計算をする.
21	変数変換	変数変換により2重積分の計算をする.
22	体積	2重積分を使って体積を求める.
23	中間試験	中間試験を行う.
24	微分方程式と解	微分方程式と一般解, 特殊解, 特異解について理解する.
25	変数分離形	変数分離形の微分方程式を解く.
26	同次形	同次形の微分方程式を解く.
27	線形微分方程式	線形微分方程式を解く.
28	2階微分方程式	2階微分方程式を1階微分方程式に直して解く.
29	定数係数2階同次線形微分方程式	定数係数2階同次線形微分方程式を解く.
30	定数係数2階非同次線形微分方程式	定数係数2階非同次線形微分方程式を解く.
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	確率統計 (Probability and Statistics)		
担当教員	横山 卓司 教授		
対象学年等	応用化学科・4年・前期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A1(100%)		
授業の概要と方針	1年次に学んだ確率の基礎を踏まえて、確率や統計の考え方を必要とする場面に直面したとき、必要な基礎的知識を講義する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A1]データを解析するときの統計の考え方を理解する。		中間試験・定期試験で評価する。
2	[A1]確率変数と確率分布の概念を理解する。		中間試験・定期試験で評価する。
3	[A1]二項分布,正規分布を理解し,具体例の確率などを計算できる。		中間試験・定期試験で評価する。
4	[A1]推定・検定の考え方を理解し,具体例を扱える。		中間試験・定期試験で評価する。
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は,試験100% として評価する.試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする.100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	1年数学I,II,2年数学I,II,3年数学I		
履修上の注意事項	・授業中に電卓が必要な場合がある.・時間に余裕がある場合には,発展的な話題を扱うこともある.・参考書に挙げた書籍は全部揃える必要はない。		

授業計画(確率統計)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	1次元のデータと代表値	1次元のデータの整理とそれに関する基礎的な用語を学習する.平均などの代表値について学習する.
2	散布度	1次元のデータにおける散布度(分散,標準偏差)の意味を理解し,その計算方法を学習する.
3	2次元のデータ	2次元のデータの整理とそれに関する基礎的な用語を学習する.共分散と相関係数について学習する.
4	回帰直線	回帰直線の方程式を学習する.
5	確率変数と確率分布	確率変数,確率分布の基本的な概念や性質を学習する.
6	二項分布,ポアソン分布	二項分布,ポアソン分布の考え方と計算方法を学習する.
7	連続型確率分布	連続型確率分布と確率密度関数の概念を学習する.
8	中間試験	中間試験を行う.
9	正規分布	正規分布の基礎を学習し,関連した確率の計算方法を学習する.また,二項分布の正規分布による近似について学習する.
10	母集団と標本	母集団と標本の関係,さらに標本平均の分布と中心極限定理について学習する.
11	母数の推定(1)	点推定,区間推定の考え方,信頼係数や信頼区間について学習する.
12	母数の推定(2)	母平均と母比率の区間推定について学習する.
13	統計的検定(1)	仮説検定の考え方,用語について学習する.
14	統計的検定(2)	母平均と母比率の検定について学習する.
15	演習	推定・検定の演習を行う.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	前期中間試験および前期定期試験を実施する.	

科目	物理 (Physics)		
担当教員	谷口 博 准教授		
対象学年等	応用化学科・1年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A2(100%)		
授業の概要と方針	物理的な事象・現象についての観察・考察などを通して、物理学的に探究する能力と態度を育てる。さらに基本的な概念や原理・法則の理解を深め、それを活用する能力を育成する。第一学年では、特に物理の基礎部分である力学を学ぶ。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A2】等加速度直線運動の「速度と時刻」、「位置と時刻」、「速度と変位」の関係式を理解し、活用できる。		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポート・小テストで、授業内容の理解度を評価する。
2	【A2】運動の第1法則,第2法則,第3法則を理解し、活用できる。		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポート・小テストで、授業内容の理解度を評価する。
3	【A2】運動量保存の法則を理解し、活用できる。		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポート・小テストで、授業内容の理解度を評価する。
4	【A2】力学的エネルギー保存の法則を理解し、活用できる。		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポート・小テストで、授業内容の理解度を評価する。
5	【A2】つり合いの条件を理解し、活用できる。		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポート・小テストで、授業内容の理解度を評価する。
6	【A2】圧力と浮力について理解し、活用できる。		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポート・小テストで、授業内容の理解度を評価する。
7	【A2】測定値の取り扱いと計算方法を理解し、有効数字の桁数に注意して計算ができる。		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポート・小テストで、授業内容の理解度を評価する。
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は、試験70% レポート25% 小テスト5% として評価する。試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする。最終成績は、100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	国語, 数学I, 数学II		
履修上の注意事項	(i)授業計画とテキストに従い、必ず予習をすること。学んだことを定着させるため、必ず復習や問題演習等の自習学習を行うこと。(ii)物理を理解するためには、数学の知識、考えの伝達(回答やレポートの記述)や考えの享受(文章理解)の能力も必要である。数学や国語もよく勉強すること。(iii)A4ノートを購入し毎回持参すること。(iv)授業中における携帯電話やゲーム機の使用、ならびに授業妨害につながる言動を行った者は、原則として教室より退室させ欠席扱いとする。		

授業計画(物理)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	物理学導入,測定値の計算方法	1・2・3年次の物理で学ぶ,力学,熱,波動,電磁気,原子を概観する.測定値の計算方法を学び,有効数字について理解する.
2	直線運動1(平均の速度・加速度)	直線運動での速度と加速度の平均値について考察する.
3	直線運動2(x-t,v-t,a-tグラフ)	位置と時刻,速度と時刻,加速度と時刻の関係をグラフを使って考察する.
4	直線運動3(瞬間の速度・加速度)	平均の速度と瞬間の速度について考察する.
5	直線運動4(まとめ)	等加速度直線運動を数式を用いて理解する.
6	運動の法則1(力,第一法則)	力の種類と動かし易さ・難さについて考察する.
7	運動の法則2(第二法則,第三法則)	力と加速度の関係(運動方程式),2つの物体の間にはたらく力(作用反作用の法則)について考察する.
8	中間試験	習熟度をみるために中間試験を行う.
9	中間試験の解説	中間試験の解説を行う.
10	運動の法則3(まとめ)	慣性の法則,運動方程式,作用反作用の法則についてのまとめを行う.
11	いろいろな直線運動1(方程式作成)	これまで学習してきたことをいろいろな直線運動に応用する.
12	いろいろな直線運動2(自由落下)	これまで学習してきたことをいろいろな直線運動に応用する.
13	いろいろな直線運動3(摩擦と斜面)	これまで学習してきたことをいろいろな直線運動に応用する.
14	運動量1(力積と運動量)	「力とその力がはたらいた時間の積」と「物体の質量と速度の積」について考察する.
15	運動量2(運動量保存の法則)	作用反作用の法則から運動量保存の法則を導出する.
16	力学的エネルギー1(仕事)	物理における仕事について理解する.
17	力学的エネルギー2(運動,位置)	仕事と運動・位置エネルギーについて考察する.
18	力学的エネルギー3(保存法則)	摩擦などが無い条件での運動エネルギーと位置エネルギーの関係について考察する.
19	力学的エネルギー4(まとめ)	力学的エネルギーについてのまとめを行う.
20	平面・空間運動1(ベクトルとスカラー)	大きさと向きを持つ量と大きさだけを持つ量について,その表記方法と数学的取り扱いを理解する.
21	平面・空間運動2(速度と運動量,力)	直線運動で学んだ速度や運動量などの知識を平面や空間運動の場合に拡張する.
22	平面・空間運動3(運動方程式,仕事)	平面運動での運動方程式と仕事について考察する.
23	中間試験	習熟度をみるために中間試験を行う.
24	中間試験の解説	中間試験の解説を行う.
25	いろいろな空間運動4(等速円運動)	等速円運動における速さや加速度について理解する.
26	いろいろな空間運動5(惑星の運動)	ケプラーの3法則と万有引力について考察する.
27	いろいろな空間運動6(単振動)	バネ振り子の運動について考察する.
28	剛体に働く力(モーメント,つりあい)	剛体に働く力のつりあいやモーメントを理解する.
29	流体に働く力(圧力,浮力)	圧力と浮力について考察する.
30	力学の復習	1年次に学習した力学について復習を行う.
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	化学 (Chemistry)		
担当教員	大塩 愛子 講師		
対象学年等	応用化学科・1年・通年・必修・4単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A2(100%)		
授業の概要と方針	我々の生活は多くの化学物質に支えられている。しかし、化学物質は便利であると共に、有害で危険な影響を及ぼすものも存在する。専門的な研究では、この影響や特性に配慮しなければならず、その為には物質の基本となる化学の知識・視点が必要となる。本科目では、化学に対する基本的な考え方と応用力を養うため、身近な物質や専門的な器具・薬品を用いた学習を行い、学生自らが考える授業を展開する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A2]試薬・器具を適正に取り扱い、安全に実験を行うことができる。		試験・レポート・小テストで評価する。
2	[A2]実験から得られた結果を整理し、考察を行うことができる。		試験・レポート・小テストで評価する。
3	[A2]化学の基本法則を理解し、化学反応式を元に計算をすることができる。		試験・小テストで評価する。
4	[A2]化学的に探求する態度を身に付け、社会との繋がりを理解している。		試験・小テストで評価する。
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は、試験70% レポート15% 小テスト15% として評価する。(レポートと小テストを合わせた30%には黒板発表も含む。)試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする。また、指示に従わず危険な行為を行ったり、実験操作や計算、片づけを行わない者は減点する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	物理, 数学		
履修上の注意事項	講義はHR教室と化学実験室(一般科棟B棟5階)を必要に応じて使い分けて行う。教室変更の際はその都度指示をする。問題集や化学図録は適宜使用する。毎回持参すること。		

授業計画(化学)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	導入,純物質と混合物	授業の概要・評価の方法の説明.混合物に様々な処理を行うことで,純物質を取り出すことができる.その手法について学ぶ.
2	元素と単体・化合物	物質が他の物質に変換されるとき,一定の規則性に従う.物理変化と化学変化の違いなどその規則性について学ぶ.
3	原子の構造	物質の単位である原子は,さらに小さい粒子から構成されていることを学ぶ.
4	電子配置と元素の周期律	原子核のまわりの電子は,いくつかの層にわかれて運動している.その構造について学ぶ.また,元素を元素原子番号順に並べると,周期律が見られる.この周期律について,様々な角度から議論を行う.
5	イオンの形成	陽イオン,陰イオンがどのように生成するのかを考え,イオンの表し方などを学ぶ.イオンの生成に関わるエネルギーについても考える.
6	化学結合(イオン結合・共有結合・金属結合)	化学結合には様々な様式がある.その構造や強弱について学ぶ.
7	原子量・分子量・式量と物質質量	原子・分子・イオンなどの非常に小さな粒子の質量の扱いについて学ぶ.反応式の係数から,反応する物質の量的関係を理解する.さらに,分子の個数を考えるとき物質質量という概念を導入する.その解説と利用法の習得を行う.
8	中間試験(前期)	教科書,ノートの持ち込みは不可.計算機の持ち込みは事前に指示する.
9	中間試験解説,物質質量と気体の体積	反応式の係数および物質質量と気体の体積の関係について学ぶ.
10	化学反応式の考え方(1)	化学反応式の作り方を学ぶ.化学反応式にはたくさんの情報が入っている.化学反応式の特徴と量的関係について学ぶ.
11	化学反応式の考え方(2)	化学反応式から反応比を考え,必要な物質質量の計算法を学ぶ.
12	化学反応式と一定量の気体捕集	物質質量と気体の体積との関係を理解する.
13	物質の三態とその変化	物質の三態の違い,状態変化の呼び方,状態図について学ぶ.
14	ボイルの法則,シャルルの法則	物質の状態の一つである気体状態では,圧力・体積・温度に相関が見られる.その規則性と理論的根拠を学ぶ.
15	ボイル・シャルルの法則	ボイル・シャルルの法則を用いることで,一定量の気体の圧力・温度・体積の関係を計算によって求めることができる.その方法について学ぶ.
16	気体の状態方程式	気体の状態方程式を用いることで,分子量を導くことができる.その手法・理論的根拠を学ぶ.
17	溶解,電解質	液体が他の物質を溶かして均一な混合物をつくることを溶解と呼ぶ.溶解の仕組みについて学ぶ.
18	溶液と濃度と化学反応比	専門的な化学実験では,モル濃度を利用する.ここでは,モル濃度と化学反応式との関係について学ぶ.
19	沸点上昇と凝固点降下	純粋な液体に,物質を溶かすことで沸点上昇,凝固点降下が起こる.この現象の解説を行う.
20	酸と塩基の特徴	酸・塩基の定義にはいくつかあり,その種類と特徴を学ぶ.
21	酸・塩基の反応	酸と塩基が反応すると塩に加えて水が生じる.この反応を中和と呼び,その特徴を学ぶ.
22	中和滴定	中和滴定実験を通して,酸・塩基の濃度決定方法や実験手法について学ぶ.
23	中間試験(後期)	教科書,ノートの持ち込みは不可.計算機の持ち込みは事前に指示する.
24	中間試験解説,水素イオン濃度とpH	水素イオン濃度からpHを決定する.これは酸性度の指標であり,その性質を学ぶ.
25	酸化と還元	酸化・還元にもいくつかの定義法があり,その特徴と理論を学ぶ.
26	金属のイオン化傾向と金属の反応	金属原子には,その種類によってイオンになりやすさが異なる.その傾向を学ぶ.
27	イオン化傾向の応用	電池は元素のイオン化傾向を利用したものであり,その原理について学ぶ.
28	化学反応と熱	化学反応には必ずエネルギーの出入りが伴い,熱化学方程式を用いて視覚化できることを紹介する.
29	反応熱,ヘスの法則	種々の反応熱について,熱化学方程式で対応できることを紹介する.未知の反応熱を知るときには,ヘスの法則を利用する.
30	反応の速さと化学平衡	化学反応について,反応の速さや方向,またそれらを変化させる条件について解説する.
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する.各試験とも,電卓の持ち込みは可とする.	

科目	物理 (Physics)		
担当教員	高見 健太郎 講師		
対象学年等	応用化学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A2(100%)		
授業の概要と方針	物理的な事物・現象についての観察・考察などを通して、物理学的に探究する能力と態度を育てる。さらに基本的な概念や原理・法則の理解を深め、それを活用する能力を育成する。第二学年では、熱力学、電磁気学、波動の基礎を学ぶ。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A2】温度と熱について理解し、活用ができる。		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポートで、授業内容の理解度を評価する。
2	【A2】電磁気について理解し、活用ができる。		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポートで、授業内容の理解度を評価する。
3	【A2】波動の基本的な性質を理解し、活用できるようにする。		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポートで、授業内容の理解度を評価する。
4	【】		
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は、試験70% レポート30% として評価する。なお、試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	国語, 数学I, 数学II		
履修上の注意事項	(i)授業計画とテキストに従い、必ず予習をすること。学んだことを定着させるため、必ず復習や問題演習等の自習学習を行うこと。(ii)物理を理解するためには数学的知識は必須となるので、数学をしっかりと勉強すること。また、考えの伝達・享受の能力も必要なので、国語も勉強すること。(iii)授業中における携帯電話やゲーム機の使用、ならびに授業妨害につながる言動を行った者は、原則として教室より退室させ欠席扱いとする。		

授業計画(物理)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	温度と熱	絶対温度,熱,内部エネルギーなどの概念を理解する。
2	熱量	熱力学に特有な熱量,熱容量,比熱の概念を理解する。
3	比熱の測定	物体間の熱量の出入りから,比熱について考察する。
4	理想気体	理想気体について成り立つ,ボイルの法則,シャルルの法則,ボイル・シャルルの法則を確認し,理想気体の状態方程式を理解する。
5	気体の分子運動論	力学の概念を用いて,気体の分子運動論を理解する。
6	熱力学第一法則	熱力学第一法則を理解し,その応用を考える。
7	熱力学第二法則	熱力学第二法則を理解し,その応用を考える。
8	中間試験	習熟度をみるために中間試験を行う。
9	中間試験の解説	中間試験の解説を行う。
10	静電気力	電荷の性質や電荷の間に働く力を理解する。
11	電界と電位	電界・電気力線・電位などを考察する。さらにガウスの法則の使い方を理解する。
12	コンデンサー	コンデンサーの仕組みを理解し,その応用を考える。
13	直流	電流と電荷の速度の関係,オームの法則,抵抗率について理解する。
14	キルヒホッフの法則	回路において起電力の代数和が電圧降下に等しいことを理解し,キルヒホッフの法則を適用して回路を流れる電流を考察する。
15	ジュール熱	抵抗によって発生するジュール熱について理解する。また,電力と電力量の関係を考える。
16	半導体	珪素の結晶に不純物を混ぜることにより,P型・N型半導体ができることを理解する。その組み合わせとしてのダイオードとトランジスタの働きについて考察する。
17	電流がつくる磁界	電流が磁界をつくることを理解し,直線電流・円形電流・ソレノイドの場合などについて考察する。
18	電流が磁界から受ける力	磁界,磁束密度,磁束の関係を理解し,磁界中の電流が受ける力の大きさやその方向を考察する。
19	ローレンツ力	磁界中を運動する荷電粒子が受ける力であるローレンツ力を理解する。また,その応用を考える。
20	電磁誘導	導体を貫く磁束の変化によって生じる誘導起電力について理解する。また,直流における自己誘導・相互誘導の現象を考察する。
21	交流	交流の性質を学び,実行値,誘導リアクタンス,容量リアクタンス,インピーダンスの概念を理解する。
22	電気振動と電磁波	コイルとコンデンサーの組み合わせにより電気振動が起きることを理解する。さらに,それが電磁波の送受信に関連していることを理解する。
23	中間試験	習熟度をみるために中間試験を行う。
24	中間試験の解説	中間試験の解説を行う。
25	正弦波	周期,角振動数,振動数,波長などの基本的な概念と,波動の基本の形である正弦波の表式を理解し,自在に変形できるようにする。
26	干渉と重ね合わせの原理	波動に特有な現象として,干渉を起こし,重ね合わせの原理により波の振幅が決定されることを理解する。
27	自由端・固定端反射	固定端と自由端でそれぞれで反射するときに,位相がどうずれるかを理解する。また,それによって生じる合成波について考察する。
28	定常波	互いに逆向きで同じ波長の進行波から,定常波が生じることを理解する。
29	ホイヘンスの原理	波動の伝播の仕方が,ホイヘンスの原理に従っていることを理解する。
30	波の干渉・回折・反射・屈折	波に特有な現象である,干渉・回折・反射・屈折の現象を理解する。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	生物 (Biology)		
担当教員	森 寿代 非常勤講師		
対象学年等	応用化学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A2(100%)		
授業の概要と方針	本科目では,生命の単位である細胞の構造と機能,生命活動を維持するしくみ,生物が同じ種を残すしくみを学習する.生命科学の諸問題に関心を持ち,理解するための一助となるよう,生物学の基礎的な素養を身につける.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A2]細胞の構造と細胞小器官の機能を理解する.		細胞の構造と細胞小器官の機能を理解できているか,試験で評価する.
2	[A2]細胞膜の構造と機能を理解する.		細胞膜の構造と機能を理解できているか,試験で評価する.
3	[A2]酵素のはたらき,呼吸,発酵,光合成のしくみを理解する.		酵素のはたらき,呼吸,発酵,光合成のしくみを理解できているか,試験で評価する.
4	[A2]生殖細胞の形成過程と受精のしくみを理解する.		生殖細胞の形成過程と受精のしくみを理解できているか,試験で評価する.
5	[A2]減数分裂,連鎖,組換えによって配偶子に多様性が生じることを理解する.		減数分裂,連鎖,組換えによって配偶子に多様性が生じることを理解できているか,試験で評価する.
6	[A2]遺伝の法則と遺伝子間の相互作用について理解する.		遺伝の法則と遺伝子間の相互作用について理解できているか,試験で評価する.
7	[A2]DNAの構造とタンパク質合成の過程を理解する.		DNAの構造とタンパク質合成の過程を理解できているか,試験で評価する.
8	[A2]実験の目的を理解し,結果に対して授業内容を基に考察できる.		実験の目的を理解し,結果に対して授業内容を基に考察できているか,レポートで評価する.
9	[ ]		
10	[ ]		
総合評価	成績は,試験80% レポート20% として評価する.試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする.100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト			
参考書			
関連科目	特になし		
履修上の注意事項	特になし		

授業計画(生物)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	細胞小器官のはたらき(1)	細胞を構成する細胞小器官のはたらきと構造,細胞小器官どうしのかかわり合いについて理解する。
2	細胞小器官のはたらき(2),細胞骨格	細胞を構成する細胞小器官のはたらきと構造,細胞小器官どうしのかかわり合いについて理解する。細胞骨格のはたらきについて理解する。
3	細胞膜のはたらき(1)	細胞膜のはたらきや構造,半透性と浸透圧について理解する。
4	細胞膜のはたらき(2)	選択的透過性や受動輸送および能動輸送のしくみ,イオンチャネル,イオンポンプのしくみについて理解する。
5	DNAと染色体	DNAの存在場所やDNAの構造を理解する。遺伝子の本体がDNAであることを明らかにした研究の歴史について学ぶ。
6	DNAとタンパク質合成	タンパク質合成に伴う情報の流れを確認し,転写および翻訳のしくみについて理解する。
7	演習	総合演習をおこなう。
8	中間試験	中間試験をおこなう。
9	酵素の構造とはたらき	酵素の活性部位と基質特性について理解する。酵素活性と変性,最適温度,最適pHについて理解する。
10	呼吸	呼吸の場と反応の流れについて理解する。呼吸商と呼吸基質の関係について理解する。
11	発酵	アルコール発酵,乳酸発酵の過程について理解する。呼吸,発酵におけるATPの生産効率について理解する。
12	実験:酵母のアルコール発酵	酵母菌のアルコール発酵に関する実験をおこなう。
13	光合成	チラコイドにおける光化学反応,電子伝達,ATP合成のしくみについて理解する。ストロマにおけるカルビン・ベンソン回路について理解する。
14	実験:薄層クロマトグラフィーによる光合成色素の分離実験	光合成色素を植物組織から抽出し,それがどのような色素群で構成されているかを調べる。
15	演習	総合演習をおこなう。
16	細菌の光合成,窒素同化	細菌における光合成のしくみについて理解する。窒素同化および窒素固定のしくみについて理解する。
17	生殖の方法	生物によって異なる生殖の方法(無性生殖・有性生殖)を理解する。
18	減数分裂	減数分裂のしくみと減数分裂で生じる配偶子の遺伝的多様性について理解する。
19	遺伝子の連鎖と組換え	連鎖と組換えについて学習し,配偶子に多様性が生じることを理解する。組換え価から染色体地図が作成されるしくみについて理解する。
20	動物の配偶子形成と受精	減数分裂による精子と卵の形成と受精の過程,および卵割の過程について学ぶ。
21	ウニの発生	ウニの発生の様子と器官形成の過程について理解する。
22	演習	総合演習をおこなう。
23	中間試験	中間試験をおこなう。
24	カエルの発生	両生類の発生の様子と器官形成の過程について理解する。
25	被子植物の生殖	被子植物の配偶子形成と重複受精の概略を理解する。
26	被子植物の器官分化	植物の器官と組織,組織系についての概略を理解する。
27	遺伝の法則	メンデルの実験とメンデルの遺伝の法則について理解する。検定交雑について理解する。
28	遺伝子間の相互作用	遺伝子のはたらきあいにより見られるいろいろな遺伝現象について理解する。複対立遺伝子について理解する。
29	性と遺伝	性決定の仕組みと,雌雄に共通する性染色体上の遺伝子による遺伝(伴性遺伝)について理解する。
30	演習	総合演習をおこなう。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	物理 (Physics)		
担当教員	大多喜 重明 教授		
対象学年等	応用化学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A2(100%)		
授業の概要と方針	第二学年までに身につけた物理学の知識・思考方法をもとにして、音波・光波および初等的な原子物理を理解し、自ら考え応用し、探求する力を身につける。各分野の基礎的な事項をよく理解し、工学的な応用を視野に入れて、自ら探求する契機を提供する。授業は、国立高専到達度試験への対策を視野に入れ、問題演習(実験を含む)を交えて、テキストに従い行う。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A2】波動の基礎的な概念とともに、音波と光波の具体的な性質を理解する		中間・定期試験とレポートで評価する。
2	【A2】前期量子論と原子・原子核・素粒子物理の初等的な知識を、科学的な視点とともに理解する。		中間・定期試験とレポートで評価する。
3	【A2】全国高専到達度試験の対策を兼ね、基礎的な問題を自ら考え、解く力を身につける。また、基礎的な実験を通して、これまでに学んだ物理現象の説明と考察が出来るようになる。		中間・定期試験とレポート、小テストで評価する。
4	【】		
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は、試験70% レポート25% 小テスト5% として評価する。試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする。小テストには、到達度試験成績も含まれる。最終成績は、100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	国語、数学I、数学II、応用物理ほかの専門科目		
履修上の注意事項	授業計画とテキストに従い、必ず予習をすること。学んだことを定着させるため、必ず復習や問題演習等の自習学習を行うこと。物理を理解するためには数学的知識は必須となるので、数学をしっかりと勉強すること。また、考えの伝達・享受の能力も必要なので、国語も勉強すること。		

授業計画(物理)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	光の進み方(眼と光学機器)	シラバス説明後,光の進み方についての講義を行う。
2	直線上を伝わる波1(波の基本式,正弦波)	周期,角振動数,振動数,波長などの基本的な概念と,波動の基本の形である正弦波の表式を理解し,自在に変形できるようにする。
3	直線上を伝わる波2(重ね合わせの原理と反射波)	重ね合わせの原理,固定端反射,自由端反射について学ぶ。
4	平面・空間を伝わる波	波動の伝播の仕方が,ホイヘンスの原理に従っていることを理解し,イメージできるようにする。
5	音波1(音の発生,音の速さ,音の三要素)	音の発生と伝播および音の三要素について解説する。
6	音波2(うなり,共鳴)	これまでに学んだ波性質から,うなりと共鳴について考える。
7	音波3(ドップラー効果)	緊急車両がサイレンを鳴らして近づくとときと遠ざかるときでは,音の高さが異なる,このことについて考える。
8	中間試験	1~7週の範囲で試験を行う。
9	中間試験の解説	中間試験の答え合わせと解説を行う。
10	光波1(反射と屈折,回折と干渉)	光波の反射と屈折,2本のスリットによる光の回折と干渉を考える。
11	光波2(薄膜による光の干渉)	シャボン玉に色が付くのはなぜか,薄膜による干渉を考える。
12	光波3(偏光,分散,散乱)	光は横波であるが,自然光は進行方向に垂直な面であらゆる方向に振動している,一つの方向に振動が偏った光をつくることのようなことが起きるだろうか,また,夕日は赤く,空はなぜ青いのか,これらについて解説する。
13	原子と原子核1	原子の構造について,科学史的な視点をふまえて水素原子を例に解説する。
14	原子と原子核2	原子核と原子核崩壊,放射線について解説する。
15	原子と原子核3	核融合と核分裂,核エネルギーについて解説する。
16	演習:変位・速度・加速度	テーマ範囲を演習する,1年生の該当範囲を復習し,過去問を調べておくこと。
17	演習:力の性質と運動方程式	テーマ範囲を演習する,1年生の該当範囲を復習し,過去問を調べておくこと。
18	演習:力学的エネルギー・運動量	テーマ範囲を演習する,1年生の該当範囲を復習し,過去問を調べておくこと。
19	演習:円運動・単振動・万有引力	テーマ範囲を演習する,1年生の該当範囲を復習し,過去問を調べておくこと。
20	演習:熱	テーマ範囲を演習する,2年生の該当範囲を復習し,過去問を調べておくこと。
21	演習:波動	テーマ範囲を演習する,3年生の該当範囲を復習し,過去問を調べておくこと。
22	演習:電気	テーマ範囲を演習する,2年生の該当範囲を復習し,過去問を調べておくこと。
23	中間試験	中間試験を行う。
24	中間試験の解説	中間試験の答え合わせと解説を行う。
25	演習:磁気	テーマ範囲を演習する,2年生の該当範囲を復習し,過去問を調べておくこと。
26	演習:総まとめ	学習到達度試験の領域の問題演習をする。
27	演習:総まとめ	「光波」と「光学機器」の範囲を演習する。
28	放射線基礎	放射線と放射能の違い,放射線に関する単位,放射線の性質・種類,等の基礎知識ならびに,放射線防護の基本,自然放射線と人工放射線の違い,放射線被ばくと放射線汚染の違い,放射線量の測定方法について学ぶ,また,次週の実験の解説を行う。
29	放射線基礎実験	放射線に関する実験(放射線源の線量測定,霧箱実験)を行い,結果をレポートにまとめる。
30	素粒子	素粒子について,クォーク模型の概要を解説する。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	英語 (English)		
担当教員	今里 典子 教授		
対象学年等	応用化学科・1年・通年・必修・4単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B3(80%), D2(20%)		
授業の概要と方針	4技能のバランスに配慮しながら,第1学年として必要な英語力を総合的に身につける.演習科目でもあるので,授業中に指示される方法で予習・復習を必ず行い,授業に積極的に参加し,発表すること,英語音声を利用した演習を行うことが強く求められる.また英検受験を推奨する.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[B3]1年次レベルの語彙・表現を習得する.		1年次レベルの語彙・表現を習得できているかを,中間・定期試験及び演習で評価する.
2	[B3]1年次レベルの文法項目を習得する.		1年次レベルの文法項目を理解しているかを,中間・定期試験及び演習で評価する.
3	[B3]1年次レベルの英語長文を正しく解釈できる.		1年次レベルの英語長文を正しく解釈できるかを,中間・定期試験及び演習で評価する.
4	[B3]1年次レベルの英語を聴いて正しく理解したり,リピートしたりできる.		1年次レベルの英語を聴いて正しく理解したり,リピートしたりできるかを,中間・定期試験または演習で評価する.
5	[B3]易しく長い英文を速く沢山読むことができる.		易しく長い英文をスラスラ速く沢山読むことができるかを,演習で評価する.課外で易しい英語を読んだ量を評価する.
6	[D2]英文を通して,異文化に属する人々の文化,生活様式,物の見方が理解できる.		異文化の諸事情について理解できているかを,演習で評価する.
7	[ ]		
8	[ ]		
9	[ ]		
10	[ ]		
総合評価	成績は,試験70% 演習・レポート30% として評価する.100点満点で60点以上を合格とする.授業中の演習が十分に行われない場合,原則として年間総合評価は不可となる.(自主的に英検を受験し合格した場合,評価の一部に入れる.)		
テキスト			
参考書			
関連科目	本科目はこれ以外の英語科が開講する全ての科目に関連する.		
履修上の注意事項	電子辞書,または英和辞書を持参すること.		

授業計画(英語)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	Introduction	英語学習の心構え.予習復習の仕方の説明,力試し等
2	Lesson 1 Get Your Goal with English	英文の伝えたいことを正確に把握し,それに対して自分の感想,意見を持つ. SVC・SVO / 現在形・過去形 / 未来の表現
3	Lesson 1 Get Your Goal with English	第2週と同じ
4	Lesson 2 Around the World	英文の伝えたいことを正確に把握し,それに対して自分の感想,意見を持つ. SVOC / SVOO / 不定詞(名詞用法)
5	Lesson 2 Around the World	第4週と同じ.
6	Lesson 3 How Our Brain Works	英文の伝えたいことを正確に把握し,それに対して自分の感想,意見を持つ. 動名詞 / SVO(=that節) / 比較表現 / 不定詞(副詞用法)
7	Lesson 3 How Our Brain Works	第6週と同じ.
8	中間試験	それまでに学習したことについて試験を行う.
9	Lesson 4 My Cool Japan	英文の伝えたいことを正確に把握し,それに対して自分の感想,意見を持つ. 関係代名詞 / 不定詞(形容詞用法) / 現在完了形 / 受け身
10	Lesson 4 My Cool Japan	第9週と同じ.
11	Lesson 4 My Cool Japan	第9週と同じ.
12	Lesson 5 The History of Ice Cream	英文の伝えたいことを正確に把握し,それに対して自分の感想,意見を持つ. SVO + to不定詞 / 過去分詞の後置修飾 / It is ~ for - to do / 現在分詞の後置修飾
13	Lesson 5 The History of Ice Cream	第12週と同じ.
14	Lesson 5 The History of Ice Cream	第12週と同じ.
15	Lesson 6 The Hands	英文の伝えたいことを正確に把握し,それに対して自分の感想,意見を持つ. SVOO(=that節) / 形式主語 It is ~ that... / 関係代名詞(主格・目的格) / 現在完了進行形
16	Lesson 6 The Hands	第15週と同じ.
17	Lesson 6 The Hands	第15週と同じ.
18	Lesson 7 Sowing the Seeds of Hope	英文の伝えたいことを正確に把握し,それに対して自分の感想,意見を持つ. 過去完了形 / 関係代名詞 what / SVOC(=原形不定詞) / 助動詞の受け身
19	Lesson 7 Sowing the Seeds of Hope	第18週と同じ.
20	Lesson 7 Sowing the Seeds of Hope	第18週と同じ.
21	Lesson 8 English or Kanji?	英文の伝えたいことを正確に把握し,それに対して自分の感想,意見を持つ. 分詞構文 / 関係副詞 when / 強調構文 It is ~ that... / SVOC(=過去分詞)
22	Lesson 8 English or Kanji?	第21週と同じ.
23	中間試験	それまでに学習したことについて試験を行う.
24	Lesson 8 English or Kanji?	第21週と同じ.
25	Lesson 9 One-Way Mission to the Red Planet	英文の伝えたいことを正確に把握し,それに対して自分の感想,意見を持つ. as if ~ / 仮定法過去 / 関係副詞 why / 仮定法過去完了
26	Lesson 9 One-Way Mission to the Red Planet	第25週と同じ.
27	Lesson 9 One-Way Mission to the Red Planet	第25週と同じ.
28	Lesson 10 Gratitude for Life	英文の伝えたいことを正確に把握し,それに対して自分の感想,意見を持つ. 過去完了の受け身 / 関係副詞 how / 関係副詞 where / 同格 that
29	Lesson 10 Gratitude for Life	第28週と同じ.
30	Lesson 10 Gratitude for Life	第28週と同じ.
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	英語 (English)		
担当教員	平野 洋平 講師		
対象学年等	応用化学科・2年・通年・必修・4単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B3(80%), D2(20%)		
授業の概要と方針	1学年で学習した内容を確実にした上で,さらに4技能のバランスにも配慮しながら,高専での英語教育の基本と第2学年として必要な英語力を総合的に身につける.演習科目でもあるので,授業中に指示される方法で予習・復習を必ず行い,また授業に積極的に参加し,発表することが求められる.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[B3]2年次レベルの語彙・表現を習得する.		2年次レベルの語彙・表現を習得できているかを,中間・定期試験及び演習で評価する.
2	[B3]2年次レベルの文法項目を習得する.		2年次レベルの文法項目を理解しているかを,中間・定期試験及び演習で評価する.
3	[B3]2年次レベルの英語長文を正しく解釈できる.		2年次レベルの英語長文を正しく解釈できるかを,中間・定期試験及び演習で評価する.
4	[D2]英文を通して,異文化に属する人々の文化,生活様式,物の見方が理解できる.		異文化の諸事情について知識が豊かになったかを,演習で評価する.
5	[ ]		
6	[ ]		
7	[ ]		
8	[ ]		
9	[ ]		
10	[ ]		
総合評価	成績は,試験70% 課題,演習等30% として評価する.		
テキスト			
参考書			
関連科目	本科目はこれ以外の英語科が開講する全ての科目に関連する.		
履修上の注意事項	電子辞書,または英和辞書を持参すること.		

授業計画(英語)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	Introduction	シラバス解説,英語学習の心構え,予習復習の仕方等.
2	Lesson 1 Ambassador of World Peace	サクラの花は世界平和の親善大使.現在完了形(受け身と進行形)の復習/関係副詞の復習/It+seemなど+that節
3	Lesson 1 Ambassador of World Peace	第2週と同じ
4	Lesson 2 Dogs as Human Companions	人間の伴侶としてのイヌ.形式主語it(that節やto不定詞を指すもの)の復習/過去完了形の復習/分詞構文(現在分詞)の復習
5	Lesson 2 Dogs as Human Companions	第4週と同じ
6	Lesson 3 The Culture of Bowing	世界の中のおじぎの文化.S+V+C(=現在分詞)/The+比較級,the+比較級/仮定法過去の復習
7	Lesson 3 The Culture of Bowing	第6週と同じ
8	中間試験	これまでに学習内容の理解を問う.
9	Lesson 4 The Floating Islands of Lake Titicaca	植物でできた浮き島での暮らし.形式目的語it(to不定詞を指すもの)/過去完了進行形/関係代名詞whichの非制限用法/前置詞+関係代名詞
10	Lesson 4 The Floating Islands of Lake Titicaca	第9週と同じ
11	Lesson 4 The Floating Islands of Lake Titicaca	第9週と同じ
12	Lesson 5 Optical Illusion	錯覚・錯視の世界.同格を表すthat/関係代名詞whoの非制限用法/S+V+C(=過去分詞)/関係副詞where,whenの非制限用法
13	Lesson 5 Optical Illusion	第12週と同じ
14	Lesson 5 Optical Illusion	第12週と同じ
15	Lesson 6 English Textbooks from Around the World	世界の高校生はどんな教科書で学んでいるのか.倒置構文/強調構文/S+V+O+C(=過去分詞)/S+V+C(=疑問詞節)
16	Lesson 6 English Textbooks from Around the World	第15週と同じ
17	Lesson 6 English Textbooks from Around the World	第15週と同じ
18	Lesson 7 The Hayabusa Project	宇宙探査船「はやぶさ」の軌跡.分詞構文(過去分詞)/否定を表す形容詞・副詞/助動詞+完了形/未来進行形
19	Lesson 7 The Hayabusa Project	第18週と同じ
20	Lesson 7 The Hayabusa Project	第18週と同じ
21	Lesson 8 The Origin of Santa Claus	サンタクロースの起源と変遷.wish+仮定法過去/分詞構文(完了形)/S+V+(O)+O(=whetherまたはif節)/形式目的語it(that節を指すもの)
22	Lesson 8 The Origin of Santa Claus	第21週と同じ
23	中間試験	これまでの学習内容の理解を問う.
24	Lesson 8 The Origin of Santa Claus	第21週と同じ
25	Lesson 9 The Only Japanese on the Titanic	タイタニック号に乗船していた唯一の日本人.付帯状況を表すwith/to不定詞の完了形/さまざまな譲歩の表現/仮定法過去完了
26	Lesson 9 The Only Japanese on the Titanic	第25週と同じ
27	Lesson 9 The Only Japanese on the Titanic	第25週と同じ
28	Lesson 10 Agroforestry	「森をつくる農業」アグロフォレストリーとは.未来完了形/仮定法(if節に代わる語句や節をとこなうもの)/as if+仮定法/whichの非制限用法(前の節の内容全体を受けるもの)
29	Lesson 10 Agroforestry	第28週と同じ
30	Lesson 10 Agroforestry	第28週と同じ
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	英語 (English)		
担当教員	上垣 宗明 教授		
対象学年等	応用化学科・3年・通年・必修・4単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B3(80%), D2(20%)		
授業の概要と方針	1,2学年で学習した内容を確実にした上で,さらに4技能のバランスにも配慮しながら,特にリーディング力の充実を図る.演習科目でもあるので,授業中に指示される方法で予習・復習を必ず行い,また授業に積極的に参加し,発表すること,英語音声を利用した練習を行うことが強く求められる.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[B3]3年次レベルの語彙,表現を習得する.		3年次レベルの語彙,表現を習得できているかを,中間,定期試験および演習で評価する.
2	[B3]3年次レベルの文法項目を習得する.		3年次レベルの文法項目を習得しているかを,中間,定期試験および演習で評価する.
3	[B3]さまざまなReading Skillを把握して,3年次レベルの英語長文を正しく解釈できる.		さまざまなReading Skillを把握して,3年次レベルの英語長文を正しく解釈できるかを,中間,定期試験および演習で評価する.
4	[D2]英文を通して,外国の人々の文化,生活様式,物の見方が理解できる.		外国の諸事情について知識が豊かになったかを,中間,定期試験および演習で評価する.
5	[ ]		
6	[ ]		
7	[ ]		
8	[ ]		
9	[ ]		
10	[ ]		
総合評価	成績は,試験70% レポート・演習等30% として評価する.100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト			
参考書			
関連科目	本科目は,これ以外の英語科が開講するすべての科目に関連する.		
履修上の注意事項	電子辞書,または英和辞典を持参すること.		

授業計画(英語)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	Prep. 1 & Prep. 2	Reading Strategy: フレーズリーディングと表現の言い換え
2	Prep. 3 & Prep. 4	Reading Strategy: 段落の構成, 時間的順序の展開パターン
3	Prep. 5 & Prep. 6	Reading Strategy, 例示・列挙の展開パターン, 意見・根拠の展開パターン
4	Lesson 1 Secrets of Lucky People	パラグラフと文の構造: スピーチ: スティーブ・ジョブズ氏の公演から, 「幸運な人」と呼ばれる人びとが知識と経験をうまく活用していることを読む。
5	Lesson 1 Secrets of Lucky People	第4週と同じ。
6	Lesson 2 The History of the Croissant	意見を述べる文を身につける: 説明文: クロワッサンの誕生にまつわるいくつかの伝説を読み, 身近なものに関する文化や歴史について, 興味を持つ。
7	Lesson 2 The History of the Croissant	第6週と同じ。
8	中間試験	これまでの学習内容の理解を問う。
9	中間試験の解説 Prep. 7 & Prep. 8	後期中間試験の解答と解説. Reading Strategy: 比較・対照の展開パターン, 原因・結果の展開パターン
10	Lesson 3 Space Junk	因果関係を踏まえて意見を述べる: 説明文: 宇宙ごみの問題について, 宇宙ごみが生み出される理由や危険の種類, 解決策などを読む。
11	Lesson 3 Space Junk	第10週と同じ。
12	Lesson 3 Space Junk	第10週と同じ。
13	Lesson 4 Do We Know How Animals Really Feel?	意見と根拠: 説明文: 犬にレインコートを着せることを例に, 動物の真の気持ちを人間は誤解しているという意見を読む。
14	Lesson 4 Do We Know How Animals Really Feel?	第13週と同じ。
15	Lesson 4 Do We Know How Animals Really Feel?	第13週と同じ。
16	Lesson 5 Interfaces Break Down Walls	例示・列挙: 説明文: 脳とコンピュータをつなぐインターフェイスの仕組みと今後の展望を, 様々な活用例を通して理解する。
17	Lesson 5 Interfaces Break Down Walls	第16週と同じ。
18	Lesson 5 Interfaces Break Down Walls	第16週と同じ。
19	Lesson 6 Is "Free" Trade the "Best" Trade?	比較・対照: 論説文: 世界の「自由」貿易について, 保護貿易との比較を通じて基本的な理解を得るとともに, その問題を考える。
20	Lesson 6 Is "Free" Trade the "Best" Trade?	第19週と同じ。
21	Lesson 6 Is "Free" Trade the "Best" Trade?	第19週と同じ。
22	L5とL6の復習・演習	既習部分の復習(音読等を含む)を行い, 定着を図る。
23	中間試験	これまでの学習内容の理解を問う。
24	中間試験の解説とLesson 7 The Power of Friendship	後期中間試験の解答と解説. 論説文: 様々な調査結果から, 友情が健康に与える影響はもっと評価すべきという著者の主張を理解する。
25	Lesson 7 The Power of Friendship	論説文: 様々な調査結果から, 友情が健康に与える影響はもっと評価すべきという著者の主張を理解する。
26	Lesson 7 The Power of Friendship	第25週と同じ。
27	Lesson 8 What a Small World!	論説文: 人のネットワークをたどることで世界中の人びとに容易に結びつけるという理論について, 批判的に考察する。
28	Lesson 8 What a Small World!	第27週と同じ。
29	Reading 1 A Doctor, a Father, and His Son	登場人物の心理の変化を読み取る: 物語: 作家の大江健三郎氏が, 障害を抱えて生まれた息子の光さんと, ともに前に向かって生きようという勇気を得た, 広島島の医師の話を読む。
30	Reading 1 A Doctor, a Father, and His Son	第29週と同じ。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する. 学生の状況から判断して, 進度等を変更することがある。	

科目	英語演習 (The Practice of English)		
担当教員	Pileggi, Mark Andrew 准教授		
対象学年等	応用化学科・3年・後期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B3(80%), D2(20%)		
授業の概要と方針	This class is the first time for students to have English class focusing on communication skills of speaking and listening. TOEIC Bridge study tips will also be introduced for the first time in this class.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【B3】英語による基本的なコミュニケーションができる。		英語による基本的なコミュニケーションができるかどうかを演習で評価する。
2	【B3】さまざまなコミュニケーション場面の、英語話者の発音を聞き取ることができる。		授業中の質疑・応答を通して、学生のリスニング能力を評価する。
3	【B3】TOEIC試験対策の基礎を演習し、身につける。		TOEIC対策の基礎が身についているかどうかを、中間試験・定期試験、演習で評価する。
4	【D2】アメリカの文化的内容について英語で書かれたものを理解できる。		アメリカの文化的内容について英語で書かれたものを理解できるか、中間試験・定期試験、およびレポートで評価する。
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は、試験60% 演習30% TOEIC Bridgeの取得10% として評価する。		
テキスト			
参考書			
関連科目	本科目は、これ以外の英語科が開講するすべての科目に関連する。		
履修上の注意事項	英和・和英辞書(電子辞書を含む)を準備すること。		

授業計画(英語演習)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	Introduction to the Course	Overview of the course – Assessment of students' English proficiency.
2	TOEIC Bridge Test Introduction	Basic info about the test, the different parts and the way to fill out the test sheet.
3	English Conversation and American Culture(1)	Self-introductions, Conversation Strategies - Rejoinders. American greeting styles and language.
4	TOEIC Bridge Tips(2)	Introducing TOEIC Bridge test in sections with practice work and vocabulary lists.
5	English Conversation and American Culture(2)	American trivia and information exchange. Conversation Strategies – Follow up Questions.
6	TOEIC Bridge Tips(3)	Introducing TOEIC Bridge test in sections with practice work and vocabulary lists.
7	English Conversation and American Culture(3)	Conversation strategies – Confirmation questions and review for midterm test.
8	中間試験	Midterm test and assessment.
9	TOEIC Bridge Tips(4)	Go over midterm. Continue introducing TOEIC Bridge Bridge test in sections with practice work and vocabulary lists.
10	English Conversation and American Culture(4)	Discussion about family and travel. Conversation Strategies – Clarification Questions.
11	TOEIC Bridge Tips(5)	Introducing TOEIC Bridge test in sections with practice work and vocabulary lists.
12	English Conversation and American Culture(5)	Video about American lifestyle and holidays.
13	TOEIC Bridge Tips(6)	Introducing TOEIC Bridge test in sections with practice work and vocabulary lists.
14	English Conversation and American Culture(6)	Conversation Strategies – Keeping or killing the conversation
15	Final class review	Review of all test sections, vocabulary and prepare for final test.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	後期中間試験および後期定期試験を実施する。Midterm and final tests created from about 1/3 homework data, 1/3 TOEIC Bridge data, 1/3 Conversation Strategies data	

科目	英語演習 (The Practice of English)		
担当教員	(前期)Pileggi Mark Andrew 准教授 (後期)John Miller 非常勤講師, 平野 洋平 講師		
対象学年等	応用化学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B3(90%), B4(10%)		
授業の概要と方針	前期: Class alternates between English conversation skills and TOEIC test taking skills. American Culture and Global topics also introduced. 後期: クラスを2つに分け, 前半と後半で学生が入れ替わる. 外国人講師の授業では英語での自己表現技術を, 日本人教師による授業では, TOEIC問題の解法を学習する.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[B4]TOEIC試験対策の基礎を演習し身につける.		TOEIC対策の基礎が身についているかどうかを, 中間試験・定期試験, 演習で評価する.
2	[B3]英語による基本的なコミュニケーションができる.		授業中の質疑・応答を通して, 各学生のコミュニケーション能力を評価する.
3	[B3]正しい英語の発音ができる.		授業中の質疑・応答を通して, 各学生が正しい発音ができるかどうかを評価する.
4	[B3]さまざまなコミュニケーション場面の, 英語話者の発話を聞き取ることができる.		授業中の質疑・応答を通して, 各学生のリスニング能力を評価する.
5	[B3]コミュニケーションに必要な英語の語彙, 文法を理解できる.		授業中に取り扱った重要語彙, 文法項目についての知識を中間試験・定期試験, 演習で評価する. 評価する.
6	[ ]		
7	[ ]		
8	[ ]		
9	[ ]		
10	[ ]		
総合評価	成績は, 試験60% 演習30% TOEIC Test10% として評価する. 前期は, 到達目標1,5を中間・定期試験40%, 演習5%で評価する. 後期は, 到達目標2~4を演習20%, 到達目標1,5を中間・定期試験20%, 演習5%で評価する. 到達目標1をTOEIC Test 10%で評価する. 100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト			
参考書			
関連科目	本科目はこれ以外の英語科が開講する全ての科目に関連する.		
履修上の注意事項	英和・和英辞書(電子辞書含む)を準備すること.		

授業計画(英語演習)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	Introduction to the course	Overview of the course - Assessment of students' English proficiency
2	English Conversation (1)	Introducing yourself; introducing others; checking information, exchanging personal information
3	English Conversation (2),TOEIC 演習(1)	Describing school and daily schedules, Unit 1 Restaurant
4	TOEIC 演習(2)	Unit 1 Restaurant and Unit 1 Quiz
5	English Conversation (3)	Talking about likes and dislikes
6	TOEIC 演習(3)	Unit 2 Entertainment
7	English Conversation (4), TOEIC 演習(4)	Talking and describing about families, Unit 2 Entertainment and Unit 2 Quiz
8	Midterm Test	Review and Assessment
9	English Conversation (5),TOEIC 演習(5)	Asking about and describing routines and exercise(1), Unit 3 Business
10	English Conversation (6)	Asking about and describing routines and exercise(2)
11	TOEIC 演習(6)	Unit 3 Business and Unit 3 Quiz
12	English Conversation (7)	Talking about past events
13	TOEIC 演習(7)	Unit 4 Office
14	TOEIC 演習(8) English Conversation (8)	TOEIC Unit 4 Office. Giving opinions about past experiences; talking about vacations
15	Conversation (9) (Review)	Creative English Conversation inspiring activities (Review for Midterm)
16	English Conversation (1)	Overview of the course - International Introductions
17	English Conversation (2)	Jobs and routines
18	English Conversation (3)	Describing routines using adverbs of frequency
19	English Conversation (4)	Shopping, numbers and prices
20	English Conversation (5)	Describing where classmates live using prepositions of space.
21	English Conversation (6)	Asking about life experiences (Have you ever...)
22	English Conversation (7)	Writing a postcard, simple past.
23	English Conversation (8)	Show and tell, passive tense.
24	TOEIC 演習(9)	後期授業におけるTOEIC学習の説明 及び Unit 5 Telephone
25	TOEIC 演習(10)	Unit 5 Telephone, Unit 6 Letter & E-mail
26	TOEIC 演習(11)	Unit 6 Letter & E-mail
27	TOEIC 演習(12)	Unit 7 Health
28	TOEIC 演習(13)	Unit 7 Health, Unit 8 Bank & Post Office
29	TOEIC 演習(14)	Unit 8 Bank & Post Office, Unit 9 New Products
30	TOEIC 演習(15)とまとめ	Unit 9 New Products 後期 TOEIC 学習内容のまとめ
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	英語演習 (The Practice of English)		
担当教員	(前期)上垣 宗明 教授, Miller 非常勤講師 (後期)今村 一博 教授		
対象学年等	応用化学科・5年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B3(70%), B4(30%)		
授業の概要と方針	前期は,クラスを2つに分け,少人数教育を実施する.授業計画の2回~8回と9回~15回がセットになっており,学生は入れ替わることになる.前期授業の半分は,英語で発信できる技術者を目指し,自分の考えを英語で発表するための技術の基本を学習する.前期授業の半分と後期の授業では,科学技術やその他のテーマを扱った英文とTOEICテストを演習形式で学習する.また,プレゼンテーション・コンテストに向けた演習も実施する.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【B3】英語の論理展開を理解し,プレゼンテーション用原稿作成に利用できる.		英語の論理展開を理解し,プレゼンテーション用原稿作成に利用できているかどうか,原稿チェック時に評価する.
2	【B3】プレゼンテーションのための態度や提示の基本的な方法を理解し実践できる.		プレゼンテーションのための態度や提示の基本的な方法を実践できているかどうか,発表会で評価する.
3	【B4】科学技術やその他のテーマに関する英文を読み,正確に英文を読み取ることができる.		科学技術やその他のテーマに関する英文の読解力は,演習と中間試験および定期試験で評価する.
4	【B4】科学技術やその他のテーマに関する語彙を増加させる.		科学技術やその他のテーマに関する語彙力は,演習と中間試験および定期試験で評価する.
5	【B3】TOEICテストの演習を数多くこなすことにより,TOEICのスコアを向上させることができる.		TOEICテストに関しては,演習と中間試験および定期試験で評価する.
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	前期:到達目標1と2の原稿提出と発表会で15%,到達目標3~5の中間試験・定期試験35%で評価する.後期:到達目標3~5の中間試験・定期試験で35%,演習で5%,到達目標1と2の10%で評価する.100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト			
参考書			
関連科目	本科目は,これ以外の英語科が開講するすべての科目に関連する.		
履修上の注意事項	電子辞書または英和・和英辞典を持参すること.また,指示された課題や,予習・復習を確実にを行うこと.		

授業計画(英語演習)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	イントロダクション	教員紹介, 少人数授業のためのグループ分け, 授業の進め方・内容についてのガイダンスを行う。
2	プレゼンテーション分析(1)	この回から15回目までは2グループに分かれて, グループごとの授業。プレゼンテーションの実践例に触れ, 英文の構成, 表現, 図の提示, 発表態度などについて分析し理解する。
3	プレゼンテーション分析(2)	2回目と同じ。
4	原稿作成実践(1)	自分が発表したい題目を選び, プレゼンテーションのための原稿を作成する。その際, 2~3回目で学習した内容を反映させるように指導する。
5	原稿作成実践(2)	書き言葉と話し言葉の差に注意を喚起し, 準備している原稿の英文を洗練させる。発表時の態度についても再度指導する。
6	発表会(1)	授業を受ける20名の学生のうち半数の10名が, 準備した原稿や図をもとにプレゼンテーションを行う。学生の相互評価も行う。
7	発表会(2)	前回と同様に残りの10名が, プレゼンテーションを行う。学生の相互評価も行う。
8	中間試験	これまで学習した内容について, 理解度を問う。
9	科学技術英語読解演習: テキストLesson 1 (1),(2)と TOEIC 演習 (1)	科学技術英語読解演習(Numbers and Calculation)とTOEIC演習を行う。
10	科学技術英語読解演習: テキストLesson 1 (3),(4)と TOEIC 演習 (2)	科学技術英語読解演習(Numbers and Calculation)とTOEIC演習を行う。
11	科学技術英語読解演習: テキストLesson 2 (1),(2),(3)と TOEIC 演習 (3)	科学技術英語読解演習(Figures)とTOEIC演習を行う。
12	科学技術英語読解演習: テキストLesson 2 (4),(5)と TOEIC 演習 (4)	科学技術英語読解演習(Figures)とTOEIC演習を行う。
13	科学技術英語読解演習: テキストLesson 3 (1),(2),(3)と TOEIC 演習 (5)	科学技術英語読解演習(State of Substance)とTOEIC演習を行う。
14	科学技術英語読解演習: テキストLesson 4 (1),(2),(3)と TOEIC 演習 (6)	科学技術英語読解演習(Graphs and Functions)とTOEIC演習を行う。
15	科学技術英語読解演習: テキストLesson 5 (1),(2)と TOEIC 演習 (7)	科学技術英語読解演習(Human Body)とTOEIC演習を行う。これまでに学習してきた内容の復習と補充を行う。
16	前期試験の解答とプレゼンテーションの準備1	前期試験の解答と解説。プレゼンテーション・コンテストの説明。
17	プレゼンテーションの準備2	プレゼンテーションの原稿作成。
18	プレゼンテーションの発表会1	プレゼンテーションの発表会を実施する。
19	プレゼンテーションの発表会2	プレゼンテーションの発表会を実施し, 校内のコンテストに出場する代表を決定する。
20	科学技術英語読解演習: テキストLesson 5 (3),(4)と TOEIC 演習 (8)	科学技術英語読解演習(Human Body)とTOEIC演習を行う。
21	科学技術英語読解演習: テキストLesson 6 (1),(2)と TOEIC 演習 (9)	科学技術英語読解演習(Electricity)とTOEIC演習を行う。
22	科学技術英語読解演習: テキストLesson 6 (3),(4)と TOEIC 演習 (10)	科学技術英語読解演習(Electricity)とTOEIC演習を行う。
23	中間試験	これまで学習した内容について, 理解度を問う。
24	中間試験の解答。科学技術英語読解演習: テキストLesson 7 (1)と TOEIC 演習 (11)	中間試験の解答と解説。科学技術英語読解演習(Heat)とTOEIC演習を行う。
25	科学技術英語読解演習: テキストLesson 7 (2),(3)と TOEIC 演習 (12)	科学技術英語読解演習(Heat)とTOEIC演習を行う。
26	科学技術英語読解演習: テキストLesson 8 (1),(2)と TOEIC 演習 (13)	科学技術英語読解演習(Stars and Planets)とTOEIC演習を行う。
27	科学技術英語読解演習: テキストLesson 8 (3),(4)と TOEIC 演習 (14)	科学技術英語読解演習(Stars and Planets)とTOEIC演習を行う。
28	科学技術英語読解演習: テキストLesson 9 (1),(2),(3)と TOEIC 演習 (15)	科学技術英語読解演習(Ions)とTOEIC演習を行う。
29	科学技術英語読解演習: テキストLesson 10 (1),(2)と TOEIC 演習 (16)	科学技術英語読解演習(Energy)とTOEIC演習を行う。
30	科学技術英語読解演習: テキストLesson 10 (3),(4)と TOEIC 演習 (17)	科学技術英語読解演習(Energy)とTOEIC演習を行う。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。前期の中間試験と定期試験については, 2つのグループに分けて授業を行うため, グループごとに実施する。	

科目	国際コミュニケーション(ドイツ語) (German for International Communication)		
担当教員	本田 敏雄 非常勤講師		
対象学年等	応用化学科・4年・通年・選択・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	D2(100%)		
授業の概要と方針	日常生活に必要な表現を学ぶことを通してドイツ語の初歩的知識と文法を習得する。中学3年,高専3年間の英語の知識の蓄積を利用(動詞の3基本形の早期の導入)して授業をすることで,ここで学んだことが逆に英語学習へフィードバックされること,又この複数外国語学習体験が,将来的に仏語,西語等に進んだ場合にも生かされることを目指す。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【D2】ヨーロッパ諸言語の成立についての基礎知識を持つ。		年度末にレポートで評価する。
2	【D2】言語を文化として理解する。		年度末にレポートで評価する。
3	【D2】ドイツ語文法に関する基礎知識を持つ(他の外国語学習,仏語,西語等への応用も効くように)。		中間試験と定期試験で評価する。
4	【D2】ドイツ語の学習を通して日本語,英語を相対化して見ることができるようになる。		年度末にレポートで評価する。
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は,試験85% レポート15% として評価する。なお,試験成績は,中間試験と定期試験(+暗唱)の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	なし		
履修上の注意事項			

授業計画(国際コミュニケーション(ドイツ語))

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	アルファベットと発音(1) 語学学習について	短母音,複母音,重母音の発音外国語学習の意義(1)
2	アルファベットと発音(2)	子音の発音 英語と違い,原則として綴り通りに発音することへの注意を徹底する外国語学習の意義(2)日本語ですら,相対化して見ることができるように
3	挨拶 表現練習,基数詞	導入として,簡単な挨拶表現を覚え,使ってみる数詞の紹介,以降随時取り上げ,覚える
4	名前,住所,出身地	まず文章に触れて,抵抗なくしゃべれるようにする名前,出身地を自分のものに置き換えて伝える動詞の一人称,二人称形
5	年齢,趣味,職業,家族	自己紹介からの発展として,自分以外の家族の紹介を練習する動詞の三人称形を利用する
6	規則動詞の現在人称変化(1)	規則変化動詞の変化を覚える
7	規則動詞の現在人称変化(2)	規則変化動詞の変化を覚える
8	中間試験	第1回から第7回の範囲で中間試験を実施する
9	sein,haben,werdenの現在[過去,過去分詞]人称変化	ここまでの文法事項の整理大切な不規則動詞の変化を覚える
10	買い物(1)	名詞の性と格(1格/4格)不定冠詞,定冠詞の変化一覧表を練習する
11	聞き取り練習	ここまでのまとめの聞き取り練習をする
12	持ち物,所有の表現	名詞の性と格(2格/3格)3格支配の動詞
13	好みの表現	誰が,どこで,何をという疑問詞を学ぶ名詞の性に馴染む
14	不規則動詞,定冠詞類	定冠詞類の導入
15	不定冠詞類	不定冠詞類の一覧の導入
16	名詞の複数形,人称代名詞	名詞複数形の総まとめ人称代名詞の導入
17	プレゼントの表現(1)	前置詞句の入った多様な表現の紹介前置詞の格支配の導入
18	プレゼントの表現(2)	前置詞の格支配の学習と前置詞句の入った多様な表現の練習
19	外出の表現	どこで,どこへを伴う表現と応答
20	前置詞句(1)	前置詞の総まとめをする
21	前置詞句(2)	前置詞の総まとめをする
22	中間試験	第16回から第21回の内容で中間試験を実施する
23	希望,可能,許可,意志の表現	話法の助動詞の導入
24	色,月日	付加語的に使われる形容詞の導入年月日の表現と記法
25	形容詞の格変化(1)	形容詞の弱変化
26	形容詞の格変化(2)	形容詞の混合変化,強変化
27	比較表現,比較変化	形容詞の比較表現および変化を学ぶ
28	非人称代名詞・不定代名詞	多様な非人称表現の紹介
29	復習,総括(1)	ここまでの総まとめ(ドイツ語の基礎の導入部をやったにすぎない)ドイツ語の特徴のまとめ
30	復習,総括(2)	ここまでの学習を踏まえ外国語学習の意義を確認しておきたい
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する.達成度の低い者には,暗唱を課する.	

科目	国際コミュニケーション(中国語) (Chinese for International Communication)		
担当教員	田島 大輔 非常勤講師		
対象学年等	応用化学科・4年・通年・選択・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	D2(100%)		
授業の概要と方針	現代中国語(標準語)の発音と基礎的文法を、発音・読解・作文の演習を通じて学習する。受講者の教授内容に対する理解をはかる評価対象として、各回講義内での演習、中間・期末試験に加え、随時課す課外の課題への取り組みも重視する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【D2】現代中国語の発音とそのピンインによる表記法を習得する。		現代中国語の発音とそのピンインによる表記法を講義中の演習(発音練習)、課題によって評価する。
2	【D2】現代中国語の漢字(簡体字)の中でも、比較的使用頻度の高いものの書き方を習得する。		現代中国語の漢字(簡体字)の書き方を講義中の演習(短文読解・作文)、課題によって評価する。
3	【D2】現代中国語の簡単な文法知識を習得する。		現代中国語の簡単な文法知識を講義中の演習(短文読解・作文)、課題、中間試験および定期試験によって評価する。
4	【】		
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は、試験60% レポート10% 演習(発音、読解、作文)30% として評価する。試験は中間試験、定期試験の平均点を評価対象とする。レポート(課題)の内容は講義中に指定する(複数回)。演習は授業内での口頭試問(暗誦等)、筆記課題(小テスト)を課す(複数回)。試験・レポート・演習の評価を総合し、100点満点60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	ドイツ語, 韓国語		
履修上の注意事項	現代中国語の学習を通じ、中国の文化・社会に対する関心を深める。受講者には講義の予習・演習・復習への自主的な取り組みが求められる。		

授業計画(国際コミュニケーション(中国語))

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	講義概要の説明,発音練習(1)	本講義の方針・目標・内容・評価方法の説明,および同説明に関する質疑応答などの後,中国語の声調母音(単母音,複母音,n/ngを伴う母音)とアクセント(声調)の発声法,表記法(ピンイン)を学習する。
2	発音練習(2)	中国語の子音の発声法,表記法を学習する。現代中国(中華人民共和国)で公用文字とされている簡略字「簡体字」についても触れる。
3	「是」構文,人称代名詞,指示代名詞	述語動詞「是」(AはBである)を用いた構文,「わたし」「あなた」「それ」「これ」「そこ」「ここ」といった各種代名詞を学習する。
4	動詞述語文,所有を表す「有」構文,疑問文における助字「呢」	動詞を述語とする構文,「AはBを持つ」「AにはBがある/いる」等の意を表せる「有」を用いた構文,および文末に付せられ疑問の意を表す「呢」の用法を学習する。
5	形容詞述語文	形容詞を述語とする構文を学習する。
6	数字,日付時刻の発音・表記法,量詞	数字や日付時刻の発音と表記,および「量詞」(助数詞)の用法を学習する。
7	復習	前回講義までの学習内容について復習する。
8	中間試験	第2回から第7回までの講義での学習内容の習得状況を,筆記試験により確認する。
9	中間試験返却,口頭演習課題の発表	中間試験の問題解説の後,中国語短文暗誦課題の発表を行う。課題用短文は受講者の要望を汲んだ上で告知する。
10	完了を表す「了」,所在を表す「在」,助動詞「想」	述語の後ろに置き「完了」を表す助動詞「了」,人・ものが特定の場にあることを表す動詞「在」,および「～したい」の意を表す助動詞「想」の用法を学習する。
11	介詞「在」「離」「从」「到」「跟」「給」	「～で」「～から」「～まで」「～と」「～に」などの意を表す各種介詞の用法を学習する。
12	助動詞「得」,経験を表す「過」,「是～的」構文	「～しなければならない」の意を表す「得」,動詞の後ろに置かれ過去の経験を表す「過」,および強調構文「是～的」の用法を学習する。肯定形・否定形・疑問形・反復疑問文,量詞/助数詞を学ぶ。
13	助動詞「能」「会」,動詞の重ね方	助動詞「会」「能」の用法,同じ動詞を重ねる表現を学習する。
14	総合復習	中間試験以降の講義での学習内容について,復習・確認を行う。
15	総合復習(予備回)	第14回での総合復習,その他についての復習,確認,質問に対する回答。
16	前期学習内容の復習	前期学習内容について,復習・確認を行う。
17	結果・程度を表す助詞「得」	形容詞・動詞の後に置かれ,結果・程度を表す補語を導く助詞「得」の用法を学習する。
18	動詞の進行を表す「在(～呢)」	「～しているところだ」の意を表す「在(～呢)」の用法を学ぶ。
19	「来」「去」を中心とする連動文	動詞「来(くる)」「去(いく)」を用いた事例を中心に,連動文を学習する。
20	「還是」を用いた選択疑問文,既習各種疑問文の復習	「還是」を用いた選択疑問文(AかBか)の構造を確認後,既習の疑問文についても復習を行う。
21	助詞「比」を用いた比較文	助詞「比」を用いた比較文(AはBにくらべて～)を学習する。
22	復習	第17回講義以降の学習内容について復習する。
23	中間試験	第17回から第21回までの講義での学習内容の習得状況を,筆記試験により確認する。
24	中間試験の解説	中間試験の問題,解答の確認を行い,内容について解説する。
25	「的」を用いた名詞の修飾	「的」を用いた動詞句・形容詞句による名詞の修飾を学習する。
26	1つの動詞が2つの目的語をとる文,主述句を目的語とする文	「AにBを～する」といったような,1つの動詞が2つの目的語をとる文,ならびに主語述語句を目的とする文の用法を学習する。
27	総合復習	中間試験以降の講義での学習内容について,復習・確認を行う。
28	口頭演習課題の発表	受講者が短文暗誦課題の発表を行う。同課題用作文は受講者の要望を汲んだ上で告知する。
29	自由口頭発表	通年の授業内最後の課題として,これまでの学習内容を踏まえ,受講者が自由な題目で中国語による口頭発表を行う。
30	総合復習(予備回)	第27回の総合復習その他について,復習,確認を行い,質問に回答する。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。中間試験と定期試験の実施に加え,随時課題を課す(複数回を予定)。視聴覚教材による授業を行うこともある。	

科目	国際コミュニケーション(韓国語) (Korean for International Communication)		
担当教員	高 秀美 非常勤講師		
対象学年等	応用化学科・4年・通年・選択・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	D2(100%)		
授業の概要と方針	韓国語(ハングル)の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する. 文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する. 韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し, 語学能力を含む文化の理解を深める.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【D2】ハングル文字構成を理解し, 日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける.		文字学習の段階では, 小テストを少なくとも2週に1回で実施し, 文字の習得状況を把握しながら, 「書く」ことについては小テストおよび前期中間試験と定期試験, 後期中間試験でも評価する.
2	【D2】簡単な挨拶や自己紹介からはじめ, 学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する.		会話表現は, それぞれの表現を個別に発音やイントネーションを指導及びチェックを行い, 後期においては会話について口頭での発表をもって, 定期試験に代えて評価する
3	【D2】韓国・朝鮮の文化の理解を深め, コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける.		韓国語の基礎的な知識や会話学習と同時に会話の背景にある文化について解説を行い, その理解度を前期中間試験と定期試験, 後期中間試験で評価する.
4	【】		
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は, 試験50% 小テスト20% 演習30% として評価する. 成績において, 演習30%(課題及び授業中の暗唱・発表など), 小テスト20%とする理由は実際に初歩的なコミュニケーションができることを確かめるためである. 100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト			
参考書			
関連科目	ドイツ語, 中国語		
履修上の注意事項	課題, 小テストの準備をした上で, 授業に参加することを強く望みます.		

授業計画(国際コミュニケーション(韓国語))

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	授業ガイダンス・文字と発音(1)基本母音	授業のガイダンスとともに、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音(10個)について説明する。
2	文字と発音(2)子音(平音)	韓国語の基本母音を復習後、基本子音(10個)を学ぶ。
3	文字と発音(3)子音(激音・濃音)	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音(4)二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音(5)子音(終声子音)・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム(子音+母音の後に来る子音、支えると意味)について勉強する。
6	文化項目(1):韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ。
7	第1課 私は吉田ひかるです。	～です・ですか(ハムニダ体)、～は(助詞)について学習する。
8	中間試験	第1週から第7週までの内容について試験を行う。
9	中間試験の解答,第2課 お名前は何ですか	中間試験の内容について解説する。～です・ですかの(ヘヨ体)、～が(助詞)について学習する。
10	第3課 ここは出口ではありません。	～ではありません(名詞文の否定)、～も(助詞)について学習する。自己紹介の練習を行う。
11	Review 1,第4課 近くに地下鉄の駅ありますか。	第1課から第3課までの内容を復習する。～います・～あります又は～いません・ありません、～に(助詞)について学習する。
12	第5課 学校の図書館でアルバイトをします。	～をします又は～で(場所+で)を学習する。
13	第6課 私の誕生日は10月9日です。	漢数字:日本語のいち、に、さんに相当する年、月、日、値段、電話番号、何人前、学年、階、回、号室などに使う。漢数字を学習。
14	Review 2	第4課から第6課までの内容を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまでの学習内容を再確認し、質疑応答。
16	定期試験の解答とまとめ,復習及び数字の活用	定期試験の内容について解説する。韓国語初級で学習内容を再確認し、質疑応答。
17	第7課 友達とランチを食べます。	用言の『です・ます形』『～ハムニダ体』、～と(助詞)について学習する。
18	第8課 日本の冬はあまり寒くありません。	動詞や形容詞の否定表現と覚えておきたい動詞を文章を作りながら学習する。
19	第9課 キムチは辛いけどおいしいです。	接続語尾～して、～くて、～であり、～が、～けれどについて学習する。
20	Review 3	第7課から第9課までの内容を復習、練習問題を通じて確認する。
21	文化項目(2):韓国の映画を通しての文化理解	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ。
22	第10課 今日は天気がとても良いです。	用言の『です・ます形』、『～ヘヨ体』～と不可能の表現について学習する。
23	中間試験	第16週から第22週までの内容について試験を行う。
24	中間試験の解答とまとめ,第11課 公園で友達を待ちます。	中間試験の内容について解説する。用言の『です・ます形』、『～ヘヨ体』を復習し、縮約形の『～ヘヨ体』を学習する。
25	第12課 合コンは今日の夕方6時です。	固有数字:日本語の一つ、二つに当たる数字、～歳、時間、個、名、枚、台などに使う、固有数字を学習する。
26	Review 4	第10課から第12課までの内容を復習、練習問題を通じて確認する。
27	第13課 KTXで3時間かかりました。	動詞の過去形を学習する。又は～から～までと手段を表す助詞を学ぶ。
28	第14課 韓国の映画は好きですか。	さまざまな尊敬の表現を学習する。
29	第15課 道を教えてください。	お願い表現、丁寧な命令形について学習する。
30	Review 5,まとめ	第13課から第15課までの内容を復習、練習問題を通じて確認する。これまで学習内容を再確認し、質疑応答。
備考	前期中間試験,前期定期試験および後期中間試験を実施する。後期定期試験に代えて、プレゼンテーション形式の課題と試験を授業中に行う。	

科目	保健・体育 (Health and Physical Education)		
担当教員	中川一穂 特任教授, 小森田 敏 教授, 寺田雅裕 教授		
対象学年等	応用化学科・1年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	各種の運動を自主的に行わせることによって、積極的に運動を実施する習慣を育て、生涯体育につながる能力を養う。また、健全な社会生活を営む能力や態度を養い、健康、スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的としている。(前期種目: 剣道, 水泳)(後期種目: テニス, バドミントン, 卓球)		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】剣道の基本理念を学び、基本動作を習得し、打突・引き技・応じ技・得意技を身につけ、対人技能の基本を身につけ、試合のできる技能・態度を身につける。		剣道の基本理念を学び、基本動作を習得し、打突・引き技・応じ技・得意技を身につけ、対人技能の基本を評価する。剣道の応用技能を身につけ相互試合により試合技能・態度を評価する。
2	【C3】水の特性や泳ぎのメカニズムを理解し、基本泳法を学ぶ。また、水中での自己防衛技術として、総合的な水泳能力の向上を図る。		水の特性や泳ぎのメカニズム・泳法能力・自己防衛技術・救急法などを理解し、習得しているか評価する。
3	【C3】テニスの特性を理解し、基本動作であるラケット操作や、ストロークやサーブなどの基本技能を修得する。また、ルールや審判法、スコアのつけ方を学び、簡易ゲームができるようにする。		テニスの特性の理解・ルール・審判法・ボールコントロール・ゲームの進め方などを理解し、習得しているか評価する。
4	【C3】バドミントンの特性を理解し、基本動作であるラケット操作や、ストロークやサーブなどの基本技能を修得する。また、ルールや審判法、スコアのつけ方を学び、簡易ゲームができるようにする。		バドミントンの特性の理解・ルール・審判法・ボールコントロール・ゲームの進め方などを理解し、習得しているか評価する。
5	【C3】卓球の基本ストローク、球の回転の理解と習得。シングルス、ダブルスの試合の理解と実践。		卓球の基本ストロークなどの習得を目指し評価は行わない。
6	【C3】毎時間ストレッチとサーキットトレーニングを行うことにより、継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を習得する。また、各種目の練習方法を学び、段階的な技能習得を図る。		健康増進・傷害予防・技能習得に関して毎時間ごとの習熟度(関心・意欲・思考・技能・知識)を評価する。
7	【C3】新体力テストを実施する事により、各自の体力を評価し、その結果を分析して、不足している能力の向上を図る。		新体力テストの得点を評価する。
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	前期は到達目標毎1=40%, 2=20%, 6=40%の割合で評価する。後期は、到達目標毎3=25%, 4=25%, 5=は評価無し, 6=40%, 7=10%の割合で評価し、前期と後期をそれぞれ50点ずつとし、100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	なし		
履修上の注意事項			

授業計画(保健・体育)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス・知識学習	前期授業の内容説明および改訂増補版を利用し,p3`22「人間とスポーツ」に関する知識学習を行う。
2	剣道1	剣道の基本理念・基本姿勢・構えなどを学ぶ。
3	剣道2	基本技能,足掻き・基本打突などを行う。
4	剣道3	基本技能,踏み込み足動作での連続面打ち・左右面打ちなどを行う。
5	剣道4	基本技能,垂,小手,胴を着けて面,胴,小手を打突する。
6	剣道5	基本技能,垂,小手,胴を着けて打ち込み稽古を行う。
7	剣道6	応用技能,剣道具を着けて仕掛け技の稽古を行う。
8	剣道7	応用技能,剣道具を着けて応じ技の稽古を行う。
9	剣道8	互角稽古,試合練習を行う。
10	剣道9	基本・応用動作の試験を行う。
11	剣道10	剣道抜き勝負による試合の評価を行う。
12	水泳1	水の特性を理解し,浮き方・沈み方・抵抗などを学ぶ。また,泳ぎのメカニズム(ストリームライン・ローリング・息継ぎ・ストローク)を学び,基本泳法にチャレンジし,個人の能力に応じて,泳力を高める。
13	水泳2	水の特性を理解し,浮き方・沈み方・抵抗などを学ぶ。また,泳ぎのメカニズム(ストリームライン・ローリング・息継ぎ・ストローク)を学び,基本泳法にチャレンジし,個人の能力に応じて,泳力を高める。
14	水泳3	水に関する事故とその原因を知り,自己防衛方法を着衣水泳や浮き身を通して学ぶ。様々なリレー種目を行い,泳ぐことだけでなく,競い合う楽しみを味わう。
15	水泳4	学習内容をスキルテストで評価する。
16	ガイダンス・知識学習	後期授業の内容説明および改訂増補版を利用し,p131`144「からだどころ」に関する知識学習を行う。
17	テニス1	安全に留意し,正しい用具(ボール・ラケット・ネットの張り方)の使い方を覚える。壁打ちや対人ポレーを通して,様々なラケットコントロールの方法を学ぶ。また,ラリーが続くような簡易ゲームを学ぶ。
18	バドミントン1	安全に留意し,正しい用具(シャトル・支柱の運び方・ネットの張り方・ラケット)の使い方を覚える。対人パスを通して,様々なパス技能(オーバーハンド・アンダーハンド)の方法を学ぶ。また,ラリーが続くような簡易ゲームを学ぶ。
19	新体力テスト	反復横とび・20mシャトルラン・立ち幅跳び・上体起こし・長座体前屈・ハンドボール投げ・50m走を測定する。身長・体重・座高・体脂肪・握力を測定する。
20	テニス2	対人パスを通して,前回の学習内容を定着させる。また,ストローク練習やサーブ練習を通して,ラリーが続くようにする。また,簡易ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。
21	バドミントン2	対人ラリーを通して,前回の学習内容を定着させる。また,シングルのリーグ戦を通して,ルールや運営方法を学ぶ。
22	テニス3	自由練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,ダブルスのリーグ戦を通して,ルールや運営方法を学ぶ。
23	バドミントン3	自由練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,ダブルスのリーグ戦を通して,ルールや運営方法を学ぶ。
24	テニス4	自由練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,ダブルスのリーグ戦を通して,ルールや運営方法を学ぶ。
25	バドミントン4	自由練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,ダブルスのリーグ戦を通して,ルールや運営方法を学ぶ。
26	テニス5	自由練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,ダブルスのリーグ戦を通して,ルールや運営方法を学ぶ。
27	バドミントン5	自由練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,ダブルスのリーグ戦を通して,ルールや運営方法を学ぶ。
28	テニス6	正式ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。また,学習内容をスキルテストで評価する。
29	バドミントン6	正式ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。また,学習内容をスキルテストで評価する。
30	卓球1	卓球の基本ストローク,球の回転の理解をする。シングルス・ダブルスのゲームを理解する。
備考	中間試験および定期試験は実施しない。(1)授業の導入や雨天時などを利用して,改訂増補版「保健体育概論」の内容を学習する。(2)スキルテストについては,定期試験中には行わず,授業内で行う。	

科目	保健・体育 (Health and Physical Education)		
担当教員	春名桂 准教授, 寺田雅裕 教授		
対象学年等	応用化学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	各種の運動を自主的に行わせることによって、積極的に運動を実施する習慣を育て、生涯体育につながる能力を養う。また、健全な社会生活を営む能力や態度を養い、健康・スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的とする。種目選択制で行う。【前期種目:ソフトボール,バレーボール,水泳】【後期種目:サッカー,バスケット,卓球】		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】ソフトボールの特性を理解し、打つ・守る・走る・投げる等の基本技能を習得する。また、ルールや審判法、スコアのつけ方等を学び、簡易ゲームができるようにする。		ソフトボールの特性の理解・ルール・審判法・ボールスキル・ゲームの進め方などを理解し、習得しているか評価する。
2	【C3】バレーボールの特性を理解し、レシーブ・パス・スパイク・サービス等の基本技能を習得する。また、ルールや審判法、スコアのつけ方等を学び、簡易ゲームができるようにする。		バレーボールの特性の理解・ルール・審判法・ボールスキル・ゲームの進め方などを理解し、習得しているか評価する。
3	【C3】水の特性や泳ぎのメカニズムを理解し、基本泳法を学ぶ。また、水中での自己防衛技術として、総合的な水泳能力の向上を図る。		水の特性や泳ぎのメカニズム・泳法能力・自己防衛技術・救急法などを理解し、習得しているか評価する。
4	【C3】サッカーの特性を理解し、シュート・ドリブル・パス・トラップなどのボールを扱った基本技能や、連係を活かした対人技能を修得する。また、ルールや審判法、スコアのつけ方等を学び、簡易ゲームができるようにする。		サッカーの特性の理解・ルール・審判法・ボールコントロール・ゲームの進め方などを理解し、習得しているか評価する。
5	【C3】バスケットボールの特性を理解し、シュート・ドリブル・パスなどのボールを扱った基本技能や、連係を活かした対人技能を修得する。また、ルールや審判法、スコアのつけ方等を学び、簡易ゲームができるようにする。		バスケットボールの特性の理解・ルール・審判法・ボールコントロール・ゲームの進め方などを理解し、習得しているか評価する。
6	【C3】卓球の特性及び、基本ストロークや球の回転を理解し、習得する。また、ルールや審判法、スコアのつけ方等を学び、シングルスやダブルスができるようにする。		卓球の基本ストロークなどの習得を目指し評価は行わない。
7	【C3】毎時間ストレッチやサーキットトレーニングを行うことにより、継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を修得する。また、各種目の練習方法を学び、段階的な技能習熟を図る。		健康増進・傷害予防・技能習熟に関して、毎時間の習熟度を(関心・意欲・思考・技能・知識)を評価する。
8	【C3】新体力テストを実施することにより、各自の体力を評価し、その結果を分析して、不足している能力の向上を図る。		新体力テストの得点を評価する。
9	【】		
10	【】		
総合評価	前期は到達目標毎1~3=20%ずつ、到達目標毎7=40%の割合で評価し、後期は到達目標毎4~5=25%ずつ、到達目標毎7=40%、到達目標毎8=10%の割合で評価する。前期と後期をそれぞれ50点ずつとし、100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	なし		
履修上の注意事項	卓球は評価しない。		

授業計画(保健・体育)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス・知識学習	前期授業の内容説明および注意点,改訂増補版を利用しp23～40の運動の分析に関する知識学習を行う。
2	バレーボール1	安全に留意し,正しい用具(バレーボール・支柱の運び方・ネットの張り方)の使い方を覚える。対人パスを通して,様々なパス技能(オーバーハンド・アンダーハンド)の方法を学ぶ。また,ラリーが続くような簡易ゲームを学ぶ。
3	ソフトボール1	安全に留意し,正しい用具(バット・グローブ・ベース・ソフトボール・マスク)の使い方を覚える。キャッチボールを通して,様々なスローイング(ピッチングを含む)の方法を学ぶ。トスバッティングを通して,バットコントロール・ミート・捕球の方法を理解する。
4	バレーボール2	対人パスを通して,前回の学習内容を定着させる。また,スパイク練習やサーブ練習を通して,攻撃の方法を学ぶ。また,簡易ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。
5	ソフトボール2	キャッチボール・トスバッティング・シートノックを通して,前回の学習内容を定着させる。また,簡易ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。
6	バレーボール3	対人パスやスパイク練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,簡易ゲームを通して,三段攻撃やルール,運営方法を学ぶ。
7	ソフトボール3	キャッチボール・トスバッティング・シートノックを通して,前回の学習内容を定着させる。また,簡易ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。
8	バレーボール4	対人パスやスパイク練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,ローテーションを取り入れた正式ゲーム(6人制)を通して,ルールや運営方法を学ぶ。
9	ソフトボール4	キャッチボール・トスバッティング・シートノックを通して,前回の学習内容を定着させる。また,正式ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。
10	バレーボール5	正式ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。また,学習内容をスキルテストで評価する。
11	ソフトボール5	正式ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。また,学習内容をスキルテストで評価する。
12	水泳1	水の特性を理解し,浮き方・沈み方などを学ぶ。また,泳ぎのメカニズム(ストリームライン・ローリング・息継ぎ・ストローク)を学び,基本泳法にチャレンジし,個人の能力に応じて,泳力を高める。
13	水泳2	水の特性を理解し,浮き方・沈み方などを学ぶ。また,泳ぎのメカニズム(ストリームライン・ローリング・息継ぎ・ストローク)を学び,基本泳法にチャレンジし,個人の能力に応じて,泳力を高める。
14	水泳3	水に関する事故とその原因を知り,自己防衛方法を着衣水泳や浮き身を通して学ぶ。様々なリレー種目を行い,泳ぐことだけでなく,競い合う楽しみを味わう。
15	水泳4	学習内容をスキルテストで評価する。
16	ガイダンス・知識学習	後期授業の内容説明および注意点,増補版を利用しp145～170心と健康に関する知識学習を行う。
17	バスケットボール1	安全に留意し,正しい用具(ボール・ゼッケン・タイマー)の使い方を覚える。ハンドリングを通して,様々なボールコントロール技能(キャッチング・ドリブル)の方法を学ぶ。また,簡易ゲームを通して,個人の技能を高める。
18	サッカー1	安全に留意し,正しい用具(ボール・ゴールの持ち運び)の使い方を覚える。対人パスを通して,様々なパス技能(インサイド・アウトサイド・ヘディング)及びトラッピングの方法を学ぶ。
19	新体力テスト	反復横とび・20mシャトルラン・立ち幅跳び・上体起こし・長座体前屈・ハンドボール投げ・50m走を測定する。身長・体重・座高・体脂肪・握力を測定する。
20	バスケットボール2	対人練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,簡易ゲームを通して,連係プレーやルール,運営方法を学ぶ。
21	サッカー2	対人パスを通して,前回の学習内容を定着させる。また,簡易ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。
22	バスケットボール3	対人練習や集団練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,簡易ゲームを通して,連係プレーやルール,運営方法を学ぶ。
23	サッカー3	対人パスを通して,前回の学習内容を定着させる。また,簡易ゲームを通して,対人技能及びルールや運営方法を学ぶ。
24	バスケットボール4	対人練習や集団練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,正式コートを使つてのリーグ戦を通して,より高度な連係プレーやルール,運営方法を学ぶ。
25	サッカー4	対人練習や集団練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,正式コートを使つてのリーグ戦を通して,より高度な連係プレーやルール,運営方法を学ぶ。
26	バスケットボール5	対人練習や集団練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,正式コートを使つてのリーグ戦を通して,より高度な連係プレーやルール,運営方法を学ぶ。
27	サッカー5	対人練習や集団練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,正式コートを使つてのリーグ戦を通して,より高度な連係プレーやルール,運営方法を学ぶ。
28	バスケットボール6	正式ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。また,学習内容をスキルテストで評価する。
29	サッカー6	正式ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。また,学習内容をスキルテストで評価する。
30	卓球1	卓球の基本ストローク,球の回転の理解をする。シングルス・ダブルスのゲームを理解する。
備考	中間試験および定期試験は実施しない。(1)授業の導入や雨天時などを利用して,改訂増補版「保健体育概論」の内容を学習する。(2)スキルテストについては,定期試験中には行わず,授業内で行う。	

科目	保健・体育 (Health and Physical Education)		
担当教員	中川 一穂 特任教授, 寺田 雅裕 教授, 小森田 敏 教授, 春名 桂 准教授		
対象学年等	応用化学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	各種の運動を自主的に行わせることによって、積極的に運動を実施する習慣を育て、生涯体育につながる能力を養う。また、健全な社会生活を営む能力や態度を養い、健康・スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的とする。種目選択制で行う。(前期共通種目:水泳 選択種目:バレーボール,バドミントン,卓球,軟式野球及びソフトボール,テニス及びソフトテニス)(後期選択種目:バスケットボール,バドミントン,卓球,サッカー,テニス及びソフトテニス)		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[C3]水の特性や泳ぎのメカニズムを理解し,基本泳法を学ぶ。水中での自己防衛として,総合的な水泳能力の向上を図る。		水の特性や泳ぎのメカニズム・泳法能力・自己防衛技術・救急法などが理解,習得できているかどうかを評価する。
2	[C3]バレーボールの特性を理解し,ルールや審判法を習得する。また,基本的な個人技能・集団戦略を学び,正規ルールによるゲームができるようにする。		バレーボールのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。
3	[C3]軟式野球及びソフトボールの特性を理解し,ルールや審判法を習得する。また,基本的な個人技能・集団戦略を学び,正規ルールによるゲームができるようにする。		軟式野球及びソフトボールのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。
4	[C3]卓球のルールや審判法を学び,基本動作であるラケット操作を習得する。また,基本的な戦術・戦略を学び,正規ルールによるゲームができるようにする。		卓球のルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。
5	[C3]バドミントンのルールや審判法を学び,基本動作であるラケット操作を習得する。また,基本的な戦術・戦略を学び,正規ルールによるゲームができるようにする。		バドミントンのルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。
6	[C3]テニス及びソフトテニスのルールや審判法を学び,基本動作であるラケット操作を習得する。また,基本的な戦術・戦略を学び,正規ルールによるゲームができるようにする。		テニス及びソフトテニスのルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。
7	[C3]バスケットボールの特性を理解し,ルールや審判法を習得する。また,基本的な個人技能・集団戦略を学び,正規ルールによりゲームができるようにする。		バスケットボールのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。
8	[C3]サッカーの特性を理解し,ルールや審判法を習得する。また,基本的な個人技能・集団戦略を学び,正規ルールによりゲームができるようにする。		サッカーのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。
9	[C3]新体力テストを実施することにより,各自の体力を評価し,その結果を分析して不足している能力の向上を図る。		新体力テストの得点を評価する。
10	[C3]毎時間ストレッチとサーキットトレーニングを行うことにより,継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を習得する。また,各種目の練習方法を学び,段階的な技能習得を図る。		健康増進・傷害予防・技能習得に関して毎時間ごとの習熟度(関心・意欲・思考・技能・知識)を評価する。
総合評価	前期は到達目標毎1=20%,到達目標毎2~6=40%,到達目標毎10=40%で評価する。後期は到達目標毎4~8=50%,到達目標毎9=10%,到達目標毎10=40%で評価し,前期と後期をそれぞれ50点ずつとし,100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	特になし		
履修上の注意事項			

授業計画(保健・体育)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス・知識学習・種目選択	授業の内容説明および改訂増補版を利用し,p41~62「スポーツトレーニングと体力」に関する知識学習,種目選択,種目別オリエンテーションを行う。
2	選択実技1	基本技能の理解と練習,ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
3	選択実技2	基本技能の理解と練習,ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
4	選択実技3	基本技能の理解と練習,ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
5	選択実技4	基本技能の練習,正規ルールに準じたゲーム。
6	選択実技5	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
7	選択実技6	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
8	選択実技7	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
9	選択実技8	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
10	選択実技9	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
11	選択実技10	スキルテスト
12	水泳1	オリエンテーション,基本的な4泳法(クロール,平泳ぎ,背泳,バタフライ)と水中運動の練習。
13	水泳2	基本的な4泳法(クロール,平泳ぎ,背泳,バタフライ)と水中運動の練習。
14	水泳3	基本的な4泳法(クロール,平泳ぎ,背泳,バタフライ)と水中運動の練習。
15	水泳4	着衣泳による自己防衛技能の練習,救急法の理解,泳法テスト。
16	ガイダンス・知識学習・種目選択	授業の内容説明および改訂増補版を利用し,p171~213「大脳の仕組みと働き」に関する知識学習,種目選択,種目別オリエンテーションを行う。
17	選択実技1	基本技能の理解と練習,ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
18	選択実技2	基本技能の理解と練習,ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
19	選択実技3	基本技能の理解と練習,ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
20	選択実技4	基本技能の練習,正規ルールに準じたゲーム。
21	選択実技5	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
22	選択実技6	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
23	選択実技7	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
24	選択実技8	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
25	選択実技9	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
26	選択実技10	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
27	選択実技11	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
28	選択実技12	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
29	選択実技13	スキルテスト。
30	選択実技14	反復横とび・20mシャトルラン・立ち幅跳び・上体起こし・長座体前屈・50m走・ハンドボール投げ・身長・体重・座高・体脂肪・握力を測定する。(適正な時期に実施する。)
備考	中間試験および定期試験は実施しない。中間試験および定期試験は実施しない。(1)授業の導入や雨天時などを利用して,改訂増補版「保健体育概論」の内容を学習する。(2)スキルテストについては,定期試験中には行わず,授業内で行う。	

科目	保健・体育 (Health and Physical Education)		
担当教員	春名 桂 准教授, 中川 一穂 特任教授, 寺田 雅裕 教授, 小森田 敏 教授		
対象学年等	応用化学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	各種の運動を自主的に行わせることによって、積極的に運動を実施する習慣を育て、生涯体育につながる能力を養う。また、健全な社会生活を営む能力や態度を養い、健康・スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的とする。種目選択制で行う。(前期共通種目:水泳 選択種目:バレーボール,バドミントン,卓球,軟式野球及びソフトボール,テニス及びソフトテニス)(後期選択種目:バスケットボール,バドミントン,卓球,サッカー,テニス及びソフトテニス)		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[C3]水の特性や泳ぎのメカニズムを理解し,基本泳法を学ぶ。水中での自己防衛として,総合的な水泳能力の向上を図る。		水の特性や泳ぎのメカニズム・泳法能力・自己防衛技術・救急法などが理解,習得できているかどうかを評価する。
2	[C3]バレーボールの特性を理解し,ルールや審判法を習得する。また,基本的な個人技能・集団戦略を学び,正規ルールによるゲームができるようにする。		バレーボールのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。
3	[C3]軟式野球及びソフトボールの特性を理解し,ルールや審判法を習得する。また,基本的な個人技能・集団戦略を学び,正規ルールによるゲームができるようにする。		軟式野球及びソフトボールのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。
4	[C3]卓球のルールや審判法を学び,基本動作であるラケット操作を習得する。また,基本的な戦術・戦略を学び,正規ルールによるゲームができるようにする。		卓球のルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。
5	[C3]バドミントンのルールや審判法を学び,基本動作であるラケット操作を習得する。また,基本的な戦術・戦略を学び,正規ルールによるゲームができるようにする。		バドミントンのルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。
6	[C3]テニス及びソフトテニスのルールや審判法を学び,基本動作であるラケット操作を習得する。また,基本的な戦術・戦略を学び,正規ルールによるゲームができるようにする。		テニス及びソフトテニスのルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。
7	[C3]バスケットボールの特性を理解し,ルールや審判法を習得する。また,基本的な個人技能・集団戦略を学び,正規ルールによりゲームができるようにする。		バスケットボールのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。
8	[C3]サッカーの特性を理解し,ルールや審判法を習得する。また,基本的な個人技能・集団戦略を学び,正規ルールによりゲームができるようにする。		サッカーのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。
9	[C3]新体力テストを実施することにより,各自の体力を評価し,その結果を分析して不足している能力の向上を図る。		新体力テストの得点を評価する。
10	[C3]毎時間ストレッチとサーキットトレーニングを行うことにより,継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を習得する。また,各種目の練習方法を学び,段階的な技能習得を図る。		健康増進・傷害予防・技能習得に関して毎時間ごとの習熟度(関心・意欲・思考・技能・知識)を評価する。
総合評価	前期は到達目標毎1=20%,到達目標毎2~6=40%,到達目標毎10=40%で評価する。後期は到達目標毎4~8=50%,到達目標毎9=10%,到達目標毎10=40%で評価し,前期と後期をそれぞれ50点ずつとし,100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	特になし		
履修上の注意事項			

授業計画(保健・体育)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス・知識学習・種目選択	授業の内容説明および増補版を利用し,p55`98「文化とスポーツ」に関する知識学習,種目選択,種目別オリエンテーションを行う。
2	選択実技1	基本技能の理解と練習,ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
3	選択実技2	基本技能の理解と練習,ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
4	選択実技3	基本技能の理解と練習,ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
5	選択実技4	基本技能の練習,正規ルールに準じたゲーム。
6	選択実技5	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
7	選択実技6	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
8	選択実技7	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
9	選択実技8	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
10	選択実技9	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
11	選択実技10	スキルテスト
12	水泳1	オリエンテーション,基本的な4泳法(クロール,平泳ぎ,背泳,バタフライ)と水中運動の練習。
13	水泳2	基本的な4泳法(クロール,平泳ぎ,背泳,バタフライ)と水中運動の練習。
14	水泳3	基本的な4泳法(クロール,平泳ぎ,背泳,バタフライ)と水中運動の練習。
15	水泳4	着衣泳による自己防衛技能の練習,救急法の理解,泳法テスト。
16	ガイダンス・知識学習・種目選択	授業の内容説明および増補版を利用し,p206`228「社会福祉」に関する知識学習,種目選択,種目別オリエンテーションを行う。
17	選択実技1	基本技能の理解と練習,ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
18	選択実技2	基本技能の理解と練習,ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
19	選択実技3	基本技能の理解と練習,ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
20	選択実技4	基本技能の練習,正規ルールに準じたゲーム。
21	選択実技5	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
22	選択実技6	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
23	選択実技7	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
24	選択実技8	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
25	選択実技9	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
26	選択実技10	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
27	選択実技11	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
28	選択実技12	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
29	選択実技13	スキルテスト。
30	選択実技14	反復横とび・20mシャトルラン・立ち幅跳び・上体起こし・長座体前屈・50m走・ハンドボール投げ・身長・体重・座高・体脂肪・握力を測定する。(適正な時期に実施する。)
備考	中間試験および定期試験は実施しない。中間試験および定期試験は実施しない。(1)授業の導入や雨天時などを利用して,改訂増補版「保健体育概論」の内容を学習する。(2)スキルテストについては,定期試験中には行わず,授業内で行う。	

科目	保健・体育 (Health and Physical Education)		
担当教員	寺田 雅裕 教授, 中川 一穂 特任教授, 小森田 敏 教授, 春名 桂 准教授, 宮本 知弥 非常勤講師		
対象学年等	応用化学科・5年・前期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	各種の運動を自主的に行わせることによって、積極的に運動を実施する習慣を育て、生涯体育につながる能力を養う。また、健全な社会生活を営む能力や態度を養い、健康・スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的とする。種目選択制で行う。(選択種目:バレーボール,バドミントン,卓球,軟式野球及びソフトボール,テニス及びソフトテニス)		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[C3]バレーボールの特性を理解し、ルールや審判法を習得する。また、基本的な個人技能・集団戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		バレーボールのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
2	[C3]バドミントンのルールや審判法を学び、基本動作であるラケット操作を習得する。また、基本的な戦術・戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		バドミントンのルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
3	[C3]卓球のルールや審判法を学び、基本動作であるラケット操作を習得する。また、基本的な戦術・戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		卓球のルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
4	[C3]軟式野球/ソフトボールの特性を理解し、ルールや審判法を習得する。また、基本的な個人技能・集団戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		軟式野球/ソフトボールのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
5	[C3]テニス/ソフトテニスのルールや審判法を学び、基本動作であるラケット操作を習得する。また、基本的な戦術・戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		テニス/ソフトテニスのルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
6	[C3]毎時間ストレッチとサーキットトレーニングを行うことにより、継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を習得する。また、各種目の練習方法を学び、段階的な技能習得を図る。		健康増進・傷害予防・技能習得に関して毎時間ごとの習熟度(関心・意欲・思考・技能・知識)を評価する。
7	[C3]新体力テストを実施することにより、各自の体力を評価し、その結果を分析して不足している能力の向上を図る。		新体力テストの得点を評価しない。
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	到達目標毎1~5=60%,到達目標毎6=40%で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	特になし		
履修上の注意事項	新体力テストの点数を評価しない。		

授業計画(保健・体育)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス・知識学習・種目選択	前期授業の内容説明および増補版を利用し,p99・120「スポーツの文化史」に関する知識学習,種目選択,種目別オリエンテーションを行う。
2	選択実技1	基本技能の理解と練習,ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
3	選択実技2	基本技能の理解と練習,ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
4	選択実技3	基本技能の理解と練習,ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
5	選択実技4	基本技能の練習,正規ルールに準じたゲーム。
6	選択実技5	基本技能の練習,正規ルールに準じたゲーム。
7	選択実技6	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
8	選択実技7	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
9	選択実技8	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
10	選択実技9	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
11	選択実技10	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
12	選択実技11	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
13	選択実技12	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
14	選択実技13	スキルテスト
15	新体力テスト	反復横とび・20mシャトルラン・立ち幅跳び・上体起こし・長座体前屈・50m走・ハンドボール投げ・身長・体重・座高・体脂肪・握力を測定する。(適正な時期に実施する。)
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	中間試験および定期試験は実施しない。中間試験および定期試験は実施しない。(1)授業の導入や雨天時などを利用して,改訂増補版「保健体育概論」の内容を学習する。(2)スキルテストについては,定期試験中には行わず,授業内で行う。	

科目	芸術 (Art)		
担当教員	大倉 恭子 非常勤講師		
対象学年等	応用化学科・1年・後期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	歌唱の指導,又は個人別テスト,その時の個人指導によって,変声直後又は稀にいる変声途中の者を出来るだけ良い状態へと導きたい.カノン作曲によって既習した理論の確認と,正しく楽譜を書くことを体験させたい.生涯学習と言う観点からも,できる限り流行に左右されない曲を体験させたい.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】基本的な楽譜の見方,書き方を知る.		歌唱のテスト,小テスト演習及びカノンの作品の採点時に評価する.
2	【C3】リズム,メロディーを理解しながら歌う.		歌唱のテスト時にその正確さを評価する.
3	【C3】諸外国の曲を歌うことによってその国の音楽,言語に触れる.		歌唱のテスト時に発音を評価する.
4	【C3】カノンの作曲を通して楽典を理解し,確認する.		カノンの作品の採点時に評価する.
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	歌唱テスト50% カノン30% 授業中に実施する小テスト演習20% この三つの項目の合計点が60点以上を合格とする.		
テキスト			
参考書			
関連科目	無し		
履修上の注意事項	半期の授業の間に1回の歌唱のテストを行う.実技,演習が中心の教科なので出席,授業態度も重要視する.		

授業計画(芸術)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	説明,歌唱	授業を進めるための説明 翼をください・校歌の譜読み,歌詞唱.
2	歌唱,楽典	既習曲 世界に一つだけの花,楽典(音符・休符・記譜)その他の曲
3	歌唱,楽典	既習曲 Caro mio ben譜読み,カントリーロード,夏の思い出,楽典(音階・和音)
4	歌唱,楽典	既習曲 Caro mio ben歌詞唱(イタリア語の説明)楽典(音程)
5	歌唱,カノン作曲	既習曲 その他の曲,カングレードI作曲(カノン作曲の為の説明,演習)
6	歌唱,カノン作曲	既習曲 O' sole mio譜読み,歌詞唱 カノンGI(演習と個人指導)
7	歌唱,カノン作曲	既習曲 カノンGI(演習と個人指導),オーラリー(合唱)
8	歌唱,カノン作曲	既習曲 カノンGI(演習と個人指導),その他の曲(合唱)
9	歌唱,カノン作曲	既習曲 カノンGI(演習と個人指導)
10	歌唱,カノン作曲	既習曲 ,カノンGI作曲(演習と個人指導)
11	歌唱テスト,カノンGI提出	Caro mio ben歌唱テスト(個人別テスト・他の者はカノンGIを提出,小テストの準備)
12	歌唱テスト	Caro mio ben歌唱テスト(個人別テスト・他の者はカ小テストの準備).テスト終了後,必要のある者に再試験.
13	歌唱,カノンGI小テスト	既習曲,カノンGIに関する小テスト
14	歌唱,カノン作曲	既習曲
15	音楽観賞	音楽観賞(バッハヘルベルのカノン,その他バロック音楽の鑑賞と解説)
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	中間試験および定期試験は実施しない.歌唱テスト,カノンGIの提出,授業中に実施する小テストを以て試験の代わりとする.	

科目	哲学 (Philosophy)		
担当教員	稲岡 大志 非常勤講師		
対象学年等	全学科・5年・通年・選択・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(80%), D2(20%)	JABEE基準	(a),(b)
授業の概要と方針	哲学と呼ばれる知的営みは、現在から2500年ほど前、ギリシアにおいて始まった。以来、存在とは何か、心とは何か、知識とは何か、といった根本的な問題を哲学者は問い続けている。授業では、哲学者がどのような問題にどのように取り組みどのような答えを提示したのかを学ぶことで、人類が長い時間をかけて取り組み続けている問題を知り、自分もそのような問題について考える喜びを感じ取ることを大きな狙いとする。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】言語や心や時間などにまつわる哲学的問題について、その要点を理解し、自分なりの哲学的思考ができるようになること。		言語や心や時間などにまつわる哲学的問題について、その要点を理解し、自分なりの哲学的思考ができるようになったかを小テスト、定期試験で評価する。
2	【D2】過去の哲学者がどのような問題にどのように取り組んだのかを知ることで、哲学的方法論についての理解を深めること。		過去の哲学者の議論を理解し、哲学的方法論や哲学的思考についての理解を深めることができるようになったかを小テスト、定期試験で評価する。
3	【】		
4	【】		
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は、試験80% 小テスト20% として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。小テストの評価の割合が大きいのは、哲学の基本的概念を正しく理解していることを確認する機会を小テストとして設けることで、より確実に授業内容が理解できるようにするためである。		
テキスト			
参考書			
関連科目	倫理		
履修上の注意事項	なし。		

授業計画 (哲学)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	イントロダクション 哲学を学ぶとはどういうことか?	哲学とはどのような学問なのかを具体例を挙げて講義することで、「哲学」という学問について、おおまかなイメージが得られるようにする。
2	古代ギリシア哲学(1) ソクラテス以前の哲学者たち	ソクラテス以前の哲学者の哲学の要点を講義し、古代ギリシア特有の世界観や自然観を理解できるようにする。
3	古代ギリシア哲学(2) ソクラテス:対話としての哲学	プラトンの対話篇を読みながら、ソクラテス哲学の要点の一つである「哲学的問答法」についての理解を深める。
4	古代ギリシア哲学(3) プラトン:存在の根拠としてのアイデア	プラトン哲学の要点を講義し、その後の哲学を学ぶのに不可欠な概念枠組みについての理解を深める。
5	古代ギリシア哲学(4) アリストテレス:機能としての心	アリストテレス哲学の要点を講義し、形而上学、自然学、生物学、倫理学などあらゆる領域にアンテナを伸ばすアリストテレス哲学のエッセンスを理解できるようにする。
6	中世スコラ哲学:神の存在を「証明」してみよう	中世スコラ哲学における「神の存在証明」の議論を講義し、「論理を用いて存在の問題を解くこと」という、哲学に特有の方法論についての理解を深める。
7	近代哲学(1) デカルト(1):「我思う、ゆえに、我あり」	デカルト哲学の「方法的懐疑」について講義し、伝統的に哲学において議論されるテーマである「懐疑論」についての理解を深める。
8	近代哲学(2) デカルト(2):心と身体はどう繋がっているのか?	いわゆる「心身問題」についてのデカルトの考えを学び、現在においても議論されている「心の哲学」への関心を養う。
9	近代哲学(3) スピノザ:私たちは世界の一部である?	神=自然=世界というスピノザ独自の存在論についての理解を深める。
10	近代哲学(4) ライブニッツ:なぜこの世界に悪があるのか?	この世界は最善世界であるというライブニッツの最善世界説について講義し、現代でも議論される可能世界論や悪の問題についての関心と理解を深める。
11	イギリス経験論(1) ロック:人は人を信頼することができるだろうか?	ロックの社会契約説について講義し、社会的秩序はいかにして可能か?という問題への理解を深める。
12	イギリス経験論(2) パークリ:見えない木は存在するだろうか?	パークリの経験論について講義し、知覚の哲学の入門的内容についての理解を深める。
13	ドイツ観念論(1) カント(1):私たちは何を知ることができ、何を知ることができないのか?	カントの名著『純粋理性批判』が何を問おうとしているのか、についての理解を深める。
14	ドイツ観念論(2) カント(2):時間や空間は存在しない?	カントのいわゆるアンチノミーについて講義し、時空間の存在論への関心と理解を深める。
15	ドイツ観念論(3) カント(3):客観的認識はいかにして可能か?	カントの超越論的観念論について講義し、『純粋理性批判』という書の到達点についての理解を深める。
16	前期のまとめ	前期の授業内容を振り返ることで、受講生の理解内容を可能な限りで整理する。
17	ドイツ観念論(4) ヘーゲル:精神と自然はどちらが偉い?	ヘーゲルのカント批判や独自の観念論について講義し、理解を深める。
18	生の哲学(1) ベルグソン:アキレスはなぜ亀を追い越すことができる?	いわゆる「ゼノンのパラドクス」を取り上げて、ベルグソン独自の時空間論を講義し、理解を深める。
19	生の哲学(2) ニーチェ:誰が神を殺したのか?	ニーチェのよく知られた「神は死んだ」という文言の背景にある主張を講義し、理解を深める。
20	現象学(1) フッサール(1):科学は厳密ではない!	フッサールが現象学を創始する背景である科学主義批判について講義し、理解を深める。
21	現象学(2) フッサール(2):他人が心を持つとどうやたらわかるのか?	いわゆる「他我問題」へのフッサール現象学のアプローチについて講義し、理解を深める。
22	現象学(3) ハイデガー(1):「ある」とはどういうことを言っているのか?	ハイデガーの形而上学批判である「存在忘却の歴史」について講義し、それまでの授業内容を振り返りつつ、ハイデガーの西洋哲学史批判についての理解を深める。
23	現象学(4) ハイデガー(2):私たち人間はどのような存在であるのか?	ハイデガーの名著『存在と時間』の概要について講義し、その要点の理解を深める。
24	言語論的転回(1) フレーゲ:論理学の革命	フレーゲの論理学が伝統的論理学をどう革新したのかを講義し、その要点の理解を深める。
25	言語論的転回(2) ラッセル:「現在の日本の大統領は男性である」という文は正しい?間違い?	ラッセルの記述理論について講義し、その要点の理解を深める。
26	言語論的転回(3) ウィトゲンシュタイン:哲学の問題は偽物の問題である	ウィトゲンシュタインの名著『論理哲学論考』について講義し、ウィトゲンシュタインが哲学の問題は擬似問題であると考えた理由についての理解を深める。
27	分析哲学(1) 言語なんてものは存在しない?	「言語などというものは存在しない」という言語哲学者 دونالد・デイヴィッドソンのテーゼを理解するために、寛容の原理や根源的解釈といった事項について講義する。
28	分析哲学(2) 「この教室にドラゴンはいない」はなぜ正しい?	現代の分析的形而上学において議論されるtruthmaker理論について講義する。これにより、言語と世界の結びつきについての理解を深める。
29	フランス現代思想	構造としての言語や意識が人間の思考を規定しているという20世紀フランス哲学に特徴的な主張を講義し、その内容の理解を深める。
30	まとめ	これまでの授業内容を総括し、一年間学んだことを振り返ることで哲学を学んだ意義を受講生各自が感じ取れるようにする。
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する。また、受講生の理解度や関心などに応じて授業内容を変更することがある。	

科目	日本史 (Japanese History)		
担当教員	深見 貴成 准教授		
対象学年等	全学科・5年・通年・選択・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(80%), D2(20%)	JABEE基準	(a),(b)
授業の概要と方針	1990年代以降の日本社会は、戦後に作り上げてきた政治・経済体制があらゆる意味で再編を迫られた時期であり、その再編は今も続いていると言える。このような時代に日本の近現代史を学び、なぜ日本がこのような社会になったのかを知ることが非常に重要である。よって、日本の20世紀前半の動きを学び、現代社会の課題を克服する上での知識を養いたい。また同時に歴史資料の重要性についても学んでいく。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】帝国主義の時代における日本社会の特徴を理解できる。		帝国主義の時代における日本社会の特徴を理解できるか、定期試験によって評価する。
2	【C3】大正デモクラシーの時代の特徴と現代との共通性を理解する。		大正デモクラシーの時代の特徴と現代との共通性を理解できるか、定期試験によって評価する。
3	【C3】昭和恐慌の影響とその後のファシズムの時代の特徴を理解する。		昭和恐慌の影響とその後のファシズムの時代の特徴を理解できるか、定期試験によって評価する。
4	【D2】近代日本における日本の植民地支配について理解し、アジア諸国と現代日本との関係を考える。		近代日本における日本の植民地支配について理解し、アジア諸国と現代日本との関係を考えることができるか、定期試験によって評価する。
5	【D2】第二次世界大戦へとつながる国際政治史の中に日本を位置づけることができる。		第二次世界大戦へとつながる国際政治史の中に日本を位置づけることができるか、定期試験によって評価する。
6	【C3】歴史資料の大切さを知り、身近にあることを確認する。また史料の内容を理解する。		歴史資料の大切さを知り、身近にあることを確認する。また史料の内容を理解することができるか、定期試験および歴史資料に関するレポートによって評価する。
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は、試験85% レポート15% として評価する。試験成績は定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする		
テキスト			
参考書			
関連科目	歴史(1年)・歴史(2年)・世界史(5年)		
履修上の注意事項	配布資料を毎時間持参すること。		

授業計画(日本史)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	導入ー日本近現代史を学ぶ意義	日本近現代史を学ぶにあたって、その学習する意味をこれまでの研究史から考える。また歴史資料とは何か、そしてその大切さについて言及する。
2	日露戦後の日本社会の変化	明治維新後の日本の歩みの概略を確認し、日露戦争後の日本社会が再編成されていく状況を学ぶ。
3	第一次世界大戦と日本社会(1)	第一次世界大戦が日本に与えた影響と帝国主義の時代における日本の位置を知る。またアジア諸国と日本の関係について確認する。
4	第一次世界大戦と日本社会(2)	第3週に同じ。
5	社会問題の発生(1)	大戦景気とその後の不況が日本社会に与えた影響の中で、特に社会問題の発生とその対応を知る。
6	社会問題の発生(2)	第5週に同じ。
7	政党政治の成立とその意義(1)	原敬内閣が成立した背景と政党政治の始まりの意義を知る。また日本のデモクラシー状況を民衆運動の中から学習する。
8	政党政治の成立とその意義(2)	第二次護憲運動によって成立した政党内閣の意義を知る。また当時の思想状況についても学習し、その特徴を理解する。
9	政党政治の成立とその意義(3)	デモクラシー期以降の政党政治の状況を知る。
10	男子普通選挙法と治安維持法の制定の意味	1925年に成立した男子普通選挙法と治安維持法の意義を学習する。
11	昭和恐慌の衝撃(1)	昭和恐慌が日本社会に与えた影響について、地域社会の状況、国家の政策などからその特徴と意味を知る。
12	昭和恐慌の衝撃(2)	第11週に同じ。
13	満州事変と「満州国」(1)	満州事変が起こる背景とその後成立した「満州国」について知る。
14	満州事変と「満州国」(2)	第13週に同じ。
15	小括ーデモクラシー期までの日本	これまでの歴史的経緯を振り返り、現代日本社会について考える。
16	植民地と日本	日本と植民地の関係を理解し、アジアにおいて日本がどのような位置にあったのかを知る。
17	植民地と日本(2)	第16週に同じ。
18	1930年代の日本の政治状況	1930年代の国際政治状況の中で日本がどのような位置にいて、外交政策を採ったのかを知る。
19	十五年戦争と日本	満州事変以後、日本がなぜ戦争へ突入したのかを理解する。
20	総力戦体制について考える(1)	「十五年戦争」期の日本社会を「総力戦体制」ととらえ、その特徴について考える。
21	総力戦体制について考える(2)	第20週に同じ。
22	民衆と戦争(1)	総力戦下において日本の民衆がどのように考え、行動していたのかを知る。
23	民衆と戦争(2)	第22週に同じ。
24	民衆と戦争(3)	第22週に同じ。
25	戦争をどうとらえるか	戦争、特にアジア・太平洋戦争についてふりかえり、現代における戦争と比較しながら現代の世界と日本を考える。
26	戦後改革と日本(1)	戦後の民主化を中心とする改革について、その特徴を学ぶ。特に日本国憲法の制定の意義について考える。また戦後の文化について学ぶ。
27	戦後改革と日本(2)	第26週に同じ。
28	戦後改革と日本(3)	第26週に同じ。
29	高度経済成長への展望	戦後改革を受けて、1960年代以降日本社会がどのように変化したのかを理解する。
30	まとめー「国民国家」としての近現代日本	「国民国家」としての日本近現代史を概観し、現代社会との共通点考える。また歴史資料の重要性について知る。
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する。	

科目	世界史 (World History)		
担当教員	町田 吉隆 教授		
対象学年等	全学科・5年・通年・選択・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(80%), D2(20%)	JABEE基準	(a),(b)
授業の概要と方針	現代の人類社会が抱える「環境と社会」,「人種的偏見と文化的多様性」という問題を歴史的に考える.対象とする地域も時代も多岐にわたるが,テーマごとに通時的に扱う.したがって通史ではない.社会的・経済的・政治的・文化的な視点から世界史を捉えることを目的とする.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】人類が直面した諸課題,気候変動や感染症などによる歴史的環境の変化を理解することができる.		人類が直面した諸課題,気候変動や感染症などによる歴史的環境の変化について理解できているかどうかを,プリントと定期試験で評価する.
2	【C3】栽培植物と農業,牧畜と遊牧などの生業形態と歴史的事件・事象の関連性について理解できる.		栽培植物と農業,牧畜と遊牧などの生業形態と歴史的事件・事象の関連性について理解できているかどうかを,プリントと定期試験で評価する.
3	【C3】奴隷制度,近代世界システム,資本主義,文化変容などの概念装置を用いて,人種的偏見の歴史的形成過程を理解することができる.		人種的偏見の歴史的形成過程を理解できているかどうかを,プリントと定期試験で評価する.
4	【D2】日本以外の世界の他地域について,その歴史的環境を理解した上で,当該地域における民族紛争,人種対立,異文化理解について具体的に問題点を説明することができる.		受講者が選んだ世界の特定地域について,歴史的環境を理解した上で,当該地域における民族・人種問題,異文化理解について,正確にかつわかりやすく説明できるかどうかを,レポートで評価する.
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は,試験80% レポート10% プリント10% として評価する.到達目標1,2,3については授業中に作業するプリントおよび前期・後期の定期試験の平均点で評価する.到達目標4についてはレポート(具体的な作成手順は指示する)で評価する.これらを総合して100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト			
参考書			
関連科目	歴史(1年生),歴史(2年生),日本史(5年生)		
履修上の注意事項	その他の参考文献,視聴覚資料については授業中に紹介する.		

授業計画(世界史)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	導入	人類史における自然環境と歴史的環境について概観する。
2	気候の変動(1)	気候変動と農業生産の開始に関する仮説を説明し、人類による最初の環境改造がどのように行われたかを学ぶ。
3	気候の変動(2)	ヨーロッパとアジアで起こった民族移動期の様相を学び、気候変動との関わりから、「中世社会」の成立について考える。
4	気候の変動(3)	小氷期の到来と「17世紀の危機」の様相について学び、ヨーロッパ近代社会の成立について考える。
5	農業と人類史(1)	栽培植物の起源、伝播と文化圏の成立について学ぶ。
6	農業と人類史(2)	農産物の貢納と税制の発達、「食物」の商品化が人類史に与えた影響について考える。
7	農業と人類史(3)	現代社会における農産物生産について視聴覚教材を用いて考える。
8	演習	今までの講義内容をプリントで整理し、その内容を構造的に理解する。
9	砂糖と人類史(1)	イスラーム世界における砂糖生産と、その商品化について学ぶ。
10	砂糖と人類史(2)	アメリカ大陸における砂糖生産と奴隷制度の関係について学び、近代世界システムの中での「食物」の商品化について考える。
11	砂糖と人類史(3)	「コーヒーハウス」発達の歴史から、近代市民社会の特質について学ぶ。
12	砂糖と人類史(4)	商品化された嗜好品と結びついた砂糖が近代社会で果たした役割について考える。
13	感染症と人類史(1)	歴史的事象としてのペスト流行について学び、人類の歴史と感染症の関係について考える。
14	感染症と人類史(2)	天然痘の流行が人類史に与えた影響と、その克服の過程について学ぶ。
15	感染症と人類史(3)	結核やインフルエンザの流行と近代化の関係を学び、現代社会の課題について考える。
16	人種と民族(1)	人種とは何か、民族とは何か、いくつかの定義を紹介し、その定義を具体的に検証する。
17	人種と民族(2)	人種的偏見とは何か、そのタイプを理解し、歴史的な具体例について学ぶ。
18	人種間対立(1)	視聴覚教材を用いて、人種間の対立の実相を知る。
19	人種間対立(2)	人種間の摩擦、対立の背景となる社会的要因について考える。
20	鏡としてのカナダ(1)	アメリカ合衆国との歴史との比較を通じて、地域主義、分離主義が国民国家としてのカナダを揺るがしている問題を考える。
21	鏡としてのカナダ(2)	視聴覚教材を用いて、地域主義、民主主義と人種的偏見が複雑に連関していることを学ぶ。
22	鏡としてのカナダ(3)	日系カナダ人を含むエスニックグループの歴史を学び、カナダ社会における多文化主義成立の背景を理解する。
23	演習	今までの講義内容をプリントで整理し、その内容を構造的に理解する。
24	公民権運動とは何だったのか(1)	1960年代以降の公民権運動の発展と変容について学び、アメリカ合衆国社会が現在も持つ課題について理解する。
25	公民権運動とは何だったのか(2)	1960年代以降の公民権運動の発展と変容について学び、アメリカ合衆国社会が現在も持つ課題について理解する。
26	公民権運動とは何だったのか(3)	1960年代以降の公民権運動の発展と変容について学び、アメリカ合衆国社会が現在も持つ課題について理解する。
27	キング牧師とマルコムX(1)	M.L.キングとマルコムX、二人の足跡をたどり、両者の思想を比較して考察することを通じて、人種的偏見を克服する方法について考える。
28	キング牧師とマルコムX(2)	両者の思想的遍歴、その考え方の変容を手掛かりに、現在のアメリカ合衆国社会の抱える課題について理解する。
29	ラス・カサスの思想(1)	大航海時代に生きたラス・カサスの思想的遍歴を通じて、人種的偏見の人類史的な意味について理解する。
30	ラス・カサスの思想(2)	人類史の課題としての人種的偏見を克服する道について考える。
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する。	

科目	社会科学特講 (Comprehensive Social Studies)		
担当教員	八百 俊介 教授		
対象学年等	全学科・5年・通年・選択・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(80%), D2(20%)	JABEE基準	(a),(b)
授業の概要と方針	前期は,諸外国における貧困・異文化共生・資源獲得などの政治的・社会的問題の発生原因について地誌的視点を交えて学習する。後期は途上国の経済発展,世界規模での経済問題を学習し,日本と途上国の関わりについて検討する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】貧困層をめぐる問題が社会的・経済的構造から理解できる		貧困層の発生原因,影響を歴史的過程,国内の社会的・経済的構造から理解できているか定期試験で評価する
2	【D2】異文化との軋轢の発生要因と対応が理解できる		異文化との軋轢の発生要因と対応が理解できているか定期試験で評価する
3	【C3】国際紛争・連携の要因としての資源問題が理解できる		国際紛争・連携の背景に資源確保・争奪が存在することが理解できているか定期試験で評価する
4	【C3】世界レベルでの経済活動の拡大過程と途上国の発展問題が理解できる		経済活動が拡大する過程や途上国の経済発展方法について理解できているか定期試験で評価する
5	【C3】途上国の発展に対する日本の取りうる援助方法を提示できる		途上国の発展に対する日本の取りうる援助方法が提示できるか定期試験で評価する
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は,試験100% として評価する。100点満点とし,60点以上を合格とする		
テキスト			
参考書			
関連科目	なし		
履修上の注意事項			

授業計画(社会科学特講)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	国際社会に対する視点	現在の国際社会が抱える問題について概観する
2	貧困問題1	先進国・途上国それぞれにおける貧困問題を社会的・経済的要因から学習する
3	貧困問題2	第2週目に同じ
4	貧困問題3	第2週目に同じ
5	外国人との共生1	国内の外国人増加の原因と迫害問題の原因について学習する
6	外国人との共生2	第5週目に同じ
7	外国人との共生3	第5週目に同じ
8	演習	第1週目から第7週目の範囲での演習を行う
9	民族・文化対立1	民族・文化を原因とする対立構造について学習する
10	民族・文化対立2	第9週目に同じ
11	資源確保と諸問題1	資源確保に関連する諸問題を考察する
12	資源確保と諸問題2	第11週目に同じ
13	資源確保と諸問題3	第11週目に同じ
14	資源確保と諸問題4	第11週目に同じ
15	まとめ	演習形式でのまとめ
16	経済の世界的枠組み1	国家間の経済活動の原初形態を学習する
17	経済の世界的枠組み2	第16週目に同じ
18	経済の世界的枠組み3	第16週目に同じ
19	世界経済の拡大1	経済活動の拡大原因と影響を学習する
20	世界経済の拡大2	第19週目に同じ
21	世界経済の拡大3	第19週目に同じ
22	世界経済の拡大4	第19週目に同じ
23	演習	第16週目から第22週目の範囲での演習を行う
24	途上国の経済発展1	新興国の発展原因について学習する
25	途上国の経済発展2	第24週目に同じ
26	途上国の経済発展3	第24週目に同じ
27	途上国の発展と援助1	途上国の発展に際し日本が取りうる援助策を検討する
28	途上国の発展と援助2	第27週目に同じ
29	途上国の発展と援助3	第27週目に同じ
30	まとめ	演習形式でのまとめ
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する。	

科目	人文科学特講(英会話) (Human Science)		
担当教員	ピレッジ 准教授		
対象学年等	全学科・5年・通年・選択・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(80%), D2(20%)	JABEE基準	(a),(b)
授業の概要と方針	アメリカ文化を紹介し英会話技術向上の為バラエティーに富む活動を行う。様々な技術を活用し、グローバルシンキングを培い、研究手段としての英語表現力向上も目指す		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】アメリカの文化の諸相ををより良く理解し、新たな発想を表現できる。		アメリカの文化の諸相を理解し新たな発想を表現できるかを、中間試験・定期試験、演習で評価する。
2	【C3】グローバルシンキングをテクノロジーを通してより深く理解できる。		授業中の質疑・応答を通して、各学生のグローバルシンキングの理解度を評価する。
3	【C3】テクノロジーを使って研究手段としての英語表現力を高める。		テクノロジーを使って研究手段としての英語表現力を高める事ができたかを演習で評価する。
4	【D2】英会話力を上達させる。		英会話力を上達させることができたかどうかを、中間試験・定期試験、演習で評価する。
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は、試験30% プレゼンテーション15% 演習40% プロジェクト15% として評価する。		
テキスト			
参考書			
関連科目	本科目はこれ以外の英語科が開講する全ての科目に関連する。		
履修上の注意事項	英和・和英辞書(電子辞書含む)を準備すること。		

授業計画(人文科学特講(英会話))

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	Introduction to the course	Overview of the course - Assessment of students' English proficiency
2	English Conversation and American Culture (1)	Self introductions, American greeting styles and language
3	Technology and studying English (1)	Introduction of technology useful when studying English as a second language
4	Global thinking and technology (1)	Introduce global thinking, global topics, using technology.
5	English Conversation and American Culture (2)	Focus on conversation skill building and American culture. Introduce ESL Card games.
6	Technology and studying English (2)	Discuss using technology to develop self-study tools.
7	Global thinking and technology (2)	Discuss using technology and English to interact on a global scale. Social media and Online gaming.
8	中間試験	Midterm test and assessment
9	English Conversation and American Culture (3)	Introduce American Culture and Conversation techniques through video.
10	Technology and studying English (3)	Brainstorming on new ESL language game ideas and tools to make them
11	Global thinking and technology (3)	Use technology to find out how other countries' college students live.
12	English Conversation and American Culture (4)	Conversation skills for debate, opinions and refusals
13	Technology and studying English (4)	Start to develop ESL original language game in groups.
14	Global thinking and technology (4)	Using technology to help in the development of study tools and continuation of group project
15	Group presentation	ESL language game development process presented to other groups for ideas and self-assessment, Review for end of semester assessment.
16	English Conversation and American Culture (5)	Introduction of different American popular tourist destinations and travel English
17	Technology and studying English (5)	Group ESL Language game final edits check
18	Global thinking and technology (5)	Introduction of presentation techniques and TED talks video
19	English Conversation and American Culture (6)	Presentation English and body language
20	Technology and studying English (6)	Tech skills for creating interesting PowerPoint presentations
21	Global thinking and technology (6)	TED talks video for presentation creating inspiration
22	Group project final adjustments	Students introduce ESL game to other groups and learn to use each language tool
23	Group Project Evaluation	Instead of midterm test, Group project will be evaluated by the teacher and peers
24	English Conversation and American Culture (7)	Group presentation brainstorming and script writing - Pecha Kucha format
25	Technology and studying English (7)	Powerpoint editing and advanced techniques
26	Global thinking and technology (7)	TED talks video for presentation creating inspiration
27	English Conversation and American Culture (8)	Script editing and peer/group/self assessment explanation - Pecha Kucha format
28	Technology and studying English (8)	Final - Pecha Kucha presentation project tech editing
29	Final individual (Pecha Kucha) presentations (1)	Final - Pecha Kucha Powerpoint Presentations in English with peer - assessment
30	Final individual (Pecha Kucha) presentations (2)	Final - Pecha Kucha Powerpoint Presentations in English with peer - assessment
備考	前期中間試験および前期定期試験を実施する。	

科目	人文科学特講(手話言語学) (Human Science)		
担当教員	今里 典子 教授		
対象学年等	全学科・5年・通年・選択・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(80%), D2(20%)	JABEE基準	(a),(b)
授業の概要と方針	言語学の基礎的な概念や考え方を学んだ上で、日本手話(JSL)を対象に、言語とは何か、コミュニケーションとは何かを考察する。日本手話の構造を理解し、少数言語使用者である聾者への理解を深め、工学技術が福祉分野で貢献出来る可能性にも触れる。講義終了時には手話で基本的なコミュニケーションができる事も目指す。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】日本手話が独立した言語である事を言語学の視点から説明出来る。		日本手話が独立した言語である事を言語学の視点から説明出来るかを、定期試験・レポートで評価する。
2	【C3】手話話者である聾者について説明出来る。		手話話者である聾者について説明出来るかどうかを、定期試験・レポートで評価する。
3	【C3】工学技術が福祉分野に貢献する可能性について議論出来る。		工学技術が福祉分野に貢献する可能性について議論出来るかどうかを、定期試験・演習で評価する。
4	【D2】基本的な日本手話を使って簡単なコミュニケーションができる。		基本的な日本手話を使って簡単なコミュニケーションができるかどうかを、定期試験、演習で評価する。
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は、試験40% レポート50% 演習10% として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。手話の特性上、JSLの習得度合い等については、記述式のテストにはなじまないため、評価方法については授業中に詳しく解説する。		
テキスト			
参考書			
関連科目	本科目は該当無し。		
履修上の注意事項	授業では積極的に質問・発言する事が求められる。必ず基本的手話表現を習得する必要がある。また倫理上の問題にも留意する事が求められる。		

授業計画(人文科学特講(手話言語学))

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	イントロダクション	手話学習の注意事項説明,アンケートの実施.手話単語と指文字の違いについて学習する.
2	世界の言語	世界に存在している様々な言語の現状について学習する.指文字1+JSL語彙1
3	言語の定義	コミュニケーションの様々な手段のうち「言語」は他の手段とどのように異なり,いかに定義されるのかを学習する.指文字2+JSL語彙2
4	ノンバーバルコミュニケーション	音声言語とともに現れうるノンバーバルコミュニケーション手段について学習する.指文字3+JSL語彙3
5	音声学	音声言語における発声と聞こえのメカニズムを学習する.指文字4+JSL語彙4
6	手話言語の発生	手話言語がどのように生まれたのかその発生のプロセスと,JSLの歴史を学ぶ.指文字5+JSL語彙5
7	手話言語の習得	聾児の手話習得プロセスについて学習する.指文字6+JSL語彙6
8	手話表現と指文字まとめ	ここまで学習した手話表現と指文字について理解しているかどうか確認を行う.
9	手話言語の記述法	手話言語の記述法について学習する.+手話表現1
10	音韻論	ASLで見られる音韻ルールを紹介したうえで,JSLの音韻について学習する.+手話表現2
11	形態論	JSLがどのような形態の構造を持っているかを学習する.+手話表現3
12	統語論1	JSLの文法について学習する.(CL,動詞分類,語順)+手話表現4
13	統語論2	JSLの文法について学習する.(NMM, AUX)+手話表現5
14	手話表現まとめ1	前期に学んだ手話表現を復習する.
15	レポート講評会	レポートの講評を行い,それぞれが内容について改善し提出する.
16	レポート発表会1	レポートの内容をプレゼンテーションする.(前半)
17	レポート発表会2	レポートの内容をプレゼンテーションする.(後半)
18	意味論	JSLの意味について学習する.+手話表現6
19	語用論	JSLの語用について学習する.+手話表現7
20	手話失語	手話の失語について学習する.+手話表現8
21	聾文化	聾者の文化について学習する.+手話表現9
22	手話言語教育	世界と日本の手話教育について学習する.+手話表現10
23	手話表現まとめ2	後期に学習した手話表現について復習を行う.
24	情報保障1	情報保障の一般的な方法について学習する.+手話表現11
25	情報保障2	情報保障の技術について学習する.+手話表現12
26	情報保障3	情報保障と災害について学習する.+手話表現13
27	手話演習1	JSLを使用したコミュニケーションの演習を行う.自分の意見を発表する練習.
28	手話演習2	JSLを使用したコミュニケーションの演習を行う.Q&Aの練習.
29	手話演習3	JSLを使用したコミュニケーションの演習を行う.グルーブトークの練習.
30	まとめ	ここまで学んだ事を正しく説明できるかを確認する.
備考	後期定期試験を実施する.後期定期試験を実施する.	

科目	経済学 (Economics)		
担当教員	高橋 秀実 教授		
対象学年等	全学科・5年・通年・選択・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(80%), D2(20%)	JABEE基準	(a),(b)
授業の概要と方針	現代日本経済・世界経済の諸テーマを多面的に検証する。最新の経済テーマ・トピックスを採り入れ、時事経済記事・データを紹介し、経済動向を視野に入れつつ、現代経済の全体像を浮き彫りにする。転換期としての日本経済・世界経済の現状と課題を把握し、技術者として現代経済を広い視野から分析し判断しうる見識を養成する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】終身雇用・年功序列型雇用制度の変化、フリーター・非正規雇用の増大、失業率や雇用動向を最新データを用いて検証し、ワーキングプアなど現代の格差問題を考察する。		労働・雇用問題の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
2	【C3】少子化・高齢化の現況と原因を分析し、財政・税制・社会保障・経済成長に及ぼす影響や問題点を考察する。		少子化・高齢化問題の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
3	【C3】金融危機・財政危機が複合した現代の世界経済危機を考察する		日本及び世界経済の現況と課題の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
4	【C3】貿易の現状と課題を考察する。グローバル化と地域経済統合が進展する世界経済において、自由貿易と保護貿易を比較考察し、TPPの問題点を検証する。		貿易についての理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
5	【D2】技術革新と産業構造の変化の関連を考察する。サービス化・ソフト化・グローバル化・IT化・少子高齢化などの影響を考察する。		技術革新と産業構造の関連の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
6	【C3】資源エネルギー問題、環境問題、と経済の関連を考察する。		資源エネルギー問題、環境問題、の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は、試験70%、レポート・授業提出物30% で評価する。試験成績は前後期の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	政治経済(3年)		
履修上の注意事項	なし		

授業計画(経済学)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	現代世界経済・日本経済	現代世界経済・日本経済が置かれている現状を分析し考察する。
2	現代世界経済・日本経済	現代世界経済・日本経済が置かれている現状を分析し考察する。
3	現代世界経済・日本経済	現代世界経済・日本経済が置かれている現状を分析し考察する。
4	雇用・労働	完全失業率・有効求人倍率の概念,近年の失業率の推移など,雇用の現況を把握するための基礎知識を習得する。
5	雇用・労働	終身雇用制・年功序列型賃金・企業別労働組合など,戦後日本の雇用の特徴を検証し考察する。
6	雇用・労働	フリーターなど非正規雇用の増加の現状を分析し,雇用形態の多様化とその問題点を考察する。能力主義・成果主義賃金への転換など,雇用制度に関する現代的潮流を考察する。
7	日本のバブル経済:発生と崩壊	ブラザ合意以降の株価・地価高騰,バブル経済化,1990年代株価・地価暴落,バブル崩壊を分析する。
8	平成不況と金融危機	1990年代バブル崩壊後のデフレ経済,金融危機を招いた銀行の不良債権問題を分析し考察する。
9	IT革命とグローバリゼーション	1990年代以降世界経済の構造変化を生じさせた要因として,情報通信を基盤とする技術革新(IT革命)と,世界市場の一体化(グローバリゼーション)を考察する。
10	労働・雇用	賃金・労働時間・休暇など,労働基準法が規定する労働者の権利を検証する。女性の労働問題を考察する。
11	少子化・高齢化	日本の少子化・高齢化の現状を分析し考察する。
12	少子化・高齢化	晩婚化・未婚化及び経済的理由による出生率低下などの諸観点から,少子化の原因を分析し考察する。
13	少子化・高齢化	財政・税制・社会保障など様々な面に及ぼす少子化・高齢化の経済的影響を考察する。
14	格差問題	所得格差・ワーキングプアなど近年の格差拡大の現状を理解し,その原因を分析する。雇用形態の変化,高齢化など様々な要因から多面的に考察する。
15	前期総括	前期の授業内容を総括する。
16	現代世界経済・日本経済	現代世界経済・日本経済が置かれている現状を分析し考察する。
17	現代世界経済・日本経済	現代世界経済・日本経済が置かれている現状を分析し考察する。
18	財政	公共財の供給・所得の再分配・景気の調整など諸観点から,財政の機能を考察する。
19	租税	直接税と間接税の比較を中心に税制度を分析する。国債累積・財政破綻の現状を分析する。
20	社会保障	日本の社会保障制度の現状と問題点を分析し考察する。
21	資源・エネルギー問題	資源・エネルギー問題について考察する。
22	資源・エネルギー問題	原子力発電の問題点と課題,新エネルギーの可能性について検証する。
23	環境問題	公害問題について考察する。
24	環境問題	地球環境問題について考察する。
25	貿易	日本の貿易の特徴を分析する。日本企業の生産海外移転・多国籍企業化を理解し,グローバリゼーションを考察する。
26	貿易	中国経済の現状を分析し,日中経済関係のあり方を考察する。
27	技術革新と産業構造	ペティ・クラークの法則が示す産業構造の変動を日本経済の歩みを通じて実証する。
28	技術革新と産業構造	戦後日本の技術革新の特徴を考察し,技術革新と産業構造の変遷の連関性を分析する。
29	技術革新の新しい潮流	情報通信革命,環境との調和,コンピュータ・ロボット・人工知能など,注目される技術革新の新しい潮流を考察する。
30	総括:世界経済・日本経済の現状と課題	全授業の総括として,世界経済・日本経済が置かれている現状と諸課題を考察する。
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する。時事経済テーマを随時導入するため,上記予定テーマの内容と順序は変更可能性あり。	

科目	情報基礎 (Fundamentals of Information Technology)		
担当教員	渡辺 昭敬 教授, 増田 興司 講師, 久貝 潤一郎 准教授, 九鬼 導隆 教授		
対象学年等	応用化学科・1年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A3(100%)		
授業の概要と方針	本講義は、コンピュータを電子文房具として手軽に使うために必要となる基礎技術を身につけることを目的としている。授業では、コンピュータやネットワークの仕組みを理解しながら、キーボードの操作や文書入力、電子メールの操作、コマンドによる Linux の操作、Web ページの作成方法、WWW による情報収集と発信、アプリケーションソフトウェア(ワープロ、表計算、プレゼンテーション)の操作について演習をしながら学習していく。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A3】コンピュータや電子メールを利用する際のマナーを身につける。		コンピュータや電子メールを利用する際のマナーを身につけたかレポートと後期中間試験で評価する。
2	【A3】コンピュータおよびネットワークとセキュリティの基本的概念が理解できる。		コンピュータおよびネットワークとセキュリティの基本的概念を理解したか後期中間試験で評価する。
3	【A3】コマンドを利用してLinuxの基本的な操作を行うことができる。		コマンドを利用して基本的な操作を行うことができるか後期中間試験で評価する。
4	【A3】タッチタイピングができる。		タイピングテスト結果で評価する。
5	【A3】インターネット上の倫理観を身につけながら情報を収集、加工、発信 (HTMLによるWebページ作成) できる。		インターネットを通して情報を収集・加工・発信 (HTMLによるWebページ作成) できるか、また倫理観が身につけているかレポートと後期中間試験で評価する。
6	【A3】ワードプロセッサを使って文書作成ができる。		ワードプロセッサを使って文書作成ができるかレポートと後期中間試験で評価する。
7	【A3】表計算ソフトウェアを使って簡単な計算およびデータ処理、グラフ作成ができる。		表計算ソフトウェアを使って簡単な計算およびデータ処理、グラフ作成ができるかレポートと後期中間試験で評価する。
8	【A3】プレゼンテーションソフトウェアを使って簡単な作図およびスライドを作成することができる。		プレゼンテーションソフトウェアを使って簡単な作図およびスライドを作成できるかレポートで評価する。
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は、試験30% レポート60% タイピング10% として評価する。試験成績は、後期中間試験の点数とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	情報処理I, II		
履修上の注意事項	本科目は演習を通じて修得する科目である。そのため、総合情報センターの演習室開放を積極的に利用するのが望ましい。		

授業計画(情報基礎)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	演習システムと利用方法	演習室の利用方法,ログイン,ログオフ,利用上のマナーについて説明し,コンピュータの基本的構造について学習する.
2	タイピング練習,SNS利用について	キーボード配列について学び,タイピング練習を行う.ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)を利用する上での注意点を学習する.
3	タイピング練習,メール送受信(1)	タイピング練習.電子メールのマナーおよび操作方法を学習する.
4	タイピング練習,メール送受信(2)	タイピング練習.メール送受信を行う.
5	タイピング練習,Linuxの基本コマンド(1)	タイピング練習.エディタの使用法について学習する.
6	タイピング練習,Linuxの基本コマンド(2)	タイピング練習.ファイルやディレクトリの基本操作を学習する.
7	タイピング練習,Linuxの基本コマンド(3)	タイピング練習.ファイルやディレクトリの基本操作を学習する.
8	復習	1~7週目までについての復習を行う.
9	コンピュータの基礎	コンピュータのハードウェアおよびソフトウェアの一般的な知識について学習する.
10	インターネットとセキュリティ	WWWの仕組みおよびセキュリティや倫理について学習する.
11	WWWを利用した情報検索	WWWを有効に利用するための検索手段について学習する.
12	ワードプロセッサの利用(1)	ワープロの基本的な操作(入力方法など)について学習する.
13	ワードプロセッサの利用(2)	ワープロの基本的な操作(書式設定など)について学習する.
14	ワードプロセッサの利用(3)	ワープロの基本的な操作(数式と図)について学習する.
15	表計算ソフトウェアの利用(1)	表計算ソフトの基本的な操作方法および関数の使い方について学習する.
16	表計算ソフトウェアの利用(2)	表計算ソフトを用いて基本的なデータ処理(抽出,ソートなど)の方法について学習する.
17	表計算ソフトウェアの利用(3)	表計算ソフトを用いて基本的なグラフ作成方法について学習する.
18	演習	これまで学習した内容について演習を行う.
19	HTMLによるWebページ作成(1)	HTMLによるWebページ作成のための基本事項について学習する.
20	HTMLによるWebページ作成(2)	HTMLによるWebページ作成のための基本事項について学習する.
21	HTMLによるWebページ作成(3)	HTMLによるWebページ作成のための基本事項について学習する.
22	コンピュータの基礎	コンピュータのハードウェアおよびソフトウェアの一般的な知識について復習する.
23	中間試験	コンピュータおよびネットワークについて筆記試験を行う.
24	プレゼンテーションソフトウェアの利用(1)	プレゼンテーションについて学び,プレゼンテーションソフトウェアを利用して演習を行う.
25	プレゼンテーションソフトウェアの利用(2)	プレゼンテーションソフトウェアを利用して図形の描画,他のアプリケーションとの連携の演習を行う.
26	プレゼンテーションソフトウェアの利用(3)	的確で分かりやすいプレゼンテーション方法について学び,プレゼンテーションの準備を行う.
27	演習	これまで学習した内容について演習を行う.
28	演習	これまで学習した内容について演習を行う.
29	演習	これまで学習した内容について演習を行う.
30	演習	これまで学習した内容について演習を行う.
備考	後期中間試験を実施する.	

科目	基礎化学実験 (Laboratory Work in Fundamental Chemistry)		
担当教員	下村 憲司朗 准教授, 根津 豊彦 教授, 宮下 芳太郎 教授		
対象学年等	応用化学科・1年・通年・必修・4単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-C1(10%), A4-C2(50%), B1(10%), B2(10%), C4(10%), D1(10%)		
授業の概要と方針	本格的な化学実験を初めて行う学生を対象としているので, 化学に興味を持つことができるような内容を中心に化学実験の基礎的な技術を修得させる。また, 溶液の濃度に関しては演習問題を中心に理解させる。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-C1】化学実験に必要な基本的操作および器具の使用法を修得する。		基本操作が確実に行われ, 適切な実験結果を出すことができているかを, 主に実験のレポートで評価する。基本操作の意味や原理についての的確に説明できるかを, 主に定期試験で評価する。
2	【A4-C2】定性分析実験の原理を理解し, 操作方法を修得する。また, 未知の試料に対して, 含有物を同定することができる。		定性分析実験の原理と操作法の理解度をレポートおよび後期定期試験で評価する。更に未知試料中の含有物を同定できるかを後期に実施する小テストと実験技術で評価する。
3	【A4-C2】溶液の濃度が計算できる。		溶解度, 重量百分率, モル濃度の計算について理解しているかを, 前期に実施する小テストと前期定期試験で評価する。
4	【B1】実験結果を適切に表す図・表が書ける。		テーマ毎のレポート内容で評価する。
5	【B2】操作についての的確な説明ができる。		テーマの実験操作を正しく理解しているかをレポートの内容で評価する。
6	【C4】期限内にレポートを提出できる。		テーマ毎のレポート提出状況で評価する。
7	【D1】廃液を適切に分別し, 処理することができる。		実験廃液を水銀や重金属, 有機系廃液として適切に分別するための知識を修得したかを実験技術と後期定期試験で評価する。
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は, 試験20% レポート60% 小テスト10% 実験技術10% として評価する。総合評価は前期・後期の平均点とし, 100点満点で60点以上を合格とする。小テストについては, 前期は濃度計算問題を対象とし, 後期は未知試料の定性分析を対象とする。レポートが未提出の場合は上記評価方法は適用しない。		
テキスト			
参考書			
関連科目	C1化学		
履修上の注意事項	実験中は, 白衣ならびに安全眼鏡もしくは眼鏡を着用のこと。同時期に学習する1年生の化学をしっかりと勉強し, 化学に対する十分な理解を深めていくことが望ましい。		

授業計画(基礎化学実験)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	化学実験全般に関する説明	初めて本格的な化学実験を行うことになるので、実験に対する準備や心構え、実験室での諸注意、薬品の扱い方、実験廃液の処理方法、緊急時の行動、レポートの書き方、等々化学実験全般に関する説明を行う。
2	ガラス細工	軟質ガラスのガラス棒とガラス管から、ブンゼンバーナーを用いて、かきませ棒、スポイト、マイクロパチュラ、毛細管を作製する。
3	濃度計算(重量百分率、溶解度)、粗脂肪の抽出、Bomb熱量計による炭素の発熱量測定	化学実験には欠かせない、溶液の濃度計算等のうち、重量百分率と溶解度について解説する。ソックスレー抽出器を用いて、胡麻や大豆といった身近な食品から粗脂肪を抽出し、各々の食材の油分の定量を行う。また、デモンストレーション実験として、木炭粉をトムソン熱量計で燃焼させ、炭素の発熱量を求める。
4	濃度計算(モル濃度、溶液の希釈、溶液の比重)	化学実験には欠かせない、溶液の濃度計算等のうち、モルの概念と溶液のモル濃度、溶液の密度と比重について解説する。
5	溶液の比重の測定	比重測定用浮き秤を用いて、食塩水等の比重を測定し、濃度と比重の間に比例(直線)関係があることを調べる。また、濃度が未知の食塩水、塩酸、水酸化ナトリウム溶液の比重を測定し、比例関係を用いて濃度を決定する。
6	石鹼の製造	簡単な有機化学実験として、石鹼の合成を行う。サラダ油にオルトハイ酸ナトリウムを加え、ケン化を行い石鹼を製造する。
7	ミョウバンの合成I	ミョウバンをアルミニウムより合成し、再結晶法により高純度のミョウバン結晶を得る。
8	ミョウバンの合成II	ミョウバンをアルミニウムより合成し、再結晶法により高純度のミョウバン結晶を得る。
9	ミョウバンの融点測定	固体物質の純度を知るのに、融点を測定する方法がある。前回の実験で用意した、粗製ミョウバンと再結晶ミョウバンを使い、双方の融点を測定し、物質の純度と融点の関係を調べる。
10	蒸留法による純水の製造	液体を精製する方法として蒸留法がある。食塩とメチルオレンジを加えた溶液を、蒸留することにより純水を作り出す。
11	10週目までの実験のまとめあるいは工場見学	10週目までに行った実験のまとめを行う。あるいは化学系の工場や研究所、施設等を見学し、化学が活用されている現場の状況を知る。
12	定性分析法の説明、定性分析に用いる試薬の調製・準備	定性分析(半微量分析法)の原理および操作方法について説明する。陽イオンの半微量定性分析で必要となる試薬の準備を行う。
13	第1属陽イオンの反応:各個反応I	第1属陽イオンの特徴を理解し、各イオンの特徴的な反応を確かめる。
14	第1属陽イオンの反応:各個反応II	第1属陽イオンの特徴を理解し、各イオンの特徴的な反応を確かめる。
15	第1属陽イオンの反応:系統分析	第1属陽イオンが全て含まれる試料溶液から、各イオンを個別に分析する方法を修得する。
16	第2属A陽イオンの反応:各個反応I	第2属A陽イオンの特徴を理解し、各イオンの特徴的な反応を確かめる。
17	第2属A陽イオンの反応:各個反応II	第2属A陽イオンの特徴を理解し、各イオンの特徴的な反応を確かめる。
18	第2属A陽イオンの反応:系統分析	第2属A陽イオンが全て含まれる試料溶液から、各イオンを個別に分析する方法を修得する。
19	第2属B陽イオンの反応:各個反応	第2属B陽イオンの特徴を理解し、各イオンの特徴的な反応を確かめる。
20	第2属B陽イオンの反応:系統分析	第2属B陽イオンが全て含まれる試料溶液から、各イオンを個別に分析する方法を修得する。
21	第3属陽イオンの反応:各個反応	第3属陽イオンの特徴を理解し、各イオンの特徴的な反応を確かめる。
22	第3属陽イオンの反応:系統分析	第3属陽イオンが全て含まれる試料溶液から、各イオンを個別に分析する方法を修得する。
23	第4属陽イオンの反応:各個反応	第4属陽イオンの特徴を理解し、各イオンの特徴的な反応を確かめる。
24	第4属陽イオンの反応:系統分析	第4属陽イオンが全て含まれる試料溶液から、各イオンを個別に分析する方法を修得する。
25	未知試料の同定	各個人に渡された、未知試料について系統分析を行い、未知試料中に含まれる陽イオンを同定する。6週に渡って行う。
26	未知試料の同定	各個人に渡された、未知試料について系統分析を行い、未知試料中に含まれる陽イオンを同定する。6週に渡って行う。
27	未知試料の同定	各個人に渡された、未知試料について系統分析を行い、未知試料中に含まれる陽イオンを同定する。6週に渡って行う。
28	未知試料の同定	各個人に渡された、未知試料について系統分析を行い、未知試料中に含まれる陽イオンを同定する。6週に渡って行う。
29	未知試料の同定	各個人に渡された、未知試料について系統分析を行い、未知試料中に含まれる陽イオンを同定する。6週に渡って行う。
30	未知試料の同定および確認	各個人に渡された、未知試料について系統分析を行い、未知試料中に含まれる陽イオンを同定する。6週に渡って行う。同定結果についての確認・整理を行う。
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する。	

科目	無機化学I (Inorganic Chemistry I)		
担当教員	宮下 芳太郎 教授		
対象学年等	応用化学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-C2(100%)		
授業の概要と方針	無機化学の基礎理論と元素の各論を学ぶことで,周期表を身近に感じ,多種多様な元素を含む物質の性質や化学変化に興味を持ち,化学反応式が手軽に書けるようにする。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-C2】元素記号,元素名を日本語および英語で書ける.無機物質の基本的な命名法が理解できる.		元素記号,元素名を日本語および英語で書けるか,無機物質の基本的な命名法が理解できているかを,前期小テストおよび後期定期試験で評価する.
2	【A4-C2】原子の構造に関する基礎的事項(水素原子モデルや量子数など)が理解できる.		原子の構造に関する基礎的事項(水素原子モデルや量子数など)について理解し,説明できるかを,前期中間試験で評価する.
3	【A4-C2】各元素の電子配置と周期表における位置関係が理解できる.		各元素の電子配置と周期表における位置関係について理解し,説明できるかを,前期レポートおよび前期中間・定期試験で評価する.
4	【A4-C2】原子の物性(原子半径とイオン半径,イオン化エネルギー,電気陰性度など)と周期表の関係が理解できる.		原子の物性(原子半径とイオン半径,イオン化エネルギー,電気陰性度など)と周期表の関係について理解し,説明できるかを,前期レポートおよび前期定期試験で評価する.
5	【A4-C2】結晶構造や無機材料の概要について理解し,説明できる.		結晶構造や無機材料の概要について理解し,説明できるかを,後期レポートおよび後期中間試験で評価する.
6	【A4-C2】代表的な分子の構造や結合理論について理解し,説明できる.		代表的な分子の構造や結合理論について理解し,説明できるかを,後期小テストおよび後期中間試験で評価する.
7	【A4-C2】水素,酸素およびs-ブロック元素の単体・化合物の製法や性質を理解するとともに,主な化学的現象を化学反応式で書ける.		水素,酸素およびs-ブロック元素の単体・化合物の製法や性質について理解し,説明できるか,主な化学的現象を化学反応式で書けるかを,後期小テスト,後期レポート,後期中間・定期試験で評価する.
8	【A4-C2】原子の物性,熱化学および水素,酸素およびs-ブロック元素の各論に関する基本的な計算問題が解ける.		原子の物性,熱化学および水素,酸素およびs-ブロック元素の各論に関する基本的な計算問題が解けるかを,後期小テストおよび前後期中間・定期試験で評価する.
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は,試験80% レポート10% 小テスト10% として評価する.100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト			
参考書			
関連科目	C1「化学」,C1「基礎化学実験」,C2「分析化学I」,C2「応用化学実験I」		
履修上の注意事項	授業中,すべてのテキストおよび配付プリントを常に参照できる状態にしておくこと.		

授業計画(無機化学I)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	無機化学ガイダンス	2年から始まる専門科目としての「無機化学」の位置付けやその範囲について述べる。
2	元素の名称,原子の構造	元素記号と元素名,超重元素の暫定的命名法について説明する.原子を構成する素粒子について説明する。
3	同位体,元素の存在度	同位体の存在と原子番号や質量数などについて説明するとともに,元素記号の表し方について説明する.地殻中の元素の存在度(クラーク数)および海水中や人体中などとの存在度の違いについて述べる。
4	水素原子モデル	電子がとびとびの特定の大きさのエネルギー状態(エネルギー準位)しかとれないことを水素原子の輝線スペクトルから説明する.水素原子モデルの歴史を述べ,原子半径や軌道をまわる電子のエネルギーに関して説明する。
5	量子数と軌道	量子数(主量子数・副量子数・磁気量子数・スピン量子数)という概念を導入し,軌道との関係について説明する。
6	遮蔽と有効核電荷	遮蔽や有効核電荷という概念を導入し,軌道のエネルギーとの関係について説明する.スレーターの規則による有効核電荷の推定についても説明する。
7	各原子の電子配置を規定する法則	原子軌道と電子配置との関係について説明する.各原子の電子配置を規定する法則である構成原理(積み上げ原理),パウリの排他律,フントの規則について説明する。
8	中間試験	1週目から7週目までの内容で中間試験を行う。
9	中間試験の解答,元素の周期性	中間試験の解答を行う.元素の電子配置による分類(典型元素・遷移元素)と周期表上における位置関係について説明するとともに,族の名称についても述べる.原子半径の周期性について説明する。
10	イオンの生成,無機物質命名法(1)	陽イオンおよび陰イオンの電子配置や半径について説明する.比較的単純な無機物質の命名法(英語名および日本名)の基礎を説明する。
11	無機物質命名法(2)	引き続き,比較的単純な無機物質の命名法(英語名および日本名)の基礎を説明する。
12	イオン化エネルギーと電子親和力,電気陰性度	イオン化エネルギーおよび電子親和力の概念を述べ,それらの周期性を説明する.種々の方法で定義された電気陰性度について説明する。
13	金属性と非金属性,化学結合(1)	金属性(非金属性)と元素の周期律および化学結合との関係を説明する.周期表の左上と右下の元素どうしの性質が似る対角線関係について説明する.種々の化学結合(共有結合,イオン結合,金属結合など)について相違点を説明する。
14	化学結合(2),結合エネルギー	共有結合性とイオン結合性について説明する.化学結合の結合エネルギーについて説明する。
15	格子エネルギー,ボルン-ハーバーサイクル	結晶の格子エネルギーについて説明する.ヘスの法則について述べた後,ボルン-ハーバーサイクルの意味と簡単な計算方法を説明する.これまで学習した内容に関して総合的な演習を行う。
16	結晶(1)	3種類の金属の結晶格子について,類似点と相違点を説明する.イオン半径比に基づくイオン結晶の種類について説明する。
17	結晶(2)	共有結合結晶と分子結晶について説明する.代表的な宝石を紹介し,組成の類似点などを述べる。
18	無機材料	代表的な無機材料(合金,めっき,半導体など)について概要を説明する。
19	分子の形と結合理論(1)	原子価結合理論(VB理論)を用いて混成軌道や多重結合について説明する。
20	分子の形と結合理論(2)	原子価殻電子対反発理論(VSEPR理論)を用いて分子の構造を定性的に推定する方法を説明する。
21	分子の形と結合理論(3)	分子軌道理論(MO理論)を用いて結合次数や磁性について説明する。
22	酸素と水素(1)	最も簡単な元素である水素(H)の製法,物理的・化学的性質,反応性,貯蔵・運搬法について説明する.金属のイオン化傾向と水素の発生との関係についても触れる.特別な水素化合物である水素化物について説明する。
23	中間試験	16週目から22週目までの内容で中間試験を行う。
24	中間試験の解答,酸素と水素(2)	中間試験の解答を行う.酸素(O)の単体の物理的性質や電子構造,実験室的製法を説明する.酸化物,過酸化物,超酸化物の生成や反応性について,酸素の酸化数と関連づけて説明する。
25	酸素と水素(3)	オキソ酸の構造について述べる.オキソ酸の酸化力や酸性度について,酸化数の観点から説明する.命名法についても触れる.主なオキソ酸の製法と性質について説明する。
26	酸素と水素(4)	非常に重要で身近な水素化合物である水の特異性について説明する.水溶液の共沸についても述べる。
27	1族元素(1)	アルカリ金属元素(Li,Na,K,Rb,Cs,Fr)の一般的性質(比重,融点,イオン化エネルギーなど)について説明した後,特に単体の水との反応性について述べる。
28	1族元素(2)	ナトリウム化合物の性質や反応を説明した後,工業的製法(熔融塩電解・イオン交換膜法・アンモニアソーダ法)を説明する。
29	2族元素(1)	アルカリ土類金属元素(Be,Mg,Ca,Sr,Ba,Ra)の一般的性質をアルカリ金属のものと比較しながら説明する.アルカリ土類金属化合物の性質や反応について説明する。
30	2族元素(2)	カルシウムとマグネシウムに関連して,水の硬度や石鹸の洗浄作用への影響など身近な事項について説明する.バリウムの特異な性質について述べる.これまで学習した内容に関して総合的な演習を行う。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	有機化学I (Organic Chemistry I)		
担当教員	大淵 真一 教授		
対象学年等	応用化学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-C1(100%)		
授業の概要と方針	有機化合物(アルカン,シクロアルカン,アルケン,アルキン,芳香族化合物,ハロゲン化合物)の構造と命名,物理的性質,合成法,反応性などを中心に有機化学の基本的な事項及び理論を学習する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-C1】有機化合物の構造と結合について理解でき,飽和炭化水素(アルカン,シクロアルカン類)の命名法を修得する。		飽和炭化水素の命名法や反応理論を理解し説明できるか,小テストと演習問題解答レポートと前期中間試験で評価する。
2	【A4-C1】不飽和炭化水素(アルケン,アルキン類)の命名法を修得し,構造・合成法・性質・反応について理解できる。		不飽和炭化水素の命名法や反応理論を理解し説明できるか,小テストと演習問題解答レポートと前期定期試験で評価する。
3	【A4-C1】芳香族化合物(ベンゼンおよびその誘導体)の命名法を修得し,構造・合成法・性質・反応について理解できる。		芳香族化合物の命名法や反応理論を理解し説明できるか,小テストと演習問題解答レポートと後期中間試験で評価する。
4	【A4-C1】立体化学に関する基礎知識を修得し,光学異性体の構造・命名が記述できる。		立体化学に関する定義,光学異性体の構造・命名が記述できるか,小テストと演習問題解答レポートと後期中間試験および後期定期試験で評価する。
5	【A4-C1】ハロゲン化合物の命名法を修得し,構造・合成法・性質・反応について理解できる。		ハロゲン化合物の命名法や反応理論を理解し説明できるか,小テストと演習問題解答レポートと後期定期試験で評価する。
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は,試験80% レポート10% 小テスト10% として評価する.試験成績は4回の試験の平均点とする.なお,未提出レポートがあった場合はこの限りではない.100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	C2無機化学I,C2分析化学I		
履修上の注意事項	応用化学科の基礎科目の一つです.試験のためだけの知識としないようにしてください。		

授業計画(有機化学I)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	有機化学のガイダンス, 原子の電子構造	有機化学の領域や本質について興味ある話題を提供しながら分かりやすく解説する。化学の基本である原子の電子構造を電子殻や原子軌道理論を使って説明する。
2	有機化合物の構造と結合(1)	化学結合(イオン結合, 共有結合, 配位結合)について解説する。分子式や構造式の書き方について解説する。基本的な飽和炭化水素の命名法(IUPAC命名法)を解説する。
3	有機化合物の構造と結合(2)	原子価, 構造異性, 形式電荷, 共鳴構造について解説する。基本的な飽和炭化水素の命名法(IUPAC命名法)を解説する。
4	有機化合物の構造と結合(3)	炭素原子の $\sigma$ 結合とsp <sup>3</sup> 混成軌道について解説する。種々の反応性を持つ官能基について解説する。基本的な飽和炭化水素の命名法(IUPAC命名法)を解説する。
5	アルカンとシクロアルカン(1)	飽和炭化水素化合物であるアルカンとシクロアルカンの構造と命名法(IUPAC命名法), 立体異性体について解説する。
6	アルカンとシクロアルカン(2)	シクロアルカンの立体配座について解説する。アルカンとシクロアルカンの酸化反応について解説する。
7	アルカンとシクロアルカン(3)	アルカンとシクロアルカンのラジカル置換反応について解説する。これまでの内容を練習問題を使って復習する。
8	中間試験	有機化合物の基本的事項および飽和炭化水素(アルカン・シクロアルカン)の命名法, 反応理論の理解度を試験する。
9	中間試験解答及びアルケン(1)	中間試験内容を解説する。不飽和炭化水素(アルケン)の構造と命名法について解説する。
10	アルケン(2)	アルケンの結合である $\pi$ 結合とsp <sup>2</sup> 混成軌道について解説する。シストランス異性体について解説する。
11	アルケン(3)	アルケンの求電子付加反応とMarkovnikov則について解説する。
12	アルケン(4)	アルケンの酸化反応について解説する。
13	アルケン(5)とアルキン(1)	共役ジエンの付加反応とDiels-Alder反応について解説する。アルキンの構造と命名について解説する。
14	アルキン(2)	アルキンのsp混成軌道について解説する。アルキンの求電子付加反応について解説する。
15	アルキン(3)	アルキンの酸性度について解説する。アルケンとアルキンの内容を練習問題を使って復習する。
16	定期試験解答及び芳香族化合物(1)	定期試験内容を解説する。芳香族化合物の構造と命名(IUPAC名, 慣用名)を解説する。
17	芳香族化合物(2)	芳香族化合物の共鳴構造と軌道モデルについて解説する。ベンゼンの共鳴エネルギーについて解説する。誘起効果と共鳴効果について解説する。
18	芳香族化合物(3)	芳香族化合物の求電子置換反応における反応性と配向性について解説する。
19	芳香族化合物(4)	芳香族化合物の求電子置換反応における反応性と配向性について解説する。
20	芳香族化合物(5)	芳香族ジアゾニウム化合物の合成法と利用法について解説する。
21	芳香族化合物(6)	多環芳香族化合物・複素環式芳香族化合物の構造と命名を解説する。芳香族化合物の内容を練習問題を使って復習する。
22	立体化学(1)	キラリティ, 対掌体, 不斉炭素について解説する。R-S表示法, E-Z表示法について解説する。Fischer投影式について解説する。
23	中間試験	芳香族化合物の命名法, 反応理論の理解度を試験する。立体化学の理解度を試験する。
24	中間試験解答及び立体化学(2)	中間試験内容を解説する。ジアステレオマー化合物およびメソ化合物について解説する。
25	立体化学(3)	立体化学と化学反応性および光学分割法について解説する。
26	ハロゲン化合物(1)	ハロゲン化合物の構造と命名(IUPAC名, 慣用名)を解説する。ハロゲン化合物の合成法について解説する。
27	ハロゲン化合物(2)	ハロゲン化合物の求核置換反応(SN <sub>2</sub> )について解説する。
28	ハロゲン化合物(3)	ハロゲン化合物の求核置換反応(SN <sub>1</sub> )について解説する。
29	ハロゲン化合物(4)	ハロゲン化合物の脱離反応(E1, E2)について解説する。
30	ハロゲン化合物(5)	ハロゲン化合物の求核置換反応と脱離反応の競争反応について解説する。ハロゲン化合物の内容を練習問題を使って復習する。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。各試験終了後に追加試験を実施する場合がある。	

科目	分析化学I (Analytical Chemistry I)		
担当教員	安田 佳祐 准教授		
対象学年等	応用化学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-C2(100%)		
授業の概要と方針	分析化学の基礎となる溶液内の化学平衡(酸塩基平衡・錯生成平衡・沈殿平衡・分配平衡)に関する基礎的な理論の習得を目的とし,演習を多用しながら理解を進める。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A4-C2]単位の換算や濃度の表し方について理解できる。		単位の換算や濃度の表し方について理解できているかを,前期中間試験,小テストおよびレポートで評価する。
2	[A4-C2]反応速度,質量作用の法則,ルシャトリエの法則および活量などの溶液内の化学平衡の基礎的概念について理解できる。		反応速度,質量作用の法則,ルシャトリエの法則および活量などの溶液内の化学平衡の基礎的概念について理解できているかを,前期中間試験,小テストおよびレポートで評価する。
3	[A4-C2]酸塩基平衡に関する基礎理論について理解できる。		酸塩基平衡に関する基礎理論について理解できているかを,前期中間試験,前期定期試験,小テストおよびレポートで評価する。
4	[A4-C2]酸および塩基の水溶液,塩の水溶液および緩衝液に関するpHを求める式を誘導し,pHの計算ができる。		酸および塩基の水溶液,塩の水溶液および緩衝液に関するpHを求める式を誘導し,pHの計算ができているかを,前期定期試験,小テストおよびレポートで評価する。
5	[A4-C2]酸塩基滴定に用いられる指示薬について理解でき,各滴定量におけるpHを求め,その値から酸塩基滴定曲線が描ける。		酸塩基滴定に用いられる指示薬について理解でき,各滴定量におけるpHを求め,その値から酸塩基滴定曲線が描けているかを,後期中間試験,小テストおよびレポートで評価する。
6	[A4-C2]錯生成平衡に関する基礎理論(HSAB則およびキレート効果)について理解できる。		錯生成平衡に関する基礎理論(HSAB則およびキレート効果)について理解できているかを,後期中間試験,小テストおよびレポートで評価する。
7	[A4-C2]錯生成平衡に関する錯体の生成定数,逐次生成定数,条件生成定数およびキレート滴定について理解できる。		錯生成平衡に関する錯体の生成定数,逐次生成定数,条件生成定数およびキレート滴定について理解できているかを,後期中間試験,後期定期試験,小テストおよびレポートで評価する。
8	[A4-C2]沈殿平衡に関する基礎理論について理解できる。		沈殿平衡に関する基礎理論について理解できているかを,後期定期試験,小テストおよびレポートで評価する。
9	[A4-C2]溶解度に及ぼす種々の効果(温度,異種イオン,共通イオン,錯生成およびpHの効果)について理解できる。		溶解度に及ぼす種々の効果(温度,異種イオン,共通イオン,錯生成およびpHの効果)について理解できているかを,後期定期試験,小テストおよびレポートで評価する。
10	[A4-C2]分配平衡に関する基礎理論について理解できる。		分配平衡に関する基礎理論について理解できているかを,後期定期試験およびレポートで評価する。
総合評価	成績は,試験80% レポート10% 小テスト10% として評価する。試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。ただし,必要に応じて再試験を行うことがある。		
テキスト			
参考書			
関連科目	C1化学,C2無機化学I,C2応用化学実験I		
履修上の注意事項	暗記に頼らず,できる限り理解するよう努めることが望ましい。また,計算問題を多く扱うために,電卓は常に持参すること。		

授業計画(分析化学I)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	分析化学ガイダンス,SI単位系	「分析化学」の定義を述べ,その分類や位置付けを説明する.SI単位系(基本単位,誘導単位,接頭語)について説明する.
2	濃度の表し方	分析化学で用いられる濃度の表し方について説明し,濃度計算に関する演習問題を解く.
3	溶液内の化学平衡の基礎的概念(1)	化学平衡および質量作用の法則について説明し,化学平衡に関する演習問題を解く.
4	溶液内の化学平衡の基礎的概念(2)	ルシャトリエの法則および電離度について説明する.
5	溶液内の化学平衡の基礎的概念(3)	イオンの活量および活量係数について説明し,活量に関する演習問題を解く.
6	溶液内の化学平衡の基礎的概念(4)	水素イオン指数(pH)について説明する.また,溶液内の化学平衡の平衡濃度に関する演習問題を解く.
7	酸塩基の定義	酸塩基の定義(アレニウス,ブレンステッド・ローリー,ルイス)について説明する.
8	中間試験	1週目から7週目までの内容で中間試験を行う.
9	中間試験の解答,酸塩基の解離平衡,水の電離平衡	中間試験の解答を行う.水溶液中での酸塩基の解離平衡および水の電離平衡について説明する.
10	強酸および強塩基の水溶液	強酸および強塩基の水溶液のpHを求める式を誘導し,その演習問題を解く.また,水平化効果についても説明する.
11	弱酸および弱塩基の水溶液	弱酸および弱塩基の水溶液のpHや解離度を求める式を誘導し,その演習問題を解く.
12	塩の加水分解(1)	強酸と強塩基および弱酸と強塩基からなる塩の加水分解時のpHを求める式を誘導し,その演習問題を解く.
13	塩の加水分解(2)	強酸と弱塩基からなる塩の加水分解時のpHを求める式を誘導し,その演習問題を解く.
14	緩衝液(1)	緩衝液の定義を説明し,弱酸とその塩の混合水溶液のpHを求める式を誘導する.
15	緩衝液(2)	弱塩基とその塩の混合水溶液のpHを求める式を誘導し,緩衝液に関する演習問題を解く.
16	酸塩基滴定曲線(1)	強酸と強塩基の反応における酸塩基滴定曲線を作成する.酸塩基滴定曲線から滴定に用いられる指示薬の妥当性を説明する.
17	酸塩基滴定曲線(2)	強塩基による弱酸,強酸による弱塩基の滴定における酸塩基滴定曲線を作成する.酸塩基滴定曲線から滴定に用いられる指示薬の妥当性を説明する.
18	金属錯体に関する基礎的概念	金属錯体に関する基礎的概念(配位結合,配位数,キレート効果およびHSAB則)について説明する.
19	錯生成平衡における錯体の生成定数(1)	錯生成平衡における錯体の生成定数(逐次生成定数および全生成定数)および錯体の生成率を求める式を誘導する.
20	錯生成平衡における錯体の生成定数(2)	錯生成平衡における錯体の生成定数および錯体の生成率に関する演習問題を解く.
21	錯生成平衡における錯体の条件生成定数(1)	錯生成平衡における錯体の条件生成定数(配位子のプロトン付加反応)について説明し,その演習問題を解く.
22	錯生成平衡における錯体の条件生成定数(2)	錯生成平衡における錯体の条件生成定数(金属イオンの副反応および副反応係数の加成性)について説明し,その演習問題を解く.
23	中間試験	16週目から22週目までの内容で中間試験を行う.
24	中間試験の解答,キレート滴定	中間試験の解答を行う.錯生成反応を利用したキレート滴定について説明し,キレート滴定曲線を作成する.
25	沈殿平衡に関する基礎的概念	沈殿平衡に関する基礎的概念(溶解度および溶解度積)について説明し,その演習問題を解く.
26	溶解度に及ぼす種々の効果(1)	溶解度に及ぼす種々の効果(温度,異種イオンおよび共通イオンの効果)について説明し,その演習問題を解く.
27	溶解度に及ぼす種々の効果(2)	溶解度に及ぼす種々の効果(錯生成およびpHの効果)について説明し,その演習問題を解く.
28	分別沈殿,沈殿滴定	分別沈殿についてその分離の理論について説明する.沈殿生成反応を利用する沈殿滴定法について説明し,沈殿滴定曲線を作成する.
29	沈殿生成の条件および汚染	沈殿生成の条件および汚染の概要について説明する.
30	分配平衡	分配平衡に関する基礎的事項について説明する.分配比,抽出百分率について説明し,その演習問題を解く.
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	安全管理学 (Safety Management)		
担当教員	宮下 芳太郎 教授		
対象学年等	応用化学科・2年・後期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A2(20%), A4-C1(20%), A4-C2(20%), A4-C3(20%), D1(20%)		
授業の概要と方針	化学実験における操作やそれに用いる物質についての扱いを誤ると大きな事故に繋がる恐れがある。本講義では、化学実験を安全に行うために、各種法令や危険・有害物質の性質について解説する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【D1】ハインリッヒの法則に基づく事故対策が理解できる。		ハインリッヒの法則に基づく事故対策について理解し、説明できるかを、中間試験およびレポートで評価する。
2	【D1】化学物質に関連する法令や資格の概略が理解できる。		化学物質に関連する法令や資格の概略について理解し、説明できるかを、中間試験およびレポートで評価する。
3	【A2】化学物質を混合、廃棄する際の注意点が理解できる。		化学物質を混合、廃棄する際の注意点について理解し、説明できるかを、中間試験およびレポートで評価する。
4	【D1】化学物質における危険性・有害性の調査法が理解できる。		化学物質における危険性・有害性の調査法について理解し、説明できるかを、中間試験およびレポートで評価する。
5	【A4-C3】高圧ガスや寒剤の扱い方が理解できる。		高圧ガスや寒剤の扱い方について理解し、説明できるかを、定期試験およびレポートで評価する。
6	【A4-C2】毒劇物の扱い方が理解できる。		毒劇物の扱い方について理解し、説明できるかを、定期試験およびレポートで評価する。
7	【A2】環境汚染物質の扱い方が理解できる。		環境汚染物質の扱い方について理解し、説明できるかを、定期試験およびレポートで評価する。
8	【A4-C1】危険物の扱い方が理解できる。		危険物の扱い方について理解し、説明できるかを、定期試験およびレポートで評価する。
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は、試験70% レポート30% として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	C1「化学」「基礎化学実験」、C2「無機化学I」「有機化学I」「分析化学I」「応用化学実験I」		
履修上の注意事項	上記関連科目を十分に理解した上で履修することが望ましい。		

授業計画(安全管理学)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	化学物質と安全管理	1件の重大事故の背景には29件の軽微な事故があり,その背景には300件のヒヤリ・ハットが存在することをハインリッヒの法則という.化学の立場から安全管理の概略を説明する.
2	安全管理の法令	化学物質に関連する法令(消防法,毒物及び劇物取締法など)や資格について,それらの概略を説明する.
3	混ぜるな危険	化学物質には混合すると爆発したり有害物質が発生する危険な組み合わせがある.実例を挙げて説明する.
4	実験廃棄物の処理	化学実験により生じた廃液や固体廃棄物,不要となった試薬類の適切な処理方法について説明する.
5	危険性・有害性の調査法	化学物質における危険性・有害性をMSDS(化学物質等安全データシート)により調査する方法について説明する.
6	実験室の安全管理	災害を防ぐためには日頃からの備えが必要である.消火器の種類や使用方法について説明する.
7	事故例と対策	化学実験室内で起こりうる事故を想定し,それを防ぐための対策について説明する.
8	中間試験	中間試験を行う.
9	中間試験解答,高圧ガスと寒剤	中間試験の解答を行う.ガスボンベや液体窒素の適切な扱い方について説明する.
10	毒劇物	毒物及び劇物取締法に基づき,毒劇物の有害性について説明する.
11	環境汚染物質	PRTR制度(化学物質排出移動量届出制度)に基づき,環境汚染物質の有害性について説明する.
12	危険物(1)	消防法に基づき,危険物第4類(引火性液体)に指定された物質について説明する.
13	危険物(2)	消防法に基づき,危険物第2類(可燃性固体),第3類(自然発火性物質及び禁水性物質)に指定された物質について説明する.
14	危険物(3)	消防法に基づき,危険物第1類(酸化性固体),第5類(自己反応性物質),第6類(酸化性液体)に指定された物質について説明する.
15	危険物(4)	消防法に基づき,危険物を取り扱う際の法令について説明する.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	後期中間試験および後期定期試験を実施する.	

科目	応用化学実験I (Laboratory Work I in Applied Chemistry)		
担当教員	根津 豊彦 教授, 宮下 芳太郎 教授, 安田 佳祐 准教授		
対象学年等	応用化学科・2年・通年・必修・4単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-C2(60%), B1(10%), B2(10%), C4(10%), D1(10%)		
授業の概要と方針	前期15週は無機化学で学習した化学物質を合成し, それらの性質を調べることで無機化学実験に必要な基礎的技法を習得させる。後期15週は分析化学で学習した容量分析の内容のうち, 特に日常生活で馴染みのある試料を取りあげ, 実験を通じて化学に興味を持たせるとともに基礎的分析技術を習得させる。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-C2】無機化学反応における当量関係を学習し理解する。		化学反応における当量関係を知り, 量的な扱いについて理解できているかを, 前期レポートおよび前期定期試験で評価する。
2	【A4-C2】目的とする最終生成物を収率よく合成できる。もし失敗してもその原因が把握でき, 失敗を今後の実験に生かすことができる。		目的とする最終生成物を収率よく得られたかどうか, 失敗してもその原因が把握できているかを, 前期レポートで評価する。
3	【A4-C2】容量分析で使用する化学用体積計の使用技術を習得し応用できる。		容量分析に使用する化学用体積計の使用方法を適正に理解し技術習得できているかを, 後期実験技術, 後期レポートおよび後期定期試験で評価する。
4	【A4-C2】酸塩基滴定, 酸化還元滴定, キレート滴定, 沈殿滴定の理論を理解し応用できる。		酸塩基滴定, 酸化還元滴定, キレート滴定, 沈殿滴定に利用される化学反応とその基礎理論が理解でき, 実試料に応用できているかを, 後期レポートおよび後期定期試験で評価する。
5	【A4-C2】無機化学実験や分析化学実験に必要な基本的操作を習熟する。		無機化学実験や分析化学実験に必要な基本的操作を習熟しているかを, 前・後期実験技術および前・後期定期試験によって評価する。
6	【B1】無機合成実験について, 生成反応や収率を変動させる要因について考察することができる。定量分析によって得られたデータの誤差要因について考察することができる。		無機合成時の収率を変動させる要因や容量分析における誤差について考察できているかを, 前・後期レポートで評価する。
7	【B2】実験結果を説明することができる。		実験結果について説明できるかを, 前・後期レポートで評価する。
8	【C4】グループで協力して実験を行うことができる。		グループ内での行動や実験に対する姿勢を前・後期実験技術で評価する。
9	【D1】実験廃液, 廃棄物の分別や処理が的確にできる。		実験廃液, 廃棄物の分別や処理が的確にできているかを, 前・後期実験技術で評価する。
10	【】		
総合評価	成績は, 試験20% レポート65% 実験技術15% として評価する。前期(無機合成), 後期(容量分析)の平均を学年評価とする。なお, 未提出のレポートがある場合は上記の評価方法は適用しない。提出が遅れた場合にはその日数に比例して減点する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	基礎化学実験(C1), 化学(C1), 無機化学I(C2), 分析化学I(C2)		
履修上の注意事項	無機化学I(C2), 分析化学I(C2)を十分学習し, 理解を深めることが望ましい。		

授業計画(応用化学実験I)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	年間計画,応用化学実験Iの内容,無機化学実験のガイダンス,班分け,器具の配付	一年間の授業計画の概要.前期に無機化合物の合成実験を,後期に分析化学の定量分析実験を実施することを説明.応用化学実験Iの前半分「無機化学実験」のテーマと概要の説明.班分け.無機化学実験に用いる個人持ち器具の配付.
2	基本操作の解説	溶解・沈殿・ろ過・洗浄・結晶化などの基本操作(理論と方法)の説明.
3	テーマ1:硫酸銅に関連した実験 実験1 硫酸銅の製造(1)	銅片を濃硝酸で溶解し,これに炭酸ナトリウムを反応させることによって塩基性炭酸銅を造る.これを濃硫酸で溶解して硫酸銅とする.濃縮後,硫酸銅五水和物として結晶化させる.得られた硫酸銅五水和物の結晶を観察すると共に定性反応も行う.
4	テーマ1:硫酸銅に関連した実験 実験1 硫酸銅の製造(2)	前週の続きを行い本実験を完了させる.
5	テーマ1:硫酸銅に関連した実験 実験2 硫酸銅から複塩と錯塩の製造	硫酸銅と硫酸アンモニウムを反応させて複塩(硫酸アンモニウム銅(II)六水和物)を造り,保温溶液中から大きな結晶に成長させる.また硫酸銅とアンモニア水を反応させて錯塩(テトラアンミン銅(II)硫酸塩一水和物)を造り,エタノール溶液から沈殿させる.
6	テーマ1:硫酸銅に関連した実験 実験3 亜鉛粉末と硫酸銅から酸化亜鉛の製造	硫酸銅溶液に亜鉛粉末を添加してイオン化傾向の差によって銅を回収し,溶解した亜鉛は硫酸亜鉛七水和物として回収する.次に炭酸ナトリウムと反応させて塩基性炭酸亜鉛とし,これを熱分解して酸化亜鉛とする.酸化亜鉛の定性反応も行う.
7	テーマ2:ミョウバンに関連した実験 実験4 硫酸アンモニウム鉄(III)十二水和物の製造(1)	鉄粉を硫酸で溶解して硫酸鉄(II)とし,さらに硝酸で酸化して硫酸鉄(III)とする.得られた硫酸鉄(III)を硫酸アンモニウムと反応させて硫酸アンモニウム鉄(III)十二水和物を造り,その後大きな八面体結晶に成長させる.鉄アンモニウムミョウバンの定性反応も行う.
8	テーマ2:ミョウバンに関連した実験 実験4 硫酸アンモニウム鉄(III)十二水和物の製造(2)	前週の続きを行い本実験を完了させる.
9	テーマ2:ミョウバンに関連した実験 実験5 トリス(オキサラト)鉄(III)酸カリウムの製造	鉄アンモニウムミョウバンを水酸化ナトリウムと反応させて水酸化鉄(III)とし,これに新たに調製したシュウ酸水素カリウムを反応させることによってトリス(オキサラト)鉄(III)酸カリウム三水和物を造る.
10	テーマ2:ミョウバンに関連した実験 実験5' トリス(オキサラト)鉄(III)酸カリウムによる青写真	トリス(オキサラト)鉄(III)酸カリウムとヘキサシアニド鉄(III)酸カリウムまたはヘキサシアニド鉄(II)酸カリウムを用いた青写真(白線法と青線法)を試みる.
11	テーマ3:カルシウム化合物に関連した実験 実験6 炭酸カルシウムの製造(1)	大理石を塩酸で溶解後,不純物を除去して塩化カルシウム六水和物を得る.この無水物に炭酸カリウムを反応させて(沈降)炭酸カルシウムを造る.炭酸カルシウムの定性反応も行う.
12	テーマ3:カルシウム化合物に関連した実験 実験6 炭酸カルシウムの製造(2)	前週の続きを行い本実験を完了させる.
13	テーマ3:カルシウム化合物に関連した実験 実験7 硫酸カルシウム半水和物(焼石膏)の製造	塩化カルシウムと硫酸ナトリウムから硫酸カルシウム二水和物を得る.これを硝酸存在下で加熱処理することにより,硫酸カルシウム半水和物(焼石膏)にかえる.
14	前期実験全般のまとめあるいは工場見学	前期で行った実験のまとめを行う.あるいは工場見学を行い,実際に化学がどのように社会に貢献しているかを学ぶ.
15	後片付け	配付器具の洗浄と返却,実験台周りの清掃.
16	分析化学実験のガイダンス,班分け,器具の配付,分析化学実験教育ビデオによる学習	応用化学実験Iの後半分「分析化学実験」のテーマと概要の説明.班分け.分析化学実験に用いる個人持ち器具の配付.実験を安全にすすめるためと容量分析の仕方について教育ビデオによる学習.
17	化学用体積計の使用法の説明(ビュレット,ピペット,メスフラスコなど),ガラス細工	ビュレット台の組み立てとビュレットの配布.ホールピペット・ビュレット・メスフラスコの使用法の説明.簡単なガラス細工(駒込ピペットの作製).
18	ホールピペットの校正,水一滴の体積測定	ホールピペットの排出時間を測定し,ホールピペットの校正を行う.ビュレットを用いて水一滴の体積を測定する.
19	炭酸ナトリウム標準液・塩酸標準液の調製と標定	酸塩基滴定の概略を説明する.一次標準液である炭酸ナトリウム水溶液および二次標準液である塩酸水溶液を調製し,炭酸ナトリウム一次標準液を用いて塩酸水溶液の標定を行う.
20	水酸化ナトリウム標準液の調製と標定,食酢中の酢酸の定量	水酸化ナトリウム水溶液を調製し,調製した塩酸二次標準液を用いて水酸化ナトリウム水溶液の標定を行う.標定した水酸化ナトリウム標準液を用いて食酢中の酢酸を定量する.
21	水酸化ナトリウム・炭酸ナトリウム混合物の定量(ワダー法)	標定した塩酸標準液を用いて水酸化ナトリウム・炭酸ナトリウム混合溶液中のそれぞれの成分濃度を分析する.
22	シュウ酸ナトリウム標準液・過マンガン酸カリウム標準液の調製と標定	酸化還元滴定の概略を説明する.酸化剤として過マンガン酸カリウム水溶液および還元剤としてシュウ酸ナトリウム標準液を調製し,シュウ酸ナトリウム標準液を用いて過マンガン酸カリウム水溶液の標定を行う.
23	オキシドール中の過酸化水素の定量	標定した過マンガン酸カリウム標準液を用いて,オキシドールに含まれる過酸化水素を定量する.
24	ニクロム酸カリウム標準液・チオ硫酸ナトリウム標準液の調製と標定	ニクロム酸カリウム標準液およびチオ硫酸ナトリウム水溶液を調製し,ニクロム酸カリウム標準液を用いてチオ硫酸ナトリウム水溶液の標定を行う.
25	塩素系漂白剤中の有効塩素の定量	標定したチオ硫酸ナトリウム標準液を用いて,塩素系漂白剤に含まれる有効塩素を定量する.
26	EDTA 2Na標準液の調製・飲料水中のカルシウム,マグネシウムの定量	キレート滴定の概略を説明する.キレート試薬であるEDTA 2Na標準液を調製する.調製したEDTA 2Na標準液を用いて,種々の飲料水中に含まれるカルシウムとマグネシウムを定量する.
27	硝酸銀標準液・塩化ナトリウム標準液の調製と標定	沈殿滴定の概略を説明する.硝酸銀水溶液および塩化ナトリウム標準液を調製し,塩化ナトリウム標準液を用いて硝酸銀水溶液の標定を行う.
28	醤油中の塩化ナトリウムの定量(モール法)	モール法を用いて,種々の醤油に含まれる塩化ナトリウムを定量する.
29	後期実験全般のまとめあるいは工場見学	後期で行った実験のまとめを行う.あるいは工場見学を行い,実際に化学がどのように社会に貢献しているかを学ぶ.
30	後片付け	配付器具の洗浄と返却,実験台周りの清掃.
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する.	

科目	応用物理I (Applied Physics I)		
担当教員	(前期)渡辺 昭敬 教授,(後期)九鬼 導隆 教授		
対象学年等	応用化学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A2(100%)		
授業の概要と方針	理学・工学の基礎となる物理学より,物質の状態や化学変化に関わる熱力学と,物理学の基本となるNewton力学について講義する.熱力学では,物理量と単位,気体の状態方程式,熱力学(第一,第二,第三法則)とその化学への応用(化学熱力学)について解説し,Newton力学では質点系の一体問題を取り上げ,Newton力学を微積分を中心に組立直す作業を行う.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A2]気体の状態方程式および気体分子運動論について理解する.		気体の状態方程式(完全気体と実在気体の違い)と気体分子運動論を理解しているかを小テスト,レポート並びに前期中間試験で評価する.
2	[A2]熱力学の各種法則を理解し,反応におけるエンタルピーおよびエントロピー変化を理解する.		エンタルピー,エントロピー,ギブズエネルギーについて理解し,反応における各量の変化が求められるかを,小テスト,レポート並びに前期中間,前期定期試験で評価する.
3	[A2]ギブズエネルギーの考え方をもとに,純物質および混合物の相平衡の熱力学的記述を理解する.		各状態(固-液-気体)間の相図を理解しているか,純物質および混合物の相変化を熱力学と対応して理解しているかを前期定期試験で評価する.
4	[A2]質点の位置,速度,加速度等をベクトルで表すことができ,ベクトルの演算や微積分を用いて,質点の運動を記述することができる.		主に後期中間試験とレポートで,基本的な物理系で位置,速度,加速度等を求めることができるかどうかで評価する.
5	[A2]運動の3法則が理解でき,重力下での質点や調和振動子の運動等を記述することができる.		主に後期中間試験とレポートで,重力下の質点の運動等の基本的な物理系の質点の運動が記述できるかどうかで評価する.
6	[A2]作用反作用の法則と力の釣り合いが理解でき,基本的な束縛運動を記述することができる.		主に後期定期試験とレポートで,斜面を滑り落ちる運動や単振り子等,基本的な束縛運動を記述することができるかどうかで評価する.
7	[A2]力学的な仕事の基本概念を理解し,運動エネルギーとポテンシャルエネルギー,エネルギー保存則を理解,応用することができる.		主に後期定期試験とレポートで,仕事とポテンシャルエネルギー,エネルギー保存則について説明させ適切に説明できるかどうか,また,質点の運動と各々のエネルギーの関係等が記述できるかどうかで評価する.
8	[ ]		
9	[ ]		
10	[ ]		
総合評価	成績は,試験90% レポート10% として評価する.各期の中間・定期試験の平均を試験成績とする.前・後期とも試験成績90%,レポート10%で評価し,総合成績は各期の学業成績の平均で算出する.100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト			
参考書			
関連科目	一般科目の数学・物理学・化学・C3化学工学		
履修上の注意事項	物理学は数学での記述の上に成り立っている.よって,数学を十分理解していることが望ましい.また,基本的な物理学の知識として,一般科目の物理学についても,十分理解していることが望ましい.さらに,化学への応用も視野に入れているので,一般科目の化学についても,十分に理解していることが望ましい.また,この内容は化学工学の基礎とも重複しているため,その基本的部分も理解している必要がある.		

授業計画(応用物理I)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	応用物理はどんな学問か(物理化学量とSI単位 数値計算方法)	応用物理の学習意義について説明する。また、各物理量の定義について学び、SI単位系とそれ以外の系との変換や実際の数値を伴った単位換算について学習する。
2	気体の状態方程式を解く(完全気体)	完全気体の性質について理解し、また状態方程式についての理解を深める。ドルトンの分圧の法則、モル分率についても学ぶ。
3	気体分子運動論 その1	気体分子運動論の考え方も、完全気体の状態方程式が導き出せることを学び、統計的手法の考え方を学ぶ。
4	気体分子運動論 その2	平均自由行程並びに衝突頻度について学ぶ。
5	気体の状態方程式を解く(実在気体)	完全気体と実在気体の違いについて理解する。また、ビリアル方程式とvan der Waals式について理解する。
6	熱力学 その1	熱力学の考え方を学ぶ。第一法則を主体とし、仕事と熱の関係、比熱、内部エネルギーについて学ぶ。
7	熱力学 その2	エンタルピー、熱化学方程式について学ぶ。
8	中間試験	1~7週の内容に関する試験を行う。
9	中間試験解答	中間試験の解答を黒板を用いて説明し、注意点を指摘する。
10	熱力学 その3	熱力学第二、第三法則を学び、そこから得られるギブズエネルギーの考え方について学ぶ。
11	純物質の相平衡(相転移の熱力学)	相変化とギブズエネルギーとの関係を学習する。
12	純物質の相平衡(相律、相図)	相境界、相図について理解する。また、代表的な物質の相図を学習する。
13	混合物の性質(熱力学的記述)	非電解質溶液の混合物の性質を学習する。モル濃度、質量モル濃度、モル分率を用いて、ラウールの法則、ヘンリーの法則を学習し、例題を解いて理解する。
14	混合物の性質(束一的性質)	沸点上昇、凝固点降下、浸透圧など存在する溶質粒子の数に依存するだけの束一的性質について学習する。
15	混合物の性質(混合物の相図)	種々の混合物の相図について理解する。
16	力学と微積分	位置と速度の関係を中心に、微積分の基本的な演算や意味についての復習を行う。
17	運動の表し方	質点の位置を座標として表し、質点の位置が位置ベクトルというベクトルで表現できることを説明し、ベクトル同士の演算について解説する。
18	速度と加速度	ベクトルの微積分を説明し、速さや速度、加速度について解説する。
19	等加速度直線運動と等速円運動	等加速度運動や等速円運動等を例に、位置ベクトル、速度ベクトル、加速度ベクトルやそれらの関係について解説する。
20	運動(ニュートン)の法則	運動の3法則(慣性の法則、運動方程式、作用・反作用の法則)について解説し、物体の運動が2階の常微分方程式で表されることを示す。
21	重力下での運動	一番基本的な系として重力下での質点の運動を取り上げ、いろいろな公式が運動方程式より導出できることを解説する。
22	空気抵抗のある場合	重力下の運動で、質点の速度に比例した空気抵抗がある場合を考え、運動方程式を立てて微分方程式を解き、質点の運動を考える。
23	中間試験	16~22週の内容について試験を行う。
24	エネルギー積分とエネルギー保存則	運動方程式をエネルギー積分し、力学的エネルギーが保存量であることを示す。また、ポテンシャルエネルギーについても解説する。
25	単振動	基本的な系である調和振動子について、運動方程式を立て、運動方程式を解き、単振動について解説する。
26	単振動のエネルギー	調和振動子の運動方程式をエネルギー積分し、エネルギーが保存すること、運動エネルギーとポテンシャルエネルギーの相互変換について解説する。
27	力の釣り合いと作用反作用の法則	力の釣り合いや作用・反作用について説明し、束縛力のある場合の基本的な物理系について解説する。垂直抗力や糸の張力等について解説する。
28	束縛運動	斜面を運動する場合や、単振り子等、基本的な束縛運動について解説する。また、摩擦のある系についても解説する。
29	力学的な仕事	力学的な仕事を定義し、ポテンシャルエネルギーと仕事との関係について解説する。
30	エネルギーと仕事	線積分を考えて、力学的な仕事を一般化し、仕事、ポテンシャルエネルギー、保存力の関連について、また、エネルギー保存則について解説する。
備考	前期、後期ともに中間試験および定期試験を実施する。後期中間試験については必要に応じて解説を行う。	

科目	情報処理I (Information Processing I)		
担当教員	増田 興司 講師		
対象学年等	応用化学科・3年・後期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A3(100%)		
授業の概要と方針	パソコンを用いて、情報処理の活用法や応用法までを演習する。また論理的な考え方の土台となるプログラミングの基本(考え方,変数,データ型,制御,アルゴリズム)を習得する。VBAでのプログラミング実習を通してプログラミングの基本を身につける。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A3】情報処理に関わるハードウェア,ソフトウェアに関する基礎的な知識および情報倫理に関する知見を習得する。		ハードウェアやソフトウェアおよび情報倫理に関して具体例をあげて説明できるかを定期試験で評価する。
2	【A3】パソコンの基本操作,インターネットによる情報収集の方法を習得する。		インターネットによるキーワード検索を通して,情報収集の演習を行い評価する。
3	【A3】収集した情報をもとに,質の良い情報への加工法を習得し,報告書を作成する技術を習得する。		データ加工・報告書作成の演習を行い評価する。
4	【A3】化学資料・技術資料を作成する方法を習得する。		簡単な化学資料・技術資料作成の演習を行い評価する。
5	【A3】プレゼンテーション用ファイルを作成する方法を習得する。		簡単な課題を通して,プレゼンテーション用ファイル作成の演習を行い評価する。
6	【A3】プログラミングの考え方(基本構造,データ型,流れ図,簡単な論理演算)を習得する。		プログラムの基本構造を作成できるか,データ型の種類を理解しているか,プログラムと対応した流れ図が作成できるか,簡単な論理演算ができるかななどを定期試験で評価する。
7	【A3】簡単なプログラムをVBAで構築し,実行する方法を習得する。		簡単な課題を通して,プログラム作成の演習を行い評価する。
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は,試験40% 演習60% として評価する。試験成績は定期試験の成績とする。総合評価60点以上で合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	情報基礎,情報処理II		
履修上の注意事項			

授業計画(情報処理I)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	情報処理概論 (1)	情報基礎で学んできたことを復習し、コンピュータの基本構造(ハードウェア、ソフトウェアなど)の一般的な知識について学習する。
2	情報処理概論 (2)	ネットワークの基本的事項(インターネット、www)について学習する。同時に情報倫理などネットワーク上のマナーについても習得する。
3	ネットワークによる情報検索	インターネットによる情報収集を演習し、有効な情報処理方法を理解する。また、高度な情報検索法と情報の整理法を修得するための演習を行う。
4	表とグラフの作成	表計算ソフトにより、表とグラフを作成する演習を行う。
5	表とグラフを使つての報告書作成	インターネットにより数値情報を収集し、表・グラフの作成、報告書を作成する演習を行う。
6	プレゼンテーション演習	パワーポイントの使用法に関して簡単な例題によるパワーポイントの演習並びに資料作成を行う。
7	化学資料・技術資料の作成	化学資料・技術資料を作成する環境の整え方、ならびに作成する手順を演習によって学ぶ。
8	プログラミングへの招待 (1)	プログラミングの概念、また、プログラムを実行するための考え方を中心に学ぶ。
9	プログラミングへの招待 (2)	プログラムを作成する上で重要な変数の型や代入操作について学ぶ。論理演算の考え方についても学ぶ。
10	プログラムの作り方	プログラムを作成する環境の整え方、ならびに作成する手順を演習によって学ぶ。
11	プログラミング実習 (1) 四則演算	変数、入力命令、算術代入文を理解し、2数の簡単な計算プログラム作成の演習を行う。
12	プログラミング実習 (2) 四則演算・条件分岐	前週のプログラムを改良し、反復構文、判別構文を利用して3数以上の計算にも対応するプログラムを作成する演習を行う。
13	プログラミング実習 (3) データソート	配列を理解して、データソートを行うプログラムを作成する。
14	プログラミング実習 (4) データソート	配列を理解して、データソートを行うプログラムを作成する。
15	プログラミング実習 (5) 統計計算	これまでに実習を通して得た知識を基に、標準偏差や回帰計算を実行するプログラムを作成する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	後期定期試験を実施する。	

科目	無機化学II (Inorganic Chemistry II)		
担当教員	(前期)安田 佳祐 准教授,(後期)宮下 芳太郎 教授		
対象学年等	応用化学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-C2(100%)		
授業の概要と方針	2年生で学習しなかった典型元素および遷移元素の各論を学ぶとともに,金属錯体の構造と物性との関係を学ぶ.また,放射化学や生物無機化学について学習する.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A4-C2]p-,d-およびf-ブロック元素の単体および化合物の名称や製法を理解し,種々の物質との反応を化学反応式で示せる.		p-,d-およびf-ブロック元素の単体および化合物の名称や製法を理解し,種々の物質との反応を化学反応式で示せるかを,前期中間・定期試験,小テストおよびレポートで評価する.
2	[A4-C2]p-,d-およびf-ブロック元素の単体および化合物の性質を電子配置と関連づけて説明できる.		p-,d-およびf-ブロック元素の単体および化合物の性質を電子配置と関連づけて説明できるかを,前期中間・定期試験,小テストおよびレポートで評価する.
3	[A4-C2]酸化数について理解し,酸化還元反応式をつくることことができる.		酸化数について理解し,酸化還元反応式をつくることことができるかを,前期中間・定期試験,小テストで評価する.
4	[A4-C2]原子核反応の基礎と応用について理解し,説明できる.		原子核反応の基礎と応用について理解し,説明できるかを,後期中間試験,小テストおよびレポートで評価する.
5	[A4-C2]分子の対称性や結晶系について理解し,説明できる.		分子の対称性や結晶系について理解し,説明できるかを,後期中間試験,小テストおよびレポートで評価する.
6	[A4-C2]金属錯体の命名法,異性現象,電子構造および反応性について理解し,説明できる.		金属錯体の命名法,異性現象,電子構造および反応性について理解し,説明できるかを,後期中間・定期試験,小テストおよびレポートで評価する.
7	[A4-C2]生体内における金属元素の役割や金属を含む生体分子の機能について理解し,説明できる.		生体内における金属元素の役割や金属を含む生体分子の機能について理解し,説明できるかを,後期定期試験,小テストおよびレポートで評価する.
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は,試験80% レポート10% 小テスト10% として評価する.前期成績は到達目標1~3について,後期成績は到達目標4~7について評価する.総成績は前期成績と後期成績の平均点とする.100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト			
参考書			
関連科目	無機化学I(C2),分析化学I(C2),応用化学実験I(C2),分析化学II(C3),応用物理I(C3)		
履修上の注意事項	上記の関連科目を十分学習し,理解しておくことが望ましい.		

授業計画(無機化学II)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	13族元素(1)	ホウ素族元素(B,Al,Ga,In,Tl)の一般的性質やタリウムなどの高周期元素に見られる不活性電子対効果を説明する。さらに、ホウ素の電子配置に依存した欠電子結合についても説明する。
2	13族元素(2),14族元素(1)	ホウ素化合物やアルミニウム化合物の性質や反応について説明する。また、工業的に重要なテルミット法、パイヤー法およびホール-エルー法についても説明する。さらに、原子番号の増加とともに非金属から金属へと明確な変化がある炭素族元素(C,Si,Ge,Sn,Pb)について、電子構造の特徴を説明する。
3	14族元素(2)	炭素とスズの同素体について説明する。また、炭素の主な化合物(一酸化炭素と二酸化炭素)の製法と性質・用途を説明する。さらに、ケイ素化合物の種類や性質などについても説明する。
4	15族元素	窒素族元素(N,P,As,Sb,Bi)の一般的性質をその電子配置から説明した後、窒素酸化物の性質および反応について説明する。また、代表的な窒素化合物であるアンモニアの実験室的および工業的製法について説明する。さらに、リンの同素体についても説明する。
5	16族元素	酸素族元素(O,S,Se,Te,Po)の一般的性質をその電子配置から説明した後、硫黄の同素体について説明する。また、硫酸化合物や硫化水素などの硫黄の化合物の種類や性質についても説明する。
6	17族元素	ハロゲン元素(F,Cl,Br,I,At)の一般的性質をその電子配置から説明した後、ハロゲン元素の単体の製法について酸化還元反応と関連づけて説明する。また、ハロゲン元素を含むオキソ酸やハロゲン化水素の性質についても説明する。
7	18族元素	貴ガス(He,Ne,Ar,Kr,Xe,Rn)の一般的性質をその電子配置から説明した後、貴ガス原子をとりこんだクラスレート化合物について述べる。
8	中間試験	第1週から第7週までの内容で中間試験を行う。
9	中間試験の解答,d-ブロック元素の性質	中間試験の解答を行う。d-ブロック元素の原子半径および融点に関する周期性、酸化数、磁性について述べる。
10	4族元素,5族元素	チタン族元素(Ti,Zr,Hf)の一般的性質を説明した後、光触媒や圧電素子に用いられるチタン化合物の反応や性質について述べる。また、バナジウム族元素(V,Nb,Ta)の一般的性質を説明した後、ポリ酸を作りやすいバナジウム化合物の反応や性質についても述べる。
11	6族元素,7族元素	クロム族元素(Cr,Mo,W),およびマンガン族元素(Mn,Tc,Re)の一般的性質を説明した後、クロムやマンガン化合物の反応や性質、酸化数による色の変化、酸化還元反応式について述べる。
12	8族元素,9族元素,10族元素	鉄族元素(Fe,Co,Ni)の一般的性質を説明した後、鉄族元素の化合物の反応や性質について述べる。また、白金族元素(Ru,Rh,Pd,Os,Ir,Pt)の一般的性質や用途についても説明する。
13	11族元素	銅族元素(Cu,Ag,Au)の一般的性質を説明した後、銅の電解精錬について述べるとともに、簡単な計算方法を説明する。また、金属銅および銅イオンの反応、金属銀および銀イオンの反応について説明する。
14	12族元素	亜鉛族元素(Zn,Cd,Hg)とそれらのもつ電子構造の特徴を説明した後、この族の元素の化学的性質の共通点と相違点についても説明する。また、塩化水銀の構造や磁性についても触れる。さらに、亜鉛族の主な化合物と反応性を説明する。
15	3族元素(希土類元素)	ランタノイド・ランタニド・希土類元素の違いを説明した後、希土類元素の一般的性質を述べる。また、原子番号の増加に伴い半径が減少するランタノイド収縮についても説明する。
16	アクチノイドと超重元素	アクチノイドの特徴や原子核反応による超重元素の合成について述べる。
17	放射壊変,放射化学の応用	放射壊変速度に関する基本的事項(壊変定数,半減期)を説明する。年代測定法や原子炉における制御方法について述べる。
18	分子の対称性	物体にある対称操作を施す場合、操作前と操作後で区別できないとき、その物体は対称性をもつ。対称軸の周りの回転や鏡面による反射をはじめとした分子に施される対称操作と対称要素について説明する。
19	対称性の応用と結晶系	対称要素の組み合わせ、特に点群について説明する。さらに、原子や分子が規則的に並ぶ結晶構造について、対称性の考え方を適用する。
20	金属錯体の概要	分子やイオン(配位子)が非共有電子対をもつ原子部分で金属イオンに配位結合した物質を錯体と呼ぶ。錯体の概要についてHSAB則と関連づけて説明する。
21	金属錯体の命名法	2005年のIUPAC勧告で改訂された金属錯体の命名法について説明するとともに、種々の配位子を紹介する。
22	金属錯体の構造と異性	金属錯体特有の構造異性体および立体異性体(幾何異性体,鏡像異性体)について説明する。
23	中間試験	第16週から第22週までの内容で中間試験を行う。
24	中間試験の解答,結晶場理論の概要	中間試験の解答を行う。原子価結合理論について触れた後、結晶場理論の概要を述べる。
25	結晶場理論,分光化学系列	八面体型,四面体型,平面四角形型金属錯体の結晶場分裂について説明するとともに、配位子を結晶場分裂の大きさの順に並べた分光化学系列について述べる。
26	金属錯体の色と磁性,配位子場理論	金属錯体の特徴である色と磁性について、それらの要因を電子配置と関連づけて説明する。結晶場理論を拡張した配位子場理論について説明する。
27	金属錯体の反応	金属錯体の安定度や配位子置換反応について説明する。キレート効果やトランス効果について触れる。
28	有機金属化合物	金属錯体のうち、金属-炭素結合をもつものを特に有機金属化合物と呼んで区別することがある。代表的な有機金属化合物を紹介する。
29	生体内微量金属元素	生体内の重要な反応には、金属イオンや金属錯体が関与するものも数多く知られている。生体内における微量金属元素の役割について述べる。
30	生物無機化学	金属を含む生体分子や生理活性物質の機能について紹介する。これまで学習した内容に関して総合的な演習を行う。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	有機化学II (Organic Chemistry II)		
担当教員	小泉 拓也 准教授		
対象学年等	応用化学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-C1(100%)		
授業の概要と方針	有機化合物 (アルコール・フェノール・チオール・エーテル・エポキシド・アルデヒド・ケトン・カルボン酸とその誘導体・アミン) の命名法・構造・合成法・反応性などについて解説する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-C1】アルコール・フェノール・チオールの命名法・構造・合成法・反応性について理解できる。		アルコール・フェノール・チオールの命名法および反応理論を理解し、それらの構造・合成法および反応を化学式や文章を用い説明できるかを前期中間試験・小テストおよびレポートで評価する。
2	【A4-C1】エーテル・エポキシドの命名法・構造・合成法・反応性について理解できる。		エーテル・エポキシドの命名法および反応理論を理解し、それらの構造・合成法および反応を化学式や文章を用い説明できるかを前期中間試験・前期定期試験・小テストおよびレポートで評価する。
3	【A4-C1】アルデヒド・ケトンの命名法・構造・合成法・反応性について理解できる。		アルデヒド・ケトンの命名法および反応理論を理解し、それらの構造・合成法および反応を化学式や文章を用い説明できるかを前期定期試験・小テストおよびレポートで評価する。
4	【A4-C1】カルボン酸・カルボン酸誘導体の命名法・構造・合成法・反応性について理解できる。		カルボン酸・カルボン酸誘導体の命名法および反応理論を理解し、それらの構造・合成法および反応を化学式や文章を用い説明できるかを後期中間試験・後期定期試験・小テストおよびレポートで評価する。
5	【A4-C1】アミンの命名法・構造・合成法・反応性について理解できる。		アミンの命名法および反応理論を理解し、それらの構造・合成法および反応を化学式や文章を用い説明できるかを後期定期試験・小テストおよびレポートで評価する。
6	【A4-C1】エノラートイオンに関する反応について理解できる。		エノラートイオンの概念を理解し、エノラートイオンに関する反応(アルドール反応およびClaisen縮合)を化学式や文章を用い説明できるかを後期中間試験・後期定期試験・小テストおよびレポートで評価する。
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は、試験80% レポート10% 小テスト10% として評価する。なお、試験成績は4回の試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	C2 有機化学 I, C2 無機化学 I, C2 分析化学 I, C3 無機化学 II, C3 分析化学 II		
履修上の注意事項	2年生の有機化学 I で学んだ内容 (特に基礎理論, 命名法) を十分学習し, 理解しておくことが望ましい。また, 自己学習のために与えられたレポートの提出を求める。なお未提出レポートがあった場合, 上記総合評価は適用しない。		

授業計画(有機化学II)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	アルコール・フェノール・チオール (1)	アルコール・フェノールの命名法・分類・構造について解説する。
2	アルコール・フェノール・チオール (2)	アルコール・フェノールの水素結合について解説する。酸性と塩基性の有機化学的な考え方について解説する。
3	アルコール・フェノール・チオール (3)	アルコール・フェノールの酸性度・塩基性度 (置換基効果: 誘起効果・共鳴効果) について解説する。
4	アルコール・フェノール・チオール (4)	アルコールの反応 (脱水反応によるアルケンの生成・ハロゲン化水素との反応) について解説する。アルコールからハロゲン化アルキルを作る方法について解説する。
5	アルコール・フェノール・チオール (5)	アルコールとフェノールの違い・アルコールの酸化・水酸基を 2 つ以上もつアルコールについて解説する。
6	アルコール・フェノール・チオール (6)	フェノールにおける芳香族置換反応・酸化反応・チオールの命名法・性質・構造・反応性について解説する。
7	エーテルとエポキシド (1)	エーテルの命名法・性質・構造・合成法・反応性について解説する。
8	中間試験	上記 1 から 7 までの項目の理解度を試験する。
9	中間試験解答	中間試験内容を黒板を用いて解説する。
10	エーテルとエポキシド (2)	エポキシドの命名法・性質・構造・合成法について解説する。エポキシドの反応性および環状エーテルについて解説する。
11	エーテルとエポキシド (3) およびアルデヒドとケトン (1)	エポキシドの反応性および環状エーテルについて解説する。アルデヒドおよびケトンの命名法・構造について解説する。
12	アルデヒドとケトン (2)	アルデヒドおよびケトンの物理的性質・合成法について解説する。
13	アルデヒドとケトン (3)	カルボニル基に対する求核付加反応 (アルコールの付加・水の付加・Grignard 試薬の付加・シアン化水素の付加) について解説する。
14	アルデヒドとケトン (4)	カルボニル基に対する窒素系求核剤の付加脱離反応, カルボニル化合物の酸化反応・還元反応について解説する。
15	アルデヒドとケトン (5)	ケト・エノール互変異性・ $\alpha$ -水素の酸性度 (エノラートイオン) について解説する。
16	前期定期試験解答およびアルデヒドとケトン (6)	前期定期試験内容を黒板を用いて解説する。アルドール反応・交差アルドール反応について解説する。
17	カルボン酸 (1)	カルボン酸の命名法・構造・物理的性質について解説する。
18	カルボン酸 (2)	カルボン酸の酸性度・酸性度に与える構造の影響・カルボン酸からの塩の形成について解説する。
19	カルボン酸 (3)	カルボン酸からの塩の形成・カルボン酸の合成法について解説する。
20	カルボン酸誘導体 (1)	カルボン酸の誘導体の構造・エステル・命名法と構造・酸触媒エステル化反応 (求核的アシル置換反応) について解説する。
21	カルボン酸誘導体 (2)	環状エステルであるラクトンについて解説する。エステルの反応 (けん化・加アンモニウム分解・Grignard 試薬との反応・還元) について解説する。
22	カルボン酸誘導体 (3)	活性化されたアシル化合物の用途, 反応性, 酸ハロゲン化物について解説する。
23	中間試験	上記 16 から 22 までの項目の理解度を試験する。
24	中間試験解答	中間試験解答を黒板を用いて解説する。
25	カルボン酸誘導体 (4)	酸ハロゲン化物・酸無水物・アミドについて解説する。
26	カルボン酸誘導体 (5)	エステル $\alpha$ 位の水素と Claisen 縮合反応について解説する。
27	アミン (1)	アミンの命名法・分類・構造について解説する。
28	アミン (2)	アミンの物理的性質 (塩基性度・アミン塩)・光学分割試薬としてのアミンについて解説する。
29	アミン (3)	酸誘導体を用いたアミンのアシル化反応・第 4 級アンモニウム化合物について解説する。
30	アミン (4)	芳香族ジアゾニウム化合物・ジアゾカップリングとアゾ染料について解説する。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	分析化学II (Analytical Chemistry II)		
担当教員	根津 豊彦 教授		
対象学年等	応用化学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-C2(100%)		
授業の概要と方針	分析化学Iに引き続き、溶液内の酸化還元平衡および酸化還元滴定に関する基礎理論について学ぶ。次に主として機器を使った分析法の原理と応用について学ぶ。テーマは、電気化学的測定法、紫外可視分光法、クロマトグラフィー、赤外線吸収法、核磁気共鳴スペクトル法、X線分析法、原子吸光およびICP発光分析法、質量分析法、熱分析法である。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-C2】酸化還元平衡の基礎理論および酸化還元滴定法について説明できる。これらについて種々の計算問題が解けると共に酸化還元滴定曲線が描ける。		酸化還元反応の基礎理論が理解でき、計算問題が解けるか、代表的な酸化還元滴定について説明でき、計算問題を解くことができるかを、前期中間試験とレポートで評価する。
2	【A4-C2】電気化学的測定法の基礎理論を理解し、分析への応用について説明できる。測定結果の解析ができる。		電気化学測定の基本原理が説明できるか、測定結果の解釈ができるかを、前期中間試験とレポートで評価する。
3	【A4-C2】物質による光吸収に関する基礎理論を理解し、説明できる。光吸収に関する種々の単位変換ができる。それらの知識を実際の測定に応用できる。		光吸収の基本を説明できるか、各種表示単位の換算ができるか、基礎的な式を使って測定結果の解析ができるかを、前期定期試験とレポートで評価する。
4	【A4-C2】クロマトグラフィーの基礎理論を理解し、基本的な計算問題が解ける。各種クロマトグラフィーについて説明できる。		クロマトグラフィーの基礎理論が理解できているか、基礎理論に関する計算問題が解けるか、各種クロマトグラフィーの特徴を説明できるかを、前期定期試験とレポートで評価する。
5	【A4-C2】分子振動の基礎理論を理解し、赤外線吸収スペクトルの特徴を説明できる。簡単な振動スペクトルの解析ができる。		分子構造と振動の関係が説明できるか、簡単な赤外線吸収スペクトルの解釈ができるかを、後期中間試験とレポートで評価する。
6	【A4-C2】核磁気共鳴スペクトルの基礎理論を理解し、スペクトルの解析に基づいた簡単な分子構造決定への応用ができる。		核磁気共鳴の原理を説明できるか、測定結果の解釈ができるかを、後期中間試験とレポートで評価する。
7	【A4-C2】X線に関する基礎知識を習得し、X線分析への応用について説明できる。X線回折の原理について説明できる。		X線に関する基礎知識を習得し、理論を説明できるか、結晶構造について理解できているかを、後期中間試験とレポートで評価する。
8	【A4-C2】原子吸光分析とICP発光分析の基礎理論を理解し、説明できる。測定結果の解析ができる。		原子吸光分析とICP発光分析の基礎理論を説明できるか、基礎的な式を使って測定結果を解析できるかを、後期定期試験とレポートで評価する。
9	【A4-C2】質量分析のためのイオン化について基本を理解し、説明できる。質量スペクトルの基本を理解し、簡単なマススペクトラムの解析ができる。		質量分析の原理と質量スペクトルについて説明できるか、測定結果の解釈ができるかを、後期定期試験およびレポートで評価する。
10	【A4-C2】熱分析の基礎理論を理解し、説明できる。簡単な測定結果の解析ができる。		熱分析法の理論を説明できるか、測定結果を解析できるかを、後期定期試験およびレポートで評価する。
総合評価	成績は、試験80% レポート20% として評価する。試験成績は、前・後期の中間試験および定期試験計4回の平均点に0.8を乗じたものとする。レポート点は、出題したレポートの平均点(100点満点)に0.2を乗じたものとする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	「分析化学I」「応用化学実験I(容量分析)」「応用化学実験II(物理化学)」		
履修上の注意事項	基礎的な化学と物理全般の理解と知識が必要。		

授業計画(分析化学II)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	酸化還元反応の基礎理論1	標準電極電位とネルンスト式について講義する。電極電位についての演習を行う。
2	酸化還元反応の基礎理論2	標準電極電位および活量から種々の電池起電力の求め方について講義する。電池の表記方法、起電力に関する演習を行う。
3	酸化還元反応の基礎理論3	電極電位と平衡定数の関係式を導き、酸化還元反応の平衡定数について講義する。酸化還元反応の進行について理解すると共に、ガルバニ電池について種々の条件下における起電力の求め方について演習を交えながら講義する。
4	酸化還元滴定	代表的な酸化還元滴定法について講義する。滴定曲線の描き方について演習を交えながら講義する。電位差滴定および酸化還元滴定に用いる指示薬について説明する。
5	酸化還元反応のまとめと機器分析概論	1週から4週までの講義内容について演習を中心にまとめる。分析化学における機器分析とは何か、測定で得られた数値の取り扱い方について概観する。本講義で取り上げる分析機器について説明する。
6	電気化学的測定法1	主な電気化学的測定法を紹介する。電位差分析法について講義する。電位差測定法に関する演習を行う。
7	電気化学的測定法2	電解分析法、電気伝導度分析法について講義する。電気化学的測定法に関する演習を行う。
8	中間試験	1週目から7週目までの内容を出題する。
9	中間試験の解説・紫外可視分光法1	中間試験の問題について解説を行う。紫外可視分光法の原理と基礎理論について講義する。
10	紫外可視分光法2	紫外可視分光法の原理と基礎理論について講義する。ランベルトベールの法則および絶対検量線を用いた測定値の取り扱い方について演習を行う。
11	紫外可視分光法3	紫外可視分光光度計について講義する。全体のまとめとして紫外可視分光光度法について教材ビデオ等を用いて理解を深める。紫外可視分光法に関する演習を行う。
12	クロマトグラフィー1	機器分析においてクロマトグラフィーは移動相が気体のガスクロマトグラフィーと、移動相が液体の液体クロマトグラフィーに大別される。クロマトグラフィーの分類、分離の種類と分離の基本原則について講義する。
13	クロマトグラフィー2	クロマトグラフィーの基本原則について講義する。定性分析、定量分析方法について演習を交えながら講義する。
14	クロマトグラフィー3	ガスクロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーについて講義する。クロマトグラフィーに関する演習を行う。
15	前期のまとめ	定期試験に向けて、前期の講義のまとめを行う。
16	前期定期試験の解説・赤外線吸収法1	前期定期試験の問題について解説を行う。分子振動と分子構造、赤外線吸収スペクトルの原理について講義する。
17	赤外線吸収法2	赤外線吸収スペクトルの測定法、測定結果の解析法について講義する。
18	赤外線吸収法3	赤外線吸収測定結果の解析法について講義する。教材ビデオ等を用いて理解を深める。赤外線吸収に関する演習を行う。
19	核磁気共鳴スペクトル1	核磁気共鳴の基礎となる原理、化学シフト、スピンスピン結合について講義する。
20	核磁気共鳴スペクトル2	核磁気共鳴の基礎となる原理、化学シフト、スピンスピン結合について講義する。1H NMRスペクトルの測定結果の解析法について講義する。
21	X線分析法1	X線とは何か、発生法、X線の吸収など、X線分析法の理解に必要な基礎的事項を講義する。
22	X線分析法2・中間試験に向けたまとめ	X線分析法の理解に必要な基礎的事項を講義する。X線回折分析に必要な基礎知識を講義する。X線分析に関する演習を行う。中間試験に向けたまとめを行う。
23	中間試験	16週目から22週目までの内容を出題する。
24	中間試験の解説・原子吸光度法、ICP発光分析法1	中間試験の問題について解説を行う。原子吸光分析法の基礎理論を講義する。
25	原子吸光度法、ICP発光分析法2	原子吸光度計について、測定方法の応用および得られたデータ解析法について演習を交えながら講義する。
26	原子吸光度法、ICP発光分析法3	原子吸光分析法について教材ビデオ等を用いて理解を深める。ICP発光分析法の基礎理論を講義する。ICP発光分析法に関する演習を行う。
27	質量分析法1	質量スペクトルの測定に関する基礎理論、分子のイオン化の方法の特徴と開裂について講義する。
28	質量分析法2	質量スペクトラムの見方、解析法について講義する。質量分析法に関する演習を行う。
29	熱分析	熱重量測定、示差熱分析、示差走査熱量測定の原理と測定法について講義する。測定データの解析法について演習を交えながら講義する。
30	後期のまとめ	後期定期試験に向けたまとめを行う。
備考	前期、後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	化学工学I (Chemical Engineering I)		
担当教員	(前期)増田 興司 講師,(後期)久貝 潤一郎 准教授		
対象学年等	応用化学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-C4(100%)		
授業の概要と方針	化学工学の基礎として,物質収支,熱力学第一法則,エネルギー収支,流動操作,拡散単位操作(蒸留,ガス吸収)について学ぶ。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-C4】単位操作における物質収支の計算法を習得する。		単位操作に応じて物質収支式を導き,物質収支を求める方法を習得したかどうかを演習および前期中間試験で評価する。
2	【A4-C4】熱力学第一法則と熱化学を理解する。		熱力学第一法則および熱化学の基礎について理解し,活用できるかどうかをレポートおよび前期中間試験で評価する。
3	【A4-C4】単位操作におけるエネルギー収支の計算法を習得する。		単位操作に応じてエネルギー収支式を導き,エネルギー収支を求める方法を習得したかどうかをレポートおよび前期中間試験で評価する。
4	【A4-C4】流れ系の物質収支とエネルギー収支の計算法を習得する。		流れ系の物質収支とエネルギー収支を理解し,計算法を習得したかどうかを演習および前期定期試験で評価する。
5	【A4-C4】流動の特性と特性に応じたエネルギー収支の計算法を習得する。		流動の特性と流れの状態に応じたエネルギー収支計算法を習得したかどうかを前期定期試験で評価する。
6	【A4-C4】気液平衡関係の表示法の計算法を習得する。		2成分系の気液平衡関係の表示法としてx-yグラフとt-x-yグラフの意味を理解する。また理想系の気液平衡計算法,沸点計算法を修得したかどうかをレポート,演習,後期中間試験で評価する。
7	【A4-C4】段塔の構造の理解とマッケーブシール法による理論段数の決定ができる。		蒸留塔の代表的な装置である段塔の構造の理解とマッケーブシール法による理論段数の決定法を修得したかどうかを演習,後期中間試験で評価する。
8	【A4-C4】ガス吸収速度を表現する数式を理解し,その計算法を習得する。		二重境膜説に基づくガス吸収速度を表現する数式の理解とその計算法を修得したかどうかを演習,後期定期試験で評価する。
9	【A4-C4】充填塔を用いたガス吸収操作法の理解とその高さを算出できる。		吸収塔の代表的な装置である充填塔の構造の理解とその高さをHTUとNTUを用いて算出する方法を修得したかどうかをレポート,後期定期試験で評価する。
10	【】		
総合評価	成績は,試験85% レポート10% 演習5% として評価する。なお,試験成績は,4回の試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	応用物理I		
履修上の注意事項	熱力学の基礎と相平衡関係の理解が前提。		

授業計画(化学工学I)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	化学工学の導入,単位換算	化学工学の背景および単位とその換算法について学ぶ。
2	反応を伴わない物質収支	物理的過程の物質収支について学ぶ。
3	反応を伴う物質収支	化学反応過程の物質収支について学ぶ。
4	演習	これまで学習した内容に関する演習。
5	熱化学	エンタルピーおよびその収支について学ぶ。
6	反応を伴わないエネルギー収支	物理的過程のエネルギー収支について学ぶ。
7	反応を伴うエネルギー収支	化学反応過程のエネルギー収支について学ぶ。
8	中間試験	前期前半の項目に関する試験。
9	中間試験の解説・流れ系の物質収支	中間試験の解説,流れ系の物質収支について学ぶ。
10	流れ系のエネルギー収支	流れ系のエネルギー収支について学ぶ。
11	流体の性質	流体の粘度,流れの状態について学ぶ。
12	演習	これまで学習した内容に関する演習。
13	流体の性質	流れの状態,流速の分布について学ぶ。
14	流動によるエネルギー損失	管内流動によるエネルギーの損失について学ぶ。
15	流体輸送に必要なエネルギー	流体を輸送するために必要なエネルギーの計算法について学ぶ。
16	蒸留操作(気液平衡関係)	気液平衡関係の表示法と理想溶液のラウール則を理解する。
17	蒸留操作(気液平衡計算)	理想溶液の気液平衡計算法の修得と非理想溶液の取扱について理解する。
18	蒸留操作(単蒸留とフラッシュ蒸留)	単蒸留とフラッシュ蒸留の物質収支の理解とその図解法について修得する。
19	蒸留操作(演習)	上記3週の演習。
20	蒸留操作(連続蒸留とその原理)	連続蒸留の原理と物質収支の理解および操作線の意味を学ぶ。
21	蒸留操作(蒸留装置,段塔,充填塔)	マッケーブシール法による階段作図で理論段数を求める手法の理解とその演習。
22	蒸留操作(蒸留装置,段塔,充填塔)	還流比と理論段数の関係について理解する。
23	中間試験	後期前半の試験。
24	中間試験の解説・ガス吸収操作(気体の液体に対する溶解度)	中間試験の解説,気体の液体に対する溶解度の表示法と理想溶解度の意味やその限界について理解する。
25	ガス吸収操作(物質移動速度)	異相系の物質移動モデルである二重境膜説の考え方の理解とそれを用いた移動速度の算出法の修得。
26	ガス吸収操作(物質移動速度)	物質移動係数の実測値とそれを用いた吸収速度の算出。
27	ガス吸収操作(演習)	上記3週の演習。
28	ガス吸収操作(吸収装置)	ガス吸収装置の分類と充填塔の構造とその充填物についての理解。
29	ガス吸収操作(段塔による連続ガス吸収)	段塔を用いた理論段数の図解法による求め方の理解。
30	ガス吸収操作(充填塔による連続ガス吸収)	充填塔の高さをNTUとHTUを算出することで求める方法について理解する。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	図学・製図 (Descriptive Geometry and Drafting)		
担当教員	尾崎 純一 教授		
対象学年等	応用化学科・3年・前期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A2(30%), A4-C4(50%), C3(20%)		
授業の概要と方針	化学工業分野をはじめものづくりの現場では,化学系技術者と機械系技術者が図面を介してコミュニケーションをとることが重要になる.このため,化学系技術者を目指す学生も機械工学の基本知識を持ち,ものづくりに不可欠な製図や製作図の基本を身につけておく必要がある.本授業では,機械工学に関する基礎として,主に立体図,投影図の作図力および製作図の読図力を養う.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-C4】機械製図としての文字や線のかき方,基礎的な図形の描き方がわかる.		機械製図としての文字や線のかき方,基礎的な図形の描き方を理解したか課題で評価する.
2	【C3】立体図および投影法の基本的な描き方がわかる.		立体図および投影法の基本的な描き方が理解できたか課題により評価する.
3	【A2】製作図の描き方の基本および寸法記入の基本が理解できる.		製作図の描き方の基本および寸法記入の基本が正しく理解できているか課題により評価する.
4	【A4-C4】簡単な機械要素を含む図面について,記載されている内容を正しく読み取ることができる		簡単な機械要素を含む図面について,記載されている内容を正しく読み取ることができたか課題で評価する.
5	【A4-C4】決められた期日までに図面を完成できる.		決められた期日までに図面を完成できたか課題提出状況により評価する.
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は,課題および提出状況100% として評価する.100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト			
参考書			
関連科目	プロセス設計,機械工学概論		
履修上の注意事項	各自用意するもの:シャープペンシル(0.3mm,0.5mm,0.7mmのうち2種類),定規(30cm以上のもの),三角定規,コンパス		

授業計画(図学・製図)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス	図学・製図を学ぶに当たって
2	文字,線,簡単な図形	直線,円弧と円,直線と円弧,円弧と円弧,平面曲線
3	立体的な図示法	等角図,キャビネット図
4	立体的な図示法	等角図,キャビネット図
5	投影図	投影法と投影図
6	投影図	投影法と投影図
7	展開図	立体の展開図
8	展開図	立体の展開図
9	図形の表し方	図の選び方と配置,断面図示,線・図形の省略
10	寸法記入法	寸法記入法の基本
11	公差	公差の種類と概念
12	機械要素	機械要素部品の製図
13	機械要素	機械要素部品の製図
14	課題製図	総合演習
15	課題製図	総合演習
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	中間試験および定期試験は実施しない。	

科目	応用化学実験II (Laboratory Work II in Applied Chemistry)		
担当教員	渡辺 昭敬 教授, 大淵 真一 教授, 九鬼 導隆 教授, 小泉 拓也 准教授, 根本 忠将 准教授		
対象学年等	応用化学科・3年・通年・必修・4単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-C1(30%), A4-C3(30%), B1(10%), B2(10%), C4(10%), D1(10%)		
授業の概要と方針	本実験では有機化学分野と物理化学分野の実験を行う。有機化学実験では、有機化学反応における理論を講義を通して理解した内容と関連させて、基本的な実験により操作法および考え方を修得させる。物理化学実験においては物理化学の講義の理解度を深めるとともに、各種測定機器の取り扱い法およびその応用を習得させる。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-C1】有機化学の講義で学んだ知識を実験を行うことにより確かめるとともに反応性や反応機構が理解できる。		有機化合物の反応性や反応機構の理解度を実験技術とレポートにより評価する。
2	【A4-C1】有機化合物の合成法(反応,分離・精製,同定法)に必要な基本的な操作法を習得する。		有機化合物の合成実験(反応,分離・精製,同定法)における操作法の習熟度を実験技術とレポートにより評価する。
3	【A4-C3】気体・液体・固体の基礎物性の測定方法について実験の精度とともに理解できる。		蒸気密度,液体の密度・粘度・屈折率,凝固点降下などの基礎物性の測定結果について,レポートを提出させて測定法の理解ができているか評価する。
4	【A4-C3】液体相互間での各種反応における物理化学的物性を測定し,現象を理解できる。		液体の相互溶解度,分配係数,化学平衡,吸着,表面張力などの実験結果について,レポートを提出させて測定法の理解ができているか評価する。
5	【A4-C3】電解質溶液中での電気化学的な挙動について計測し,現象を理解できる。		起電力,分解電圧,輸率,pH緩衝液などの実験結果について,レポートを提出させて測定法の理解ができているか評価する。
6	【B1】測定によって得られたデータをグラフ化し解析することができる。		測定データがグラフ化できているか,その内容が理解できているかをレポートで評価する。
7	【B2】実験結果を説明することができる。		実験結果を説明できるかをレポートで評価する。
8	【C4】グループで協力して実験を行うことができる。		グループ内での行動や実験に対する姿勢を実験技術で評価する。
9	【D1】実験廃液,廃棄物の分別や処理が的確にできる。		実験廃液,廃棄物の分別や処理が的確にできるかを実験技術で評価する。
10	【】		
総合評価	成績は,レポート85% 実験技術15% として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。また,未提出のレポートがある場合は上記の評価方法は適用しない。提出が遅れた場合にはその日数に比例して減点する。		
テキスト			
参考書			
関連科目	C2 有機化学I,C2 分析化学I,C3 分析化学II,C3 有機化学II,C3 応用物理I		
履修上の注意事項	各実験テーマの基礎となる反応理論や計算理論を十分に理解しておくこと。		

授業計画(応用化学実験II)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	(前期有機化学実験) 説明 (実験内容, レポート, 安全管理等注意)	前期に行う実験内容について説明し, レポートの書き方について注意点を説明する。また実験を行う際の機器, 薬品等の取り扱い, 安全管理について説明する。
2	ガラス細工および炭化水素の実験	ガラス細工の技術を習得し, 実験に使用する器具(ピペット, 毛细管等)を作成する。炭化水素の化学的性質を調べる。
3	アルコールおよびエーテルの実験	アルコールおよびエーテルの反応性や化学的性質を調べる。
4	臭化エチルの合成	臭化エチルの合成実験を通して実験操作法を修得する。
5	ハロゲン化合物の実験	ハロゲン化合物の反応性(SN1, SN2反応)や化学的性質を調べる。
6	アルデヒドおよびケトンの実験	アルデヒドおよびケトンの実験を通して, カルボニル化合物の反応性や検出法などを修得する。
7	酢酸エチルの合成およびガスクロマトグラフィー分析	酢酸エチルの合成実験を通して実験操作法を修得する。また, ガスクロマトグラフィー分析法について学ぶ。
8	(前期物理化学実験) 説明 (実験内容, レポート, 安全管理等注意)	前期に行う実験内容について説明し, レポートの書き方について注意点を説明する。また実験を行う際の機器, 薬品等の取り扱い, 安全管理について説明する。
9	液体の相互溶解度	水・ベンゼン・酢酸の三成分混合物系の相互溶解度を測定する。同時に三角座標を用いたグラフの作成法も学ぶ。
10	分配係数	分配の法則に基づいて, コハク酸の水とエーテルに対する分配係数を測定する。
11	一次反応速度	酢酸メチルの塩酸による加水分解反応を時間的に追跡することにより擬一次反応の取り扱いを理解する。
12	液体の密度・粘度・屈折率	基本的な物性定数を理解し, その測定法を学ぶ。水と2-プロパノール混合液についてその密度・粘度・屈折率を測定する。
13	凝固点降下	溶媒にベンゼン, 溶質にメチルナフタレンを用いて, ベックマン温度計でモル凝固点降下を調べることに溶質の分子量を測定する。
14	パソコンによるデータ処理	物理化学実験で行った実験データをもとに, パソコンで統計処理およびグラフ作成する。
15	前期実験全般のまとめあるいは工場見学	前期で行った実験のまとめを行う。あるいは工場見学を行い, 実際に化学がどのように社会に貢献しているかを学ぶ。
16	(後期有機化学実験) 説明 (実験内容, レポート, 安全管理等注意)	後期に行う実験内容について説明し, レポートの書き方について注意点を説明する。また実験を行う際の機器, 薬品等の取り扱い, 安全管理について説明する。
17	トリフェニルメタノールの合成1	Grignard反応によるトリフェニルメタノールの合成実験を通し, 無水条件下での実験操作法を習得する。
18	トリフェニルメタノールの合成2	生成物の分離・精製(水蒸気蒸留, 再結晶)と融点測定の実験操作法を習得する。
19	アジピン酸ジエチルの合成1	エステル化反応における平衡反応下での合成実験操作法を習得する。
20	アジピン酸ジエチルの合成2	生成物の分離・精製(減圧蒸留)の実験操作法を習得する。
21	トルエンのニトロ化反応およびガスクロマトグラフィーによる異性体の分離	トルエンのニトロ化反応を行い, 生成物をガスクロマトグラフィー分析することにより異性体生成比を求める。
22	安息香酸メチルのニトロ化反応およびガスクロマトグラフィーによる異性体の分離	安息香酸メチルのニトロ化反応を行い, 生成物をガスクロマトグラフィー分析することにより異性体生成比を求める。
23	(後期物理化学実験) 説明 (実験内容, レポート, 安全管理等注意)	後期に行う実験内容について説明し, レポートの書き方について注意点を説明する。また実験を行う際の機器, 薬品等の取り扱い, 安全管理について説明する。
24	化学平衡定数の決定	ヨウ化カリウムとヨウ素の平衡反応の平衡定数を, 四塩化炭素と水との間のヨウ素および四塩化炭素とヨウ化カリウムの分配率の測定により, 分離法によって求める。
25	蒸気密度の測定及びその分子量の評価	ピクターマイヤー法により, クロロホルム, ジクロロメタンおよびトリクロロエチレンの蒸気密度を測定する。その結果からそれぞれの分子量を計算により求め, 理論値との比較を行う。
26	液体中の吸着現象	数種類の濃度の酢酸水溶液を作り, これに活性炭を入れ, それぞれの酢酸の吸着量を滴定によって求める。次にその濃度と吸着量の関係をフロイドリッヒの式に代入し, グラフから定数a, nを求める。
27	pHメーターの使用, 緩衝液	酸塩基滴定, キレート滴定のpHを測定し, そのpH曲線を作成する。その結果より緩衝液の原理を理解し, pHメーターの使用法を習得する。
28	起電力・分解電圧の測定	カドミウム標準電池を用いて乾電池の起電力を測り, またこの乾電池を用いて, 濃淡電池, ダニエル電池の起電力を求める。次に分解電圧測定装置を組み立て, 4種類の金属塩の電解液について電流・電圧の関係から分解電圧を求める。
29	輪率・表面張力の測定	硝酸銀水溶液中における銀イオンおよび硝酸イオンの輪率を測定する。また, デュヌイの表面張力計を用いて水の表面張力からエタノールおよびベンゼンの表面張力を求める。
30	後期実験全般のまとめあるいは工場見学	後期で行った実験のまとめを行う。あるいは工場見学を行い, 実際に化学がどのように社会に貢献しているかを学ぶ。
備考	中間試験および定期試験は実施しない。クラスを2グループに分け, グループ毎に前期・後期とも2分野(有機化学実験および物理化学実験)を実施する。	

科目	応用数学I (Applied Mathematics I)		
担当教員	児玉 宏児 教授		
対象学年等	応用化学科・4年・前期・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A1(100%)		
授業の概要と方針	ベクトル解析および線形代数の基本的な概念を理解し,それらを道具として使えるようになることを目標とする.話が抽象的になりすぎないよう具体例を豊富に扱い,多くの計算を実際に行うことを重視する.頭の中に,計算の背景にある数学的世界のイメージが描けるようになることを目標とする.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A1】スカラー場・ベクトル場の概念を理解する.勾配,発散,回転の概念を理解する.		中間試験・定期試験,レポートで評価する.
2	【A1】線積分,面積分の概念を理解し,その計算ができる.発散定理,ストークスの定理の概要を理解する.		中間試験・定期試験,レポートで評価する.
3	【A1】行列の基本的な演算ができる.行列の基本変形を理解し,連立1次方程式の解法に利用できる.		中間試験・定期試験,レポートで評価する.
4	【A1】行列の階数を計算できる.ベクトルの一次結合,一次独立・従属について理解している.		中間試験・定期試験,レポートで評価する.
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は,試験75% レポート20% 実力試験5% として評価する.100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト			
参考書			
関連科目	2年数学I,数学II, 3年数学I, 4年応用物理		
履修上の注意事項	・参考書に挙げた書籍は全部買い揃える必要はない.必要に応じて 図書館等で参照することが望ましい.・この科目の内容は, 2年数学I, 数学II, 3年数学Iおよび 4年応用物理の内容と関係が深い. 適宜,それらの教科書・問題集を参照すること.		

授業計画(応用数学I)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ベクトル解析の概要(1)	ベクトル解析はどのような数学かを理解する。ベクトルの演算(内積)が計算できる。
2	ベクトル解析の概要(2)	ベクトルの演算(外積)が計算できる。
3	ベクトルの微分	ベクトルの演算(微分)が計算できる。
4	ベクトルの積分	ベクトルの演算(積分)が計算できる。
5	スカラー場と勾配, 勾配の性質	スカラー場とその勾配を理解する。方向微分係数や等位面を定義し, 勾配との関連を理解する。
6	発散	ベクトル場とその発散を理解する。ラプラシアンを定義する。
7	回転	ベクトル場の回転を理解する。
8	演習	ベクトルの基本的な計算についての総合的な演習を行う。
9	空間曲線	曲線の表示, 弧長, 接ベクトルなどを理解する。
10	線積分	曲線に沿ってのスカラー場とベクトル場の線積分を定義する。
11	曲面	2パラメータを使用した曲面の表示について理解する。法単位ベクトル, ベクトル面要素などを理解する。
12	面積分	曲面に沿ってのスカラー場やベクトル場の面積分を定義する。
13	演習1	線積分, 面積分についての演習を行う。
14	演習2	ベクトル解析についての総合的な演習を行う。
15	中間試験	中間試験を実施する。
16	ガウスの発散定理	発散定理について理解する。
17	ストークスの定理	ストークスの定理について理解する。
18	線形代数の概要/行列の演算	高等数学における線形代数の位置づけを理解する。行列の定義について確認する。行列の和, 差, 積, スカラー倍の計算方法を理解する。
19	特別な行列	零行列, 単位行列, ベキ等行列, ベキ零行列を理解する。転置行列, 対称行列, 交代行列, 直交行列を理解する。
20	正則行列, 行列の分割	正則行列と逆行列の定義を理解する。行列をブロックに分割して積を計算し, 特に行ベクトル, 列ベクトルへの分割が有用であることを理解する。
21	行列の基本変形と階数	行列の基本変形を理解する。行列の簡約化を行い階数(ランク)を求める。
22	連立1次方程式の解法	連立1次方程式の係数行列および拡大係数行列を利用して連立1次方程式を解く。
23	連立1次方程式の解の存在条件	行列の階数を用いて連立方程式の解のあり方を分類する。
24	正則行列とその逆行列	正則行列に対する逆行列を計算する。
25	ベクトル空間	ベクトル空間を定義し, いくつかの例が実際に定義を満たしていることを確認する。
26	部分空間	部分空間を定義し, いくつかの具体例についてそれが部分空間であることを確認する。ベクトルの1次結合, ベクトルの組から生成される部分空間を理解する。
27	ベクトルの1次独立と1次従属	ベクトルの1次独立と1次従属の定義を理解し, 行列・行列の階数との関連について確認する。
28	ベクトル空間の基と次元	ベクトル空間の基と次元の定義を理解する。
29	連立方程式の解空間	連立方程式の解空間の次元と基を求める。
30	演習	線形代数のこれまでの内容について演習を行う
備考	前期中間試験および前期定期試験を実施する。	

科目	応用数学II (Applied Mathematics II)		
担当教員	児玉 宏児 教授		
対象学年等	応用化学科・4年・後期・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A1(100%)		
授業の概要と方針	線形代数の基本的な概念を理解し、道具として使えるようになることを目標とする。話が抽象的になりすぎないよう具体例を豊富に扱い、多くの計算を実際に行うことを重視する。頭の中に、計算の背景にある数学的世界のイメージが描けるようになることを目標とする。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A1】行列式について理解し、行列式の計算ができる。		中間試験・定期試験, レポートで評価する。
2	【A1】内積空間の上で、内積・長さ・なす角を計算できる。		中間試験・定期試験, レポートで評価する。
3	【A1】線形写像の概念、線形写像と行列の関係を理解する。		中間試験・定期試験, レポートで評価する。
4	【A1】固有値・固有ベクトルについて理解し、行列の対角化が行える。対称行列を直交行列で対角化できる。2次形式の標準化が行える。		中間試験・定期試験, レポートで評価する。
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は, 試験75% レポート25% として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	2年数学II		
履修上の注意事項	・参考書に挙げた書籍は全部買い揃える必要はない。必要に応じて図書館等で参照することが望ましい。・ジョルダン標準形については, 軽めに扱う。		

授業計画(応用数学II)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	階数	行列の階数(ランク)について復習する。
2	順列	偶順列, 奇順列について理解し, 順列の符号を求める。
3	行列式の定義	行列式の定義について理解する。
4	行列式の計算(1)	2次,3次の行列式の計算ができる。
5	行列式の計算(2)	4次以上の行列式の計算ができる。
6	行列式の計算(3)	文字の入った少し複雑な行列式の計算ができる。
7	余因子展開	余因子展開を行なって4次以上の正方行列の行列式を計算できる。
8	余因子行列と逆行列	余因子行列を利用して逆行列が計算できる。
9	クラメールの公式	クラメールの公式を利用して連立方程式の解が計算できる。
10	行列式のまとめ	行列式についてこれまでの復習を行う。
11	内積, 内積空間	内積の定義を理解し, 内積・長さ・なす角の計算を行う。内積の導入されたベクトル空間について理解する。
12	グラム・シュミットの正規直交化法	グラム・シュミットの正規直交化法の計算を行う。
13	直交補空間	直交補空間, 正射影について理解する。
14	演習	これまでの内容について総合的な演習を行う。
15	中間試験	中間試験を実施する。
16	写像	写像について理解する。全射, 単射, 全単射, 逆写像, 写像の合成について理解する。
17	線型写像	線型写像を定義する。同型写像について理解し, ベクトル空間の同型を理解する。
18	基底の取り換え	基底の取り換えに対する座標の変化を, 線型写像としてとらえる。基底の取り換え行列について理解する。
19	線型写像の表現行列	線型写像の表現行列について理解する。基底の取り換えに対して表現行列がどのように変化するか計算を行う。
20	線形写像の像と核	線形写像の像と核を定義し, それらの次元が線型写像の表現行列の階数と関係があることを理解する。
21	固有値, 固有ベクトル, 固有多項式と固有空間	線形変換の固有値, 固有ベクトル, 固有空間の定義を理解する。行列の固有多項式を利用して, 線形変換の固有値, 固有空間を求める。
22	行列の対角化(1)	行列が対角化できるための必要十分条件を理解し, 与えられた行列を対角化する。
23	行列の対角化(2)	行列の対角化に関する問題演習を行う。
24	直交変換	直交変換の定義と, 直交行列との関係を理解する。
25	対称行列の対角化	対称行列を直交行列により対角化する。
26	2次形式	2次形式が行列を用いて表現できることを理解する。
27	2次形式の標準形	対称行列の対角化の応用として, 2次形式の標準形を計算する。
28	平面2次曲線の分類	2次形式の標準形の応用として, 平面2次曲線の分類を行う。
29	演習	固有値・固有ベクトル, 対称行列の対角化とその応用についてまとめの問題演習を行う。
30	ジョルダン標準形	ジョルダン標準形について概要を理解する。
備考	後期中間試験および後期定期試験を実施する。	

科目	応用物理II (Applied Physics II)		
担当教員	九鬼 導隆 教授		
対象学年等	応用化学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位III)		
学習・教育目標	A2(100%)		
授業の概要と方針	化学では原子や分子等の微視的な系や、微視的な系と巨視的な系の関連を理解する必要がある。そこで、本講義では、3年生の応用物理Iの続きである、二体問題系の力学や回転運動、解析力学を講義し、続いて、微視的な系と巨視的な系をつなぐ統計熱力学の基礎を講義する。次に、微視的な系を理解するのに必須の量子力学の基礎と原子への応用を講義する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A2]運動量保存則、重心系の運動と相対運動等の基本的な概念を理解し、粒子の衝突等の基本的な2体問題を解くことができ、また、運動量等の物理量や衝突後の粒子の軌道等が計算できる。		前期中間試験とレポートで、基本的な2体問題が解けるかどうか、また、質点の軌道や運動量等が計算できるかどうかで評価する。
2	[A2]慣性モーメントや角運動量保存則等の基本的な概念を理解し、中心力場における質点の運動についての基本的な力学問題を解くことができ、また、角運動量やエネルギー等の物理量が計算できる。		前期中間試験とレポートで、中心力場における基本的な2体問題が解けるかどうか、また、慣性モーメントや角運動量等が計算できるかどうかで評価する。
3	[A2]ラグランジュ形式、ハミルトンの正準変換形式の理論を理解し、力学系に適用できる。		前期定期試験とレポートで、基本的な力学系に解析力学の手法を適用し、力学系の運動が解けるかどうかで評価する。
4	[A2]熱力学や統計力学の基本原則を理解し、微視的な物理量と巨視的な物理量を関連づけることができる。		前期定期試験とレポートで、熱力学や統計力学の基本原則を説明させ、的確に説明できるかどうか、あるいは、微視的な物理量から巨視的な物理量が導出できるかどうかで評価する。
5	[A2]波動現象と波動方程式を理解し、波動の基本的性質、重ね合わせや干渉が説明できる。		前期定期試験とレポートで、波動方程式を求めたり解いたりすることができるかどうか、波動方程式の解の性質が波動方程式から説明できるかどうかで評価する。
6	[A2]黒体放射と比熱理論、光電効果と電子線回折、ボーアの模型等から、古典物理学の限界、エネルギーが離散的であること、波動と粒子の二重性等について説明できる。		後期中間試験とレポートで、黒体放射や光電効果、ボーアの模型等を説明させ、古典物理学の限界、エネルギーが離散的であること、波動と粒子の二重性等についての的確に説明できるかどうかで評価する。
7	[A2]ハイゼンベルクの不確定性原理、ポルンの確率解釈、シュレディンガー方程式の解の性質や境界条件とエネルギーの関係を定性的に説明できる。		後期定期試験とレポートで、不確定性原理やポルンの確率解釈、シュレディンガー方程式の解の性質等を説明させ、的確に説明できるかどうかで評価する。
8	[A2]量子力学で基本的な系の厳密解が求められる。		後期定期試験とレポートで、与えられた基本的な系の厳密解が求められるかどうかで評価する。
9	[A2]水素型原子の主量子数、方位量子数、磁気量子数の意味、量子数と波動関数の節の数との関係等を理解し、水素型原子の原子軌道の概形が描ける。		後期定期試験とレポートで、水素型原子中の電子の軌道について説明させ、量子数の意味が的確に説明でき、かつ、電子の軌道の形が描けるかどうかで評価する。
10	[ ]		
総合評価	成績は、試験90% レポート10% として評価する。4回ある試験のそれぞれを25%として合計し試験成績とする。総合成績で100点満点中60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	1～3年までの物理学・数学、3年生の応用物理I、4年生の応用数学I・II、確率統計		
履修上の注意事項	統計力学や量子力学といった、数理物理学の花形とも言える分野の基礎を学習するので、当然、基礎的な物理学とその基礎となる数学に精通していることが望ましい。1～3年までの物理学や数学のみならず、同時進行で学習する応用数学や確率統計の内容も必要となってくる。これらの科目を復習したり、良く学習しておくことが望ましい。		

授業計画(応用物理II)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	応用物理IIの全般的な説明と諸注意.3年生の応用物理I後期の復習	本講義で教授する内容の全般的な概説と受講時の諸注意を行い,続いて,本講義の基礎となる3年生の応用物理I後期で学んだ内容(1体問題の力学系)に関する簡単な復習を行う.
2	運動量保存則	互いに力を及ぼしあつて運動する質点系の運動方程式について説明し,運動量,運動量保存則について解説する.
3	衝突の問題	運動量保存則を応用し,基本的な衝突問題を解説する.また,弾性係数や力積,エネルギー保存則についても解説する.
4	重心系の運動と相対運動	2体問題での運動を重心系の運動と相対運動に分離し,運動量保存則が成り立つ場合や外力が働いている場合等,力学系がどう記述できるかを解説し,運動エネルギーと重心系の運動・相対運動がどう関係にあるかを説明する.
5	中心力場における2体問題	惑星の運動よりケプラーの法則と万有引力等を説明し,角運動量や角運動量保存則等について解説する.
6	万有引力によるポテンシャルエネルギー,動径運動と角運動のエネルギー	万有引力によるポテンシャルエネルギーを説明し,エネルギー保存則を極座標で書き直して,各エネルギー項,動径運動による運動エネルギー,角運動による角運動エネルギー,中心力場のポテンシャルエネルギーを解説する.
7	慣性モーメント	簡単な系で慣性モーメントを説明し,質量と運動量や運動エネルギーの関係と対比させながら,角運動量や角運動のエネルギーと慣性モーメントの関係を解説する.
8	中間試験	到達目標および評価方法の1~2.
9	解析力学:ラグランジュ形式	ニュートン力学を座標に依存しない形で数学的に整理すべく,実際に起こる力学的運動は,作用積分が最小値をとるというハミルトンの原理から,ラグランジアンを定義してハミルトンの原理を適用し,ラグランジュ形式の運動方程式を導く.また,ラグランジュ形式の運動方程式がニュートンの運動方程式と等価であることも示す.
10	ハミルトンの正準変換形式とポアソンの括弧	正準運動量を定義し,正準運動量と位置を基本的な独立変数と見なして,ラグランジアンよりハミルトニアンを定義する.ハミルトニアンの全微分より,ハミルトンの正準方程式を導き,ハミルトンの正準方程式がニュートンの運動方程式と等価であることも示す.また,物理量の時間発展を記述するポアソンの括弧も紹介する.
11	熱力学の復習	熱力学の諸概念やギブズの自由エネルギーについて復習する.
12	統計力学:エントロピーの意味	エントロピーを確率論から解釈し直す.エントロピー増大の法則を確率論からとらえ,巨視的には同じ状態となる微視的な状態の場合の数がエントロピーであることを示し,エントロピー増大の法則が巨視的な状態の実現確率の問題であることを示す.
13	マイクロ正準集団の統計力学	マイクロ正準集団の統計力学を解説する.エネルギーが離散的な系で,エントロピー増大の法則(微視的な場合の数が最大になる巨視的な状態が実現される)からマイクロ正準集団での分配関数等を導き,ボルツマン分布等についても講義する.また,微視的なエネルギー状態と巨視的な物理量との関係等も説明する.
14	波動現象と波動方程式	弦の振動を例に,波動方程式を導出し,波動方程式の解・波動関数を求める.
15	波動関数の性質と波動方程式	波動方程式の解である波動関数の性質について解説し,また,波動関数の定数倍や線形結合が波動方程式の解となっていることを示し,波動の重ね合わせや干渉について解説する.
16	古典物理学の破綻	19世紀末から20世紀初頭にかけての物理学界の状況を概観する.いわゆるエーテル問題と黒体放射から,相対論と量子論が誕生した歴史的経緯を,簡単に説明する.
17	黒体放射とアインシュタインの比熱理論	黒体放射におけるレイリー-ジーンズの法則と紫外部の破綻やプランクの放射式の解説に加えて,固体の比熱におけるデュロン-プレティの法則と現実とのズレやアインシュタインの比熱理論を解説し,プランクの量子仮説の発見過程とエネルギーが離散的であることの意味を講義する.
18	光電効果と電子線回折	光電効果の実験とアインシュタインの解釈を説明し,電磁波(波動)が光子(粒子)としての性質を持つことを,また,電子線回折の実験より,電子(粒子)が波動としての性質を持つこととド・ブロイの物質波について解説し,波動と粒子の二重性について講義する.
19	前期量子論(ボーアの模型)	ラザフォード型原子模型と,ボーアの量子条件を用いて,水素型原子の中の電子のエネルギーを計算し,水素型原子のスペクトルが離線となることや,水素原子のスペクトル系列(バルマー系列やライマン系列等)が説明できることを解説する.
20	微視的な系の力学	フェルマーの定理から導出される幾何光学のアイコナール方程式と,ハミルトンの原理から導出される解析力学のハミルトン-ヤコビの方程式が類似していること,波長が0の極限で,波動光学から幾何光学へ移行できること等から,古典力学に対応する波動力学とも言えるべき理論体系が示唆されることを簡単に説明する.
21	シュレディンガー方程式	シュレディンガー方程式を提示し,古典的ハミルトニアンから量子的ハミルトニアンへの移行,シュレディンガー方程式の特徴,非定常状態と定常状態のシュレディンガー方程式と状態ベクトル等について解説する.
22	ド・ブロイ波とボルの確率解釈,不確定性原理	電子線回折等の実験より,ド・ブロイ波が確率振幅であることを示し,ボルの確率解釈について解説する.さらに,ド・ブロイ波と粒子の運動量の関係,波動関数が確率振幅であることからハイゼンベルクの不確定性原理を解説する.
23	中間試験	到達目標および評価方法の6.
24	量子力学の一般原理(重ね合わせの原理と状態ベクトル)	注目している物理系が,定常状態のシュレディンガー方程式の解が形成するヒルベルト空間内で状態ベクトルとして記述され,物理系の時間発展が,非定常状態のシュレディンガー方程式より,状態ベクトルの運動として記述できる事を解説する.
25	波動関数の性質	シュレディンガー方程式の解である波動関数の性質(一価・有界・連続)を解説し,特に波動関数の連続条件(境界条件)からエネルギーが離散的になることを講義する.
26	一次元井戸型ポテンシャルの厳密解	量子力学の基本でありかつ近似法等の応用の基本となる厳密に解ける系について解説する.1次元の井戸型ポテンシャルに拘束された粒子を解説し,また,一次元無限大井戸型ポテンシャルの応用例として,直鎖共役系分子の共役系の長と主吸収帯の極大波長が比例することを説明できることを示す.
27	波動関数の完備性,固有値と固有関数	一次元無限大井戸型ポテンシャルの波動関数を例にして,物理量演算子の固有値と固有関数が物理量と波動関数であることを示し,さらに,波動関数の規格化と直交性,完全性の仮定より,波動関数が完備性を持ち,線形空間を張る基底ベクトルとなることを解説する.
28	回転運動(円環上の粒子)の厳密解	量子力学の基本でありかつ近似法等の応用の基本となる厳密に解ける系について解説する.2次元極座標系での回転運動について,厳密解を求め,回転運動の特徴と磁気量子数について講義する.
29	1次元調和振動子の厳密解	1次元調和振動子を取り上げ,通常の微分方程式を解く解き方でなく,場の量子論の基礎ともなる,生成・消滅演算子を用いた,代数的な解法で調和振動子のエネルギーを求める.
30	水素類似原子の構造:量子数と原子軌道のエネルギー・形	中心力場に拘束された粒子を取り上げ,その解法を定性的に説明し,主量子数,方位量子数,磁気量子数とその意味について解説する.また,これらの量子数の組み合わせと,水素型原子の電子の軌道の種類や特徴について解説し,量子数と電子の存在確率の節・節面の数の関係から,各軌道の形が予測できることを示す.
備考	本科目の修得には,60時間の授業の受講と30時間の自己学習が必要である. 前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する.中間・定期試験の解説は必要に応じて行う.	

科目	情報処理II (Information Processing II)		
担当教員	増田 興司 講師		
対象学年等	応用化学科・4年・前期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A3(100%)		
授業の概要と方針	最近では優れた汎用プログラムが数多く流布しており、通常の用途には十分である。しかし、コンピュータに何かをさせるときに、全くのブラックボックスであるか多少なりとも原理が理解できているかで、対応や結果の評価等、大きく異なってくる。本講義・実習では基礎的な数値計算を通して、モデル化、プログラムの構造・戦略等を理解し、物事をコンピュータ化の際の基本的な考え方を修得することを目標とする。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A3]数学の問題をコンピュータで計算させるときの基本的な戦略を理解し、戦略の理解の上に、適切なプログラミングができる。		基本的な数学の問題を説明し、コンピュータ上の計算を前提に要素に分解し、再構成して、フローチャートにできるもしくはプログラムとして書くことができるかどうかを演習と定期試験を通して評価する。
2	[A3]自然や日常の現象を、コンピュータで処理するための要素に分解することができ、さらに、分解した要素を再結合して、コンピュータ処理の道筋を立てることができる。		物理学や日常の現象を、コンピュータで処理させるための要素に分解でき、再構成できるかどうかやフローチャートが書けるかどうかを演習で評価する。
3	【】		
4	【】		
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は、試験40% 演習60% として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	情報基礎, 情報処理I		
履修上の注意事項	数値計算とプログラミングの授業であるが、コンピュータを使用する前提として、1年生の情報基礎, 3年生の情報処理Iの内容を理解しておく必要がある。		

授業計画(情報処理II)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	Linuxについて	本校の演習室のマシン群のOSであるLinuxについて、開発秘話等を紹介しながら、本校のマシンの使用法や管理体制について説明する。
2	C言語について	実際に実習に使うプログラミング言語であるC言語について、基本的なプログラムの組み方、実行ファイルの作り方等を解説する。
3	整数の演算:最大公約数を求める単純な方法	二つの整数の最大公約数を求めるためのプログラムを作成して実行する。単純に二つの整数をある整数で割り算していき、最大公約数を求める方法と、素因数分解による方法でプログラミングを行う。
4	ユークリッドの互除法	二つの整数の最大公約数を求めるためのプログラムを作成して実行する。ユークリッドの互除法を用いたプログラミングを行う。
5	最小公倍数	二つの整数の最小公倍数を求めるためのプログラムを作成して実行する。二つの整数を掛け合わせ、最大公約数で割ることにより、最小公倍数を求める方法でプログラミングを行う。
6	素数の判定の単純な方法	ある整数が素数であるかどうかを判定するプログラムを作成して実行する。単純に、2からその整数の直前まで割り算していき、割り切れるかどうかで判定する方法でプログラミングを行う。
7	素数の抜き出し、素数の個数	ある整数までの素数を全て書き出し、その個数を数えるプログラムを作成して実行する。素数であるかどうかを判定するためには、どこまで割り算をすれよいかを考え、目的の整数までの素数を早く抜き出すことを考えてプログラミングを行う。
8	エラトステネスのふるい	ある整数までの素数をエラトステネスのふるいを用いて抜き出すプログラムを作成して実行する。いわゆるフラグ立ての考え方をういてプログラミングを行う。
9	整数の階乗	整数の階乗を求めるプログラムを作成して実行する。整数型変数でプログラミングした場合と、実数型変数でプログラミングした場合の実行結果を比較し、計算のオーバーフローや、変数の型の違いについて考えながらプログラミングを行う。
10	二項係数	二項係数を求めるプログラムを作成して実行する。オーバーフローを避けるための工夫を考えながらプログラミングを行う。
11	実数の計算:合計	合計を求めるプログラムを作成して実行する。変数の使い方に注意しながらプログラミングを行う。
12	平均値と分散・標準偏差	合計を求めるプログラミングに続いて、平均値と標準偏差を求めるプログラムを作成して実行する。変数の格納方法や計算のあとに変化してしまう変数等に注意しながらプログラミングを行う。
13	級数の計算	与えられた級数の和を求めるプログラムを作成して実行する。マクローリン展開等を実際に計算してみて、有限項で打ち切らざるを得ない数値計算の特徴を考えて、有効なプログラミングを行う。
14	行列の演算	行列の積を求めるプログラムを作成して実行する。二次元配列や、繰り返し計算の順番などに注意してプログラミングを行う。
15	消去法	数値計算において必要不可欠な線形代数方程式の解法プログラムを作成して実行する。ガウスの消去法などのアルゴリズムを学んで、プログラミングを行う。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	前期定期試験を実施する。	

科目	有機合成化学 (Synthetic Organic Chemistry)		
担当教員	(前期)大淵 真一 教授,(後期)小泉 拓也 准教授		
対象学年等	応用化学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位III)		
学習・教育目標	A4-C1(100%)		
授業の概要と方針	赤外吸収(IR)スペクトル,核磁気共鳴(NMR)スペクトル,質量(Mass)スペクトルについて,その原理とスペクトル解析法を解説し,演習問題を解かせることにより理解させる.複素環化合物の命名法・構造・合成法・反応性などについて解説する.有機化合物の構造や酸と塩基の概念および置換基効果や共鳴理論を解説する.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-C1】IR,NMRの原理が理解できる.IR,NMRスペクトルから構造既知有機化合物の解析ができる.IR,NMRスペクトルから構造未知有機化合物の解析ができる.		IR,NMRの原理が理解できたか,IR,NMRスペクトルから構造既知有機化合物の解析ができるか,IR,NMRスペクトルから構造未知有機化合物の解析ができるかをレポートおよび前期中間試験で評価する.
2	【A4-C1】Massの原理が理解できる.Massスペクトルから構造既知有機化合物の解析ができる.Massスペクトルから構造未知有機化合物の解析ができる.		Massの原理が理解できたか,Massスペクトルから構造既知有機化合物の解析ができるか,Massスペクトルから構造未知有機化合物の解析ができるかをレポートおよび前期定期試験で評価する.
3	【A4-C1】IR,NMR,Massスペクトルから構造未知有機化合物の解析ができる.		IR,NMR,Massスペクトルから構造未知有機化合物の解析ができるかを小テスト・レポートおよび前期定期試験で評価する.
4	【A4-C1】IR,NMR,Massスペクトル解析の演習問題解答を発表できる.		プレゼンテーションの資料,内容により評価する.
5	【A4-C1】複素環化合物の命名法・反応について理解できる.		複素環化合物の命名法および反応理論を理解し,それらの構造,反応を化学式や文章を用いて説明できるかを後期中間試験・小テストおよびレポートで評価する.
6	【A4-C1】有機化合物の構造や酸と塩基の概念について理解でき,また有機化学反応を考える上で重要かつ基本的な事項である置換基効果や共鳴理論が理解できる.		有機化合物の構造や酸と塩基の概念・置換基効果や共鳴理論を理解し,化学式などを用いて説明できるかを後期中間試験,後期定期試験・小テストおよびレポートで評価する.
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	前期は到達目標1-3の試験70%,レポート10%,到達目標3の小テスト10%,到達目標4の発表10%で,後期は到達目標5,6を試験80%,レポート10%,小テスト10%で評価する.総合評価は前期と後期の平均点とする.100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト			
参考書			
関連科目	C2有機化学I,C3有機化学II,C3分析化学II,C4応用化学実験III		
履修上の注意事項	上記科目を十分に理解して履修することが望ましい.また,自己学習のために与えられたレポートの提出を求める.なお未提出レポートがあった場合,上記総合評価は適用しない.		

授業計画(有機合成化学)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	有機化合物の構造とスペクトル	有機化合物は種々の波長の電磁波を吸収し,構造に特有な吸収スペクトルを示すことを解説する。
2	IRの原理と解析法,解析演習(1)	IRスペクトルの原理と解析法について解説する。構造既知化合物のIRスペクトルから官能基を特定する演習を解かせる。
3	IRの解析演習(2)	演習問題の解答を学生に発表させる。解答について解説する。
4	NMRの原理	NMRの原理, $^1\text{H}$ NMR, $^{13}\text{C}$ NMRの原理について解説する。化学シフト,カップリング定数,吸収線面積について解説する。
5	NMRの解析法	$^1\text{H}$ NMRにおける化学シフト,カップリング定数,吸収線面積について具体的な化合物を例に挙げて解説する。
6	NMRの解析演習(1)	構造既知化合物とそのNMRスペクトルの解析法および構造未知化合物とそのスペクトルの解析法を解説し,演習問題を解かせる。
7	NMRの解析演習(2)	演習問題の解答を学生に発表させる。解答について解説する。
8	中間試験	IR,NMRの原理の理解度,IR,NMRスペクトルからの官能基の決定と未知化合物の構造決定について試験する。
9	中間試験解答,Massの原理	中間試験の解答を解説する。Massスペクトルの原理を解説する。フラグメントイオン,分子イオンピーク,同位体ピークについて解説する。
10	Massの解析法と解析演習(1)	Massスペクトルにおける,構造既知化合物のスペクトルからフラグメントイオンの構造を同定する演習問題を解かせる。
11	Massの解析演習(2)	演習問題の解答を学生に発表させる。解答について解説する。
12	IR, NMR, Massの総合解析法	構造未知化合物の各スペクトルから構造決定する方法を解説する。
13	IR, NMR, Massの総合演習(1)	構造未知化合物の各スペクトルから構造決定する演習問題を解かせる。
14	IR, NMR, Massの総合演習(2)	構造未知化合物の各スペクトルから構造決定する演習問題を解かせる。演習問題の解答を学生に発表させる。
15	IR, NMR, Massの総合演習(3)	構造未知化合物の各スペクトルから構造決定する演習問題を解かせる。演習問題の解答を学生に発表させる。
16	複素環式化合物 (1)	ピリジンの構造と物性(ピリジンの塩基性・ピリジニウム塩)およびピリジンにおける求電子置換反応について解説する。
17	複素環式化合物 (2)	ピリジンにおける求核置換反応・ピリジン誘導体の構造と命名および多環複素環化合物であるキノリン・イソキノリンの構造と命名について解説する。
18	複素環式化合物 (3)	キノリンの求電子置換反応・その他の6員環複素環化合物(ジアジン系化合物・ビリウムイオン)・5員環複素環化合物(フラン・ピロール・チオフェン)の構造と命名について解説する。
19	複素環式化合物 (4)	5員環複素環化合物(フラン・ピロール・チオフェン)における求電子置換反応・その他の5員環複素環化合物(アゾール化合物・インドール・プリン)の構造と命名について解説する。
20	異性体 (1)	構造異性・位置異性・官能基異性・互変異性・回転異性および幾何異性について解説する。
21	異性体 (2)	シクロアルカンの構造とジアステレオ異性・光学異性・R-S表示法・軸不斉化合物のR-S表示法およびE-Z表示法について解説する。
22	異性体 (3)	メソ化合物とジアステレオマーについて解説する。例題や章末問題などの演習問題の解説を行う。
23	中間試験	上記16～22で学習した内容を理解しているかを試験する。
24	中間試験解答	中間試験内容の解説を行う。
25	共鳴	共鳴理論・共鳴が起こる条件・共鳴極限構造式を書くときの注意および共鳴極限構造式から何がわかるかについて解説する。
26	誘起効果と共鳴効果	誘起効果と共鳴効果の違い・超共役およびHückel則について解説する。
27	酸と塩基 (1)	酸と塩基の定義(Brønsted-LowryおよびLewisの定義)・酸と塩基の強さを支配する因子について解説する。
28	酸と塩基 (2)	例題や章末問題など,酸と塩基に関連する演習問題の解説を行う。
29	化学反応 (1)	反応種の種類・求核性と塩基性の違いについて解説する。
30	化学反応 (2)	遷移状態とエネルギー相関図および中間体の安定性について解説する。
備考	本科目の修得には,60時間の授業の受講と30時間の自己学習が必要である。 前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。試験後に追加試験を実施する場合がある。	

科目	高分子化学 (Polymer Chemistry)		
担当教員	根本 忠将 准教授		
対象学年等	応用化学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位III)		
学習・教育目標	A2(100%)		
授業の概要と方針	1) 高分子の合成, 構造ならびに物性に関する基本的な知識の修得およびそれらの基礎知識を相互に関連付けながら理解できるように講義を行う。 2) 機能性高分子等, 近年注目されている高分子材料について紹介する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A2]高分子の合成原理や構造ならびに物性についての基本的な知識を修得している。		高分子の合成, 構造ならびに物性についての基本的理解度を前期中間試験, 前期定期試験, 後期中間試験, 後期定期試験およびレポートで評価する。
2	[A2]高分子化学における合成法や高分子の構造, 物性を相互に関連付けて理解している。		高分子化学における合成, 構造および物性について相互に関連付けながら理解しているかを前期中間試験, 前期定期試験, 後期中間試験, 後期定期試験およびレポートで評価する。
3	[A2]高分子の機能化ならびに材料への応用についての基礎知識を修得している。		高分子の機能化ならびに材料への展開に関する基本的な知識を修得しているかを後期中間試験, 後期定期試験およびレポートで評価する。
4	【】		
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は, 試験90% レポート10% として評価する。2回の中間試験, 定期試験を100点満点で評価し, その平均点を90点満点に換算する。レポートは10点で評価し, 併せて100点とする。60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	C2有機化学I, C3有機化学II, C4有機合成化学, C4物理化学I, C2無機化学I, C3無機化学II		
履修上の注意事項	上記の関連科目に関する内容を復習して講義に臨むことが好ましい。		

授業計画(高分子化学)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	概論	授業全般に関する説明を行う。高分子の概念について講義する。
2	高分子の分類	高分子物質の起源による分類, 合成法による分類, 形態による分類について講義する。
3	高分子の化学構造	高分子の主鎖構造によるコンフォメーションの違い, 高分子化合物の高次構造について講義する。
4	逐次重合-重縮合I	重縮合反応の概念, ポリアミド等の縮合系高分子について講義する。
5	逐次重合-重縮合II	工業的に合成されているエンジニアリングプラスチックやシリコーンについて講義する。
6	逐次重合-重付加・付加縮合	重付加および付加縮合の概念, ポリウレタン, エポキシ樹脂, フェノール樹脂等について講義する。
7	逐次重合-重合条件と分子量	重合条件と得られる高分子の分子量の関係について講義する。
8	中間試験	これまでの講義内容の修得状態と理解度を確かめる。
9	中間試験の解答, 連鎖重合-ラジカル重合I	中間試験の解答を行う。ラジカル重合の概念およびその素反応について講義する。
10	連鎖重合-ラジカル重合II	ラジカル重合の素反応, ならびにモノマーの反応性について講義する。
11	連鎖重合-ラジカル重合III	連鎖移動反応や停止反応, ラジカル禁止剤について講義する。
12	連鎖重合-ラジカル重合IV	共重合における概略やその分類について講義する。
13	連鎖重合-ラジカル重合V	共重合におけるモノマーの反応性比( $Q, e$ 値)と共重合体における組成比について講義する。
14	連鎖重合-イオン重合I	イオン重合(カチオン重合, アニオン重合)におけるモノマーおよび反応開始剤について講義する。
15	連鎖重合-イオン重合II	リビング重合および開環重合について講義する。
16	高分子の構造	高分子化合物の集合体および液相での構造について講義する。
17	高分子の熱的特性	高分子化合物のガラス転移温度や融点, 結晶化について講義する。
18	高分子の物理的性質I	高分子化合物の熱的特性を踏まえた上で, その粘弾性について講義する。
19	高分子の物理的性質II	高分子の力学特性(ひずみと応力, ゴム弾性)について講義する。
20	機能性高分子I	機能性高分子の概念, 高分子繊維について講義する。
21	機能性高分子II	電子・電気材料の一つである導電性高分子について, その原理等について講義する。
22	機能性高分子III	フォトレジスト材料の合成や機能について講義する。
23	中間試験	これまでの講義内容の修得状態と理解度を確かめる。
24	中間試験の解答, 機能性高分子IV	中間試験の解答を行う。吸水性高分子の原理, 働きおよび作成法について講義する。
25	機能性高分子V	液晶高分子の基本構造・性質・合成方法について講義する。
26	機能性高分子VI	高分子膜について, 原理を説明するとともにその働きや作成法を講義する。
27	機能性高分子VII	ポリマーアロイの原理やその機能について講義する。
28	高分子材料	複合化することで単体では得られない機能が期待できる高分子複合材料について説明する。
29	高分子の分解とリサイクル	高分子の分解機構について講義を行い, マテリアルリサイクルへの影響についても説明する。
30	エラストマー	代表的なエラストマーであるゴムの種類や性質, 加工法について講義する。
備考	本科目の修得には, 60 時間の授業の受講と 30 時間の自己学習が必要である。 前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	物理化学I (Physical Chemistry I)		
担当教員	渡辺 昭敬 教授		
対象学年等	応用化学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位III)		
学習・教育目標	A4-C3(100%)		
授業の概要と方針	3年生の応用物理Iで学習した内容を基に,相平衡,化学平衡,電気化学,化学反応速度論,原子構造論を講義し,化学の基礎理論である物理化学全般にわたる基礎知識を理解させる.また,現代化学のことを考えて基本原理からの取り扱いを強調する.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A4-C3]化学平衡について熱力学的観点からの原理を理解する.またその応用として種々の平衡(相平衡,プロトン移動,塩,溶解度)について理解する.		ギブズエネルギーと化学平衡の関連,ファンツホッフの式など平衡の圧力,温度依存性を理解しているか前期中間試験およびレポートで評価する.
2	[A4-C3]反応速度論について理解する.特に,速度論の考え方,反応速度の温度依存性,速度式の種々の表し方およびその解釈法を理解する.		速度定数の概念,反応方程式とその積分,定常状態近似,アレニウスの速度式について理解しているか前期中間試験および後期中間試験,レポートで評価する.
3	[A4-C3]電池の全反応と半反応を理解する.		化学電池およびその電極反応,電極反応の平衡論および溶液中のイオンの挙動を理解しているか後期中間試験およびレポートで評価する.
4	[A4-C3]原子の構造を,応用物理IIで学ぶ量子力学の知識を基に理解する.		原子構造とスペクトルの関係,原子の電子構造(構成原理,エネルギー項)について,応用物理IIで学んだ量子力学と関連づけて理解しているか後期定期試験およびレポートで評価する.
5	[ ]		
6	[ ]		
7	[ ]		
8	[ ]		
9	[ ]		
10	[ ]		
総合評価	成績は,試験90% レポート10% として評価する.試験成績は年4回の平均とする.総合100点満点とし60点以上を合格とする.		
テキスト			
参考書			
関連科目	1~3年までの物理学,数学,応用物理I,II, 化学工学I,II,応用数学I,II		
履修上の注意事項	物理化学は,物理の視点から化学の基本原理を考察する教科であるので,当然,物理学とその基礎となる数学に精通していることが望ましい.1~3年までの物理学や数学のみならず,同時進行で学習する応用物理や応用数学の内容も必要となってくる.さらに,3年生の応用物理Iで学んだ熱力学も,反応速度論を中心に必要となる.これらの科目を復習したり,良く学習しておくことが望ましい.		

授業計画(物理化学I)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	相平衡と熱力学	3年生の応用物理Iで学んだ知識をもとに混合物の相平衡について,Gibbsのエネルギーの関係を含めて2週にわたり学習する。
2	相平衡と熱力学	3年生の応用物理Iで学んだ知識をもとに混合物の相平衡について,Gibbsのエネルギーの関係を含めて2週にわたり学習する。
3	化学平衡の原理	化学平衡を反応ギブスエネルギーを用いて説明することによって熱力学的な裏づけを2週にわたり学習する。
4	化学平衡の原理	化学平衡を反応ギブスエネルギーを用いて説明することによって熱力学的な裏づけを2週にわたり学習する。
5	化学平衡の移動	平衡の移動に対する触媒の存在,温度の効果,圧縮の効果を学習する。
6	化学平衡の応用(プロトン移動平衡)	酸と塩基に関するブレンステッド-ロウリーの理論で,酸はプロトン供与体で,塩基はプロトン受容体であることを理解し,プロトン化率を用いて弱酸,弱塩基の化学平衡に関する計算を行う。
7	化学平衡の応用(塩の水溶液,溶解度平衡)	酸-塩基滴定に関するヘンダーソン-ハッセルバルクの式から酸,塩基の濃度とpHとの関係式が導かれることを理解し,緩衝作用,溶解度定数,共通イオン効果について学習する。
8	中間試験	中間試験
9	中間試験解答	中間試験の解答を黒板を用いて解説し,注意点を指摘する。
10	反応速度論:概要	化学反応速度論の基本的事項について解説する。反応速度の概念,反応速度式とその解,実験的手法などについて学習する。
11	反応速度式	反応速度式の微分形,積分形について学習する。
12	反応速度式の温度依存性	アレニウスの関係式について解説する。反応速度定数と温度の間にアレニウスの関係式があること,アレニウスの関係式が反応の活性化エネルギーと頻度因子といった要素で決まることを学習する。
13	活性化エネルギーと頻度因子	活性化エネルギーは反応を起こすために乗り越えなければならないポテンシャル障壁であり,頻度因子が分子の衝突や立体因子に関わる量であること,濃度の積が衝突頻度と比例すること等を解説し,活性化エネルギー・頻度因子と反応速度定数が結びつくことを学習する。また,活性錯体理論や触媒作用についても学習する。
14	速度式の解釈:素反応と反応機構	素反応(単分子・二分子反応)を定義し,通常の反応が複合反応であることを示し,反応機構とその反応速度式について学習する。
15	速度式の求め方	逐次反応や定常状態近似,律速段階等の考え方をを用いて,複合反応の反応速度がどのようにして組み立てられるかを学習する。
16	連鎖反応:連鎖反応の構造,爆発	連鎖反応について,反応速度式をどのように計算したらよいか,いくつかの例を示しながら学習する。
17	光化学反応	量子収率等の光化学に関わる基本的考え方を示し,光化学過程を含む複雑な反応の反応機構および反応速度式について学習する。
18	化学反応速度の理論的決定	衝突速度論,遷移状態理論,RRKM理論などの概略について学習する。
19	電気化学(イオンの移動)	電解質溶液中におけるイオンの電気伝導率,イオン移動度など,水溶液中のイオンの移動と電荷の移動について学習する。
20	電気化学(半反応と電極,電池反応,電極電位)	種々の電池の電池反応とその半反応を学習する。
21	電気化学(標準電位)	標準電位は標準水素電極の電位を基準に表されている。ネルンストの式について学習し,標準電位の考え方を学習する。
22	電気化学(熱力学関数の決定)	標準電極電位と標準反応ギブスエネルギーとの関係から反応式から電池の電圧が計算できることを学習する。
23	中間試験	中間試験
24	中間試験の解答	中間試験の解答を黒板を用いて解説し,注意点を指摘する。
25	原子構造:水素型原子のスペクトル	水素原子のスペクトルを基に,水素型原子の構造を学習する。
26	量子数と原子軌道のエネルギー・形	主量子数,方位量子数,磁気量子数の組み合わせと,水素型原子の電子の軌道の種類や特徴について学習する。
27	スペクトル遷移と選択率	水素型原子の中の電子遷移の選択率について学習する。
28	多電子原子の構造と周期律	水素型原子の構造の知識を基に,多電子原子の構造について理解する。構成原理を基に,オービタルの考え方を学習する。原子の性質に周期的な特徴がであることを示し,周期表を原子の電子構造より議論する。
29	多電子原子のスペクトル	原子のエネルギー単位を表す項について学習する。各全角運動量などにより種々の項が表現され,またL-Sカップリングにより,最低のエネルギー単位を表す項がどのように表されるのかを学習する。
30	演習	25-29週の講義内容に関する演習を行う。
備考	本科目の修得には,60時間の授業の受講と30時間の自己学習が必要である。前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	化学工学II (Chemical Engineering II)		
担当教員	(前期)久貝 潤一郎 准教授,(後期)増田 興司 講師		
対象学年等	応用化学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位III)		
学習・教育目標	A4-C4(100%)		
授業の概要と方針	3年で習得した内容の続きとして抽出操作,物質と熱の同時移動操作,反応工学および固液の分離操作について学ぶ。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-C4】液液抽出の基礎理論の理解と各種抽出操作の図解法ができる。		液液平衡関係の表示法およびそれらを用いた図解法が理解できているか,前期中間試験で評価する。
2	【A4-C4】伝熱の基礎理論とその応用操作である熱交換機および蒸発装置の伝熱面積が算出できる。		伝熱の基礎理論とその応用操作である熱交換機および蒸発装置の伝熱面積が算出できるか,レポート,前期中間試験で評価する。
3	【A4-C4】湿り空気の諸性質とその応用操作である冷水および調湿操作が理解できる。		湿り空気の諸性質とその応用操作である冷水および調湿操作を湿度図表を用いて説明できるか,小テスト,前期定期試験で評価する。
4	【A4-C4】反応工学の基礎理論を理解し,化学反応および反応器の種類に応じて式を組み立てることができる。		反応工学の基礎理論を理解し,化学反応と反応器の種類に応じて式を組み立てることができるか,レポート,小テスト,後期中間試験,後期定期試験で評価する。
5	【A4-C4】粉粒体の諸性質と沈降・濾過などの各種分離操作が理解できる。		粉粒体の諸性質を理解し,沈降・濾過などの各種分離操作を理解しているか,レポート,小テスト,後期定期試験で評価する。
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は,試験85% レポート10% 小テスト5% として評価する。なお,試験成績は4回の試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	化学工学I,応用物理I,物理化学I		
履修上の注意事項	数学および物理の基礎を理解していること。また,化学反応速度に関する知識を有すること。		

授業計画(化学工学II)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	液液平衡	液液平衡関係の物理化学的な理解とその表示法について理解する。
2	液液抽出計算	三角線図を用いた各種図解法について理解する。
3	伝導伝熱とフーリエの法則	伝熱の基本法則であるフーリエの法則とそれを用いた伝熱速度の算出法について理解する。
4	対流伝熱	熱貫流のモデルを理解し,熱貫流係数と境界係数の関係を導く。
5	熱交換器	工業的熱交換器の構造と2重管式熱交換器の伝熱面積の算出法を理解する。
6	放射伝熱	放射伝熱のステファン-ボルツマンの法則とその応用について理解する。
7	蒸発操作	蒸発操作で重要な各種因子および多重効用蒸発の利点について理解する。
8	中間試験	中間試験
9	中間試験解説, 空気の湿度, 湿り空気の諸性質	中間試験の解説を行う。また, 湿り空気諸量(絶対湿度, モル湿度, 飽和湿度, 湿り比容, 湿り比熱, 湿りエンタルピー)を理解する。
10	湿度計	乾湿球湿度計の原理とその性質について理解する。
11	断熱冷却線, 湿度図表	湿度図表の見方と断熱冷却線について理解する。
12	冷水操作	冷水装置の構造と冷水操作について理解する。
13	調湿操作	調湿装置の構造と調湿操作について理解する。
14	含水率	含水率の表し方について理解する。乾燥特性曲線の見方を理解する。
15	乾燥速度と乾燥所要時間	乾燥速度の表し方とそれを用いた乾燥時間の算出法を理解する。
16	化学反応と反応器の分類	化学反応の分類方法, 反応器の操作法と形状による分類方法について理解する。
17	反応工学の術語, 反応速度の表現方法	反応工学の術語について理解する。反応速度式の成り立ちについて理解する。
18	素反応と非素反応, 反応速度式の決定法	素反応と非素反応の違いについて理解する。反応速度式を決定する近似法について理解する。
19	反応器の形式とその基礎式(回分式反応器) (1)	回分式反応器の設計式について理解する。また, 体積変化を生じる場合の設計について理解する。
20	反応器の形式とその基礎式(回分式反応器) (2)	回分式反応器の設計式について理解する。また, 体積変化を生じる場合の設計について理解する。
21	測定による反応速度式の決定方法	実際の測定結果から反応速度式を決定する方法(積分法, 微分法, 半減期法)について理解する。
22	反応器の形式とその基礎式(連続槽型反応器)	連続槽型反応器および多段反応槽の設計式について理解する。
23	中間試験	中間試験
24	中間試験解説, 反応器の形式とその基礎式(管型反応器)	中間試験の解説を行う。管型反応器の設計式について理解する。また, 反応器の性能を比較し, その違いについて理解する。
25	複数の反応器を用いる際の設計法	複数の反応器を用いる場合の最適化, 反応(自己触媒反応など)に応じた反応器の設計について理解する。
26	複合反応の場合の反応器設計方法 (1)	複合反応(逐次反応, 並列反応)の場合の反応器設計方法について理解する。
27	複合反応の場合の反応器設計方法 (2)	複合反応(逐次反応, 並列反応)の場合の反応器設計方法について理解する。
28	粉粒体の諸性質	粉粒体の性質, 粒度分布について理解する。
29	沈降による粒子の分離	重力や遠心力を用いてスラリーから粒子を分離する方法について理解する。
30	濾過による粒子の分離	濾過によってスラリーから粒子を分離する方法について理解する。
備考	本科目の修得には, 60 時間の授業の受講と 30 時間の自己学習が必要である。 前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	生物工学 (Biotechnology)		
担当教員	下村 憲司朗 准教授		
対象学年等	応用化学科・4年・後期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-C5(100%)		
授業の概要と方針	生物学,生物化学Iで学習した知識をもとに,分子生物分野のDNAの複製,転写,翻訳のメカニズムを学ぶ.加えて,バイオテクノロジーの基本原則とその利用についても講義する.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-C5】遺伝情報の流れ(複製・転写・翻訳)を理解できる.		真核生物と原核生物の遺伝情報の流れ(複製・転写・翻訳)を説明できるかを中間試験で評価する.
2	【A4-C5】基本的な遺伝子工学技術(PCR,塩基配列決定法),遺伝子組換え技術について理解できる.		基本的な遺伝子工学技術,遺伝子組換え技術について基本的な原理を説明できるかを中間試験で評価する.
3	【A4-C5】細胞培養技術について理解できる.		細胞培養技術について基本的な原理を解説できるかを定期試験で評価する.
4	【A4-C5】遺伝子組換え作物利用の現状を理解できる.		遺伝子組換え生物の利用についてのレポートで正しく情報を理解し,意見が述べられているかについて評価する.
5	【A4-C5】グリーンバイオテクノロジー分野の応用例について理解できる.		バイオマス利用の実例や取り組みについて解説できるかを定期試験で評価する.
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は,試験85% レポート15% として評価する.なお,試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする.100点満点で60点以上を合格とする.結果により,再試験を行うことがある.		
テキスト			
参考書			
関連科目	C2生物,C4生物化学I		
履修上の注意事項	細胞,生体成分,生化学反応を利用した応用分野について理解するため,生物学,生物化学Iを復習しておくことが求められる.		

授業計画(生物工学)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	序論	生物工学を学ぶにあたり,その背景について理解する.
2	複製	遺伝子工学技術を理解するために,真核生物と原核生物の複製の仕組みを学ぶ.
3	転写	遺伝子工学技術を理解するために,真核生物と原核生物の転写の仕組みを学ぶ.
4	翻訳	遺伝子工学技術を理解するために,真核生物と原核生物の翻訳の仕組みを学ぶ.
5	遺伝子工学概論(1)	遺伝子のクローニング技術について理解する.
6	遺伝子工学概論(2)	塩基配列決定法について理解する.
7	遺伝子組換え法	各種遺伝子組換え法の基本原理について理解する.
8	中間試験	7回目までの内容について筆記試験を行う.
9	中間試験解答,細胞及び組織培養	中間試験の内容の解説を行う.加えてバクテリア,動物,植物細胞の培養法について理解する.また,カルスからの植物体再生法についても学ぶ.
10	遺伝子組換え作物(1)	遺伝子組換え作物利用の現状について学ぶ.
11	遺伝子組換え作物(2)	各自が作成した遺伝子組換え作物に関するレポートを基に,5名程度のグループで問題点を議論し,遺伝子組換え作物に対する理解を深める.
12	遺伝子組換え作物(3)	遺伝子組換え作物に関するグループディスカッションの内容を発表する.
13	抗生物質と生物を利用した物質生産	抗生物質の基礎と生物を利用した物質製造について理解する.
14	農林水産分野への応用	バイオテクノロジーの農林水産分野への応用例について理解する.
15	グリーンバイオテクノロジー	バイオ燃料の製造法やグリーンバイオマス利用について理解する.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	後期中間試験および後期定期試験を実施する.	

科目	生物化学I (Biochemistry I)		
担当教員	下村 憲司朗 准教授		
対象学年等	応用化学科・4年・前期・必修・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A2(100%)		
授業の概要と方針	生物化学は生物工学分野における高度な知識や技術を理解するためには必須の科目である。本講義では、生体を構成する主な生体分子について、その種類、化学構造の特徴と化学的性質、そして生体内での主な役割を取り扱う。また、主要物質の代謝についても解説する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A2]糖質の化学構造について理解できる。		糖質の種類、基本構造、またそれらが関与する化学反応について記述できるかを中間試験で評価する。
2	[A2]アミノ酸、タンパク質の化学構造と生体内反応について理解できる。		アミノ酸やタンパク質の種類と基本構造について記述できるかを中間試験で評価する。
3	[A2]酵素の性質、種類、触媒機構について理解できる。		酵素の種類と一般的性質について記述でき、ミカエリス-メンテンの酵素反応速度式を導けるかを中間試験とレポートで評価する。
4	[A2]核酸の化学構造と生体内反応について理解できる。		核酸の種類、構造について記述できるかを中間試験とレポートで評価する。
5	[A2]脂質の化学構造と生体内反応について理解できる。		脂質の種類、基本構造、生体膜構造について記述できるかを定期試験とレポートで評価する。
6	[A2]細胞の呼吸について理解できる。		グルコースを基質とした好気呼吸と嫌気呼吸の代謝について記述できるかを定期試験で評価する。
7	[A2]光合成について理解できる。		高等緑色植物の光合成の仕組みを記述できるかを定期試験で評価する。
8	[ ]		
9	[ ]		
10	[ ]		
総合評価	成績は、試験85% レポート15% として評価する。なお、試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。結果により再試験を実施する場合がある。		
テキスト			
参考書			
関連科目	C2生物		
履修上の注意事項	生物化学Iは生物を対象とした化学であるため、C2の生物を復習しておくことが望まれる。		

授業計画(生物化学I)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	序論,糖質(1)	生化学を学ぶにあたり,生物学の基礎を復習する.原核細胞,真核細胞の違いを理解する.糖質の分類,構造,生体内における役割について理解する.
2	糖質(2)	糖質の分類,構造,生体内における役割について理解する.
3	アミノ酸	アミノ酸の基本構造や種類について理解する.
4	タンパク質	タンパク質の高次構造について理解する.
5	酵素(1)	酵素反応の基本的性質について理解する.
6	酵素(2)	酵素反応速度論について理解する.
7	核酸	核酸の基本構造と種類について理解する.
8	中間試験	7回目までの内容について筆記試験を行う.
9	中間試験解答	中間試験内容に関する解説を行う.
10	脂質	生体成分となる脂質の構造や種類について理解する.
11	生体膜	生体膜の構造や生体膜を介した物質輸送について理解する.
12	解糖系	グルコース異化に関わる解糖系について理解する.
13	発酵	グルコース異化に関わる発酵について理解する.
14	TCA回路,酸化的リン酸化	好気条件下のATP合成について理解する.
15	光合成	光合成の明反応,暗反応について理解する.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30時間の授業の受講と60時間の自己学習が必要である. 前期中間試験および前期定期試験を実施する.	

科目	化学英語 (ESP, Chemistry)		
担当教員	根本 忠将 准教授		
対象学年等	応用化学科・4年・前期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B4(100%)		
授業の概要と方針	テキストを用いて講義を行う。化学に関する基礎的文章の読解力の向上,英作文能力の養成,専門単語の修得を目指す。毎講義,単語テストを実施する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【B4】化学分野の簡単な英文和訳ができること,ならびに英語文献,専門書,特許等を読解できることを目的とする。		専門単語の修得,及び専門英語の読解力について中間試験・定期試験・小テストで評価する,またレポート課題による評価も行う。
2	【B4】化学分野の簡単な英文を作成できることを目的とする。		化学分野における専門的な英語表現を用いて英文を作成することが出来るか中間試験・定期試験で評価する。
3	【】		
4	【】		
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は,試験70% レポート10% 小テスト20% として評価する。備考: 試験成績は中間試験・定期試験の平均点を70点満点で評価する。小テストは毎回20点満点で評価し,その平均点を20点満点に換算する。レポートは10点満点で評価し,成績に反映させる。総合評価は100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	英語,英語演習,化学専門科目の全分野		
履修上の注意事項	講義の際には,電子辞書や英和辞典の持参を求める。		

授業計画(化学英語)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	テキスト文章の読解	Chapter 3 Lesson 1,Chapter 4 Lesson 1の各文章を輪読し,説明を加える.単語テストを行う.
2	テキスト文章の読解	Chapter 3 Lesson 2,Chapter 4 Lesson 2の各文章を輪読し,説明を加える.単語テストを行う.
3	テキスト文章の読解	Chapter 3 Lesson 3,Chapter 4 Lesson 3の各文章を輪読し,説明を加える.単語テストを行う.
4	テキスト文章の読解	Chapter 3 Lesson 4,Chapter 4 Lesson 4の各文章を輪読し,説明を加える.単語テストを行う.
5	テキスト文章の読解	Chapter 3 Lesson 5,Chapter 4 Lesson 5の各文章を輪読し,説明を加える.単語テストを行う.
6	テキスト文章の読解	Chapter 3 Lesson 6,Chapter 4 Lesson 6の各文章を輪読し,説明を加える.単語テストを行う.
7	テキスト文章の読解	Chapter 3 Lesson 7,Chapter 4 Lesson 7の各文章を輪読し,説明を加える.単語テストを行う.
8	中間試験	授業の範囲について,読解力及び単語力の評価を行う.
9	中間試験の解答,テキスト文章の読解	中間試験の解答を行った後,Chapter 3 Lesson 8,Chapter 4 Lesson 8の各文章を輪読し,説明を加える.単語テストを行う.
10	テキスト文章の読解,和文英訳	Chapter 3 Lesson 9,Chapter 4 Lesson 9の各文章を輪読し,説明を加える.Chapter 6の例文を用いて,和文英訳について簡単な説明をする.単語テストを行う.
11	テキスト文章の読解,和文英訳	Chapter 3 Lesson 10,Chapter 4 Lesson 10の各文章を輪読し,説明を加える.Chapter 6の例文を用いて,実際に和文英訳を行う.単語テストを行う.
12	テキスト文章の読解,和文英訳	Chapter 3 Lesson 11,Chapter 4 Lesson 11の各文章を輪読し,説明を加える.Chapter 6の実践問題を用いて,和文英訳を行う.単語テストを行う.
13	テキスト文章の読解,和文英訳	Chapter 3 Lesson 12,Chapter 4 Lesson 12の各文章を輪読し,説明を加える.Chapter 6の実践問題を用いて,和文英訳を行う.単語テストを行う.
14	テキスト文章の読解,和文英訳	Chapter 3 Lesson 13,Chapter 4 Lesson 13の各文章を輪読し,説明を加える.Chapter 6の実践問題を用いて,和文英訳を行う.単語テストを行う.
15	テキスト文章の読解,和文英訳	Chapter 3 Lesson 14,Chapter 4 Lesson 14の各文章を輪読し,説明を加える.Chapter 6の実践問題を用いて,和文英訳を行う.単語テストを行う.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	前期中間試験および前期定期試験を実施する.	

科目	応用化学実験III (Laboratory Work III in Applied Chemistry)		
担当教員	増田 興司 講師, 大淵 真一 教授, 九鬼 導隆 教授, 久貝 潤一郎 准教授, 下村 憲司朗 准教授, 安田 佳祐 准教授		
対象学年等	応用化学科・4年・通年・必修・4単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-C1(10%), A4-C2(10%), A4-C3(10%), A4-C4(20%), A4-C5(10%), B1(5%), B2(5%), C1(10%), C4(10%), D1(10%)		
授業の概要と方針	座学の内容にそって, 化学工学, 分析化学, 生物工学の実験に取り組む. 化学工学と分析化学と生物工学の機器を用い, 与えられたテーマに対してグループ内や指導教官とともに議論することで解決策を導き出す能力を養う.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-C1】IRスペクトル, NMRスペクトルより有機化合物の構造を同定できる.		「IRスペクトル実験」, 「NMRスペクトル実験」の実験技術およびレポートの内容で評価する.
2	【A4-C2】X線回折データから未知物質の同定ができる. 熱分析データの解析ができる.		「X線回折実験」, 「熱分析実験」の実験技術およびレポートの内容で評価する.
3	【A4-C3】吸光光度分析の吸光度の測定ができ, そのデータ解析ができる.		「吸光光度分析実験」の実験技術およびレポートの内容で評価する.
4	【A4-C4】各化学工学実験の操作法を習得でき, その原理を理解しデータの解析ができる.		各化学工学実験の実験技術およびレポートの内容で評価する.
5	【A4-C5】各生物工学実験の操作法を習得でき, その原理を理解しデータの解析ができる.		各生物工学実験の操作法や原理に対する理解度を実験ノートおよびレポートで評価する.
6	【B1】実験結果を適切に表す図・表が書ける.		各テーマ毎のレポートの内容で評価する.
7	【B2】グループ内で建設的な議論を行い, 共同して作業を遂行し, よい発表ができる. また自分自身や他者の発表に適切に回答できる.		エンジニアリングデザイン演習のテーマグループ内での共同作業への取り組みとレポートで評価する.
8	【C1】専門知識を応用して得られた結果を的確に解析することができる.		各テーマのレポートの内容で評価する.
9	【C4】期限内に実験報告書を提出できる.		各テーマのレポートの提出状況で評価する.
10	【D1】機器の取り扱いに注意し, 安全に実験に取り組むことができる.		安全に実験が行われているか, 各テーマへの実験の取り組みで評価する.
総合評価	前期の成績は, レポート65% 実験技術10% エンジニアリングデザイン演習25%, 後期の成績は, レポート85% 実験技術15%として評価する. 前期と後期の平均を取り, 100点満点で60点以上を合格とする. 未提出のレポートがある場合は上記の評価方法は適用しない.		
テキスト			
参考書			
関連科目	有機化学I・II, 無機化学I・II, 化学工学I・II, 分析化学I・II, 生物工学, 生物化学I, 有機合成化学		
履修上の注意事項	各分野の原理の理解が必要.		

授業計画(応用化学実験III)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	実験ガイダンス, 化学工学実験(前期)の説明, 分析化学実験の説明	実験全体のガイダンス, 化学工学実験室の使用方法和前期5テーマの内容説明, 計測機器室の使用方法和分析化学実験5テーマの内容説明.
2	充填層と流動層	ガラス玉を充填物とした固液充填塔を用いて, 流体の流動条件による圧損失および空隙率の変化の測定. 粒子群の流動開始速度を実験より決定する.
3	減圧蒸発実験	減圧蒸発装置を使用して, 蒸発過程を観察し, その物質収支について理解を深める.
4	蒸留塔の段効率	泡鐘式回分精留塔を用いて, 全選流での精留を行い, マッケーブーシー法から理論段数を求め精留に関する理解を深める.
5	粉碎, 粒度分布の測定	海砂をボールミルで粉碎し, その経時変化による粒度分布を測定し, 粉碎過程を理解する. 粒度分布の測定には10個の篩を用いる. 結果の処理は頻度曲線を用いて表す. 実験での測定粒子径は80~1000 $\mu\text{m}$ である.
6	メタノール~水系の気液平衡関係の測定	気液平衡曲線を求めるには, 気液平衡値(x, y)を10点くらい求める必要がある. ここでは適当な4点の気液平衡値からラージ(X, Y)線図法により残る6点を推算し, スモール(x, y)値に変換する. 実測値の4点と, 推算値の6点の10点よりx-y線図を作図する簡易平衡値推算法を理解する.
7	IRスペクトル分析法(既知有機化合物の測定と解析)	薄膜法(ポリスチレン), KBr錠剤法(安息香酸, アジピン酸, サリチル酸), Nujol法(けい皮酸), 溶液法(酢酸エチル, イソブチルアルコール)でIRスペクトルを測定し, 吸収位置から官能基を同定する.
8	NMRスペクトル分析法(既知および未知有機化合物の測定と解析)	エチルベンゼン, 酢酸エチル, けい皮酸, 未知試料のNMRスペクトルを測定し, 吸収位置, 多重度, 積分値から化合物の構造を同定する.
9	吸光光度分析法(鉄鋼中のマンガンの定量)	試料を酸で分解し, 過ヨウ素酸ナトリウムを加えマンガンを通マンガン酸に酸化し, 分光光度計で吸光度を測定しマンガンの含有率を求める.
10	X線回折分析法	標準物質のX線回折パターンを測定し, JCPDSカード記載のデータと一致することを確認したうえで, 未知試料の回折データからHanawalt法を用いた同定を行う.
11	熱分析法	硫酸銅五水和物のTG-DTAおよびDSC測定を行い, サーマグラムを解析することにより, 五分子の水の結合状態に関する知見を得る.
12	エンジニアリングデザイン演習(1)	グループ分け, テーマ決定, 個人での調査研究.
13	エンジニアリングデザイン演習(2)	テーマに関するデザイン演習, 指導教官との議論, グループでの議論.
14	エンジニアリングデザイン演習(3)	テーマに関するデザイン演習, 指導教官との議論, グループでの議論.
15	エンジニアリングデザイン演習(4)	グループごとによる成果の発表.
16	化学工学実験(後期)の説明, 準備	後期6テーマの内容説明.
17	2重管式熱交換器の総括伝熱係数の実測	最も簡単な2重管式熱交換器を用いて, 熱収支について学び, 各種総括伝熱係数を算出し流量との関係を調べる.
18	流量測定	円管で流体輸送する場合に各種流量測定器(オリフィス, ベンチュリー, ピトー管)について圧力損失と流量(レイノルズ数)との関係を調べる. また各種継手(エルボ, 拡大, 縮小)の相当長さを算出する.
19	気液反応速度解析	亜硫酸ナトリウム水溶液の空気酸化反応を気泡塔で行い, その濃度を酸化還元滴定法で決定し, 濃度の時間変化から反応速度を求める.
20	赤外線輻射加熱実験	熱源に赤外線ランプを使用し, 受熱容器に水を入れた銅製の容器を用いて, 金属面および黒面の距離を変えながらの照射時間ごとの温度上昇から, 距離ごとの受熱速度を求め受熱量を算出する. 金属面および黒面の照射距離と受熱量の関係式を求める.
21	恒圧ろ過	減圧操作による定圧ろ過を行い, ろ液量の計時変化を測定し, Ruthのろ過方程式によるデータ整理を行うことで, 機械的分離操作に対する理解を深める.
22	液滴生成時の次元解析	水中に有機溶媒の液滴を生成させる実験結果を利用して, 次元解析の手法を習得し, 理解を深める.
23	生物学実験の説明, 準備	生物学実験の内容説明と実験室および各種機器の使用法のガイダンス.
24	落下細菌測定, 大腸菌数検査	肉眼では見えない微生物の世界を培養という微生物学的方法で観察する. 空気中からの落下細菌を普通寒天培地, サンプル中の大腸菌群数をデソキニコレート培地で測定する.
25	植物からのゲノムDNA抽出	基本的な植物からのゲノムDNA抽出法の原理を学ぶ.
26	タンパク質の電気泳動	タンパク質実験で最も基本的なSDS-PAGEの原理・操作を身につける. また, 植物組織からの水溶性タンパク質の抽出法も習得する.
27	PCRとTAクローニング	PCRの原理・操作を身につける. また, PCRによって増幅したDNAのアガロースゲル電気泳動とTAクローニングの原理・操作についても学ぶ.
28	大腸菌のコンピテントセル作成と形質転換	最もシンプルな塩化カルシウム法でコンピテントセルを作成し, 大腸菌の形質転換を行う. また, 形質転換大腸菌を選抜する方法として, 抗生物質, blue/whiteセレクションについて学ぶ.
29	プラスミドDNAの抽出と確認	大腸菌から最も一般的なアルカリSDS法によってプラスミドを抽出し, 制限酵素を使って目的のDNA断片がクローニングできているのかを確認する.
30	実験全体のまとめと報告	実験の総まとめ.
備考	中間試験および定期試験は実施しない. クラスを2グループに分け, 前期には2分野(化学工学実験, 分析化学実験)およびエンジニアリングデザイン演習を実施, 後期には2分野(化学工学実験, 生物学実験)を実施する. レポート提出が遅れた場合にはその日数に比例して減点する.	

科目	学外実習 (Practical Training in Factory)		
担当教員	久貝 潤一郎 准教授		
対象学年等	応用化学科・4年・通年・選択・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C2(50%), D1(50%)		
授業の概要と方針	企業またはその他の受け入れ機関で業務の一部を実際に経験することによって、技術者に必要な人間性を養うとともに、工学技術が社会や自然に与える影響に関する理解を深める。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【C2】実習機関の業務内容を理解し、実習先での具体的な到達目標を達成する。		実習機関の業務内容を理解し、実習先での具体的な到達目標を達成したかどうかを実習証明書と学外実習報告書で評価する。
2	【D1】実習を通じて工学技術が社会や自然に与える影響に関する理解を深める。		実習を通じて工学技術が社会や自然に与える影響に関する理解を深めたかどうかを学外実習報告書と実習報告会で評価する。
3	【】		
4	【】		
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	実習証明書,学外実習報告書および実習報告会の内容により単位を認定する。		
テキスト			
参考書			
関連科目	特になし。		
履修上の注意事項	実習機関に受け入れを依頼して実施する科目なので,節度をもって行動するとともに,健康管理,安全管理に留意して真剣に取り組むこと。		

## 授業計画(学外実習)

### 内容(テーマ, 目標, 準備など)

前期の全期間を通して下記の流れを留意の上で取り組むこと。

#### 1) インターンシップ(学外実習)説明会(4月)

・担当教員よりインターンシップの意義, 目的, 内容および実習先の希望方法, 学内調整要領, その後の手続きの概要の説明を行う。

#### 2) 実習先の希望, 調整, 辞退に関して(4月～7月)

・実習先企業は, 自ら業界研究を行った上で希望する進路(キャリアプラン)も踏まえた上で有意義な実習となるように希望すること。

・希望者数が募集数を超えた実習先については調整を行う。(調整は担当教員に従う。)

・学内調整で希望が認められた学生は, 直ちに実習先所定の応募書類を作成して提出する。

・学内調整で希望が認められなかった学生, および実習先での選考により実習が認められなかった学生は, 他の実習先の中から再度希望を提出する。

(原則として, 受入先がなくなるまで希望することとするが, 止むを得ない状況となった場合には本校所定の「選択科目受講辞退願書」で辞退を願い出る。)

#### 3) 学外実習届, 保険料, その他の必要書類(5月～7月)

・実習先が決定した後, 本校所定の「学外実習届」を担当教員へ提出し, 所定の保険料を納付する。

・併せて実習先からの指示により, 履歴書, 誓約書, 入寮申請書, ユニフォーム貸与申請書等の他の必要書類がある場合も, 担当教員に提出する。

#### 4) 学外実習の実施(8月～9月)

・実習期間は原則として夏季休業期間中とする。ただし, 必要に応じて9月末までは公欠として参加を認めることがある。

・実習期間は5日以上で総実習時間30時間以上とする。

#### 5) 学外実習報告書の提出および実習報告会の実施(10月)

・インターンシップ終了後, 本校所定の「学外実習報告書」を丁寧に作成し, 十分なチェックの後に担当教員に提出する。また, 学科毎に実習報告会を実施する。

・「学外実習報告書」は担当教員から実習先へ提出し, 学科の全教職員が評価するだけでなく, 後輩学生が参考のために閲覧するので, 丁寧な記載を心がけるとともに, 守秘すべき事柄を書くことの無いように留意すること。(守秘事項の遵守は実習報告会でも同様である。)

備考

中間試験および定期試験は実施しない。

科目	応用無機化学I (Applied Inorganic Chemistry I)		
担当教員	宮下 芳太郎 教授		
対象学年等	応用化学科・5年・前期・必修・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A4-C2(100%)		
授業の概要と方針	錯体は、金属イオンと配位子の組み合わせにより多種多様な構造や物性、反応性を有する。本科目では、錯体に関する基礎理論やその応用について講義する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-C2】錯体化学の歴史と現状について理解できる。		錯体化学の歴史と現状について理解し、説明できるかを、中間試験で評価する。
2	【A4-C2】錯体の特性や多様性と周期表との関連について理解できる。		錯体の特性や多様性と周期表との関連について理解し、説明できるかを、中間試験およびレポートで評価する。
3	【A4-C2】単核錯体および多核錯体の構造の特徴について理解できる。		単核錯体および多核錯体の構造の特徴について理解し、説明できるかを、中間試験およびレポートで評価する。
4	【A4-C2】錯体特有の異性現象および異性体の選択性について理解できる。		錯体特有の異性現象および異性体の選択性について理解し、説明できるかを、中間試験およびレポートで評価する。
5	【A4-C2】錯体の結合理論について理解できる。		錯体の結合理論について理解し、説明できるかを、定期試験で評価する。
6	【A4-C2】錯体の電子スペクトルや磁性の原理について理解できる。		錯体の電子スペクトルや磁性の原理について理解し、説明できるかを、定期試験およびレポートで評価する。
7	【A4-C2】錯体における配位子置換反応について理解できる。		錯体における配位子置換反応について理解し、説明できるかを、定期試験およびレポートで評価する。
8	【A4-C2】生体関連分野や超分子化学分野における錯体の利用について理解できる。		生体関連分野や超分子化学分野における錯体の利用について理解し、説明できるかを、定期試験およびレポートで評価する。
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は、試験80% レポート20% として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	C2「無機化学I」「分析化学I」「応用化学実験I(無機合成)」, C3「無機化学II」「分析化学II」, C4「応用化学実験III(機器分析)」		
履修上の注意事項	上記関連科目を十分に理解した上で履修することが望ましい。		

授業計画(応用無機化学I)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	錯体化学序論	配位子が金属イオンに配位結合した物質を錯体と呼ぶ。錯体の定義について簡単に復習した後、錯体を扱う学問である錯体化学の歴史と現状について紹介する。
2	錯体と周期表	錯体の構造や性質は金属の種類や酸化状態、配位子の種類によって大きく変化する。このような錯体の特性や多様性について周期表と関連づけて解説する。
3	錯体の構造(1)	1つのみの金属イオンを有する錯体を単核錯体と呼ぶ。単核錯体の配位数と構造について解説する。
4	錯体の構造(2),種々の配位子	複数の金属イオンを有する錯体を多核錯体と呼ぶ。多核錯体の構造と金属間結合について解説する。また、種々のキレート配位子を紹介する。
5	錯体の命名法,錯体の異性現象(1)	2005年のIUPAC勧告で改訂された錯体の命名法について解説する。錯体特有の構造異性体について解説する。
6	錯体の異性現象(2)	錯体特有の立体異性体(幾何異性体,鏡像異性体,ジアステレオ異性体)について解説する。立体配置と立体配座について解説する。
7	キラリティ,異性体の選択性	キラリティ記号について整理する。錯体合成において、特定の異性体を選択的に得る方法や分離・分割する方法について解説する。
8	中間試験	中間試験を行う。
9	中間試験解答,錯体の結合理論(1)	中間試験の解答を行う。原子価結合(VB)理論について解説する。
10	錯体の結合理論(2)	結晶場(CF)理論について解説する。特に、結晶場安定化エネルギー,分光化学系列,ヤーン・テラー効果について解説する。
11	錯体の結合理論(3)	配位子場(LF)理論について解説する。特に、有機金属錯体と関連深い $\pi$ 逆供与について解説する。
12	電子スペクトル(1)	錯体の色と密接に関連する紫外可視吸収スペクトルを中心に、d-d遷移やCT遷移について解説する。
13	電子スペクトル(2),磁性	旋光性や円二色性について解説する。錯体中の不対電子が関与する磁性について解説する。
14	配位子置換反応	置換活性錯体と置換不活性錯体の反応性の違いについて解説する。トランス効果とトランス影響について解説する。
15	錯体の応用	生体関連化学分野や超分子化学分野における錯体の利用について紹介する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30時間の授業の受講と60時間の自己学習が必要である。前期中間試験および前期定期試験を実施する。	

科目	応用有機化学I (Applied Organic Chemistry I)		
担当教員	小泉 拓也 准教授		
対象学年等	応用化学科・5年・前期・必修・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A4-C1(100%)		
授業の概要と方針	有機化学反応を有機電子論や分子構造の概念に基づいて分類し,反応機構を解説し,演習させることによって理論を理解させる.現在までの我が国における有機工業化学を歴史,合成法,製品の用途について各論的に述べる.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-C1】有機化学反応機構を考える上で重要かつ基本的な事項である反応種の分類や中間体の安定性が理解できる.		反応種の分類や中間体の安定性を理解し,これらを化学式,文章などを用い説明できるかを中間試験およびレポートで評価する.
2	【A4-C1】有機化学反応機構を考える上で重要かつ基本的な事項である有機電子論が理解できる.これを基に反応別に電子の流れ図を用いて反応機構を考察できる.		有機電子論を理解し,有機反応機構を化学式,文章などを用い説明できるかを中間試験およびレポートで評価する.
3	【A4-C1】石炭化学工業の歴史,製品の用途が理解できる.石油化学工業の歴史,原油の精製法が理解できる.石油化学製品の合成法が反応式で記述できる.		石炭化学工業の歴史,製品の用途,石油化学工業の歴史,原油の精製法,石油化学製品の合成法が化学式,文章などを用い説明できるかを定期試験およびレポートで評価する.
4	【A4-C1】芳香族化合物の命名および合成法(反応式)が記述できる.		芳香族化合物の命名が記述できるか,およびそれらの合成法を反応式で記述できるかを定期試験およびレポートで評価する.
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は,試験90% レポート10% として評価する.なお,試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする.100 点満点で 60 点以上を合格とする.		
テキスト			
参考書			
関連科目	C2 有機化学 I,C3 有機化学 II,C4 有機合成化学		
履修上の注意事項	上記科目を十分学習し,理解しておくことが望ましい.また,自己学習のために与えられたレポートの提出を求める.なお未提出レポートがあった場合,上記総合評価は適用しない.		

授業計画(応用有機化学I)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	化学反応 (1)	反応種の種類, 反応の基本的な考え方, 求核性と塩基性の違いについて解説し, 練習問題により演習する.
2	化学反応 (2)	遷移状態説とエネルギー相関図および中間体の安定性について解説し, 練習問題により演習する.
3	反応機構 (1)	求核置換反応(SN1, SN2)における反応機構および酸触媒下でのカルボニウムイオンを経る転位反応について解説し, 練習問題により演習する.
4	反応機構 (2)	脱離反応 (E1, E2) における反応機構および Saytzeff 則, Hofmann 則について解説し, 練習問題により演習する.
5	反応機構 (3)	アルケンへの求電子付加反応およびラジカル反応について解説し, 演習する. また Markovnikov 則について反応機構を解説し, 練習問題により演習する.
6	反応機構 (4)	アルケンへの求核付加反応およびカルボニル化合物への求核付加反応, エノラートイオンの反応について反応機構を解説し, 練習問題により演習する.
7	反応機構 (5)	芳香族求電子置換反応, 芳香族求核置換反応について解説し, 練習問題により演習する.
8	中間試験	上記 1 から 7 までの項目の理解度を試験する.
9	中間試験解答および石炭化学	中間試験内容の解説を行う. 石炭の産出, 成因, 種類, 乾留工業, ガス化工業について解説する.
10	石油化学 (1)	石油の産出, 成因, 原油の蒸留および精製法について解説する.
11	石油化学 (2)	原料ガス (水素, 一酸化炭素, アセチレン) の製造について解説する. 原料ガスから C4 以下の化学製品合成法について解説する.
12	石油化学 (3)	原油の熱分解および改質によって生成する化学製品について解説する. エチレンから合成される化学製品について解説する.
13	石油化学 (4)	プロピレンから合成される化学製品について解説する. ベンゼンやキシレンから合成される芳香族化合物製品について解説する.
14	芳香族系精密化学工業 (1)	中間体原料の合成 (ニトロ化, スルホン化, ハロゲン化, アルキル化, アシル化) について解説する.
15	芳香族系精密化学工業 (2)	中間体原料の合成 (カルボキシル化, ジアゾニウム塩とカップリング, アミノ化) について解説する.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には, 30 時間の授業の受講と 60 時間の自己学習が必要である. 前期中間試験および前期定期試験を実施する.	

科目	材料化学 (Material Chemistry)		
担当教員	(前期)根本 忠将 准教授, (後期)安田 佳祐 准教授		
対象学年等	応用化学科・5年・通年・必修・2単位 (学修単位III)		
学習・教育目標	A2(100%)		
授業の概要と方針	前期に関しては、現在までの日本の化学工業の姿を紹介し、その基礎となる有機工業化学を歴史、製造法および製品の用途について解説する。製造法については、有機化学、高分子化学等の基礎化学をもとに解説する。後期に関しては、無機材料の機能発現に大きく関与する無機固体構造について解説する。加えて、触媒、磁性材料、電池、化学センサなどの様々な無機材料の性質や種類、発現メカニズムについて解説する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A2]パルプから紙の製造工程の原理、さらには油脂からの各種製品の製造工程および製造原理が理解できる。		パルプおよび紙の製造工程の概略および原理について、文章を用いて、さらには油脂からの各種製品の製造工程および製造原理について、文章ならびに図を用いて説明できるか前期中間試験およびレポートで評価する。
2	[A2]各種ゴム化合物の化学構造と性質が理解できる。		各種ゴム化合物の化学構造と性質を関連付けながら文章を用いて説明できるか前期中間試験およびレポートで評価する。
3	[A2]天然繊維の化学と工業が理解できる。		天然繊維の化学と工業について、文章を用いて説明できるか前期定期試験およびレポートで評価する。
4	[A2]化学繊維の性質が理解できる。ビスコースおよびキュプラレーヨン、アセテート、ポリアミド、ナイロン、ポリエステル繊維等の構造が記述でき、製造法および特徴が理解できる。		代表的な繊維の構造が記述でき、化学繊維の製造法および特徴について、さらに不織布、合成紙、合成皮革の違いについて、文章を用いて説明できるか前期定期試験およびレポートで評価する。
5	[A2]高分子の物性が理解できる。重合反応、重合法が理解できる。各種プラスチックの構造が記述でき、特徴が理解できる。プラスチックの成型加工が理解できる。		高分子の物性を文章を用いて、重合反応をスキームを用いて、各種プラスチックの構造・特徴ならびに成型加工を関連付けながら文章を用いて説明できるか前期定期試験およびレポートで評価する。
6	[A2]結晶系の分類や結晶格子面の表記方法、イオン半径比と配位数の関係、代表的な結晶構造が理解できる。		結晶系の分類や結晶格子面の表記方法、イオン半径比と配位数の関係、代表的な結晶構造を文章ならびに図を用いて説明できるか後期中間試験およびレポートで評価する。
7	[A2]イオン伝導性を示す物質の構造と発現メカニズムが理解できる。		イオン伝導性を示す物質の構造と発現メカニズムを文章ならびに図を用いて説明できるか後期中間試験およびレポートで評価する。
8	[A2]触媒の種類や特徴、触媒機能の発現原理、環境触媒への応用が理解できる。		触媒の種類や特徴、触媒機能の発現原理、環境触媒への応用を文章ならびに図を用いて説明できるか後期中間試験およびレポートで評価する。
9	[A2]磁性材料や超伝導体の機能や種類、作動原理が理解できる。		磁性材料や超伝導体の機能や種類、作動原理を文章ならびに図を用いて説明できるか後期定期試験およびレポートで評価する。
10	[A2]電池、光触媒、化学センサ、顔料の機能や用途、発現原理が理解できる。		電池、光触媒、化学センサ、顔料の機能や用途、発現原理を文章ならびに図を用いて説明できるか後期定期試験およびレポートで評価する。
総合評価	成績は、試験90% レポート10% として評価する。試験成績は中間と定期の平均点とし、前期は、試験90%、レポート10%として総合評価する。後期は、試験90%、レポート10%として評価する。前期と後期の平均で総合評価とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	分析化学I(C2)・II(C3), 無機化学I(C2)・II(C3), 有機化学I(C2)・II(C3), 有機合成化学(C4), 高分子化学(C4), 物理化学I(C4)・II(C5)		
履修上の注意事項	上記の関連科目を十分学習し、理解しておくことが望ましい。		

授業計画(材料化学)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	パルプ	木材からパルプを製造する工程および原理について説明する。
2	パルプ工業・紙	パルプ工業に続けて、製紙工業について説明する。
3	油工業(1)	油脂の詳細について説明する。
4	油工業(2)	油脂から各種製品を製造する工程および原理を説明する。
5	界面活性剤	界面活性剤の製造および働きについて説明する。
6	ゴム工業	天然ゴム,合成ゴムの化学構造と性質について説明する。
7	まとめ	第1-6回の講義の内容について,まとめおよび復習する。
8	中間試験	第1週から第7週までの内容で中間試験を実施する。
9	中間試験の解答,繊維工業	中間試験の解答をする.天然繊維の工業について説明する。
10	化学繊維(1)	ポリアミド,ナイロン-6,ビニロン,アクリル繊維,ポリエステル製造法および特徴について説明する。
11	化学繊維(2)	ポリオレフィン繊維,ポリウレタン,炭素繊維,ガラス繊維,不織布,合成皮革の製造法および特徴について説明する。
12	化学繊維(3)	ポリオレフィン繊維,ポリウレタン,炭素繊維,ガラス繊維,不織布,合成皮革の製造法および特徴について説明する。
13	プラスチック(1)	プラスチック工業の歴史と現状,高分子の物性について説明する.ラジカル重合,カチオン重合,アニオン重合について高分子化学工業の見地から説明する。
14	プラスチック(2)	塊状重合,溶液重合,乳化重合および懸濁重合について説明し,付加重合系プラスチック,重付加重系プラスチック,重縮合系プラスチックの特徴および製造法を説明する。
15	プラスチック(3)	プラスチックの成型加工について説明し,機能性プラスチックの構造および機能について説明する。
16	無機材料科学の基礎,無機固体の結晶構造(1)	材料と物質の違い,形態や機能について説明する.また,空間格子や結晶系について説明する。
17	無機固体の結晶構造(2)	ミラー指数の表記方法,結晶の充填,イオン半径比の規則について説明する。
18	イオン結晶の性質	岩塩型構造,塩化セシウム型構造,塩化セシウム型構造,蛍石型構造などの代表的な結晶構造を取り上げ,特徴と機能について説明する。
19	イオン伝導体	イオン伝導性を示す物質の構造と発現のメカニズムについて説明する。
20	触媒(1)	触媒の特徴,種類,機能について説明する。
21	触媒(2)	触媒表面での分子の活性化と触媒機能の発現について説明する。
22	環境触媒	自動車用触媒などの環境触媒について説明する。
23	中間試験	第16週から第22週までの内容で中間試験を実施する。
24	中間試験の解答,磁性材料(1)	中間試験の解答を行う.磁性材料の発現原理について説明する。
25	磁性材料(2),超伝導材料(1)	磁性材料の構造や応用例について説明する.また,超伝導性を示す物質の発現のメカニズムについて説明する。
26	超伝導材料(2)	超伝導材料の構造や種類および発現の歴史や応用例について説明する。
27	電池	電池の構成および化学電池と物理電池の基本的原理や種類について説明する。
28	光触媒	光触媒の発現機構・結晶構造・製造方法について説明する。
29	化学センサ	化学センサの種類や特徴について説明する。
30	顔料	顔料の物理的性質について説明する.また,無機顔料の種類や特徴について説明する。
備考	本科目の修得には,60時間の授業の受講と30時間の自己学習が必要である. 前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	物理化学II (Physical Chemistry II)		
担当教員	(前期)九鬼 導隆 教授,(後期)渡辺 昭敬 教授		
対象学年等	応用化学科・5年・通年・必修・2単位 (学修単位III)		
学習・教育目標	A4-C3(100%)		
授業の概要と方針	4年生の物理化学で学習した原子構造論に引き続き,分子構造論を講義し,一通りの量子化学入門を行う。次に,固体や液体などの凝縮系の物理化学,分子分光学を講義し,現代物理化学の基礎を習得する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-C3】変分法の原理,分子の形成や分子軌道についての基本的な概念を理解する。		前期中間試験とレポートで,変分原理,分子を扱う際の種々の近似,分子軌道について説明させ,的確に説明できるかどうかで評価する。
2	【A4-C3】等核2原子分子の分子軌道についてエネルギーダイアグラムが描け,電子構造より結合次数が計算できる。		前期中間試験とレポートで,2原子分子のエネルギーダイアグラムを描き,結合次数等が計算できるかどうかで評価する。
3	【A4-C3】ヒュッケル法等の分子軌道法の仕組みを理解する。		前期定期試験とレポートで,ヒュッケル法等の分子軌道法について,近似の扱い等が的確に説明できるかどうかで評価する。
4	【A4-C3】固体のバンド理論が定性的に理解でき,導体,半導体,絶縁体とバンド構造の関係が理解できる。		前期定期試験とレポートで,導体,半導体,絶縁体とバンド構造の関係が的確に説明できるかどうかで評価する。
5	【A4-C3】固体の凝集力を,格子エンタルピーやマーデルング定数を通して理解する。また,固体表面への吸着現象を理解する。		前期定期試験とレポートで,ボルン-ハーバーサイクルと格子エンタルピー,マーデルング定数,固体表面の分析法や吸着等温式等が的確に説明できるかどうかで評価する。
6	【A4-C3】分子分光法に関する基礎的事項を理解する。		後期中間試験とレポートで,ポーアの振動数条件と発光,吸収の関係等の分光学の基礎的事項を説明できるかどうかで評価する。
7	【A4-C3】スペクトルの基本原理を理解し,スペクトルから分子定数を導出できる。		後期中間および後期定期試験とレポートで,実際のスペクトルデータを用いて分子定数を求めることができるかどうかで評価する。
8	【A4-C3】電気双極子や,電気双極子の相互作用の観点から,分子性物質の凝集力を理解する。		後期定期試験とレポートで,電気双極子間の相互作用や,分子性物質の全相互作用についての的確に説明できるかどうかで評価する。
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は,試験90% レポート10% として評価する。「評価方法と基準」にある,1~2を前期中間試験で,3~5を前期定期試験で,6~7を後期中間試験で,7~8を後期定期試験で評価し,4回の試験の平均点を試験成績とする。レポートの成績と合わせて評価し,合計100点満点で60点以上で合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	1~3年の数学・物理,3~4年の応用物理I・II,4年生の応用数学I・II・物理化学I		
履修上の注意事項	1~3年までの数学・物理を良く理解しておくことが望ましい。また,3~4年の応用物理I・II,4年生の応用数学I・II・物理化学Iの内容をしっかり理解しておくことが望ましい。		

授業計画(物理化学II)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	分子の電子状態: 核の運動の分離, 軌道近似	多核・多電子系のハミルトニアンから, ボルン-オープンハイマー近似を用いて核の運動を分離し, 多電子系のハミルトニアンへと移行できることを示す。さらに, 多電子系のハミルトニアンが, 電子-電子の相互作用のため, 変数分離できないことを示し, 軌道近似を用いることを解説する。
2	原子価結合法と分子軌道法	分子の中の電子の状態を記述する方法として, 原子価結合法と分子軌道法の特徴や限界について解説する。
3	分子軌道法: 水素分子イオンの形成	近似問題の基本となる変分法について解説してからLCAO近似を導入し, 分子軌道法を用いて, 一番簡単な系である水素分子イオンが形成し, 分子軌道が結合性軌道と反結合性軌道に分離することを解説する。
4	等核二原子分子	分子軌道法を用いて, 等核二原子分子の電子構造について解説し, 等核二原子分子の分子軌道の様子と電子構造から, 幾つかの化学的性質が説明できることを示す。
5	異核二原子分子	等核二原子分子に続き, 異核二原子分子の電子構造, イオン性と共有性について簡単に解説する。
6	多原子分子のエネルギー	多原子分子の中の電子のエネルギーがどう表されるか計算する。
7	ヒュッケル法	電子-電子の相互作用を一電子ポテンシャルと近似するヒュッケル法について解説する。一電子ハミルトニアンを用いた場合の分子のエネルギーやその軌道エネルギーとの関係を示し, さらに, 重なり積分や隣接原子以外で共鳴積分を無視して, LCAO係数を求め, 分子のエネルギー状態等について講義する。
8	中間試験	中間試験
9	共役系の電子状態: プタジエンやベンゼン	ヒュッケル法をもとにプタジエンとベンゼンの電子状態, 物性等を解説する。
10	種々の近似法	ハートリー-フォック方程式とPPP, CNDO, MINDO等の近似法やab initio計算を簡単に説明するとともに, ハートリー-フォック近似の限界を超えるべく開発された, MP展開やCI法について簡単に解説する。
11	金属とイオン性固体・バンド構造	分子軌道法の概念を固体の化学結合系に適用し, 固体ではバンド構造ができることを示し, バンドエネルギーやバンドギャップ, 導体, 半導体, 絶縁体をバンド構造から解説する。
12	バンド構造	アルカリ金属, アルカリ土類金属, 遷移金属, 半導体, 絶縁体で, 原子軌道からどのように各バンドが形成されるかを解説する。
13	格子エンタルピー	固体の凝集力として格子エンタルピーを示し, ボルン-ハーバーサイクルより格子エンタルピーを解説する。
14	イオン性結晶とマードルング定数	イオン性結晶の凝縮力はクーロン相互作用が主であることを示し, 結晶格子の上にあるそれぞれのイオンのクーロン相互作用の和が, 結晶格子の構造で決まるマードルング定数で簡潔に表されることを解説する。
15	固体表面と吸着	固体の表面の状態と分析方法(ESCAやオーージェ分光等), 固体表面への吸着(ラングミュアの吸着等温式)を解説する。
16	分子分光法: 序論	分子分光法が, 光と分子の相互作用を通して分子構造や化学反応を理解する学問であることを紹介する。更に, 光が粒子と波の二重性を持つことを復習して分子分光法理解への素地を固める。
17	分子分光法: 原理	振動電場と荷電粒子による単純モデルを用いて光と分子の相互作用を理解する。また, ボーアの振動数条件, 吸収・発光などの分子分光法における基本原理について学習する。
18	分子分光法: 方法論	吸収・発光スペクトルの測定原理と実験手法について学習する。また, 吸収スペクトルの強度がランベルト-ベールの法則に基づいて評価されることを理解する。
19	回転スペクトルの原理	分子の回転エネルギーは量子化されていることを学習する。更に, 慣性モーメントが分子構造に応じて定式化されていることを学習し, これを用いて回転エネルギーが記述されることを理解する。
20	回転スペクトルの解析	回転遷移の選択則を学習し, 実測の回転スペクトルから回転定数を導出する方法を理解する。更に, 回転定数から原子間距離や角度の分子構造パラメータを求める方法を学習する。
21	二原子分子の振動スペクトル	二原子分子における調和振動子を用いて, 振動エネルギーが分子の換算質量と力の定数で記述され, 量子化されていることを学習する。また, 振動と回転は同時に励起され, そのスペクトルはP, Q, R分枝で形成されることを理解する。
22	多原子分子の振動スペクトル	運動の自由度について学習し, 多原子分子における基準振動モードを理解する。また, 赤外遷移の選択律が基準振動に伴う双極子モーメント変化に関連付けられることを学習する。更に, 官能基の特性振動から分子構造を予測できることを理解する。
23	中間試験	16~22回講義分の中間試験
24	中間試験解答	中間試験の解答を黒板を用いて説明し, 注意点を指摘する。
25	紫外可視スペクトル	紫外可視領域で起こる電子遷移を学習する。分子の電子励起は振動励起も同時に伴うことを, フランク-コンドン原理に基づいて理解する。また, 電子遷移には関与する分子軌道に応じて様々なタイプが存在することも学習する。
26	放射減衰と無放射減衰	光吸収による電子励起された分子のエネルギー失活過程を学習する。ジャブロンスキーの図を用いて, 蛍光やりん光の放射過程と内部変換や振動緩和などの無放射過程が存在することを理解する。
27	光化学	励起状態の失活過程を定量的に取り扱う方法を学習する。量子収量を反応速度論的に表す方法を理解し, 蛍光放出速度との関連付けを行う。更に, ステルン-フォルマーの式を用いて消光過程を理解する。
28	ファンデルワールス相互作用	電気双極子の定式化を行い, 永久或いは誘起双極子との間でもたらされる相互作用を学習する。更に, 永久電気双極子を持たない無極性分子も分散相互作用で凝集出来ることを理解する。
29	全相互作用	電気双極子の相互作用が距離の6乗に反比例すること, 分子同士が近接した時に反発的な相互作用が生ずることを, レナード-ジョーンズポテンシャルを用いて理解する。また, 最も強い分子間相互作用の例として水素結合について学習する。
30	演習	16~29回講義分の中で, 重要と思われる項目について演習問題に取り組み, 解説を加える。
備考	本科目の修得には, 60 時間の授業の受講と 30 時間の自己学習が必要である。前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	化学工学量論 (Chemical Engineering Stoichiometry)		
担当教員	久貝 潤一郎 准教授		
対象学年等	応用化学科・5年・後期・必修・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A4-C4(100%)		
授業の概要と方針	化学プロセスの理解とその定量的な把握すなわち収支計算の基礎を理解することは必須である。この物質収支を多くの演習をまじえて講義する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-C4】化学工学で取り扱う諸物理量の定義,単位,次元を確認する.		単位の換算や次元の確認が理解できているかレポート,中間試験で評価する.
2	【A4-C4】単位操作にからむ物質収支について理解する.		単位操作にからむ物質収支について理解できているかレポート,中間試験,定期試験で評価する.
3	【】		
4	【】		
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は,試験85% レポート15% として評価する.なお,試験成績は,中間試験と定期試験の平均点とする.100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト			
参考書			
関連科目	化学工学I,化学工学II,プロセス設計		
履修上の注意事項	毎回演習を伴うので電卓持参.化学工学単位操作の概要理解が前提.		

授業計画(化学工学量論)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	工業計算序論(単位と次元,温度,圧力)	SI単位の理解,各物理量をSI基本単位で記述し,誘導単位についての理解を深める.各種物理量の単位換算ができる.
2	工業計算序論(混合物の性質,反応式と化学量論)	化学量論で限定反応物質,過剰反応物質,過剰率,選択率,収率の意味の理解と量論計算.
3	工業計算序論(混合物の性質,反応式と化学量論)(2)	同上
4	工業計算序論の演習	上記3週間の章末問題の演習.レポートを提出させる.
5	物質収支(収支問題の解析の手順)	定常状態の物質収支の基本的な解析の手順を理解する.
6	物質収支(収支問題の解析の手順)(2)	同上
7	物質収支(収支問題の解析の手順)(3)	同上
8	中間試験	上記7週間の中間試験
9	中間試験の解説と解答.物質収支(対応成分を含む問題)	中間試験の解説.対応成分を見い出すことで物質収支をより簡単化できることを理解する.
10	物質収支(対応成分を含む問題)(2)	同上
11	物質収支(対応成分を含む問題)(3)	同上
12	物質収支(リサイクル,バイパス,パージの計算)	化学工場の流れ図で重要なリサイクル,バイパス,パージの概念の理解と物質収支計算への応用を理解する.
13	物質収支(リサイクル,バイパス,パージの計算)(2)	同上
14	物質収支(リサイクル,バイパス,パージの計算)(3)	同上
15	物質収支の演習	物質収支の章末問題の演習.レポートを提出させる.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30時間の授業の受講と60時間の自己学習が必要である. 後期中間試験および後期定期試験を実施する.	

科目	品質管理 (Quality Control)		
担当教員	松本 隆 非常勤講師		
対象学年等	応用化学科・5年・前期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A1(10%), A3(80%), C1(10%)		
授業の概要と方針	品質管理は、顧客の要求にあった商品(製品・サービス)を確実に提供するための活動、手法である。また、品質管理は、特定分野の固有(製造)技術ではなく、あらゆる産業分野に適用できる汎用的な管理技術であり問題解決学(術)でもある。技術者にとって、品質管理の体系を理解し、手法を身に着けることは必須である。本授業では、基本事項だけではなく実践的な演習(QCグループゲーム)も加え、技術者としての実践能力向上の基盤を学ぶ。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A3]品質管理の基本理念、管理の方法を理解する。		品質管理の基本、QC的ものの見方・考え方の理解度を定期試験で評価する。
2	[A3]データの取り方・まとめ方を理解する。		データの取り方・まとめ方の理解度を定期試験で評価する。
3	[A3]QC七つ道具、新QC七つ道具について理解する。		QC七つ道具、新QC七つ道具の理解度を定期試験で評価する。
4	[A3]問題解決の手順・アプローチを理解する。		問題解決の手順・手法・アプローチの実践力、チームワークをQCグループゲームで評価する。
5	[A3]品質保証について理解する。		品質保証についての理解度を定期試験で評価する。
6	[A3]国際的なマネジメントシステムを含む品質経営の要素について理解する。		国際的なマネジメントシステムを含む品質経営の要素についての理解度を定期試験で評価する。
7	[A1]統計的な考え方や基本的な手法を理解する。		統計的な考え方や基本的な手法の理解度を定期試験で評価する。
8	[C1]品質管理周辺の技法・考え方について理解する。		品質管理周辺の技法・考え方の理解度を定期試験で評価する。
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は、試験60% QCグループゲーム40% として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。演習やレポートも課すが、その中からも試験に出題する。品質管理は、単に知識として覚えるものではなく、手法を適用して身につけることが肝心であり、チームワークも重要である。その観点で、QCグループゲームの結果も評価に加える。		
テキスト			
参考書			
関連科目	確率統計		
履修上の注意事項	この科目は、最近、日本の多くの製造企業や学校等で注目され、受検者が増加している「品質管理検定(QC検定)」の「3級」のレベルに対応しており、テキストもその受検用である。この科目の履修を契機に、QC検定の3級及び2級の受検を行うことを推奨します。		

授業計画(品質管理)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	品質管理の基本	品質管理の基本的な概念,社会的な品質問題,「QC検定」について解説する.
2	QC的ものの見方・考え方	QC的ものの見方・考え方,管理と改善について解説する.
3	データの取り方とまとめ方,QC七つ道具	データの取り方とまとめ方,QC七つ道具の作り方・使い方について解説する.
4	新QC七つ道具,問題解決の進め方	QC七つ道具の作り方・使い方,問題解決の進め方(QCストーリー)について解説する.
5	QCグループゲーム(1/5)	トライアル1:紙飛行機の作成,飛行,記録,グラフ化.
6	QCグループゲーム(2/5)	上記5の結果の解析と改善策の立案(グループ・ディスカッションで特性要因図,系統図作成).
7	QCグループゲーム(3/5)	トライアル2:上記6の結果に沿って,改良版の紙飛行機の作成,飛行,記録,グラフ化,トライアル1のデータとの比較.
8	QCグループゲーム(4/5)	上記7の結果の解析と標準化(グループ・ディスカッションで特性要因図,系統図の見直し,標準書の作成).
9	QCグループゲーム(5/5)	上記8の結果の発表と講評.
10	品質保証(1):新製品開発	新製品開発の進め方・手法を解説する.
11	品質保証(2):プロセス保証	プロセス保証の進め方・手法を解説する.
12	品質経営の要素	国際的なマネジメントシステムを含む品質経営の要素について解説する.
13	統計的方法の基礎,管理図	統計的方法の基礎(正規分布,二項分布),管理図を解説する.
14	工程能力指数,相関分析	工程能力図,工程能力指数,相関分析を解説する.
15	まとめ	品質管理周辺の技法・考え方や技術者の倫理を含め,全般的な復習を行う.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	前期定期試験を実施する.	

科目	プロセス設計 (Process Design)		
担当教員	齋藤 俊 非常勤講師		
対象学年等	応用化学科・5年・通年・必修・2単位 (学修単位III)		
学習・教育目標	A4-C4(100%)		
授業の概要と方針	化学工業におけるプロセス開発は,実機生産設備・運転方法を理解した上で,ラボ実験,パイロット実験を実施し,その結果に基づいて最適運転条件の設定を行いスケールアップする.工業化研究(ラボ実験,パイロット実験,実機関連情報など)でよく使用する単位操作について,実例,例題を交えて講義を行うことで内容を理解し技術を習得する.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A4-C4]プロセスの構築・設計,物性推算,流動,伝熱の設備設計の基礎について理解する.		プロセスの構築・設計,物性推算,流動,伝熱に関する設備設計の基本的な用語の理解度と簡単な計算問題ができるかどうかについて,課題および前期中間試験で評価する.
2	[A4-C4]攪拌,反応,蒸留の設備設計の基礎について理解する.		攪拌,反応,蒸留の設備設計に関する基本的な用語の理解度と簡単な計算問題ができるかどうかについて,課題および前期定期試験で評価する.
3	[A4-C4]ガス吸収,晶析,ろ過,乾燥,膜分離の設備設計の基礎について理解する.		吸収,晶析,ろ過,膜分離,乾燥の設備設計に関する基本的な用語の理解度と簡単な計算問題ができるかどうかについて,課題および後期中間試験で評価する.
4	[A4-C4]粉体ハンドリング,計装設備,プラントの安全の設備設計の基礎について理解する.		粒子の分離の設備設計に関する用語の理解度と簡単な計算問題,および計装設備,プラントの安全管理に関する基本的な用語の理解度について,課題および後期定期試験で評価する.
5	[ ]		
6	[ ]		
7	[ ]		
8	[ ]		
9	[ ]		
10	[ ]		
総合評価	成績は,試験70% 課題30% として評価する.試験成績は,中間試験と定期試験の平均点とする.100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト			
参考書			
関連科目	化学工学I,化学工学II,化学工学量論		
履修上の注意事項	化学プロセスは多くの単位操作の組み合わせで成り立っており,各単位操作の基礎を理解しておくことでプロセス構築に役に立つ.化学技術者として現象を理解し,計算によって数式を解く方法を習得しておくことが大切である.		

授業計画(プロセス設計)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	プロセス設計とは	化学製品を生産するためにどのようなことを検討しなければならないのかについて、考慮すべき事項を学ぶ。
2	化学プラントの実例	講師が工業化を経験した2,3の化学プラントの実例を紹介し、プロセス設計がどのように生かされるかについて学ぶ。
3	工業化の進め方	データの取得,PFC,物質収支,熱収支PFD,EFD作成などを学ぶ。
4	流動	管内圧損失,液体の配管内流動,輸送ポンプなどを学ぶ。
5	伝熱I	熱の伝わり,総括伝熱係数の算出,伝熱計算などを学ぶ。
6	物性・シミュレーション	EXCELソルバー,物性推算,シミュレーションなどをパソコンを使って学ぶ。
7	伝熱IIおよび演習	熱交換機の種類,伝熱計算について学ぶ,演習を通じて第1回から第7回までの理解を深める。
8	中間試験	中間試験
9	中間試験の解説・解答および攪拌I	中間試験を解説・解答する.攪拌翼の種類,特徴,フローパターン,混合特性などを学ぶ。
10	攪拌II	攪拌混合の基礎(流動特性,攪拌所要動力)などを学ぶ。
11	反応I	反応熱測定・推算,反応次数,シミュレーションなどを学ぶ。
12	反応II	反応器の種類と設計方法などを学ぶ。
13	蒸留I	蒸留設備,蒸留操作と物性,気液平衡関係などを学ぶ。
14	蒸留II	単蒸留,回分蒸留,連続蒸留とその計算方法などを学ぶ。
15	蒸留IIIおよび演習	蒸留塔の設計方法,付帯設備などを学ぶ,演習を通じて攪拌,反応,蒸留についての理解を深める。
16	定期試験の解説・解答および液液抽出	定期試験を解説・解答する.抽出操作・設備・計算方法・分液速度測定などを学ぶ。
17	ガス吸収	ガスの溶解度,ガス吸収装置の種類などを学ぶ。
18	晶析	結晶化,溶解度曲線,冷却晶析,データ取得などを学ぶ。
19	ろ過	ろ過設備,ろ過機の種類などについて学ぶ。
20	膜分離	分離膜の種類と分離性能などについて学ぶ。
21	乾燥	乾燥機の特徴,スケールアップ,トラブル防止などを学ぶ。
22	演習	演習を通じて抽出,吸収,晶析,ろ過,膜分離について理解を深める。
23	中間試験	中間試験
24	中間試験の解説・解答および粒子の分離I	中間試験を解説・解答する.流体からの粒子の分離を学ぶ。
25	粒子の分離II	粒子の分離,粉体ハンドリングなどを学ぶ。
26	計装システム	プラントを設計通りに運転するための計装システムについて学ぶ。
27	プラントの安全I	気体・液体・固体の火災爆発防止について学ぶ。
28	プラントの安全II	静電気危険,帯電原理,着火・爆発,静電気対策などを学ぶ。
29	演習	粒子の分離,計装システム,プラントの安全について演習を通じて理解を深める。
30	プレゼンテーション(エンジニアリングデザイン演習)	5分間のプレゼンテーション.各自発表.テーマは,1) これからの製造業について,2) 化学技術者・研究者の夢など。
備考	本科目の修得には,60 時間の授業の受講と 30 時間の自己学習が必要である。 前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	機械工学概論 (Introduction to Mechanical Engineering)		
担当教員	赤対 秀明 教授		
対象学年等	応用化学科・5年・前期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A2(100%)		
授業の概要と方針	化学工業装置の設備計画や保守管理には、機械構造の原理・機構・材料を理解することが必要となる。また、化学プラントにおいては、機械系技術者とのコミュニケーションを図ることも重要となる。このため、機械工学の基礎知識について学習し、化学工業分野で幅広く活躍できる素養を養う。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A2】技術者の仕事,機械工学の役目について理解する。		技術者の仕事内容について外部講師(現役技術者)の講演を聞いて,その理解度をレポートにより評価する。
2	【A2】環境とエネルギー問題の現状について理解する。		環境とエネルギー問題の現状についての理解度を試験およびレポートで評価する。
3	【A2】材料と加工方法を理解する。		材料と加工方法の理解度を試験およびレポートで評価する。
4	【A2】制御とメカトロニクスについて理解する。		制御とメカトロニクスについての理解度を試験およびレポートにより評価する。
5	【A2】既成品に付加価値をつけ,創造力を養う。		付加価値の創造について,アイデア発表会を行いその内容およびプレゼンテーションにより評価する。
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は,試験50% レポート30% プレゼンテーション20% として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。機械工学の基礎知識といえども,15回の授業で理解することは難しい。そのためレポートを多く課すことになるので,試験の評価が70%以下となっている。		
テキスト			
参考書			
関連科目	C3「図学・製図」,C3「化学工学I」,C5「エネルギー工学」,C5「プロセス設計」,C5「環境化学」		
履修上の注意事項			

授業計画(機械工学概論)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス,工学とは,機械工学とは,単位	授業の概要と進め方について説明する.また,工学および機械工学を分類し,機械系および化学系の位置づけについて学習する.単位について確認する.
2	技術者とは	外部講師(現役技術者)による講演を聴講し,技術者の仕事内容について理解する.受講レポートを提出する(レポートNo.1).
3	環境・エネルギーの世界(1)	力学的エネルギー,熱的エネルギー,電磁氣的エネルギー,化学エネルギーなど,各種エネルギーとその変換について学習する.
4	環境・エネルギーの世界(2)	「3Eのトリレンマ」について理解し,エネルギー,環境,経済活動のバランスについて学習する.環境問題の現状を新聞記事を用いて報告する(レポートNo.2).
5	環境・エネルギーの世界(3)	流体のエネルギーについて学習する.
6	環境・エネルギーの世界(4)	熱のエネルギーについて学習する.
7	環境・エネルギーの世界(5)	熱流体の「可視化法」を調べ,整理することにより,熱流体の流れ・分布を理解する.(レポートNo.3)
8	材料・加工の世界(1)	鉄,鋼,アルミなど,各種材料について学習する.また応力-ひずみ線図を理解し,材料強度について学習する.
9	材料・加工の世界(2)	材料力学と加工方法について学習する.
10	材料・加工の世界(3)	ものづくり体験(流体工学にもとづくブーメランの製作)および加工現場の見学(工場見学)により,ものづくりについて理解を深める.受講レポートを提出する(レポートNo.4).
11	制御・メカトロニクスの世界(1)	機械要素(歯車,ベルト,チェーン,カム)について学習する.
12	制御・メカトロニクスの世界(2)	メカニクス+エレクトロニクスによる制御について学習する.
13	生物に学んで工学に活かす	微生物から大型動物における,長い年月をかけて進化してきた機構や性質を,工学に活かすことで,より性能の良い製品が開発されていることを理解する.既に利用されている事例や,自ら考案した適用の可能性について報告する(レポートNo.5).
14	付加価値の創造(アイデア発表会1/2)	既存の各種家電や各種機器に,付加価値をつけ,よりよい製品とするようにアイデアをねり,創造力を高めるとともに,発表会を通してプレゼン能力を高める.
15	付加価値の創造(アイデア発表会2/2)	第14週に引き続いて,後半の発表会を行う.15回の授業において,興味を引いた項目など総括(自己評価,他者評価)を報告する(レポートNo.6).
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	前期定期試験を実施する.試験のための準備として,普段の授業からノート整備や資料の整理などを心がけておくこと.	

科目	電気工学概論 (Introduction in Electrical Engineering)		
担当教員	安田 佳祐 准教授		
対象学年等	応用化学科・5年・前期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A2(100%)		
授業の概要と方針	電気回路の基礎理論を学ぶとともに、直流回路および交流回路を用いた回路計算に必要な知識や計算力を習得する。さらに、半導体素子などの電子デバイスの基礎原理について解説する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A2]オームの法則を理解し、電気回路の基本的な計算方法について理解できる。		オームの法則を理解し、電気回路の基本的な計算方法について理解できているかを、前期中間試験、前期定期試験およびレポートで評価する。
2	[A2]各種の法則を用いた直流回路の計算方法について理解できる。		キルヒホッフの法則、重ね合わせの定理、テブナンの定理などの各種の法則を用いた直流回路の計算方法について理解できているかを、前期中間試験およびレポートで評価する。
3	[A2]電流による発熱作用から電力と電力量について理解できる。		電流による発熱作用から電力と電力量について理解できているかを、前期中間試験、前期定期試験およびレポートで評価する。
4	[A2]抵抗・インダクタンス・静電容量に関する直流回路および交流回路の基本的な計算方法について理解できる。		抵抗・インダクタンス・静電容量に関する直流回路および交流回路の基本的な計算方法について理解できているかを、前期中間試験、前期定期試験およびレポートで評価する。
5	[A2]正弦波交流の性質、正弦波交流のベクトル表示を理解し、ベクトルによる正弦波交流の計算方法について理解できる。		正弦波交流の性質、正弦波交流のベクトル表示を理解し、ベクトルによる正弦波交流の計算方法について理解できているかを、前期中間試験、前期定期試験およびレポートで評価する。
6	[A2]ダイオードやトランジスタなどの半導体素子の基本的な原理が理解できる。		ダイオードやトランジスタなどの半導体素子の基本的な原理を文章ならびに図を用いて説明できるか前期定期試験およびレポートで評価する。
7	[ ]		
8	[ ]		
9	[ ]		
10	[ ]		
総合評価	成績は、試験85% レポート15% として評価する。試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。ただし、必要に応じて再試験を行うことがある。		
テキスト			
参考書			
関連科目	数学,物理,分析化学II,物理化学I,材料化学		
履修上の注意事項	上記の関連科目を十分学習し、理解しておくことが望ましい。		

授業計画(電気工学概論)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	オームの法則,直列回路・並列回路・直並列回路	直列回路について,オームの法則および電流の関係について説明する.さらに抵抗を直列に接続した場合,並列に接続した場合および直列と並列を組み合わせた場合における合成抵抗について説明し,その演習問題を解く.
2	キルヒホッフの法則	キルヒホッフの第1法則(電流則)および第2法則(電圧則)について説明し,その演習問題を解く.
3	重ね合わせの定理	重ね合わせの定理について説明し,その演習問題を解く.
4	テブナンの定理	テブナンの定理について説明し,その演習問題を解く.
5	ジュールの法則,静電容量とコンデンサの接続	ジュールの法則について説明し,その演習問題を解く.また,コンデンサを直列接続・並列接続した場合の合成静電容量に関する演習問題を解く.
6	インダクタンスとコイルの接続	レンツの法則およびファラデーの法則について説明する.また,コイルを直列接続・並列接続した場合の合成インダクタンスに関する演習問題を解く.
7	交流の表し方	交流の時間的変化の速さを表す周期,周波数,角周波数およびそれら相互の関係について説明する.さらに,交流の大きさを表す最大値,平均値および実効値についても説明する.
8	中間試験	第1週から第7週までの内容で中間試験を実施する.
9	中間試験解答,交流のベクトル表示,交流回路	中間試験の解答を行う.ベクトルを用いて交流電圧や交流電流を表現する方法について説明する.抵抗,コイル,コンデンサの単独回路における抵抗値と電圧・電流の大きさおよびリアクタンスと電圧・電流の大きさの関係やベクトル表示について説明する.
10	RL直列回路・RC直列回路	RL直列回路およびRC直列回路における電圧・電流とインピーダンスの関係,電圧と電流の位相の関係について説明する.さらに電圧と電流をベクトル表示し,その演習問題を解く.
11	RLC直列回路	RLC直列回路におけるインピーダンス・電圧・電流の変化,直列共振と共振周波数について説明し,その演習問題を解く.
12	RLC並列回路	RLC並列回路におけるインピーダンス・アドミタンス・電圧・電流の変化,並列共振と共振周波数について説明し,その演習問題を解く.
13	交流電力	交流回路における力率,皮相電力,有効電力,無効電力の関係およびこれらのインピーダンスを用いた表現について説明し,その演習問題を解く.
14	回路を構成する実際のR・L・C,半導体素子の基礎	抵抗値の表示方法,各種抵抗の構造・用途,静電容量の表示方法,各種コンデンサの構造と用途および各種コイルの構造と用途などについて説明する.さらに半導体の基本原理についても説明する.
15	半導体素子(ダイオード・トランジスタ)	ダイオードの構造と使い方およびトランジスタの構造と働きについて説明する.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	前期中間試験および前期定期試験を実施する.	

科目	卒業研究 (Graduation Thesis)		
担当教員	講義科目担当教員		
対象学年等	応用化学科・5年・通年・必修・10単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B1(20%), B2(10%), C2(70%)		
授業の概要と方針	特定のテーマを設定し、授業等で習得した知識と技術を総合して、自主的かつ計画的に指導教官の下で研究を行う。研究を通じて問題への接近の方法を理解し、文献調査や実験、理論的な考察など問題解決の手順を習得して、総合力およびデザイン能力を高める。また、研究成果を口頭で発表し卒業研究論文にまとめることでコミュニケーション能力を身につける。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【C2】研究活動:研究テーマの背景と目標を的確に把握し十分な準備活動を行い、指導教官、共同研究者と連携しながら自主的に研究を遂行できる。		研究への取り組み、達成度を卒業研究論文および発表会の内容で評価する。
2	【C2】研究の発展性:得られた研究結果を深く考察し、今後の課題等を示し、研究の発展性を展望することができる。		研究活動の状況、研究成果を卒業研究論文および発表会の内容で評価する。
3	【B1】発表および報告書:研究の発表方法を工夫し、与えられた時間内に明瞭でわかりやすく発表できる。また、報告書が合理的な構成で研究全体が簡潔・的確にまとめることができる。		中間および最終発表会、卒業研究論文の構成で評価する。
4	【B2】質疑応答:質問の内容を把握し、質問者に的確に回答できる。		中間および最終発表会の質疑応答と質問回答書で評価する。
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	研究活動(C-2)を30%,研究の発展性(C-2)を30%,卒業研究論文の構成(B-1)を10%,卒業研究発表会の内容(C-2)を10%,その発表(B-1)を10%,質疑応答(B-2)を10%として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	基礎化学実験,応用化学実験I・II・III		
履修上の注意事項	各専門分野に対する強い興味と未知の分野への探求姿勢が望まれる。		

授業計画(卒業研究)

内容(テーマ, 目標, 準備など)

以下の10の分野の中から一つのテーマを選び, 1年間担当教員から指導を受け研究活動を行う。

(分野1: 大淵)「新規機能性有機化合物および有機金属錯体の合成と応用」

分子デバイス(有機EL素子, 有機トランジスタ, 分子ワイヤー), 触媒, 医薬品への展開を図るため, 新規な機能性有機化合物および有機金属錯体の合成とその応用を研究している。

(分野2: 九鬼)「光合成色素の励起状態の物理化学」

光合成色素の一つカロテノイドの補助集光・光保護作用の機能発現機構を物理化学的視点より研究する。色素蛋白やカロテノイドを単離精製(生化学・有機化学)して種々の分光法を応用(物理化学)したり, 理論計算(物理学)を行って, カロテノイドの励起状態の特性を調べ上げ, 光合成系での機能発現の機構を考察する。また, 光合成色素の太陽電池への応用にも挑戦する。

(分野3: 渡辺)「分子の内部自由度が反応に与える影響」

分子の自由度(並進, 回転, 振動)により, 素反応がどのような影響を受けるか反応速度論と反応動力学の両面から測定および, 理論計算による考察を行い, 量子論的な反応制御の可能性について考える。

(分野4: 宮下)「金属錯体の立体選択性に関する基礎研究」

金属イオンは多種多様な酸化数や幾何構造を取り得る。光学活性な多座キレート配位子を有する金属錯体を合成し, その立体化学を分光化学的に評価する。錯体の立体選択性に対する金属間相互作用やキラリティーの影響を調査する。

(分野5: 久貝)「金属-酸化物触媒を用いた水素の製造・精製と電極酸化」

炭化水素やアルコールなどの燃料を水素に変換し, 燃料電池でさらに電気エネルギーに変換する一連のプロセスを高効率化することを目的とし, 各段階で用いられる触媒材料の構造と触媒特性の相関からより高性能な材料の設計を行う。

(分野6: 根本)「新規機能性高分子の合成および高分子複合体への応用」

本研究では次世代の高分子材料の創製を目指し, 熱的・機械的特性や相溶性に優れた機能性高分子の合成を行う。得られる高分子を用いた複合材料は, 自動車・飛行機などの輸送用機器や宇宙船開発への応用が期待される。また, 化石燃料の枯渇問題や石油製品の焼却による大気汚染などを考慮し, 地球に優しい植物由来の原料を用いた高分子合成を行う。

(分野7: 小泉)「不安定中間体の化学」

反応中に発生はするが反応活性なため単離ができない中間体(不安定中間体)の反応性に関する研究を行っている。具体的にはビニルカルベノイドやイミノカルベノイドに着目し, ヘテロ原子や多重結合との分子内, 分子間の反応を検討し, 新規化合物の創成および反応機構の解明を目指す。

(分野8: 下村)「植物のアルミニウムイオン耐性機構に関する研究」

マメ科植物-根粒菌共生に関わる遺伝子やアルミニウムイオン耐性遺伝子の発現解析と機能解析を行う。また, グリーンバイオマスとして着目されているアブラギリの遺伝子組換え法の確立に向けた研究も行う。

(分野9: 安田)「新しい機能性無機材料の研究開発」

人体や環境に悪影響を及ぼす大気汚染物質や水質汚濁物質を効率よく浄化するための環境触媒の開発, および触媒活性発現のメカニズムの解明を行う。また, 高容量・高出力化などの高機能を有する二次電池材料の開発, 及び環境や人体に対して有害物質を含まない環境調和型の新規な無機顔料の開発も行う。

(分野10: 増田)「粒子・流体材料の工学」

微粒子分散系複合材料への応用を目指し, 粒子と流体が混在した物質の挙動および特性に関する研究を行っており, せん断場および伸長場における微粒子の分散・凝集挙動を対象とする。またそれ以外にも電気粘性流体や粉体挙動なども研究対象とする。

備考

中間試験および定期試験は実施しない。前期6単位時間, 後期14単位時間実施。

科目	応用有機化学II (Applied Organic Chemistry II)		
担当教員	小泉 拓也 准教授		
対象学年等	応用化学科・5年・後期・選択・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A4-C1(100%)		
授業の概要と方針	現在までの我が国における有機工業化学を、歴史、合成法、製品の用途について各論的に述べる。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-C1】スペクトル色・余色,色と化学構造の関係および染料の分類について理解できる。		スペクトル色・余色,色と化学構造の関係,染料の分類について理解し,化学式や文章を用い説明できるかを中間試験およびレポートで評価する。
2	【A4-C1】染料・顔料および機能性色素の構造と命名およびそれらの特徴について理解できる。		染料・顔料および機能性色素の構造と命名が記述できるか,およびそれらの特徴を化学式や文章を用い説明できるかを中間試験およびレポートで評価する。
3	【A4-C1】医薬品・農薬および香料の構造と命名およびそれらの特徴について理解できる。		医薬品・農薬および香料の構造と命名が記述できるか,およびそれらの特徴や反応を化学式や文章を用いて説明できるかを定期試験およびレポートで評価する。
4	【】		
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は,試験90% レポート10% として評価する.なお,試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする.100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	C2 有機化学 I,C3 有機化学 II,C4 有機合成化学,C5 応用有機化学 I		
履修上の注意事項	上記科目を十分学習し,理解しておくことが望ましい.また,自己学習のために与えられたレポートの提出を求める.なお未提出レポートがあった場合,上記総合評価は適用しない。		

授業計画(応用有機化学II)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	有機化合物の色	スペクトル色・余色,色と化学構造について解説する。
2	染料(1)	代表的な染料の紹介,染料の分類について解説する。
3	染料(2)	アゾ染料・アントラキノン染料・インジゴ染料について解説する。
4	染料(3)	フタロシアニン他各種染料・有機顔料について解説する。
5	機能性色素	機能性色素について解説する。
6	医薬(1)	解熱鎮痛消炎剤・睡眠鎮静剤他各種医薬について解説する。
7	医薬(2)	制がん剤・抗生物質他各種医薬について解説する。
8	中間試験	上記1から7までの項目の理解度を試験する。
9	中間試験解答	中間試験内容の解説を行う。
10	医薬(3)	医薬品の歴史について,開発とその副作用を中心として解説する。
11	農薬(1)	農業開発の歴史について,時代背景,環境問題,人体への影響について解説する。
12	農薬(2)	各種殺虫剤の構造を用途別に解説する。
13	農薬(3)	各種殺菌剤の構造を用途別に解説する。
14	香料(1)	香料使用の歴史について解説する。動物性天然香料の種類と構造について解説する。植物性天然香料の採取法について解説する。
15	香料(2)	石油化学製品あるいは植物性天然香料を原料とした合成染料の構造,合成法について解説する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30時間の授業の受講と60時間の自己学習が必要である。 後期中間試験および後期定期試験を実施する。	

科目	応用無機化学II (Applied Inorganic Chemistry II)		
担当教員	根津 豊彦 教授		
対象学年等	応用化学科・5年・後期・選択・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A4-C2(100%)		
授業の概要と方針	無機酸(硫酸・硝酸・塩酸・リン酸), 塩, ソーダ, アンモニアの工業的な製造法, 用途, 合成理論などについて学習する. 無機工業化学製造技術の進歩が環境調和と密接に関連してきたことについて学ぶ. また工業的製造により発生する排出ガス量および汚染物質排出ガス濃度の計算方法について学習する. あわせて主要な無機汚染物質の排出ガス浄化処理技術について学ぶ.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-C2】無機酸(硫酸・硝酸・塩酸・リン酸)の製造原理, 製造技術の歴史, 用途について理解できる.		無機酸(硫酸・硝酸・塩酸・リン酸)の製造原理, 製造技術の歴史, 用途について理解できているかを, 後期中間試験およびレポートで評価する.
2	【A4-C2】硫酸製造において各種条件下での排ガス濃度の計算について理解できる. 液体燃料の理論排出ガス量および不純物量からの排ガス汚染物質濃度の計算方法について理解できる.		硫酸製造において各種条件下での排ガス濃度計算が理解でき, 液体燃料の理論排出ガス量および不純物量からの排ガス汚染物質濃度の算出方法が理解できているかを, 後期中間試験およびレポートで評価する.
3	【A4-C2】海水からの製塩, ソーダ工業, アンモニアの製造原理, 製造技術の歴史, 用途について理解できる.		海水からの製塩, ソーダ工業, アンモニアの製造原理, 製造技術の歴史, 用途について理解できているかを, 後期定期試験およびレポートで評価する.
4	【A4-C2】製造技術に関しての化学反応, 転化率, 反応率の計算について理解できる.		製造技術に関しての化学反応, 転化率, 反応率の計算について理解できているかを, 後期中間試験・後期定期試験およびレポートで評価する.
5	【A4-C2】排煙脱硫, 排煙脱硝, 集じん装置の原理と構造について理解できる.		排煙脱硫, 排煙脱硝, 集じん装置の原理と構造について理解できるかを, 後期定期試験およびレポートで評価する.
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は, 試験80% レポート20% として評価する. 試験成績は中間試験と定期試験計2回の平均点に0.8を乗じたものとする. レポート点は, 出題したレポート平均点(100点満点)に0.2を乗じたものとする. 100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト			
参考書			
関連科目	無機化学I・II, 化学工学I・II, 物理化学I, 材料化学(無機)		
履修上の注意事項	上記の関連科目を十分学習し, 理解しておくことが望ましい.		

授業計画(応用無機化学II)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	工業化学総論(化学工業の特徴,資源とエネルギー,世界の化学工業製品の動向,課題)について	無機化学工業に属する工業の種類を説明する.資源・エネルギーと関連深く,排出物による環境汚染問題などの課題を抱えてきた歴史について学習する.世界の無機工業製品製造量の推移と動向について説明する.
2	硫酸工業(1)	硫酸製造技術の歴史と硫酸の用途について説明する.硝酸式製造方法およびその概要について説明する.接触式製造法について説明する.
3	硫酸工業(2)	接触式硫酸製造理論について化学平衡,物質収支の面から説明する.この反応で使用する原料,触媒,設備の特徴について説明する.各種濃度の硫酸製品調製方法について演習を交えながら学習する.
4	硫酸工業(3)・製造過程で発生する排ガス	各種の条件で硫酸化物を製造した時の排ガス量,排ガス組成について演習を交えながら説明する.工業的生産時における理論排ガス量算出方法について液体燃料を例にして演習を交えながら説明する.また,汚染物質の排ガス濃度計算方法についても学ぶ.
5	硝酸工業	硝酸製造方法の技術的発展と用途について説明する.アンモニア酸化法による製造方法の基礎理論について説明する.
6	塩酸工業	塩酸の製造方法別生産量の推移について他工業との関連性を基に説明する.塩素と水素からの塩酸製造方法(合成塩酸製造方法)と副生塩酸製造方法について説明する.塩酸の用途について学ぶ.
7	リン酸工業	りん鉱石からのリン酸製造方法は湿式法と乾式法がある.特に湿式法を取り上げて基礎理論を説明する.リン酸の用途についても学ぶ.副生生物として得られる石膏が工業的製造過程において重要であることを説明する.
8	中間試験	第1週から第7週までの内容で中間試験を行う.
9	中間試験の解答・製塩(1)	中間試験の解答を行う.塩の輸入状況,用途について説明する.海水からの製塩法(天日塩田法)の概要について説明する.
10	製塩(2)	イオン交換膜電気透析法における採かん工程とせんごう工程について説明する.また,にがり工業について説明する.
11	ソーダ工業(1)	ソーダの種類,電解ソーダ法(隔膜法,水銀法,イオン交換膜法)による苛性ソーダ製造の概要について説明する.
12	ソーダ工業(2)	ソーダ灰工業(アンモニアソーダ法と塩安ソーダ法)の概要およびソーダ製品の用途について説明する.
13	アンモニア工業(1)	アンモニア合成技術の歴史的変遷について説明する.また,ハーバーボッシュ法によるアンモニア製造の合成理論について説明する.
14	アンモニア工業(2)	アンモニア合成用ガスの製造方法について説明する.ハーバーボッシュ法による合成装置の特徴や合成条件について説明する.
15	排気ガスの浄化技術	排煙脱硫技術,排煙脱硝技術,集じん装置(遠心力集じん装置,電気集じん装置)の原理と構造および機能について説明する.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30時間の授業の受講と60時間の自己学習が必要である. 後期中間試験および後期定期試験を実施する.パワーポイントを用いた講義が中心となる.	

科目	エネルギー工学 (Energy Engineering)		
担当教員	大淵 真一 教授		
対象学年等	応用化学科・5年・後期・選択・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A4-C4(100%)		
授業の概要と方針	現在の1次エネルギー総供給量の85%は、実に化石燃料から得ている。しかし、その半分を越える石油の産出がピークを過ぎ、次世代のエネルギーの供給について対応をしておく必要がある。本授業では、炭素資源の重要性とともに新エネルギーについての研究や開発がどのように進められているかを化学の立場から講義し、応用化学科の学生が知っておくべき知識としてまとめる。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-C4】さまざまなエネルギーの形態を知り、共通項として単位(ジュールやエレクトロンボルト)の相関性を理解できる。		熱エネルギーと仕事エネルギーの互換性、運動エネルギーとポテンシャルエネルギーを含む力学エネルギーに対する理解ができているか後期中間試験と小テストとレポートで評価する。
2	【A4-C4】石油・石炭・天然ガスの化石燃料は、1次エネルギーとして85%を占めているが、これらはいずれも国の基幹産業を支える物質でもあることを理解できる。		化石燃料は燃焼によるエネルギー獲得だけの物質ではなく、化学工業において重要な物質であることを理解できているか後期中間試験と小テストとレポートで評価する。
3	【A4-C4】化石燃料にかわるエネルギー資源(水素燃料,燃料電池)が求められていることが理解できる。		クリーンな次世代エネルギーとして水素燃料への期待やそれを使った燃料電池の仕組みを理解できているか後期中間試験と小テストとレポートで評価する。
4	【A4-C4】太陽光がもつエネルギーの有効利用について、(1)太陽熱発電, (2)太陽電池, (3)人工光合成などが提案され、いろいろな方面から研究されていることが理解できる。		太陽内部で行われているppチェーン・CNOサイクルによる水素核融合式, 光合成をモデルとした光エネルギーの化学的変換方法を理解でき記述できるか後期定期試験と小テストとレポートで評価する。
5	【A4-C4】原子力エネルギーの現状と問題点および核融合開発について理解できる。		原子力エネルギーの現状と問題点および核融合開発について理解できているか後期定期試験と小テストとレポートで評価する。
6	【A4-C4】化石燃料にかわるエネルギー資源(風力,地熱,バイオマス)が求められていることが理解できる。		生物資源をエネルギー源とするバイオエネルギーや,再生可能な風力エネルギー,地熱エネルギーについて理解できているか後期定期試験と小テストとレポートで評価する。
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は、試験90% レポート5% 小テスト5% として評価する。到達目標1,2,3についての中間試験を45%で、到達目標4,5,6についての定期試験を45%で評価する。到達目標1から6について的小テストを5%,レポートを5%で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。レポートに未提出がある場合はこの限りではない。		
テキスト			
参考書			
関連科目	C2有機化学I,C3有機化学II,C2無機化学I,C3無機化学II,C4有機合成化学		
履修上の注意事項	上記科目の内容を十分に理解しておくことが望ましい。		

授業計画(エネルギー工学)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	エネルギーの定義	さまざまな形態をもつ仕事エネルギー,電気エネルギー,光・熱エネルギーの定義・単位・相互関係について解説する.
2	化石燃料:石炭	エネルギー源としての石炭の現状と課題について解説する.
3	化石燃料:石油	エネルギー源としての石油の現状と課題について解説する.
4	化石燃料:天然ガス,メタンハイドレート	天然ガス,メタンハイドレートの現状と課題について解説する.
5	燃焼の理論	炭素燃料の燃焼における熱化学方程式について解説する.
6	水素エネルギー	水素エネルギーの特徴,化学的性質,製造法,安全性をふまえた現状と課題について解説する.
7	燃料電池	燃料電池のメカニズムと開発の現状について解説する.
8	中間試験	1回目から7回目の内容について試験する.
9	中間試験の解答.太陽の本質	中間試験の解答を解説する.太陽の本質とその膨大なエネルギーについて解説する.
10	太陽光の利用1	太陽熱を直接利用したエネルギー獲得について解説する.
11	太陽光の利用2	光合成のメカニズムとそれを応用した人工光合成を用いたエネルギー獲得について解説する.
12	太陽光の利用3	太陽電池の現状と課題について解説する.
13	バイオマスエネルギー,風力エネルギー,地熱エネルギー	バイオマスエネルギー,風力エネルギー,地熱エネルギーの現状と課題について解説する.
14	原子力エネルギー	原子力エネルギーの現状と課題について解説する.
15	核融合エネルギー	核融合エネルギーの現状と課題について解説する.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30時間の授業の受講と60時間の自己学習が必要である. 後期中間試験および後期定期試験を実施する.	

科目	環境化学 (Environmental Chemistry)		
担当教員	根津 豊彦 教授		
対象学年等	応用化学科・5年・前期・選択・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A4-C2(50%), D1(50%)		
授業の概要と方針	工業技術の進歩は我々に多大な貢献をもたらしてきた一方で、地球を構成している物質系のバランスを崩す結果ともなった。その影響は地域的のみならず地球規模へと拡大している。また人為的合成や非意図的に生成した化学物質の環境に対する影響も問題となっている。本講義では、これら環境問題の実態とその影響について正しく理解することにより、原因と対策について考察する。また環境保全に対する技術者の任務を考える。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【D1】過去に発生した公害問題を学び、そのもたらした影響について理解し説明できる。		過去に発生した四大公害事件の原因とそのもたらした影響について理解し、説明できるかを中間試験およびレポートで評価する。
2	【A4-C2】わが国における水環境中の汚染物質濃度の現状と水質汚濁発生要因、対策について理解し説明できる。また環境基準、排水基準について理解し説明できる。		わが国における水環境中の汚染物質濃度の現状と水質汚濁発生要因、対策についての理解度、および環境基準、排水基準について理解し、説明できるかを中間試験およびレポートで評価する。
3	【A4-C2】わが国における大気環境中汚染物質濃度の現状と発生要因、対策について理解し説明できる。		わが国における大気環境中汚染物質濃度の現状と環境基準達成状況の変遷とその理由について、また、汚染物質の発生要因、対策とその効果について理解し、説明できるかを中間試験およびレポートで評価する。
4	【A4-C2】大気環境基準、排出基準について理解する。汚染物質排出規制値および排出量が算出できる。		大気汚染物質排出規制基準についての理解度、また大気汚染防止法で定められている総量規制の内容について理解し説明できるか、総量規制値の算出ができるかを中間試験およびレポートで評価する。
5	【A4-C2】光化学スモッグ・二次生成粒子状物質の生成要因と実態について理解し説明できる。広域移流拡散により環境影響を及ぼすこれら汚染物質の影響について理解し説明できる。		光化学スモッグと二次生成粒子状物質の生成機構と実態の理解度、および広域移流拡散による汚染物質のわが国への飛来影響と健康影響について理解し、説明できるかを中間試験およびレポートで評価する。
6	【A4-C2】地球規模で環境影響を及ぼす地球温暖化物質の排出抑制とエコロジー社会の重要性に関して理解し説明できる。排出抑制による地球温暖化対策効果について理解し説明できる。		地球規模で環境影響を及ぼす地球温暖化物質排出抑制とエコロジー社会の重要性の理解度、および排出抑制対策効果に関するIPCC報告概要について理解し、説明できるかを定期試験およびレポートで評価する。
7	【A4-C2】地球規模で環境影響を及ぼすオゾン層破壊物質による破壊メカニズムと対策について理解し説明できる。酸性降下物の生成要因と影響について理解し説明できる。		オゾン層破壊のメカニズムと紫外線の生態影響についての理解度、また酸性降下物の生成要因と影響、降水成分とpHの関係について理解し、説明および計算ができるかを定期試験およびレポートで評価する。
8	【A4-C2】合成化学物質の環境影響について理解し説明できる。非意図的に生成化学物質であるダイオキシン類の発生要因、濃度表示方法、曝露量の現状と排出対策効果について理解し説明できる。		合成化学物質の環境影響についての理解および、非意図的に生成化学物質であるダイオキシン類の発生要因、濃度表示方法、曝露量の現状と対策効果について理解し説明できるかを定期試験およびレポートで評価する。
9	【D1】環境保全に取り組むために我々技術者が取り組むべき任務について考え、まとめることができる。		技術者としてまた環境の中の一員として、環境保全に対する自分たちの役割について考え、まとめることができるかをレポートおよび定期試験で評価する。
10	【】		
総合評価	成績は、試験80% レポート20% として評価する。試験成績は中間試験と定期試験計2回の平均点に0.8を乗じたものとする。レポート点は、出題したレポート平均点(100点満点)に0.2を乗じたものとする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	分析化学I・II, 無機化学I・II, 有機化学I・II, 応用無機化学II, 応用有機化学I, 応用化学実験I・II		
履修上の注意事項	分析化学I・II, 無機化学I・II, 有機化学I, II, 応用有機化学I, 応用化学実験I・IIをしっかりと復習しておくこと。現在起きている環境問題に関するメディア情報に対して常に関心を持つと共に過去に起きた様々な環境問題について自身で調べながら受講すること。		

授業計画(環境化学)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	概要・わが国における環境問題の歴史(1)(大気汚染・水質汚濁)	環境化学の全般的な概要について説明する。人間と環境との関わり合いについて述べる。わが国で発生した公害問題について知る。公害事件の発生原因、そのもたらした影響について学ぶ。
2	わが国における環境問題の歴史(2)(大気汚染・水質汚濁)	わが国で発生した公害事件(四大公害病)について文献等で調べた内容を各自発表する。発表に対して解説を加える。公害事件の発生原因、そのもたらした影響について学ぶ。水俣病に関するドキュメント映像を用い、公害問題の及ぼした影響について考えをまとめる。
3	水質汚濁の環境化学(1)(環境基準と排出基準)	人の健康と生活環境の保全にかかる環境基準が定められていることを学ぶ。また事業所からの排出基準について説明する。水質の生活環境に関わる代表的な指標であるDO、COD測定法について演習を交えて説明する。化学実験室における化学物質管理について学ぶ。
4	水質汚濁の環境化学(2)(河川・湖沼・海域の汚染)	水質汚濁の発生源と、河川(湖沼)、海域(閉鎖性海域)の汚染や富栄養化について学ぶ。わが国における公共用水域水質の現状と浄化対策、淡水の活用について講義する。
5	水質汚濁の環境化学(3)(地下水の汚染防止・水質汚濁に関する演習)	地下水は貴重な淡水資源であること、近年電子機器産業の著しい発展に伴う有機ハロゲン物質等による地下水汚染の危険性とその影響について学ぶ。工場・事業場から排出される汚染物質と水質汚濁について演習を交えながら学習する。
6	大気環境(1)(大気汚染物質・日本の大気汚染現況)	大気汚染物質として問題となる典型的な化学物質について述べる。大気環境基準について解説する。日本における大気汚染物質濃度の現状と大気環境基準値とを対比し、汚染要因を理解することにより今後の大気保全のあり方について学ぶ。大気汚染物質の排出基準について演習を交えながら解説する。
7	大気環境(2)(光化学スモッグ・浮遊粒子状物質・SPM・微小粒子状物質・PM2.5・越境汚染)	光化学オキシダントの生成メカニズムについて解説する。近年PM2.5に代表される微小粒子状物質、浮遊粒子状物質、酸性降下物などが問題となっている。越境汚染およびわが国における汚染物質の排出・生成要因について講義する。汚染物質濃度の実態とその健康影響について解説する。
8	中間試験	1～7回までの範囲で中間試験を実施する。
9	中間試験の解説・湿性降下物(酸性雨)の化学(1)	中間試験の解説を行う。酸性雨の定義について解説する。日本における酸性雨の現状を知る。北米、北欧などで顕在化している酸性雨(酸性降下物)による被害と環境影響について学ぶ。
10	湿性降下物(酸性雨)の化学(2)	降水中に溶存するイオンの種類について学ぶ。イオンバランスとpHの関連について演習を交えながら講義する。
11	地球環境の化学(1)(地球温暖化とIPCCの取り組み)	二酸化炭素等の地球温暖化ガスによる「温暖化」のメカニズムとエコロジー効果についてIPCC第5・4次報告書を元に解説する。二酸化炭素以外の地球温暖化ガスの影響について解説すると共に環境濃度の推移について説明する。
12	地球環境の化学(2)(地球温暖化)	地球温暖化の影響について啓蒙活動を実施し、その功績に対してノーベル賞を授与されたアル・ゴア元アメリカ合衆国副大統領が製作した地球温暖化に関する映像教材を用いて理解を深める。
13	地球規模での汚染(オゾン層の破壊と紫外線による悪影響)	地球成層圏でのオゾン層の役割およびオゾン層破壊による紫外線の影響と障害について説明する。
14	有害大気汚染物質とダイオキシン問題(1)	わが国において毒性や排出量を考慮して指定された有害大気汚染物質リストの中で、特に緊急性を有する優先取組物質について解説する。また非意図的生成化学物質であり、毒性の強いダイオキシン類について概要を説明する。発生要因と対策および対策効果について解説する。
15	ダイオキシン問題(2)・環境問題を考える総括とワークショップ	ダイオキシン類濃度表示方法について、また対策効果と曝露量の推定について講義する。エコロジーの未来と環境問題を克服していくための展望を検討し、我々技術者の任務を考える。本講義の総括をワークショップ形式で行う。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	<p>本科目の修得には、30 時間の授業の受講と 60 時間の自己学習が必要である。</p> <p>前期中間試験および前期定期試験を実施する。本講義ではレポートを課す。自学自習を行いながら受講することを前提とする。</p>	

科目	生物化学II (Biochemistry II)		
担当教員	下村 憲司朗 准教授		
対象学年等	応用化学科・5年・前期・選択・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A4-C5(100%)		
授業の概要と方針	生物化学の知識は,理学・工学・医学・薬学などあらゆる分野で必須である.本講義では,生体物質の代謝を中心に解説する.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-C5】糖質の代謝について理解できる.		生体内での糖質代謝の種類とその意義について記述できるかを中間試験とレポートで評価する.
2	【A4-C5】タンパク質とアミノ酸の代謝について理解できる.		タンパク質の消化の特徴,アミノ酸代謝の種類とその意義について記述できるかを中間試験とレポートで評価する.
3	【A4-C5】脂質の代謝について理解できる.		脂質の消化の特徴,脂質代謝の種類とその意義について記述できるかを定期試験とレポートで評価する.
4	【A4-C5】シグナル伝達の分子機構について理解できる.		代表的なシグナル伝達の分子機構について記述できるかを定期試験で評価する.
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は,試験85% レポート15% として評価する.なお,試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする.100点満点で60点以上を合格とする.結果によって,再試験を実施する場合がある.		
テキスト			
参考書			
関連科目	C2生物,C4生物化学I		
履修上の注意事項	本科C4の生物化学Iを復習しておくことが望ましい.		

授業計画(生物化学II)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	序論	生物化学Iで扱った糖質代謝について復習する。
2	糖質の代謝(1)	ペントースリン酸経路について理解する。
3	糖質の代謝(2)	グリコーゲンの合成と分解,糖新生について理解する。
4	糖質の代謝(3)	光合成の暗反応(C3型,C4型,CAM型)について理解する。
5	アミノ酸の代謝(1)	生物による窒素固定について理解する。
6	アミノ酸の代謝(2)	アミノ酸の合成と分解,尿素回路について理解する。
7	アミノ酸の代謝(3)	生理活性アミンの生成について理解する。
8	中間試験	7回目までの内容について筆記試験を行う。
9	中間試験解答,核酸の代謝(1)	中間試験の内容の解説を行う.加えて核酸の合成について理解する。
10	核酸の代謝(2)	核酸の分解について理解する。
11	脂質の代謝(1)	脂質の消化吸収,輸送について理解する。
12	脂質の代謝(2)	$\beta$ 酸化とATP生産について理解する。
13	脂質の代謝(3)	脂肪酸の生合成について理解する。
14	神経伝達とシグナル伝達(1)	情報伝達の種類と役割について理解する。
15	神経伝達とシグナル伝達(2)	情報伝達の種類と役割について理解する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30時間の授業の受講と60時間の自己学習が必要である。 前期中間試験および前期定期試験を実施する。	